

令和5年度第3回朝霞市障害者プラン推進委員会

次 第

日時:令和5年10月19日(木)

午前10時から

会場:オンライン(Zoom)

はあとぴあ 第一会議室

1 開 会

2 議 題

(1)第6次障害者プラン等策定について

① 第6次障害者プラン等の素案

(2)第5次障害者プラン等の進行管理・評価について

(3)その他

3 閉 会

第6次朝霞市障害者プラン 第7期朝霞市障害福祉計画・ 第3期朝霞市障害児福祉計画

素案

■第6次朝霞市障害者プラン

令和6（2024）年度～令和11（2029）年度

■第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画

令和6（2024）年度～令和8（2026）年度

令和5（2023）年10月

朝霞市

はじめに

目次

第1部 総論	1
第1章 計画策定に当たって	2
1 計画策定の趣旨.....	2
2 計画の法的根拠.....	3
3 計画の位置付け.....	5
4 計画の期間及び構成.....	6
5 計画の対象.....	6
6 計画の策定体制等.....	7
(1) 朝霞市障害者プラン推進委員会による検討.....	7
(2) アンケート・ヒアリング調査の実施.....	8
(3) パブリックコメント等の実施.....	8
7 計画策定の主なポイント.....	9
(1) 第5次障害者基本計画.....	9
(2) 障害者総合支援法等の改正.....	10
(3) 基本指針の改正.....	11
第2章 障害のある人・障害のある児童等を取り巻く状況	14
1 朝霞市の概況.....	14
(1) 朝霞市の地勢と人口.....	14
(2) 人口・世帯の推移.....	15
(3) 年齢階層別人口の推移.....	16
(4) 人口動態.....	17
2 障害のある人・障害のある児童等の状況.....	18
(1) 身体障害者手帳所持者.....	18
(2) 療育手帳所持者.....	20
(3) 精神障害者保健福祉手帳所持者.....	21
(4) 難病患者見舞金受給者.....	22
3 調査で見る障害のある人・障害のある児童等の現状.....	23
(1) 調査の概要.....	23
(2) 障害のある人の調査結果の概要（調査区分A）.....	24
(3) 障害のある児童・保護者の調査結果の概要（調査区分B）.....	46
(4) 障害福祉サービス事業所等の調査結果の概要（調査区分C）.....	56
(5) 障害者団体の調査結果の概要（調査区分D）.....	60
(6) 医療的ケアが必要な人等へのヒアリング調査結果の概要.....	65
(7) 専門職に対する調査結果の概要.....	67

第3章 計画の基本的な考え方	68
1 基本理念	68
2 基本目標	69
3 施策体系	72
第4章 計画の推進体制	75
1 計画の推進体制	75
(1) 計画の周知	75
(2) 推進体制の確立	75
(3) 広域連携等	75
(4) 市民等との協働	76
(5) 計画の達成状況の点検と評価の実施方法	76
第2部 第6次朝霞市障害者プラン	77
第1章 共生社会の実現を目指す	78
(1) 相互理解の推進	78
(2) 差別解消の推進	85
(3) 権利擁護の取組の充実	87
第2章 地域生活を充実し、社会参加を支援する	91
(1) 地域生活支援の充実	91
(2) 日中活動の場の充実	99
(3) コミュニケーション支援	100
(4) 社会参加の支援	103
第3章 就労を支援する	108
(1) 就労の支援	108
第4章 共に育ち、共に学ぶ療育・教育を推進する	112
(1) 障害のある子どもの療育・教育の充実	112
第5章 安心・安全な暮らしをつくる	119
(1) 福祉のまちづくりの推進	119
(2) 保健・医療サービスの充実	122
(3) 安全な暮らしの確保	126
第3部 第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画	128

第1章 基本的な考え方	129
(1) 障害者等の自己決定の尊重と意思決定の支援.....	129
(2) 市町村を基本とした身近な実施主体と障害種別によらない一元的な障害福祉サービスの実施等	129
(3) 入所等から地域生活への移行、地域生活の継続の支援、就労支援等の課題に対応したサービス提供体制の整備.....	130
(4) 地域共生社会の実現に向けた取組	131
(5) 障害のある児童の健やかな育成のための発達支援	132
(6) 障害福祉人材の確保・定着.....	132
(7) 障害者の社会参加を支える取組定着.....	133
第2章 障害福祉サービス等の体系	134
第3章 令和8（2026）年度の目標設定	135
1 基本目標.....	135
(1) 福祉施設の入所者の地域生活への移行.....	135
(2) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	137
(3) 地域生活支援の充実.....	139
(4) 福祉施設から一般就労への移行等	140
(5) 障害児支援の提供体制の整備等	144
(6) 発達障害者等に対する支援.....	147
(7) 相談支援体制の充実・強化のための取組	148
(8) 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築	149
2 数値目標を達成するための取組	150
第4章 サービス等の見込量とその確保の方策	151
1 訪問系サービス.....	151
(1) 居宅介護.....	151
(2) 重度訪問介護	153
(3) 同行援護.....	155
(4) 行動援護.....	156
(5) 重度障害者等包括支援	158
2 日中活動系サービス	160
(1) 生活介護.....	160
(2) 自立訓練（機能訓練）	161
(3) 自立訓練（生活訓練）	163
(4) 就労選択支援【新規】	165
(5) 就労移行支援	166

(6) 就労継続支援（A型）	168
(7) 就労継続支援（B型）	170
(8) 就労定着支援	172
(9) 療養介護	173
(10) 短期入所	174
(11) 自立生活援助	176
3 居住系サービス	177
(1) 共同生活援助（グループホーム）	177
(2) 施設入所支援	179
4 相談支援	181
(1) 計画相談支援、地域相談支援（地域移行支援、地域定着支援）	181
5 障害のある児童への支援	183
(1) 障害児通所支援	183
(2) 居宅訪問型児童発達支援	187
(3) 障害児入所支援	188
(4) 障害児相談支援	189
(5) 障害のある児童への子ども・子育て支援等（教育・保育）	191

第5章 地域生活支援事業等 193

必須事業	194
1 理解促進研修・啓発事業	194
2 自発的活動支援事業	195
3 相談支援事業	196
4 成年後見制度支援事業	199
(1) 成年後見制度利用支援事業	199
(2) 成年後見制度法人後見支援事業	200
5 意思疎通支援事業	201
6 日常生活用具給付等事業	203
7 手話通訳者等養成事業	205
8 移動支援事業	206
9 地域活動支援センター事業	207
任意事業	208
1 日常生活支援	208
(1) 訪問入浴サービス	208
(2) 日中一時支援	209
2 社会参加支援	210
(1) レクリエーション活動等支援	210
3 就業・就労支援	211

(1) 就労支援センター	211
その他（市の独自事業）	212
(1) 福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ICカード、自動車燃料費の補助	212
(2) 紙おむつ等の支給	212
(3) 配食サービス	212
(4) 緊急通報システム	212
(5) 難病患者見舞金の支給	212
(6) 市内循環バス特別乗車証	213
(7) 自動車運転免許取得費・改造費の助成	213
(8) 更生訓練費給付	213
(9) 身体障害者等診断書料補助金	213
(10) 就職支度金の支給	213
(11) 家具転倒防止器具等設置費の補助	213
(12) 障害者等見守りシール交付事業	214
(13) 巡回支援専門員整備（巡回相談支援）	214
(14) 児童発達支援センター機能強化事業	214

資料編 215

1 策定体制	216
(1) 朝霞市障害者プラン推進委員会	216
(2) 朝霞市障害者プラン推進委員会委員名簿	218
2 障害のある人が利用している主な施設	219
(1) 障害のある人が利用している主な施設（朝霞市内）	219
(2) 障害のある人が利用している主な施設（朝霞市外）	219
3 障害のある児童が利用している主な施設	220
(1) 障害のある児童が利用している主な施設（朝霞市内）	220
(2) 障害のある児童が利用している主な施設（朝霞市外）	220
4 用語解説	221

第1部

総論

第1章 計画策定に当たって

1 計画策定の趣旨

本市では、障害者基本法に基づき、「全ての国民が障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえない個人として尊重されるものである」との理念にのっとり、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する」ため、平成30（2018）年3月に「第5次朝霞市障害者プラン」、令和3（2021）年3月に「第6期朝霞市障害福祉計画・第2期朝霞市障害児福祉計画」を策定し、障害のある人の権利擁護や社会参加、市民の意識啓発など、障害児者の施策を推進するとともに、生活や就労、居住などの支援を目的とする障害福祉サービスや地域生活支援事業の提供体制の整備等を推進してきました。

障害のある人、障害のある児童等を取り巻く状況は、少子高齢社会の進行など社会情勢が変化中、障害のある人の高齢化が進み、障害の重度化、重複化が進んでいます。また、障害のある人の家庭においても介助者の高齢化が進んでおり、核家族化をはじめとした家族形態の変化に伴い、地域における介助・支援機能が低下するなど、取り巻く状況は変化しています。

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（以下「障害者総合支援法」という。）をはじめ、児童福祉法や発達障害者支援法の改正により、障害のある人が自らの望む地域生活を営むことができるよう、支援の一層の充実が求められています。また、ニーズの多様化にきめ細かく対応するための支援の拡充等、サービスの質の確保及び向上を図るための様々な環境整備が進められています。

さらには、平成30（2018）年4月に施行された改正社会福祉法では、社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えた「地域共生社会」の考え方が位置づけられました。地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指しています。

こうした背景を踏まえ、障害の有無に関わらず、互いに支え合い、安心して充実した生活を共に送ることができる社会を構築するとともに、多様化するニーズに対して、障害福祉サービスや相談支援等を計画的に提供するために、「第6次朝霞市障害者プラン（令和6（2024）年度～令和11（2029）年度）」及び「第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画（令和6（2024）年度～令和8（2026）年度）」を新たに策定します。

2 計画の法的根拠

本計画は、障害者基本法第11条第3項で定める「市町村障害者計画」及び障害者総合支援法第88条で定める「市町村障害福祉計画」、児童福祉法第33条の20で定める「市町村障害児福祉計画」を法的根拠とする計画です。

■ 障害者基本法

第11条（一部抜粋）

3 市町村は、障害者基本計画及び都道府県障害者計画を基本とするとともに、当該市町村における障害者の状況等を踏まえ、当該市町村における障害者のための施策に関する基本的な計画（以下「市町村障害者計画」という。）を策定しなければならない。

■ 障害者総合支援法

第88条（一部抜粋）

市町村は、基本指針に即して、障害福祉サービスの提供体制の確保その他この法律に基づく業務の円滑な実施に関する計画（以下「市町村障害福祉計画」という。）を定めるものとする。

2 市町村障害福祉計画においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

- (1) 障害福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供体制の確保に係る目標に関する事項
- (2) 各年度における指定障害福祉サービス、指定地域相談支援又は指定計画相談支援の種類ごとの必要な量の見込み
- (3) 地域生活支援事業の種類ごとの実施に関する事項

3 市町村障害福祉計画においては、前項各号に掲げるもののほか、次に掲げる事項について定めるよう努めるものとする。

- (1) 前項第二号の指定障害福祉サービス、指定地域相談支援又は指定計画相談支援の種類ごとの必要な見込量の確保のための方策
- (2) 前項第二号の指定障害福祉サービス、指定地域相談支援又は指定計画相談支援及び同項第三号の地域生活支援事業の提供体制の確保に係る医療機関、教育機関、公共職業安定所その他の職業リハビリテーションの措置を実施する機関その他の関係機関との連携に関する事項

4 市町村障害福祉計画は、当該市町村の区域における障害者等の数及びその障害の状況を勘案して作成されなければならない。

5 市町村は、当該市町村の区域における障害者等の心身の状況、その置かれている環境その他の事情を正確に把握した上で、これらの事情を勘案して、市町村障害福祉計画を作成するよう努めるものとする。

- 6 市町村障害福祉計画は、児童福祉法第 33 条の 20 第 1 項に規定する市町村障害児福祉計画と一体のものとして作成することができる。
- 7 市町村障害福祉計画は、障害者基本法第 11 条第 3 項に規定する市町村障害者計画、社会福祉法第 107 第 1 項に規定する市町村地域福祉計画その他の法律の規定による計画であって障害者等の福祉に関する事項を定めるものと調和が保たれたものでなければならない。
- 8 市町村は、市町村障害福祉計画を定め、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。
- 9 市町村は、第 89 条の 3 第 1 項に規定する協議会（以下この項及び第 89 条第 8 項において「協議会」という。）を設置したときは、市町村障害福祉計画を定め、又は変更しようとする場合において、あらかじめ、協議会の意見を聴くよう努めなければならない。

■ 児童福祉法

第 33 条の 20（一部抜粋）

市町村は、基本指針に即して、障害児通所支援及び障害児相談支援の提供体制の確保その他障害児通所支援及び障害児相談支援の円滑な実施に関する計画（以下「市町村障害児福祉計画」という。）を定めるものとする。

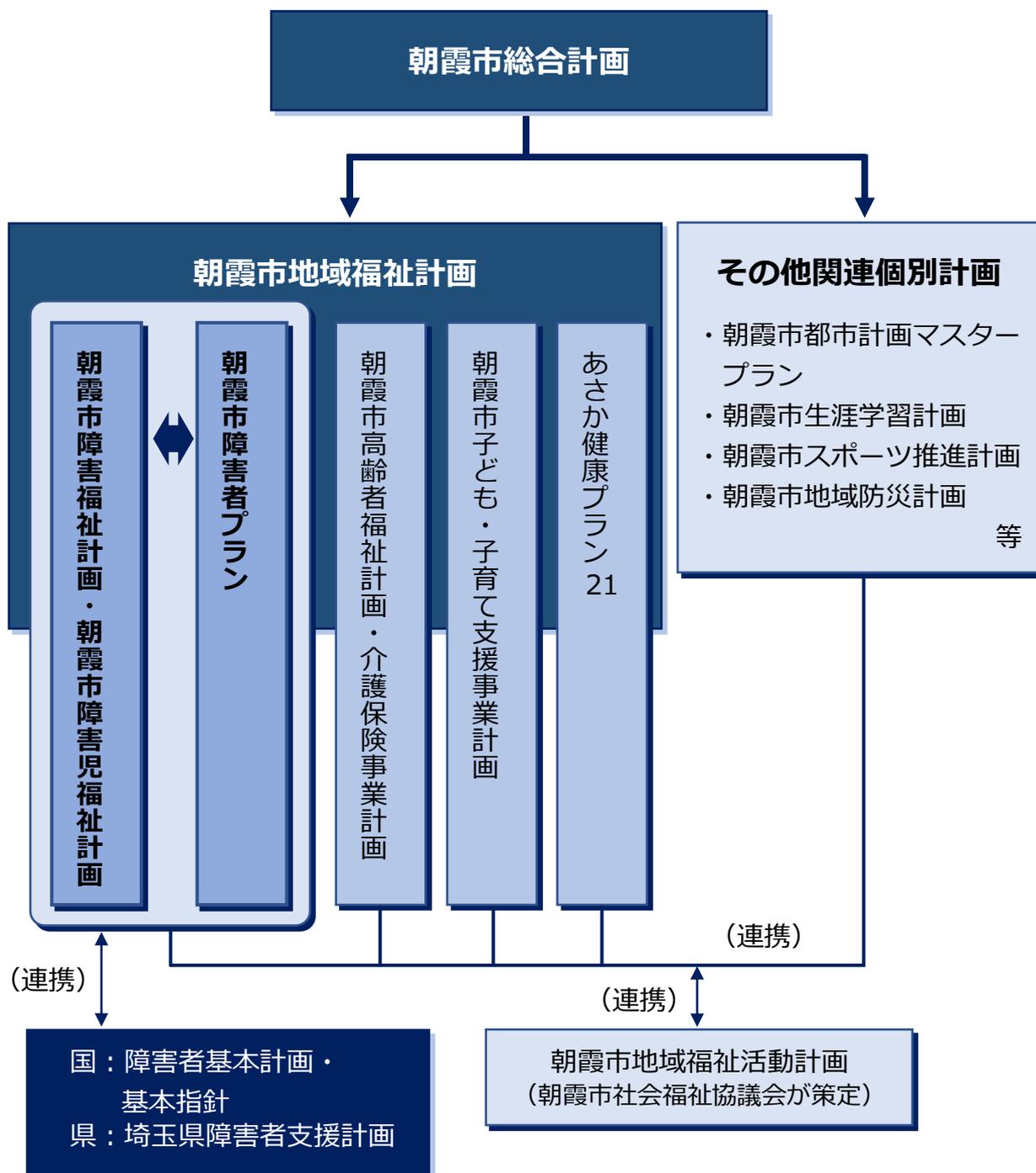
- 2 市町村障害児福祉計画においては、次に掲げる事項を定めるものとする。
 - (1) 障害児通所支援及び障害児相談支援の提供体制の確保に係る目標に関する事項
 - (2) 各年度における指定通所支援又は指定障害児相談支援の種類ごとの必要な見込量
- 3 市町村障害児福祉計画においては、前項各号に掲げるもののほか、次に掲げる事項について定めるよう努めるものとする。
 - (1) 前項第二号の指定通所支援又は指定障害児相談支援の種類ごとの必要な見込量の確保のための方策
 - (2) 前項第二号の指定通所支援又は指定障害児相談支援の提供体制の確保に係る医療機関、教育機関その他の関係機関との連携に関する事項

(第 33 条の 20 第 4 項、第 5 項省略)

- 6 市町村障害児福祉計画は、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第 88 条第 1 項に規定する市町村障害福祉計画と一体のものとして作成することができる。

3 計画の位置付け

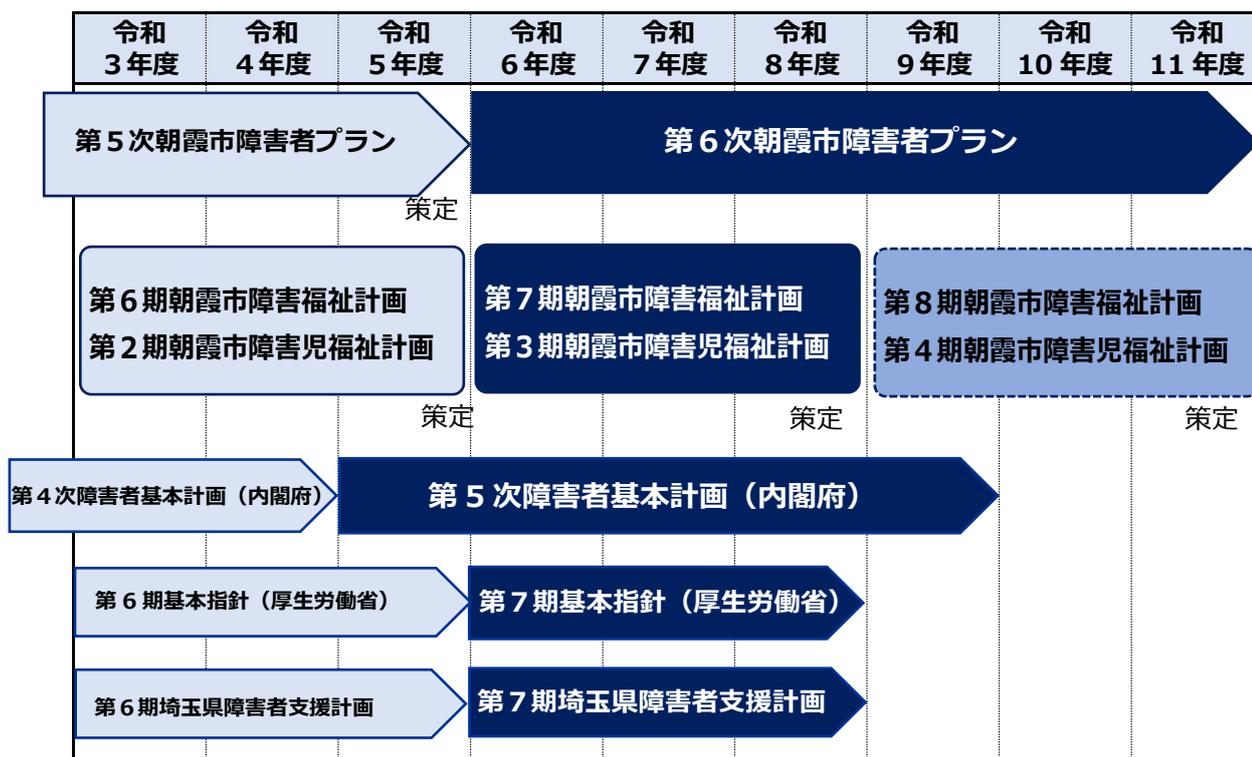
本計画は、本市の最上位計画である「朝霞市総合計画」を始め、福祉分野の上位計画である「朝霞市地域福祉計画」や「朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」、また、「朝霞市子ども・子育て支援事業計画」や「あさか健康プラン21」などと整合を図りながら進める計画です。



4 計画の期間及び構成

第6次朝霞市障害者プランは令和6（2024）年度から令和11（2029）年度までの6年間、第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画は国の「障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針（平成18年厚生労働省告示第395号 令和5年こども家庭庁・厚生労働省告示第1号）」（以下「基本指針」という。）の期間とあわせて、令和6（2024）年度から令和8（2024）年度までの3年間とします。

ただし、いずれの計画も国・県の行政施策の動向、社会情勢や制度の変更、計画の進捗状況により、必要に応じて見直しを行うこととします。



5 計画の対象

本計画の「障害のある人」の範囲は、障害者基本法第2条に規定される者を対象とします。

平成23（2011）年8月に改正され公布・施行された障害者基本法では、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいうもの」としており、さらに、社会的障壁を「障害がある者にとって日常生活または社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」と定義されています。

6 計画の策定体制等

(1) 朝霞市障害者プラン推進委員会による検討

本計画の策定に当たっては、障害のある人や児童の実態及びニーズに応じた計画を策定するために、障害者団体、社会福祉関係団体、知識経験者、公募市民から構成される「朝霞市障害者プラン推進委員会」において、内容の審議・検討を行いました。

また、「朝霞市障害者自立支援協議会」においても、進捗状況の報告や本計画に関する意見をいただいております。

○策定経過

※策定経過を示した表を追加予定

(2) アンケート・ヒアリング調査の実施

今後の施策の改善、展開及び充実を図ることを目的として、障害のある人や児童等を対象とした日常生活の状況や障害福祉サービスにおける利用状況や利用意向等を把握するための調査や、障害福祉サービス事業所、障害者団体を対象に運営状況や利用者等からのサービスの利用意向等を把握するための調査を、令和5（2023）年2月22日（水）から3月31日（金）までの期間で実施しました。

また、アンケート調査では把握しきれない実態を職員が直接伺うことにより、詳細な実情やニーズを把握し、次期計画の目標などに反映させることを目的として、医療的ケアが必要な人等に対して聞き取りを実施しました。

さらに、発達障害を含む、発達につまずきのある子どもたちの早期発見、早期支援ととぎれのない総合的な支援を図ることを目的として実施している育み支援バーチャルセンター事業に関わる専門職（医師、公認心理師、臨床心理士、作業療法士等）の人へ、障害福祉施策の課題等の聞き取りを実施しました。

(3) パブリックコメント等の実施

市民や関係者の意見を広く反映させるため、「第6次朝霞市障害者プラン及び第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画」の計画案について、令和5（2023）年11月にパブリックコメントを実施しました。

7 計画策定の主なポイント

国では、都道府県障害者計画及び市町村障害者計画の基本となる計画として、令和5（2023）年度から令和9（2027）年度までの第5次障害者基本計画を策定するとともに、都道府県障害福祉計画・障害児福祉計画及び市町村障害福祉計画・障害児福祉計画の根拠法となる障害者総合支援法等の一部を改正する法律案が令和4（2022）年10月14日に閣議決定されました。

また、障害者総合支援法及び児童福祉法等の趣旨を踏まえ、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までを計画期間とする第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の作成又は変更に当たって即すべき事項を定める基本指針の改正が行われました。

（1）第5次障害者基本計画

本計画では、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした機運を一過性のものにする事なく、「心のバリアフリー」や「ユニバーサルデザインの街づくり」などの各種取組を引き続き推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大などの非常時に、障害者が受ける影響やニーズの違いに留意しながら各種施策や取組を進めることが追加されました。

①基本理念

共生社会の実現に向け、障害者が、自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加し、その能力を最大限発揮して自己実現できるよう支援するとともに、障害者の社会参加を制約する社会的障壁を除去するため、施策の基本的な方向を定める。

②各分野における障害者施策の基本的な方向

- 差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止
→社会のあらゆる場面における障害者差別の解消
- 安全・安心な生活環境の整備
→移動しやすい環境の整備、まちづくりの総合的な推進
- 情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実
→障害者に配慮した情報通信・放送・出版の普及、意思疎通支援の人材育成やサービスの利用促進
- 防災、防犯等の推進
→災害発生時における障害特性に配慮した支援
- 行政等における配慮の充実
→司法手続や選挙における合理的配慮の提供等

- 保健・医療の推進**
→精神障害者の早期退院と地域移行、社会的入院の解消
- 自立した生活の支援・意思決定支援の推進**
→意思決定支援の推進、相談支援体制の構築、地域移行支援・在宅サービス等の充実
- 教育の振興**
→インクルーシブ教育システムの推進・教育環境の整備
- 雇用・就業、経済的自立の支援**
→総合的な就労支援
- 文化芸術活動・スポーツ等の振興**
→障害者の芸術文化活動への参加、スポーツに親しめる環境の整備
- 国際社会での協力・連携の推進**
→文化芸術・スポーツを含む障害者の国際交流の推進

(2) 障害者総合支援法等の改正

障害者総合支援法やその他関連する法律の一部を改正する法律が令和6(2024)年4月1日から施行(一部を除く)されます。

① 障害者等の地域生活の支援体制の充実

- グループホーム利用者が希望する地域生活の継続・実現の推進**
→グループホームの支援内容として、一人暮らし等を希望する利用者に対する支援や退居後の一人暮らし等の定着のための相談等の支援が含まれる点について、障害者総合支援法において明確化する
- 地域の障害者・精神保健に関する課題を抱える者の支援体制の整備**
→地域の相談支援の中核的役割を担う基幹相談支援センター及び緊急時の対応や施設等からの地域移行の推進を担う地域生活支援拠点等の整備を市町村の努力義務とする

② 障害者の多様な就労ニーズに対する支援及び障害者雇用の質の向上の推進

- 就労アセスメントの手法を活用した支援の制度化等**
→就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援する新たなサービス「就労選択支援」を創設する
(法の交付から3年以内の政令で定める日から施行)
- 短時間労働者(週所定労働時間10時間以上20時間未満)に対する実雇用率算定等**
- 障害者雇用調整金等の見直しと助成措置の強化**

③精神障害者の希望やニーズに応じた支援体制の整備

○医療保護入院の見直し

→家族等が同意・不同意の意思表示を行わない場合にも、市町村長の同意により医療保護入院を行うことを可能とする等

○「入院者訪問支援事業」の創設

→都道府県知事等が行う研修を修了した入院者訪問支援員が、患者本人の希望により、精神科病院を訪問し、本人の話を丁寧に聴くとともに、必要な情報提供等を行う「入院者訪問支援事業」を創設する

○精神科病院における虐待防止に向けた取組の一層の推進

④難病患者及び小児慢性特定疾病児童等に対する適切な医療の充実及び療養生活支援の強化

○症状が重症化した場合に円滑に医療費支給を受けられる仕組みの整備

→医療費助成開始の時期を申請日から重症化したと診断された日に前倒しする

○難病患者等の療養生活支援の強化

○小児慢性特定疾病児童等に対する自立支援の強化

⑤障害福祉サービス等、指定難病及び小児慢性特定疾病についてのデータベース（DB）に関する規定の整備

○調査・研究の強化（障害者DB・障害児DB・難病DB・小慢DBの充実）

（3）基本指針の改正

第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の策定に当たって、国の基本指針の一部が改正されました。

①基本指針の主な改正内容

○入所等から地域生活への移行、地域生活の継続の支援

→重度障害者等への支援など、地域のニーズへの対応

→強度行動障害を有する障害者等への支援体制の充実

→地域生活支援拠点等の整備の努力義務化

→地域の社会資源の活用及び関係機関との連携も含めた効果的な支援体制の整備推進

→グループホームにおける一人暮らし等の希望の実現に向けた支援の充実

○精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

→精神障害者等の相談支援業務に関して市町村における実施体制を整える重要性及び当該業務を通じた日頃からの都道府県と市町村の連携の必要性

○福祉施設から一般就労への移行等

- 一般就労への移行及び定着状況に関する成果目標の設定
- 就労選択支援の創設への対応について成果目標に設定
- 一般就労中の就労系障害福祉サービスの一時的な利用に係る法改正への対応
- 地域における障害者の就労支援に関する状況の把握や、関係機関との共有及び連携した取組

○障害児のサービス提供体制の計画的な構築

- 市町村における重層的な障害児支援体制の整備や、それに対する都道府県における広域的見地からの支援
- 地域におけるインクルージョンの推進
- 地方公共団体における医療的ケア児等に対する総合的な支援体制の構築について成果目標に設定
- 障害児入所支援から大人にふさわしい環境への円滑な移行推進について成果目標に設定

○発達障害者等支援の一層の充実

- 市町村におけるペアレントトレーニングなど家族に対する支援体制の充実
- 市町村におけるペアレントトレーニング等のプログラム実施者養成の推進
- 強度行動障害やひきこもり等の困難事例に対する助言等を推進

○地域における相談支援体制の充実→強化

- 基幹相談支援センターの設置及び基幹相談支援センターによる相談支援体制の充実・強化等に向けた取組の推進
- 地域づくりに向けた協議会の活性化

○障害者等に対する虐待の防止

- 障害福祉サービス事業所等における虐待防止委員会や職員研修、担当者の配置の徹底、市町村における組織的対応、学校、保育所、医療機関との連携の推進

○地域共生社会の実現に向けた取組

- 社会福祉法に基づく地域福祉計画及び重層的支援体制整備事業実施計画との連携並びに市町村による包括的な支援体制の構築の推進

○障害福祉サービスの質の確保

- 障害福祉サービスの質に係る新たな仕組みの検討を踏まえた記載の充実
- 都道府県による相談支援専門員等の養成並びに相談支援専門員及びサービス管理責任者等の意思決定支援ガイドライン等を活用した研修等の実施

○障害福祉人材の確保→定着

- ICTの導入等による事務負担の軽減等に係る記載の新設
- 相談支援専門員及びサービス管理責任者等の研修修了者数等を活動指標に追加

○よりきめ細かい地域ニーズを踏まえた障害（児）福祉計画の策定

- 障害福祉DBの活用等による計画策定の推進
- 市町村内のより細かな地域単位や重度障害者等のニーズ把握の推進

○**障害者による情報の取得利用→意思疎通の推進**

→障害特性に配慮した意思疎通支援や支援者の養成等の促進に係る記載の新設

○**障害者総合支援法に基づく難病患者への支援の明確化**

→障害福祉計画等の策定時における難病患者、難病相談支援センター等からの意見の尊重

→支援ニーズの把握及び特性に配慮した支援体制の整備

○**その他：地方分権提案に対する対応**

→計画期間の柔軟化

→サービスの見込量以外の活動指標の策定を任意化

第2章 障害のある人・障害のある児童等を取り巻く状況

1 朝霞市の概況

(1) 朝霞市の地勢と人口

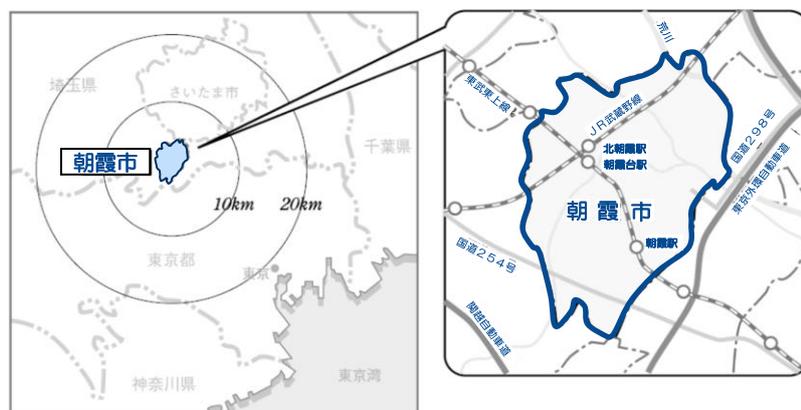
本市は、県庁所在地であるさいたま市から約9km、東京都心から約20kmの距離にあり、市の南部が東京都練馬区と接する埼玉県南西部に位置しています。

本市の地形は、武蔵野台地と荒川低地に大別され、その間の斜面林が武蔵野の面影を残しています。また、荒川とほぼ並行して新河岸川が流れ、市の中央部には東西に黒目川が流れるなど、変化に富んだ地形となっています。

交通の面では、本市の南部を国道254号（川越街道）、東部の市境を外環道（東京外かく環状道路）が通り、高速道路に容易にアクセスすることができます。また、北西から南東の方向には都心と直結する東武東上線と東京メトロ有楽町線・副都心線（東急東横線、みなのみらい線と相互乗入れ）、南西から北東の方向にはさいたま市など県央地域と結ぶJR武蔵野線が走り、都市交通の重要な結節点となっています。

こうした武蔵野の面影を残す自然景観や交通の利便性を背景として、市の人口は市制施行以来、増加を続けており、人口増加率は全国や首都圏と比較しても高く、令和5（2023）年4月1日現在で144,287人となっています。

本市の特徴は、市民の平均年齢が若く、生産年齢人口の割合も高く、また、出生率も隣接する東京都と比べて高いことから、高齢化率の上昇はゆるやかな状況となっていますが、今後、少子高齢化は進展していくことが予測される中、高齢者など一人暮らし世帯の増加が今後の課題となります。



(2) 人口・世帯の推移

本市の総人口（外国人含む）は、令和5（2023）年4月1日現在で144,287人、総世帯数は66,447世帯となっています。

人口の推移を見ると、昭和30（1955）年代後半以降、都市化の進展に伴い急速に人口が増加しました。首都圏への人口流入や住宅都市としての立地条件の向上などから、今後も人口は増加傾向で推移すると予測されます。

また、核家族世帯や単身世帯の割合が高いことから、一世帯当たりの人員は2.08人と減少傾向が続いています。

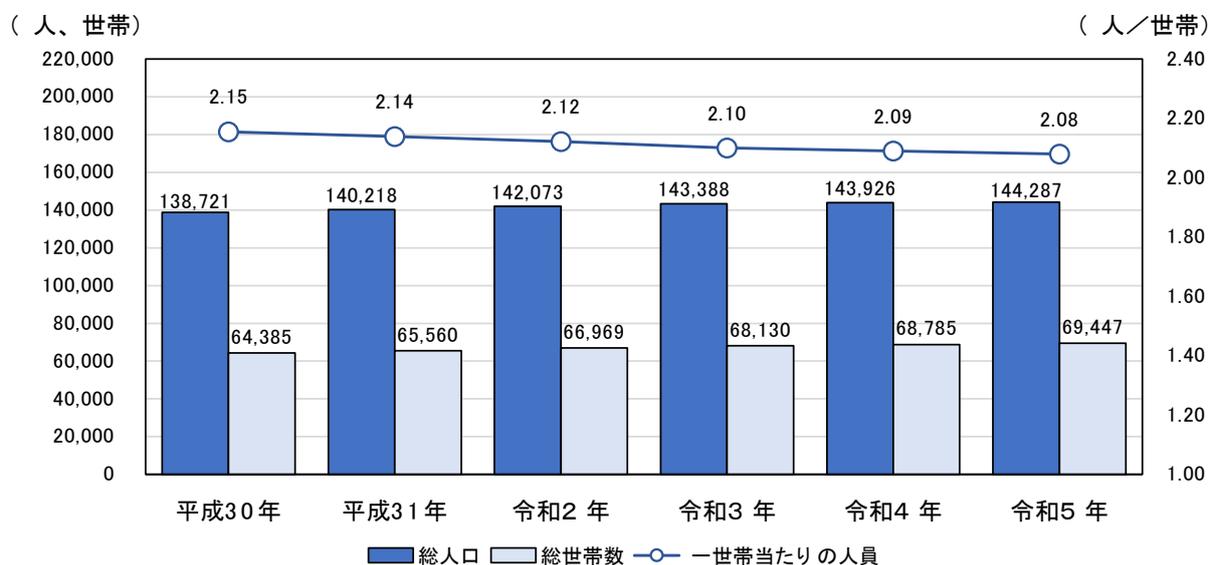
◆総人口、総世帯数、一世帯当たりの人員

単位：人、世帯、人／世帯

区分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
総人口	138,721	140,218	142,073	143,388	143,926	144,287
男性	70,065	70,707	71,577	72,310	72,538	72,620
女性	68,656	69,511	70,496	71,078	71,388	71,667
総世帯数	64,385	65,560	66,969	68,130	68,785	69,447
一世帯当たりの人員	2.15	2.14	2.12	2.10	2.09	2.08

資料：市政情報課（各年4月1日現在）

※単位未満は四捨五入しています。（以下、同様）



(3) 年齢階層別人口の推移

本市の年齢階層別の構成比を見ると、令和5（2023）年4月1日現在、年少人口（0～14歳）が13.2%、生産年齢人口（15～64歳）が67.2%、高齢者人口（65歳以上）が19.5%となっています。

年齢階層別人口を埼玉県と比較すると、年少人口は1.5ポイント、生産年齢人口は5.7ポイント上回り、高齢者人口は7.3ポイント下回っていることから、本市は比較的若い世代の人口が多い傾向となっています。

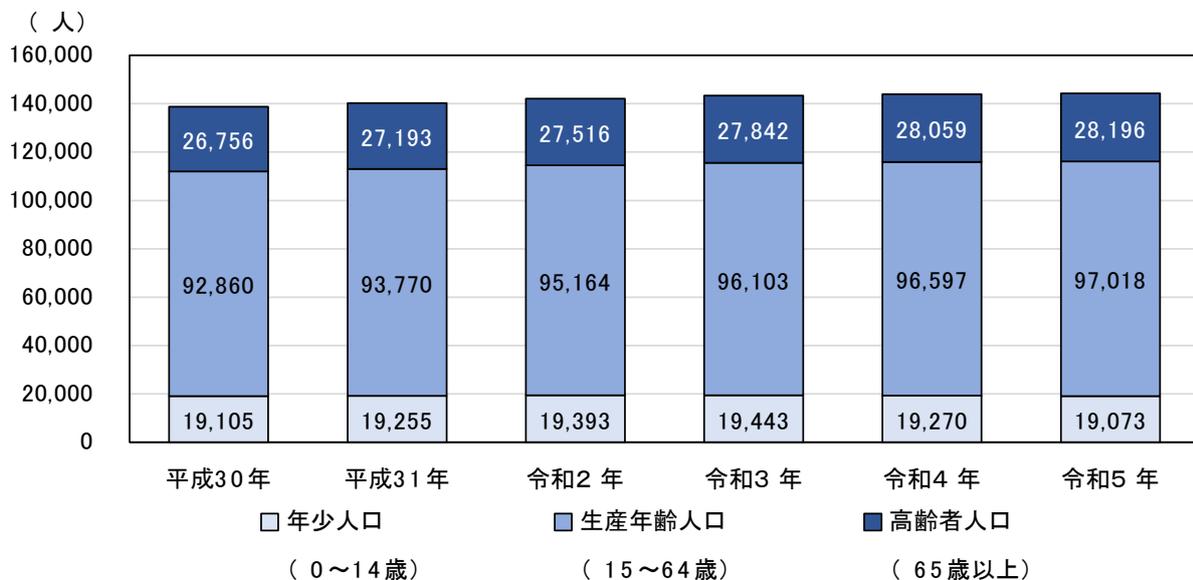
◆年齢階層別人口の推移

単位：人

区分	朝霞市						埼玉県
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和5年
年少人口 (0～14歳)	19,105	19,255	19,393	19,443	19,270	19,073	860,489
	13.8%	13.7%	13.7%	13.6%	13.4%	13.2%	11.7%
生産年齢人口 (15～64歳)	92,860	93,770	95,164	96,103	96,597	97,018	4,542,770
	66.9%	66.9%	67.0%	67.0%	67.1%	67.2%	61.5%
高齢者人口 (65歳以上)	26,756	27,193	27,516	27,842	28,059	28,196	1,977,748
	19.3%	19.4%	19.4%	19.4%	19.5%	19.5%	26.8%
総人口	138,721	140,218	142,073	143,388	143,926	144,287	7,381,007

資料：市政情報課（各年4月1日現在）

資料：埼玉県町（丁）字別人口調査（令和5（2023）年1月1日現在）



(4) 人口動態

令和4（2022）年の人口動態は、自然増が14人、社会増が463人と、合計で477人の増加となっています。

自然増については、平成29（2017）年以降で最も少ない増加数となっています。一方で、社会増については、平成29（2017）年以降で2番目に少ない増加数となっています。

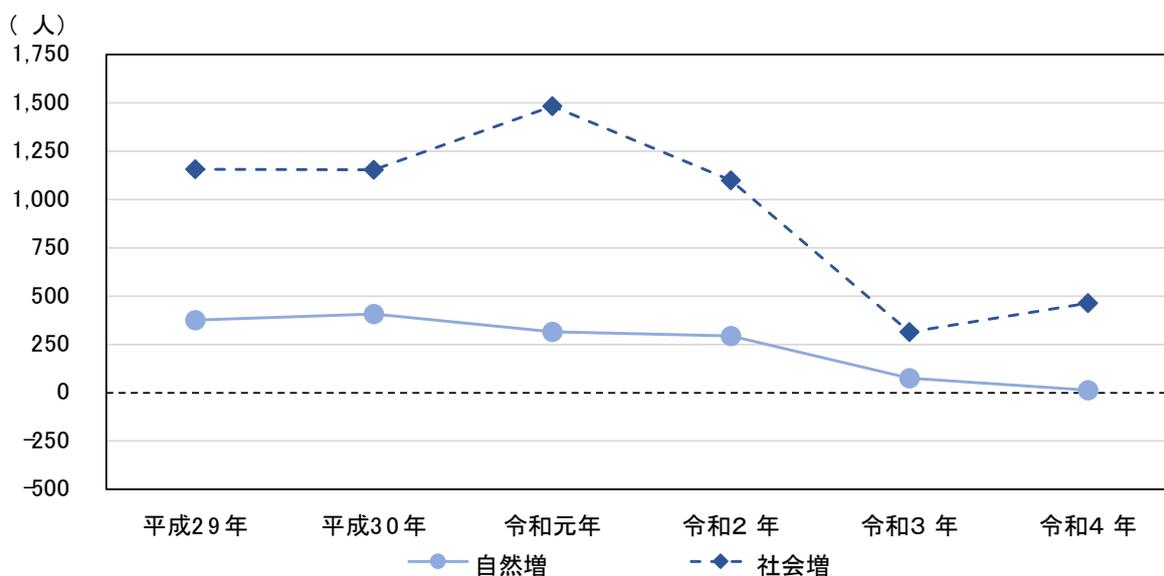
過去6年間を見ても、自然増及び社会増はともに増加で推移しており、都心・県中部へのアクセスの良さとともに、住環境が整備されてきたことによる働く世代の転入が、人口増加の要因と考えられますが、令和3（2021）年以降の2年間は、自然増、社会増ともに低い数値となっています。

◆人口動態

単位：人

区分	自然増	社会増	総数
平成29年	376	1,157	1,533
平成30年	408	1,154	1,562
令和元年	315	1,483	1,798
令和2年	294	1,099	1,393
令和3年	76	314	390
令和4年	14	463	477

資料：市政情報課



2 障害のある人・障害のある児童等の状況

(1) 身体障害者手帳所持者

ペースメーカー、人工関節置換などの身体障害のある人（身体障害者手帳所持者）は、令和5（2023）年3月31日現在2,986人で、総人口に占める割合は、2.1%となっています。

障害の程度別に見ると、1級1,067人（35.7%）で最も多く、次いで4級715人（23.9%）、2級457人（15.3%）、3級421人（14.1%）の順で、年々障害の程度が重い人の割合が増加しています。

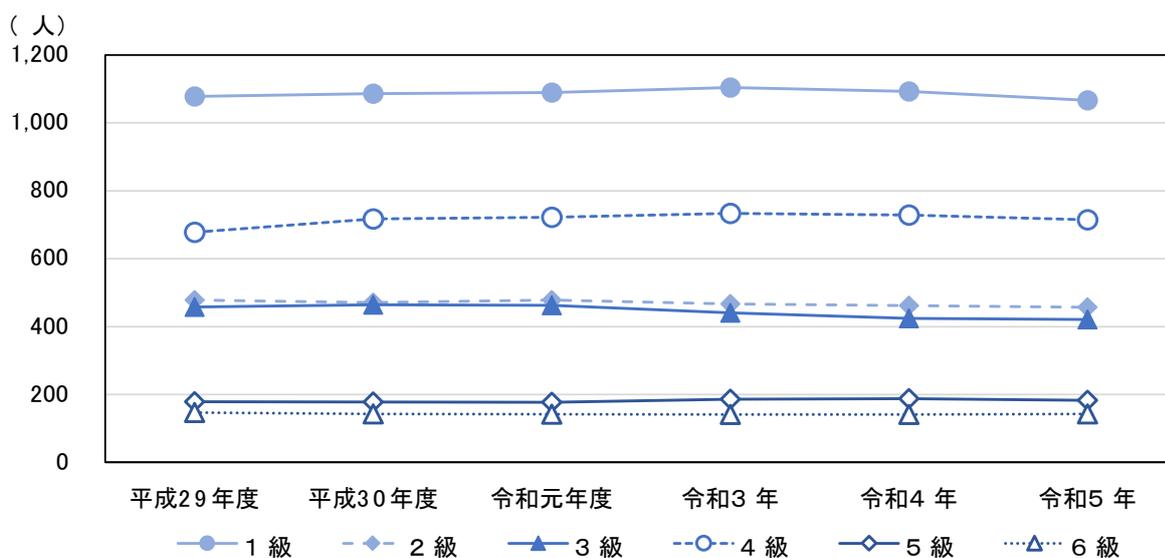
障害区分では、肢体不自由が48.4%と最も多く、以下、内部障害（心臓、腎臓、呼吸器、膀胱・直腸機能、小腸、免疫、肝臓）が35.7%、聴覚・平衡機能障害が7.9%、視覚障害が6.6%、音声・言語機能障害が1.4%となっています。

◆身体障害者手帳所持者の推移

単位：人

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1級	1,078	1,086	1,090	1,104	1,093	1,067
2級	478	471	478	467	462	457
3級	458	464	463	441	424	421
4級	678	717	722	734	729	715
5級	179	178	177	186	188	183
6級	147	143	142	141	141	143
合計	3,018	3,059	3,072	3,073	3,037	2,986

資料：障害福祉課（各年度3月31日現在）※埼玉県から資料提供

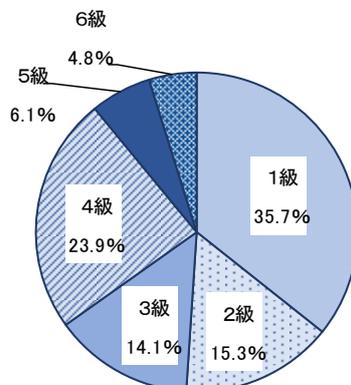


◆身体障害者手帳所持者(障害等級別割合)

単位:人、%

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計	内 18 歳未満	内 18 歳以上
人数	1,067	457	421	715	183	143	2,986	78	2,908
構成比	35.7	15.3	14.1	23.9	6.1	4.8	100.0	2.6	97.4

資料:障害福祉課(令和5(2023)年3月31日現在)※埼玉県から資料提供



◆身体障害者手帳所持者(障害区分)の推移

単位:人

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
視覚	197	203	197	204	204	197
聴覚・平衡	252	254	254	244	243	235
音声・言語	29	36	39	38	38	43
肢体不自由	1,548	1,546	1,554	1,535	1,501	1,446
心臓	483	480	495	503	513	512
腎臓	315	324	320	324	322	331
呼吸器	35	39	26	29	23	21
膀胱・直腸	121	135	141	147	145	148
小腸	1	1	1	2	2	2
免疫	33	37	39	40	40	45
肝臓	4	4	6	7	6	6
合計	3,018	3,059	3,072	3,073	3,037	2,986

資料:障害福祉課(各年度3月31日現在)※埼玉県から資料提供

◆身体障害者手帳所持者(障害区分割合)

単位:人、%

区分	視覚	聴覚 平衡	音声 言語	肢体 不自由	心臓	腎臓	呼吸器	膀胱 直腸	小腸	免疫	肝臓	合計
人数	197	235	43	1,446	512	331	21	148	2	45	6	2,986
構成比	6.6	7.9	1.4	48.4	17.1	11.1	0.7	5.0	0.1	1.5	0.2	100.0

資料:障害福祉課(令和5(2023)年3月31日現在)※埼玉県から資料提供

(2) 療育手帳所持者

児童相談所等で知的障害であると判定された人（療育手帳所持者）は、令和5（2023）年3月31日現在807人で、総人口に占める割合は、0.56%となっています。

障害の程度別では、㊤（最重度）153人、A（重度）196人、B（中度）205人、C（軽度）253人となっています。

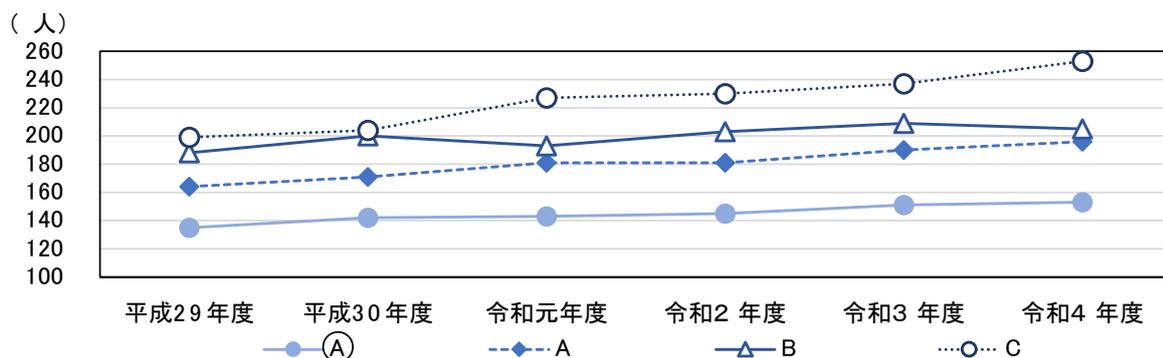
年々増加している要因としては、知的障害に対する知識や理解が保護者や教職員、社会全体へと普及してきていることなどにより、これまで潜在化していた障害児・者が顕在化してきたと考えられます。

◆療育手帳所持者の推移

単位：人

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
㊤	135	142	143	145	151	153
A	164	171	181	181	190	196
B	188	200	193	203	209	205
C	199	204	227	230	237	253
合計	686	717	744	759	787	807

資料：障害福祉課（各年度3月31日現在）※埼玉県から資料提供

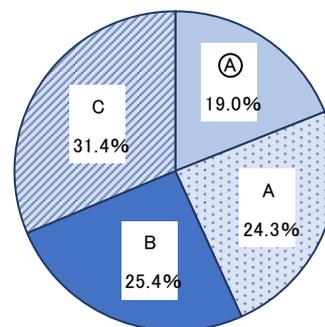


◆療育手帳所持者(障害程度別割合)

単位：人、%

区分	㊤	A	B	C	合計
人数	153	196	205	253	807
構成比	19.0	24.2	25.4	31.6	100.0

区分	内18歳未満	内18歳以上
人数	265	542
構成比	32.8	67.2



資料：障害福祉課（令和5(2023)年3月31日現在）※埼玉県から資料提供

(3) 精神障害者保健福祉手帳所持者

統合失調症、てんかんなどの精神障害のある人（精神障害者保健福祉手帳所持者）は、令和5（2023）年3月31日現在1,411人で、総人口に占める割合は、0.97%となっています。

自立支援医療（精神通院医療）の利用者は2,413人となっています。

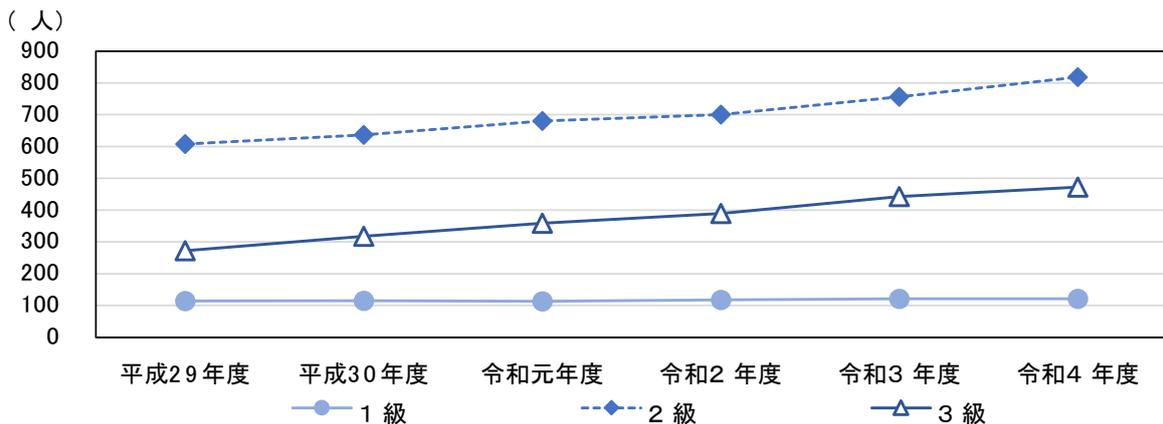
年々増加している要因としては、高齢化や地域の繋がりの希薄化、長引く不況による労働環境や生活環境の悪化などの社会情勢の変化や、情報化社会による情報量の増加等により、精神的ストレスを抱えやすい現代社会であるとともに、知的障害と同様に精神障害に対する知識や理解が、社会全体へと普及してきていることなどにより精神科を受診される方が増加してきていることが考えられます。

◆精神障害者保健福祉手帳所持者の推移

単位：人

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1級	114	115	113	118	121	121
2級	608	637	680	700	756	818
3級	272	318	359	389	443	472
合計	994	1,070	1,152	1,207	1,320	1,411

資料：障害福祉課（各年度3月31日現在）※埼玉県から資料提供

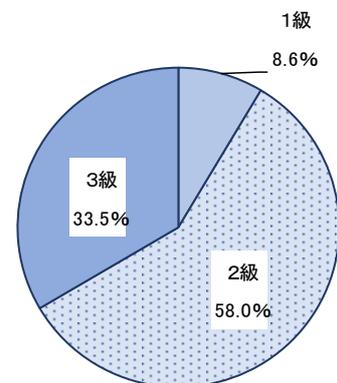


◆精神障害者保健福祉手帳所持者(障害等級別割合)

単位：人、%

区分	1級	2級	3級	合計
人数	121	818	472	1,411
構成比	8.6	58.0	33.5	100.0

資料：障害福祉課（令和5(2023)年3月31日現在）※埼玉県から資料提供



◆自立支援医療(精神通院医療)の疾病別利用者数

単位：人、%

区分	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	気分障害(うつ病など)	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
通院	264	652	152

区分	てんかん	その他(分類不明を含む)	合計
通院	90	1,255	2,413

資料：障害福祉課（令和5(2023)年3月31日現在）※埼玉県から資料提供

(4) 難病患者見舞金受給者

難病のうち、国や県で指定した指定難病については、保険診療の自己負担分の一部を公費負担する指定難病医療給付制度等と、原則として18歳未満を対象とする小児慢性特定疾病医療費助成制度があります。

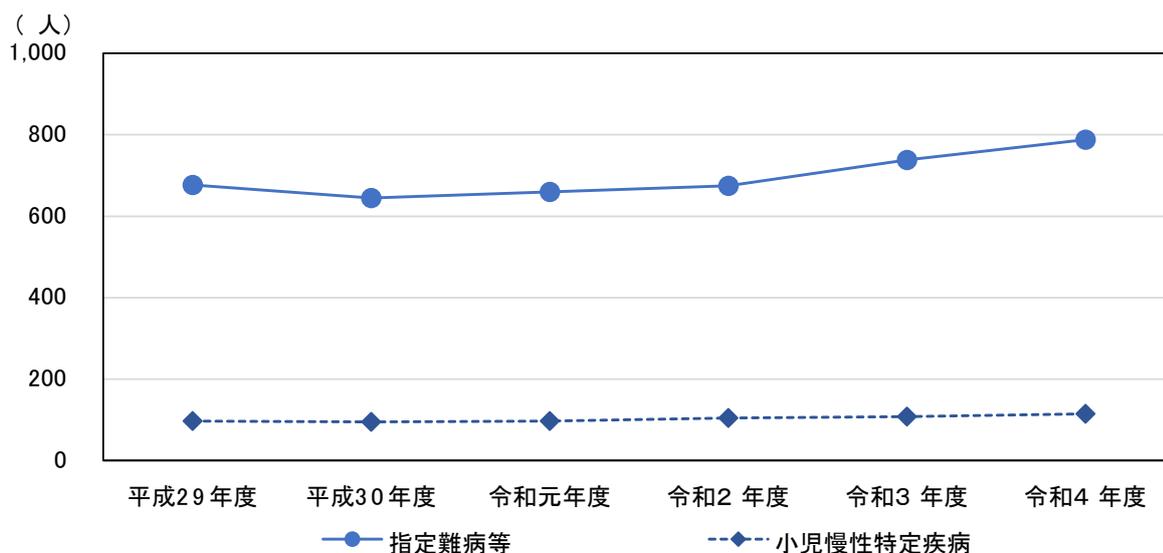
市では、指定難病医療受給者証等をお持ちの人に対して難病患者見舞金を支給しています。受給者数は、平成30（2018）年度以降、増加傾向で推移しています。

◆難病患者見舞金受給者数

単位：人

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
指定難病等	677	645	660	675	738	788
小児慢性特定疾病	97	95	97	105	108	115
合計	774	740	757	780	846	903

資料：障害福祉課（各年度3月31日現在）



※難病については下記のウェブサイトもご参照ください（令和5年9月現在）。

■難病情報センター

<https://www.nanbyou.or.jp>

■厚生労働省 指定難病

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000084783.html>

■埼玉県 難病対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/kenko/iryu/nanbyo/index.html>

3 調査で見る障害のある人・障害のある児童等の現状

(1) 調査の概要

①調査の目的

第6次朝霞市障害者プラン及び第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画の策定に当たり、本市の障害のある人や児童等の実情やニーズ、障害福祉サービスの利用状況や利用意向等を把握し、計画に反映するための基礎資料とするため、アンケート及びヒアリング調査を実施しました。

②アンケート調査方法

- 調査方法：郵送による配布、回収
- 調査期間：令和5年2月22日（水）から3月31日（月）まで

③アンケート調査対象者・回収状況

調査区分	配付	回収	回収率
■調査区分A:障害者 18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の所持者及び難病患者見舞金を受給している難病患者	5,019人	2,323人	46.3%
■調査区分B:障害児及び保護者 18歳未満の障害児等(手帳、難病、療育等利用者)とその保護者	806人	309人	38.3%
■調査区分C:障害福祉サービス事業所等	92事業所 (157件)	78事業所 (100件)	84.8%
■調査区分D:障害者団体	11団体	8団体	72.7%

※提供されている障害福祉サービス等の種別ごとに1件送付していますが、多機能型事業所等で複数事業を集約した回答をいただいている場合があったので、事業所単位での回収率としています。

④ヒアリング調査

アンケート調査では把握しきれない実態を職員が直接伺うことにより、詳細な実情やニーズを把握し、次期計画の目標などに反映させることを目的として、医療的ケア児者、重症心身障害児者、高次脳機能障害、強度行動障害、遷延性意識障害などの人、31人に対して聞き取りを実施しました。

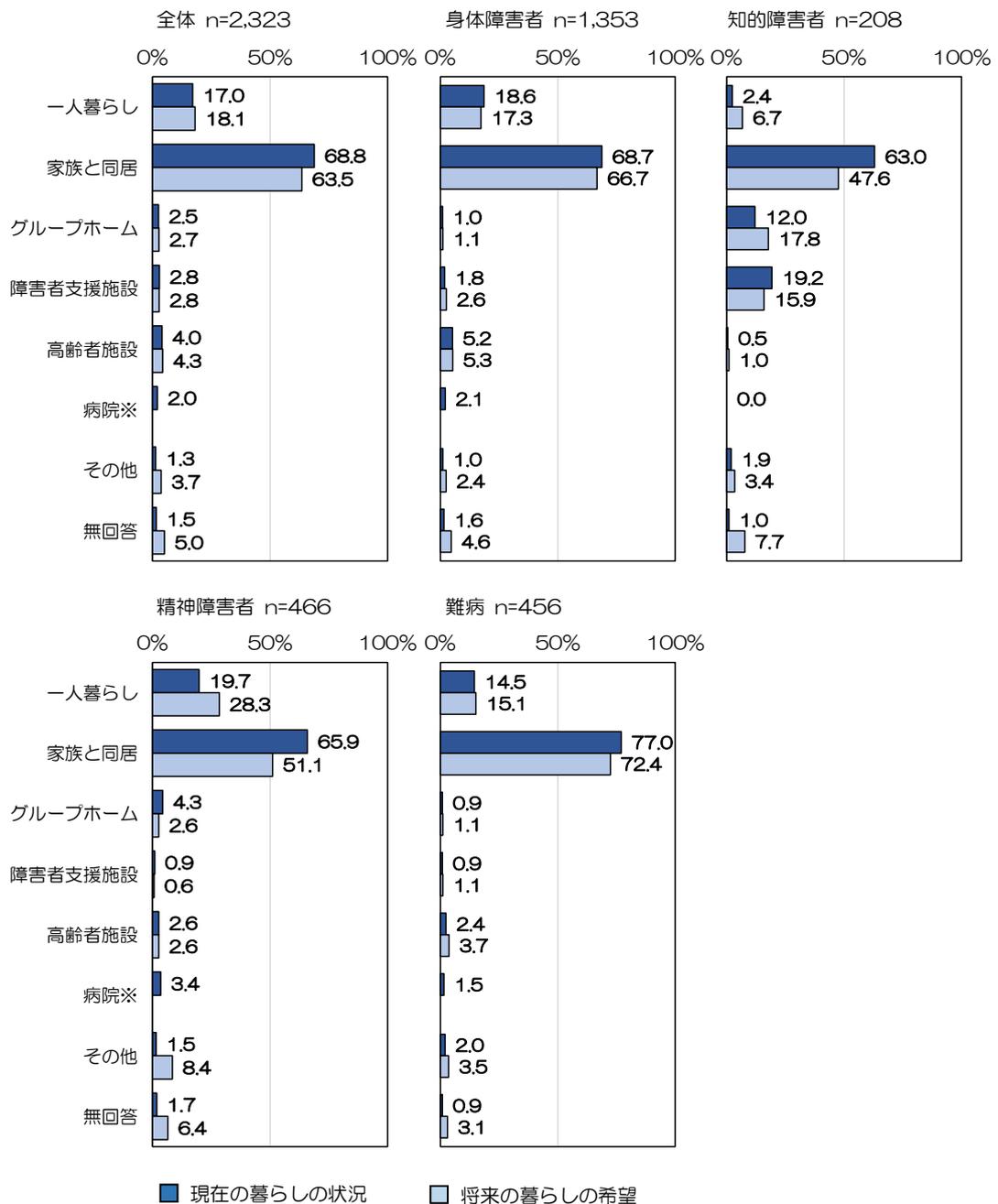
(2) 障害のある人の調査結果の概要 (調査区分A)

『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋

①現在の暮らしの状況と将来の暮らしの希望について

現在の暮らしの状況と将来の暮らしの希望はともに、全体で「家族と暮らしている」が最も高く、次いで「一人で暮らしている」が高くなっています。

障害種別でみると、身体障害者と難病においては現在の暮らしと将来の暮らしの希望に大きな違いはありませんでした。知的障害者において、将来の暮らしの希望を現在の暮らしの状況と比較すると「家族と同居」と「障害者支援施設」が減り、「グループホーム」と「一人暮らし」が増えています。また、精神障害者において、将来の暮らしの希望を現在の暮らしの状況と比較すると「家族と同居」が減り、「一人暮らし」が増えています。



②日常生活の介助の状況について

日常生活の介助の状況について、全体、障害種別において、各項目の「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた『介助が必要』の割合は以下のとおりです。上位3項目を障害種別にみると、身体障害者、難病では「外出」が1位、「入浴」が2位、「お金の管理」が3位になっているのに対し、知的障害者、精神障害者では「お金の管理」が1位、「家族以外の人との意思疎通」が3位となっており、知的障害者の2位は「薬の管理」、精神障害者の2位は「外出」となっています。

◆各項目の『介助が必要』の割合

	①	②	③	④	⑤
	食事	トイレ	入浴	衣服の着脱	身だしなみ
全体	14.2	15.6	25.7	19.6	23.6
身体障害者	13.5	17.0	28.6	22.1	22.3
知的障害者	32.2	39.4	47.6	36.6	59.1
精神障害者	15.9	9.9	20.2	11.8	23.6
難病	10.7	13.6	19.0	18.4	16.9

	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	家の中の移動	外出	家族以外の人との意思疎通	お金の管理	薬の管理
全体	14.9	37.7	24.2	33.1	28.4
身体障害者	18.0	40.4	19.4	27.8	25.0
知的障害者	16.8	65.8	70.7	84.6	77.4
精神障害者	10.9	34.8	31.5	43.1	31.3
難病	14.2	28.8	13.8	18.9	16.9

※各障害種別の結果で全体結果を上回る項目には下線を引いています。

◆障害種別にみた『介助が必要』の上位3項目

	1位	2位	3位
全体	外出	お金の管理	薬の管理
身体障害者	外出	入浴	お金の管理
知的障害者	お金の管理	薬の管理	家族以外の人との意思疎通
精神障害者	お金の管理	外出	家族以外の人との意思疎通
難病	外出	入浴	お金の管理

③主な介助者（ケアラー）の年齢について

主な介助者の年齢については、全体では「70歳以上」が34.7%で最も高く、次いで「50代」「60代」がともに24.7%、「40代」が10.0%となっています。

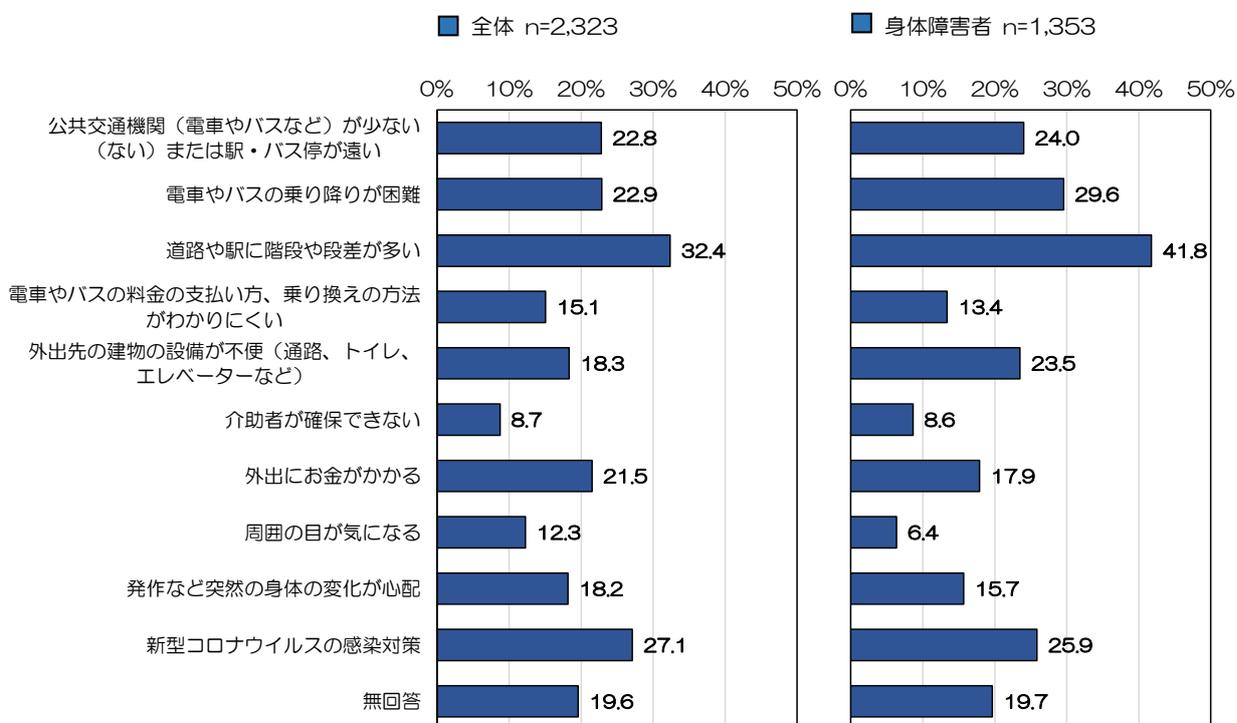
障害種別でみると、身体障害者では「70歳以上」が42.1%で最も高く、次いで「60代」が23.4%、「50代」が21.2%となっています。知的障害者では「50代」が36.4%で最も高く、次いで「60代」が31.3%、「70歳以上」が23.2%となっています。精神障害者では「50代」が26.5%で最も高く、次いで「60代」が25.9%、「70歳以上」が21.2%となっています。難病では「70歳以上」が38.0%で最も高く、次いで「50代」が22.2%、「60代」が21.3%となっています。

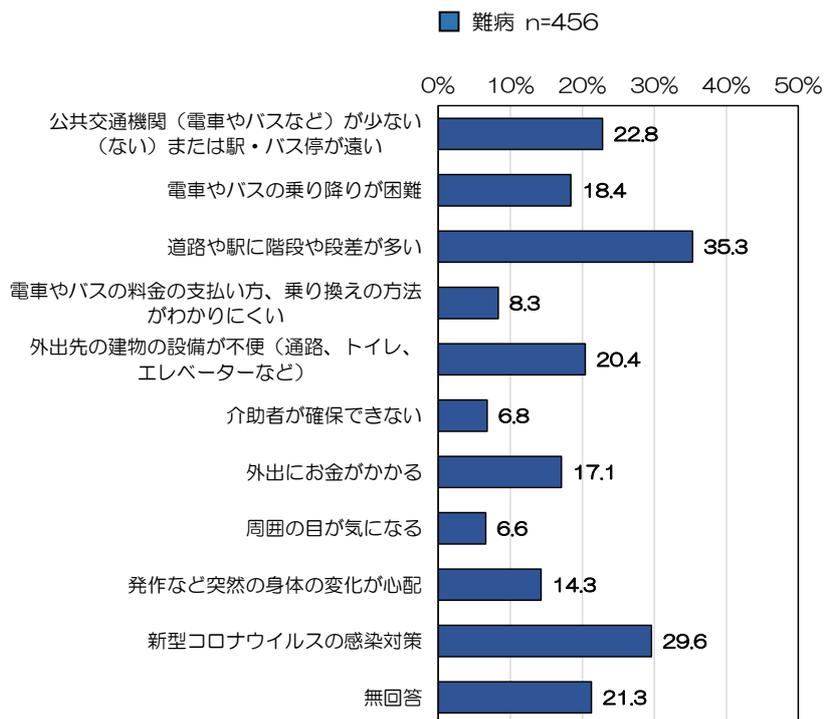
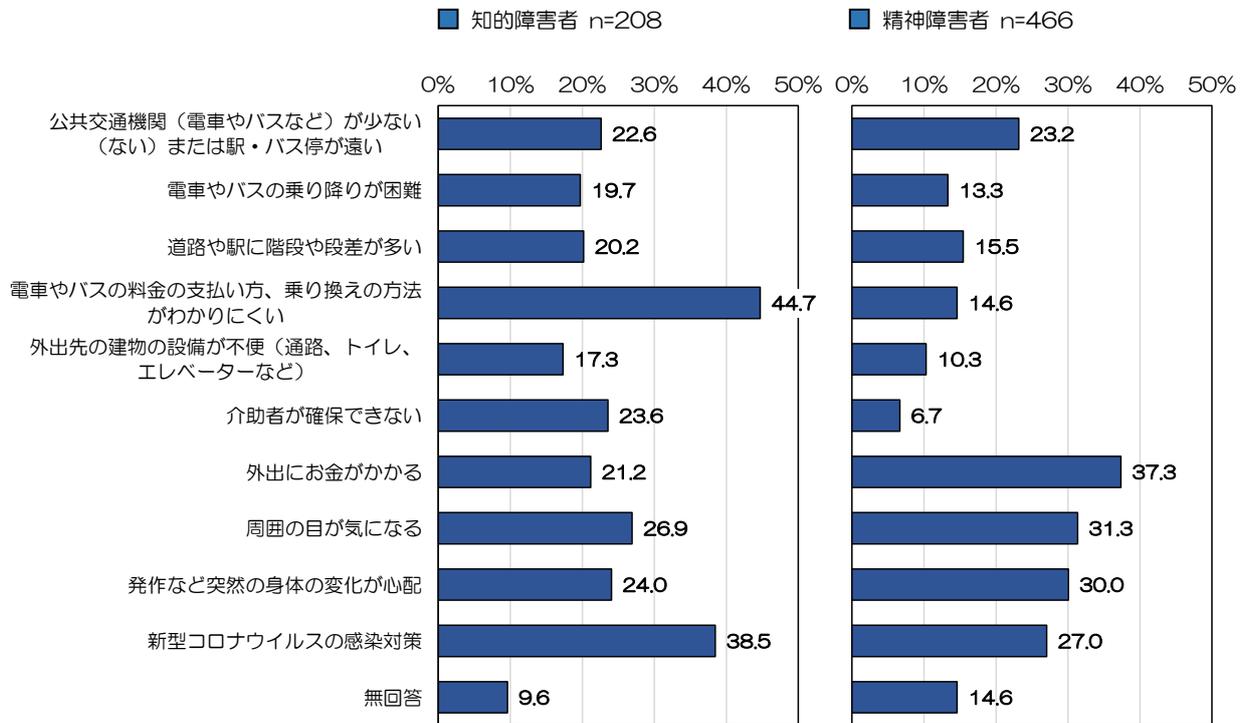


④外出する際の困りごとについて

外出する際の困りごとについては、全体では「道路や駅に階段や段差が多い」が32.4%で最も高く、次いで「新型コロナウイルスの感染対策」が27.1%、「電車やバスの乗り降りが困難」が18.7%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「道路や駅に階段や段差が多い」が41.8%で最も高く、次いで「電車やバスの乗り降りが困難」が29.6%となっています。知的障害者では「電車やバスの料金の支払い方、乗り換えの方法がわかりにくい」が44.7%で最も高く、次いで「新型コロナウイルスの感染対策」が38.5%となっています。精神障害者では「外出にお金がかかる」が37.3%で最も高く、次いで「周囲の目が気になる」が31.3%となっています。難病では「道路や駅に階段や段差が多い」が35.3%で最も高く、次いで「新型コロナウイルスの感染対策」が29.6%となっています。

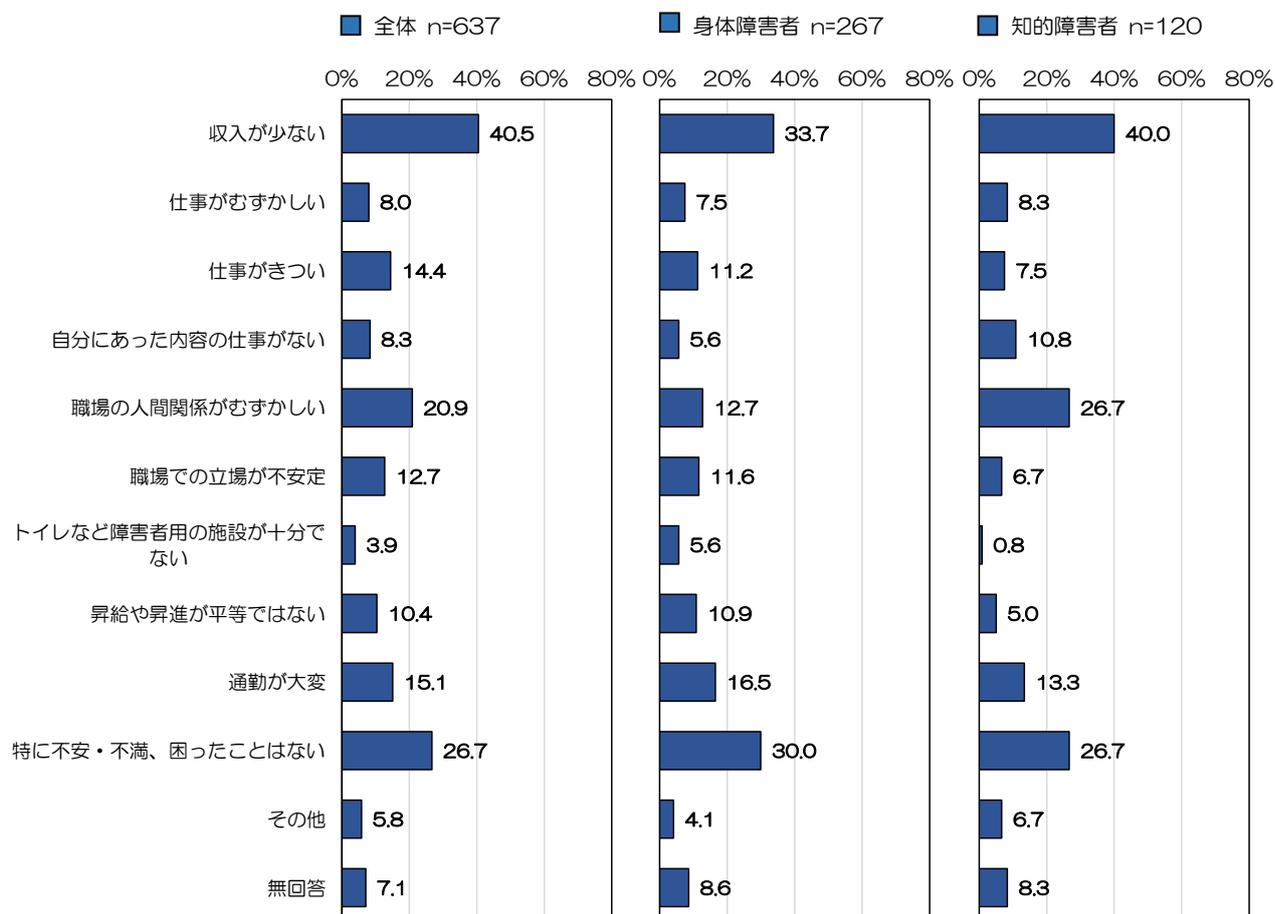


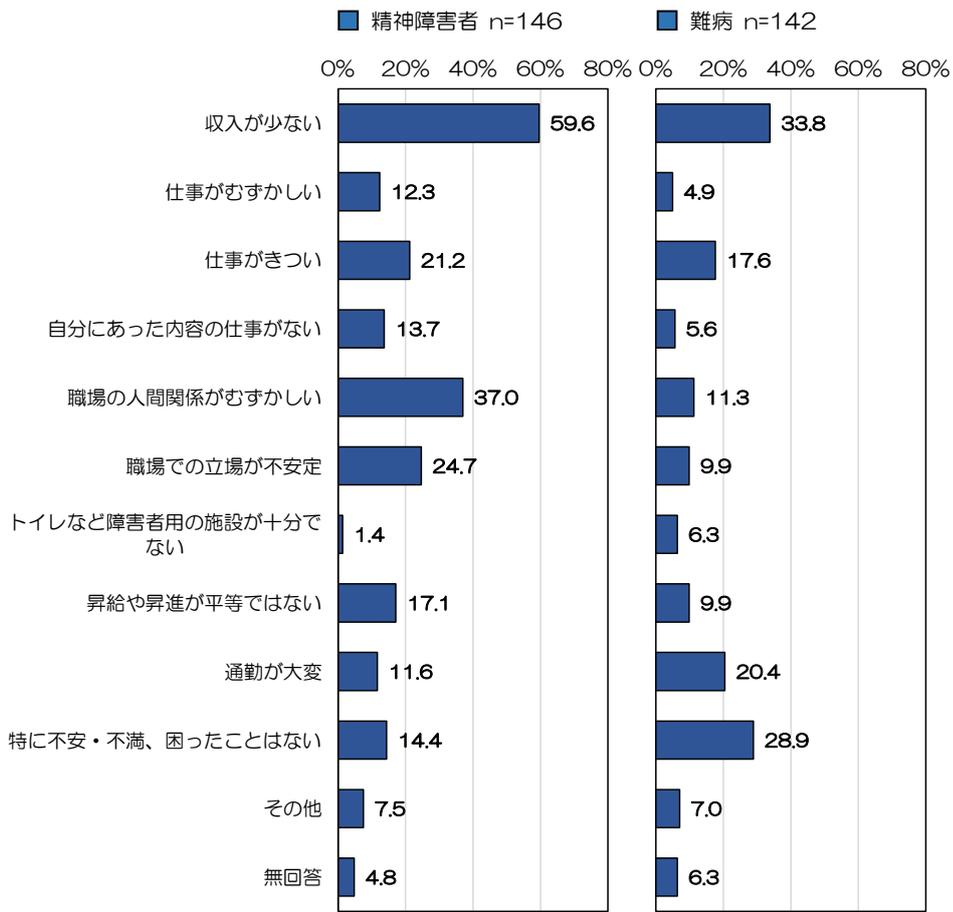


⑤ 仕事への不安・不満について

仕事をするうえでの不安・不満については、全体では「収入が少ない」が40.5%で最も高く、次いで「特に不安・不満、困ったことはない」が26.7%、「職場の人間関係がむずかしい」が20.9%となっています。

障害種別でみると、すべての種別において「収入が少ない」が最も高い割合を占めています。また、知的障害者とは「職場の人間関係がむずかしい」が他の種別と比べて高くなっています。

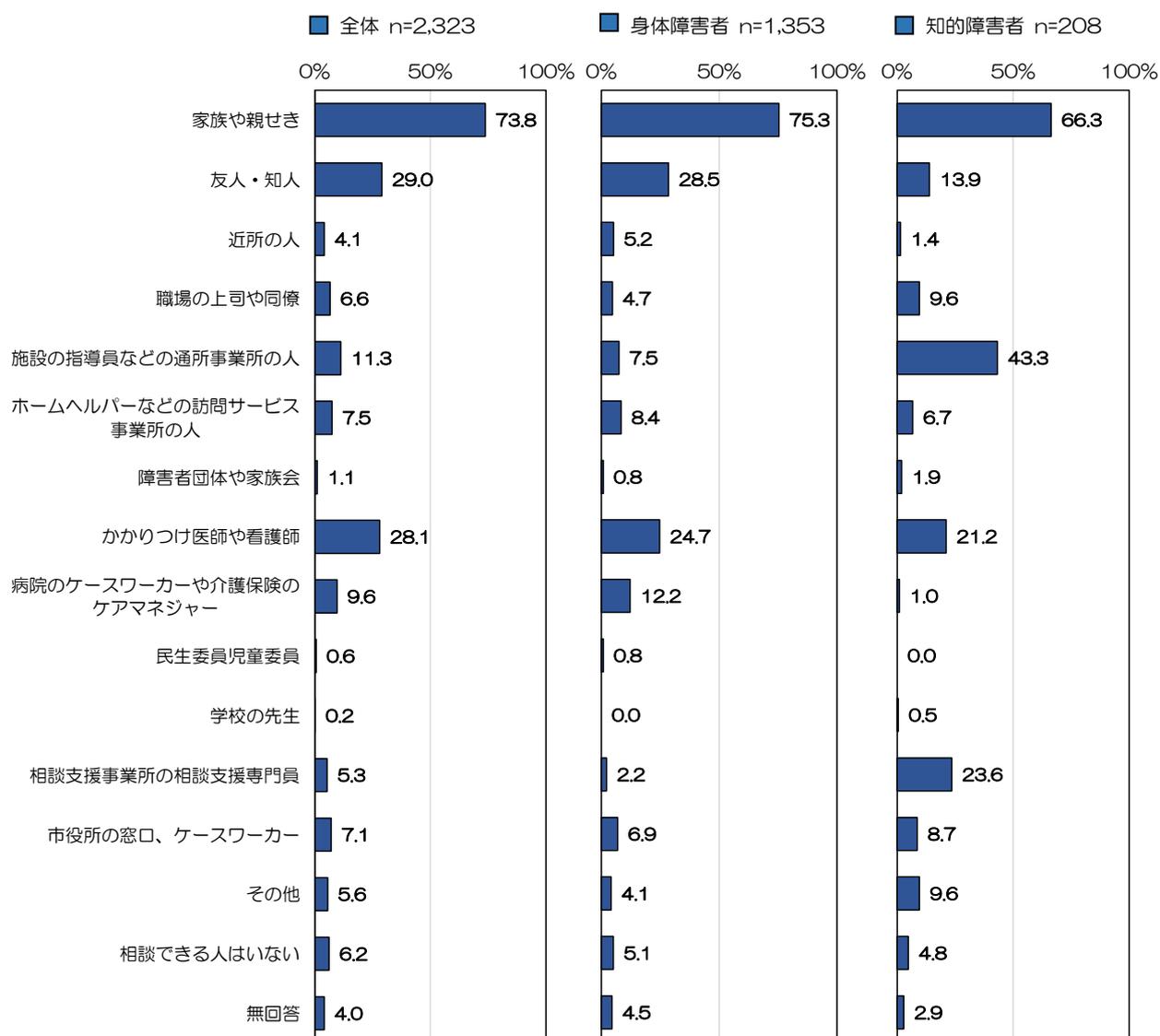


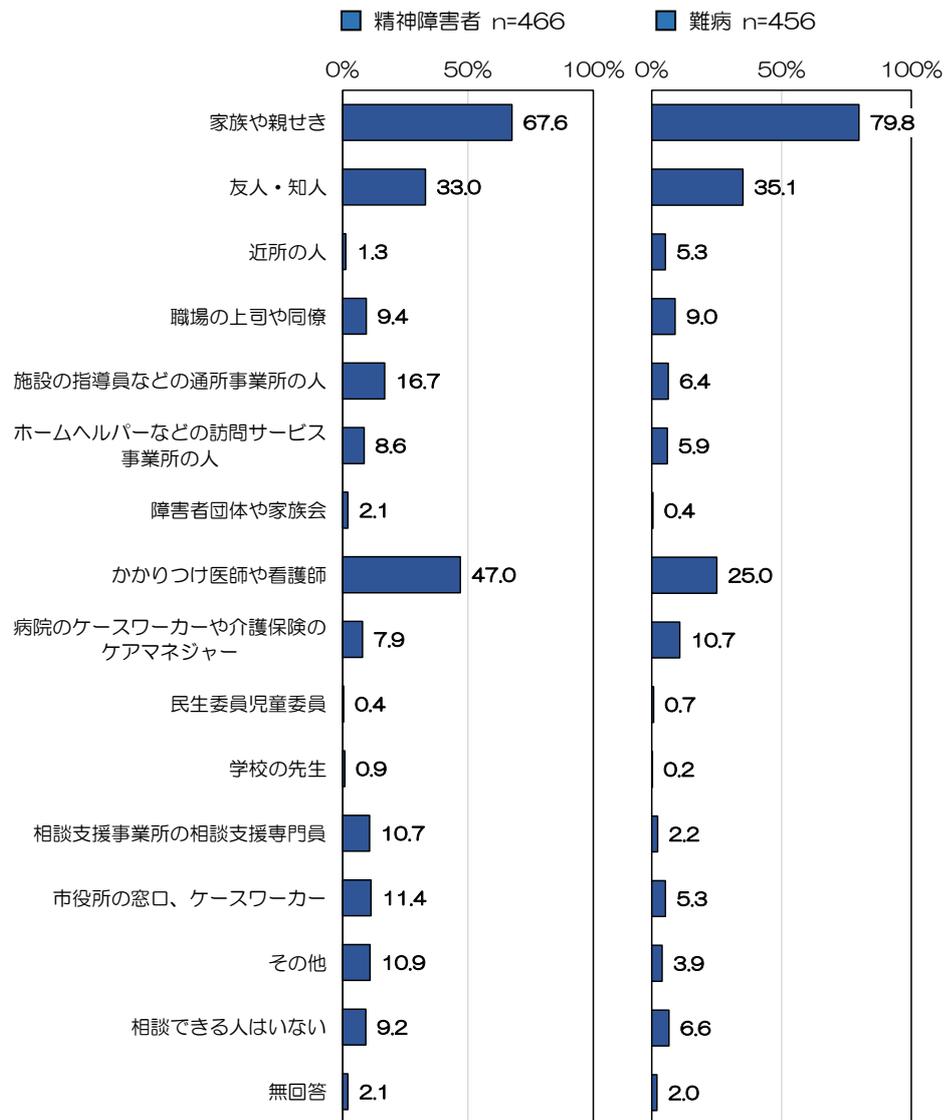


⑥悩みごとや困りごとの相談先について

普段の悩みごとや困りごとの相談先については、全体では「家族や親せき」が73.8%で最も高く、次いで「友人・知人」が29.0%、「かかりつけ医師や看護師」が28.1%となっています。

障害種別でみると、すべての種別で「家族や親せき」が最も高い割合を占めています。知的障害者においては、「施設の指導員などの通所事業所の人」の割合が他の種別と比べて高くなっています。

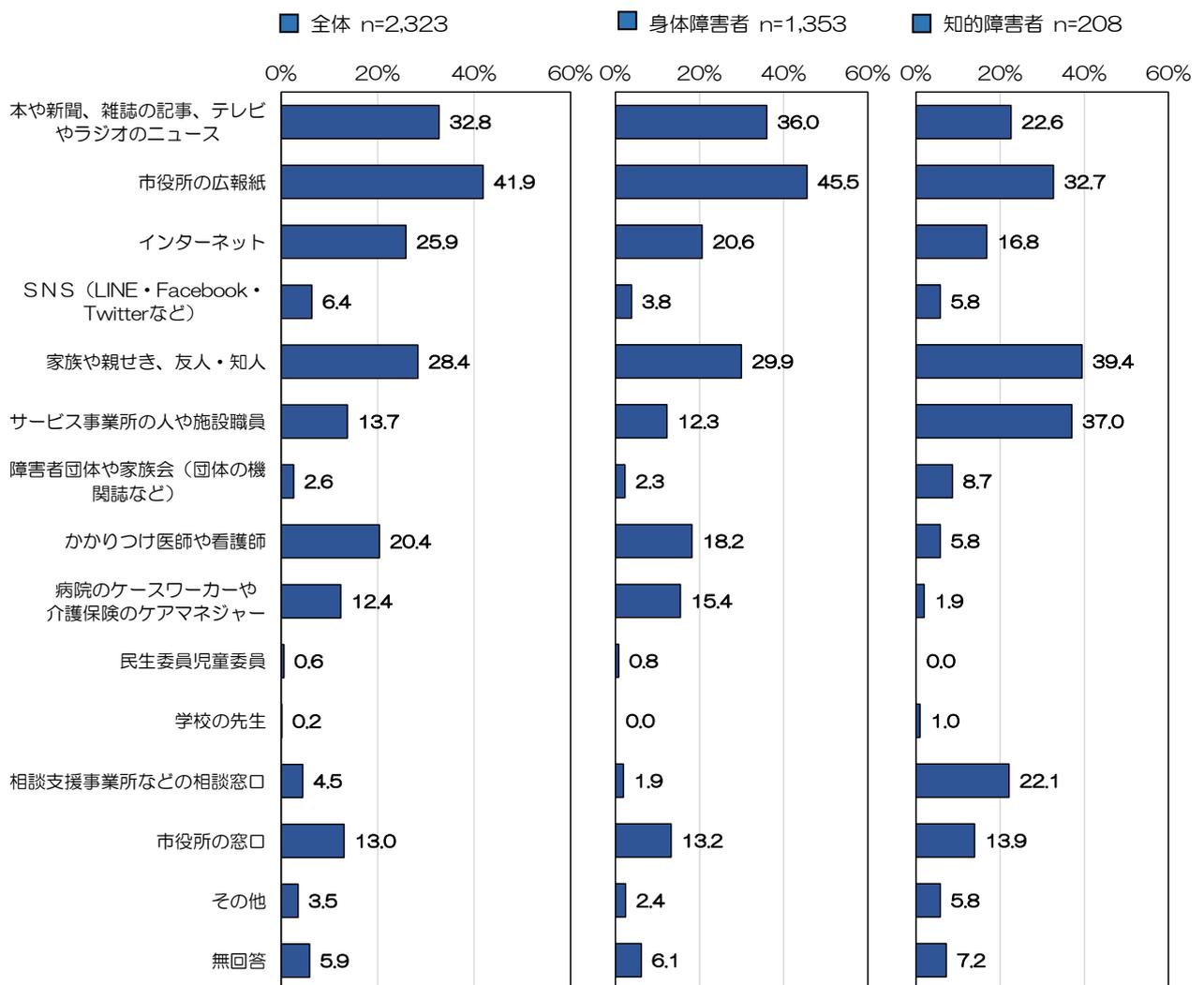


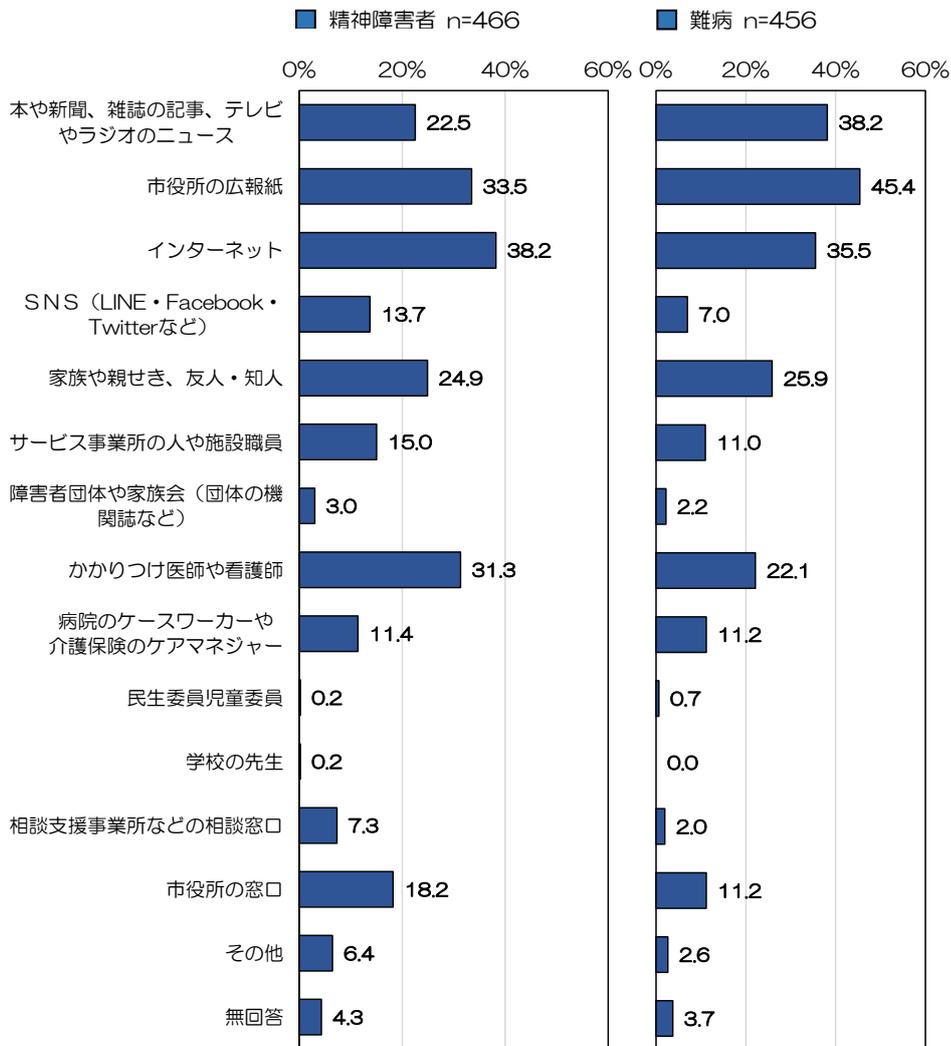


⑦障害のことや福祉サービスの情報の入手先について

障害のことや福祉サービスの情報の入手先については、全体では「市役所の広報紙」が41.9%で最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が32.8%、「家族や親せき、友人・知人」が28.4%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「市役所の広報紙」が45.5%で最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が36.0%となっています。知的障害者では「家族や親せき、友人・知人」が39.4%で最も高く、次いで「サービス事業所の人や施設職員」が37.0%となっています。精神障害者では「インターネット」が38.2%で最も高く、次いで「市役所の広報紙」が33.5%となっています。難病では「市役所の広報紙」が45.4%で最も高く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が38.2%となっています。



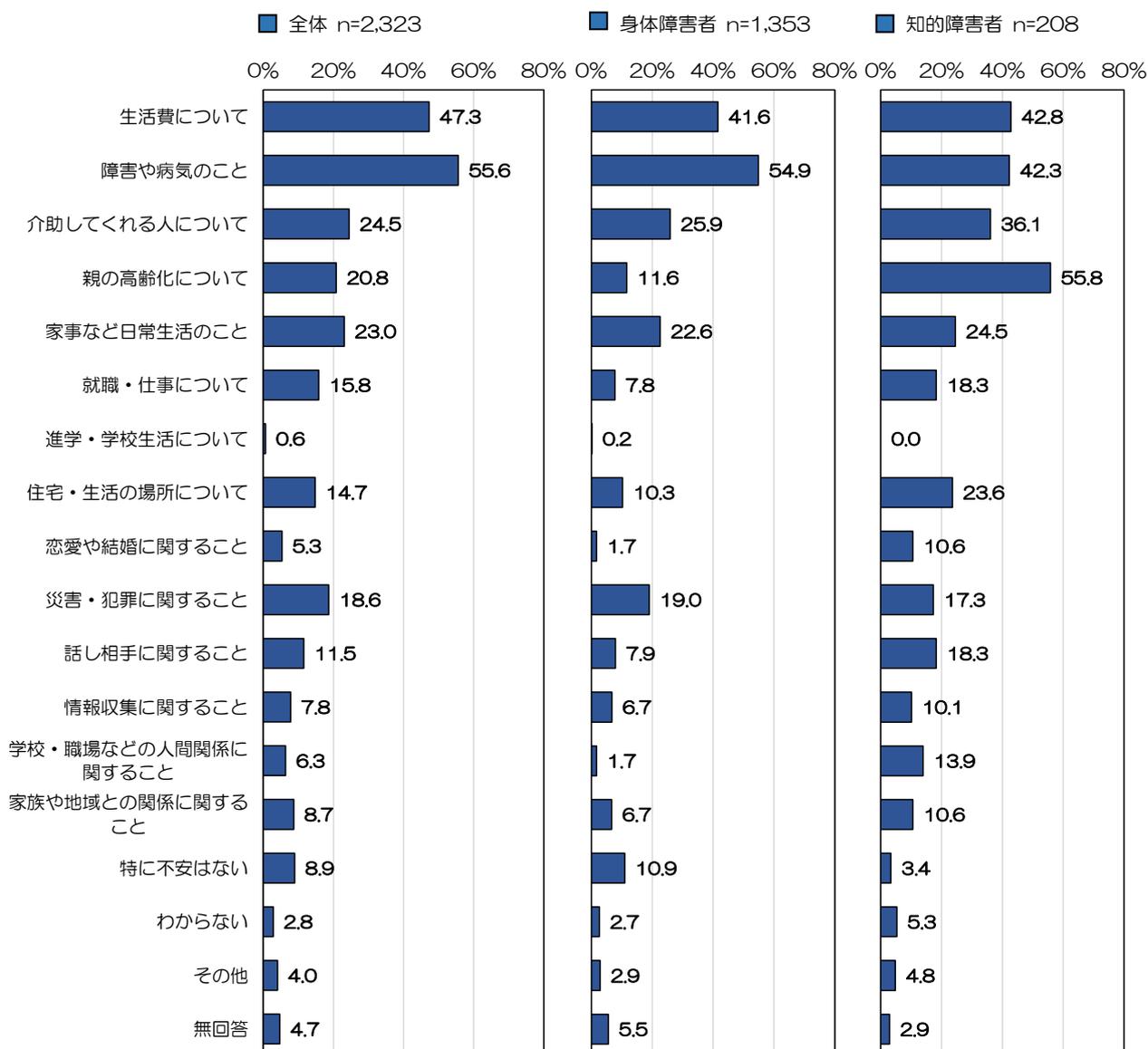


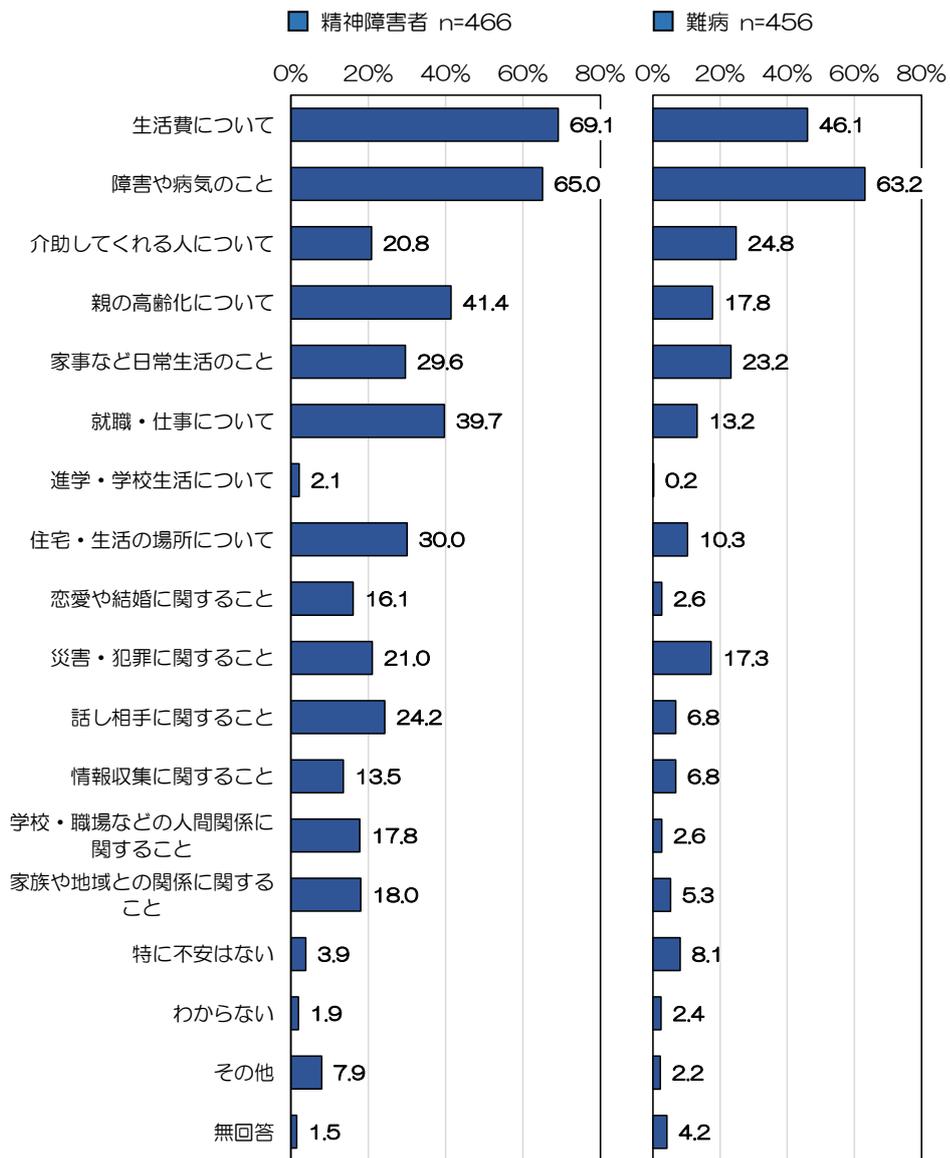
⑧悩みごとや困りごとの相談先について

現在や今後の生活で不安に思っていることについては、全体では「障害や病気のこと」が55.6%で最も高く、次いで「生活費について」が47.3%、「介助してくれる人について」が24.5%、「家事など日常生活のこと」が23.0%、「親の高齢化について」が20.8%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「障害や病気のこと」が54.9%、知的障害者では「親の高齢化について」が55.8%、精神障害者では「生活費について」が69.1%、難病では「障害や病気のこと」が63.2%で最も高くなっています。

他の種別と比べると、知的障害者においては「親の高齢化について」、精神障害者においては「親の高齢化について」「就職・仕事について」の割合が高くなっています。





⑨障害福祉サービス等について

障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況と今後の利用意向については、以下のとおりです。

【全体 n=2,323】

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	7.9	1	日常生活用具給付事業	3.9
2	計画相談支援	7.3	2	相談支援事業(一般的な相談)	3.7
3	生活介護	6.6	2	移動支援事業	3.7
4	施設入所支援	5.2	4	地域活動支援センター事業	1.8
5	自立訓練(機能訓練)	4.8	5	日中一時支援事業	1.4

※上位5項目を抜粋(以下、同様)

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	17.8	1	相談支援事業(一般的な相談)	13.7
2	生活介護	15.2	2	移動支援事業	11.9
3	計画相談支援	13.6	3	日常生活用具給付事業	10.4
4	短期入所(ショートステイ)	13.5	4	日中一時支援事業	8.1
5	施設入所支援	11.9	5	地域活動支援センター事業	7.2
5	自立訓練(機能訓練)	11.9			

【身体障害者 n=1,353】

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	8.7	1	日常生活用具給付事業	5.6
2	自立訓練(機能訓練)	6.2	2	移動支援事業	3.5
3	生活介護	4.8	3	相談支援事業(一般的な相談)	2.4
4	施設入所支援	4.2	4	地域活動支援センター事業	1.6
5	短期入所(ショートステイ)	3.9	5	手話通訳者等派遣事業	1.0

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	21.2	1	日常生活用具給付事業	13.8
2	生活介護	15.4	2	移動支援事業	12.7
3	短期入所(ショートステイ)	14.3	3	相談支援事業(一般的な相談)	12.3
3	自立訓練(機能訓練)	14.3	4	日中一時支援事業	7.6
5	施設入所支援	12.2	5	地域活動支援センター事業	6.3

【知的障害者 n=208】

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	39.9	1	移動支援事業	15.9
2	生活介護	30.3	2	相談支援事業(一般的な相談)	14.4
3	就労継続支援(B型)	22.2	3	日中一時支援事業	6.3
4	施設入所支援	18.8	4	成年後見制度利用支援事業	3.8
5	共同生活援助(グループホーム)	14.4	5	地域活動支援センター事業	3.4

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	49.0	1	移動支援事業	31.7
2	生活介護	39.0	2	相談支援事業(一般的な相談)	27.4
3	共同生活援助(グループホーム)	33.1	3	日中一時支援事業	21.7
4	施設入所支援	32.7	4	成年後見制度利用支援事業	20.1
5	短期入所(ショートステイ)	31.2	5	地域活動支援センター事業	14.5

【精神障害者 n=466】

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	11.5	1	相談支援事業(一般的な相談)	6.5
2	居宅介護(ホームヘルプ)	8.1	2	地域活動支援センター事業	2.8
3	就労継続支援(B型)	8.0	3	移動支援事業	2.3
4	就労移行支援	6.5	4	成年後見制度利用支援事業	1.9
5	自立生活援助	6.4	5	日常生活用具給付事業	1.5

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	計画相談支援	21.0	1	相談支援事業(一般的な相談)	20.4
2	就労移行支援	20.6	2	成年後見制度利用支援事業	11.2
3	就労定着支援	19.1	3	地域活動支援センター事業	9.3
4	就労継続支援(B型)	18.3	4	障害者理解促進研修・啓発事業	9.2
5	自立生活援助	17.1	5	移動支援事業	9.0

【難病 n=456】

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用しているが、今後は利用しない」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	7.0	1	日常生活用具給付事業	3.7
2	自立訓練(機能訓練)	6.3	2	移動支援事業	3.3
3	短期入所(ショートステイ)	4.4	3	相談支援事業(一般的な相談)	2.9
4	生活介護	3.9	4	地域活動支援センター事業	1.5
5	自立生活援助	3.3	5	日中一時支援事業	1.1

◆障害福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

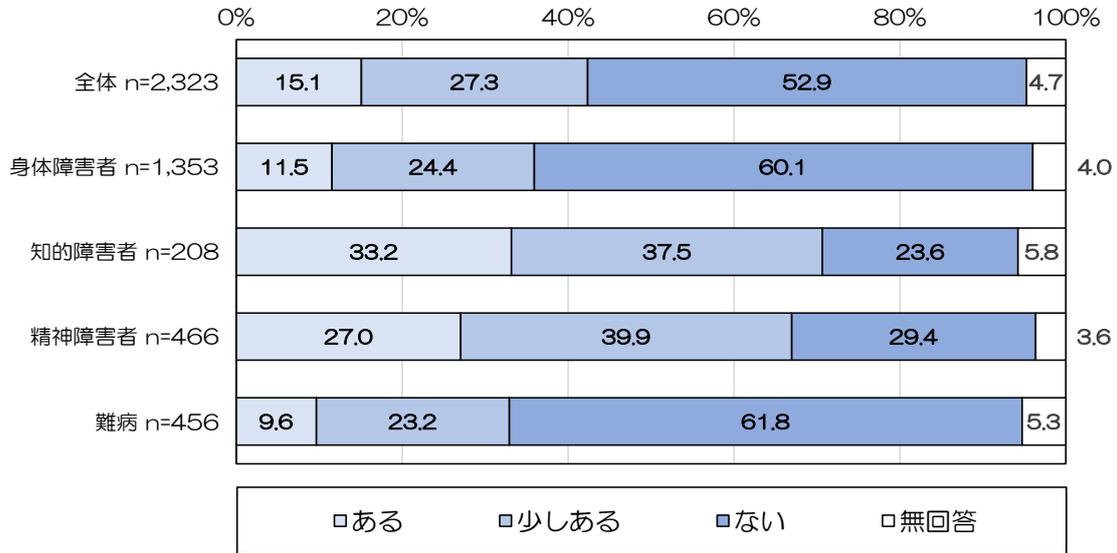
(「現在利用しており、今後も利用したい」+「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合)

障害福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	居宅介護(ホームヘルプ)	17.3	1	移動支援事業	11.4
2	生活介護	13.1	2	相談支援事業(一般的な相談)	10.1
3	短期入所(ショートステイ)	12.8	2	日常生活用具給付事業	10.1
4	自立訓練(機能訓練)	12.0	4	日中一時支援事業	6.8
5	自立生活援助	10.1	5	地域活動支援センター事業	5.9

⑩差別や嫌な思いをする（した）ことについて

障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについては、全体では「ない」が52.9%で最も高く、次いで「少しある」が27.3%、「ある」が15.1%となっています。なお、「ある」と「少しある」を合わせた割合は前回（令和2年度）調査時の44.4%から2.0ポイント減少しています。

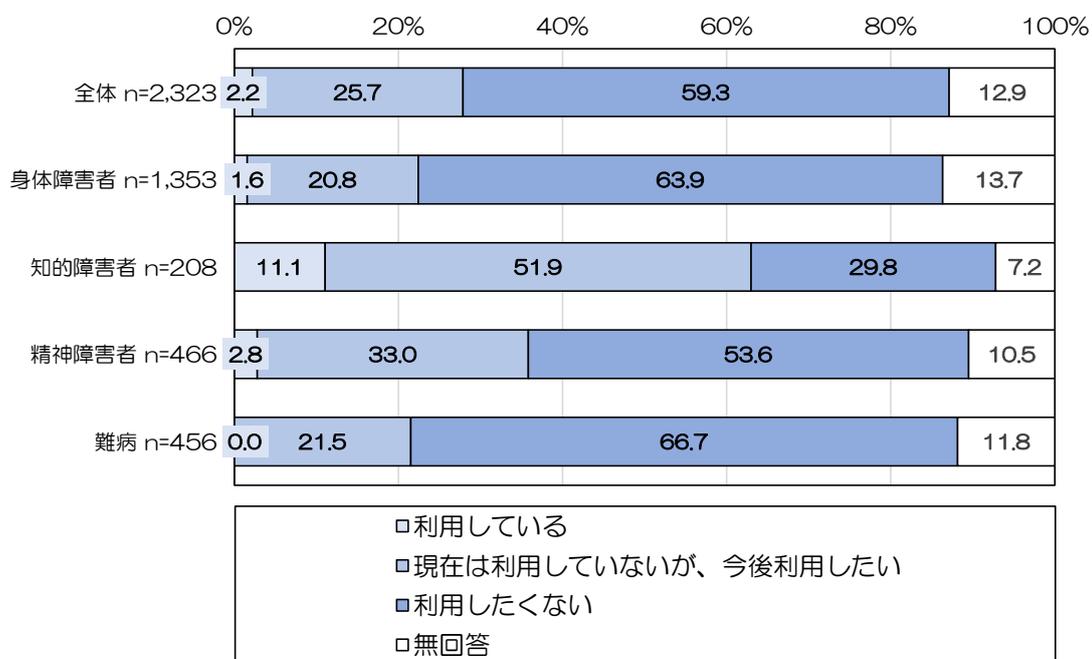
障害種別でみると、知的障害者と精神障害者で「ある」の割合が他の種別と比べて高くなっています。



⑪ 成年後見制度の利用について

成年後見制度の利用については、全体では「利用したくない」が59.3%で最も高く、次いで「現在は利用していないが、今後利用したい」が25.7%、「利用している」が2.2%となっています。

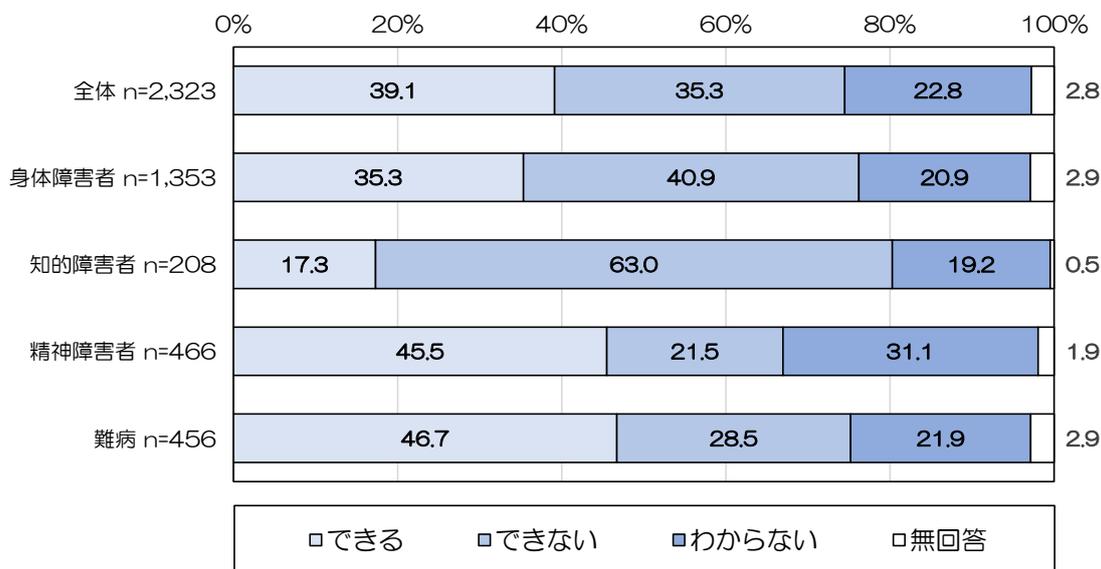
障害種別で「現在は利用していないが、今後利用したい」の割合をみると、身体障害者では20.8%、知的障害者では51.9%、精神障害者では33.0%、難病では21.5%と、知的障害者が他の種別と比べて非常に高くなっています。



⑫ 火事や地震等の災害時に一人での避難について

地震や水害等の災害時に一人で避難できるかについては、全体では「できる」が39.1%で最も高く、次いで「できない」が35.3%、「わからない」が22.8%となっています。

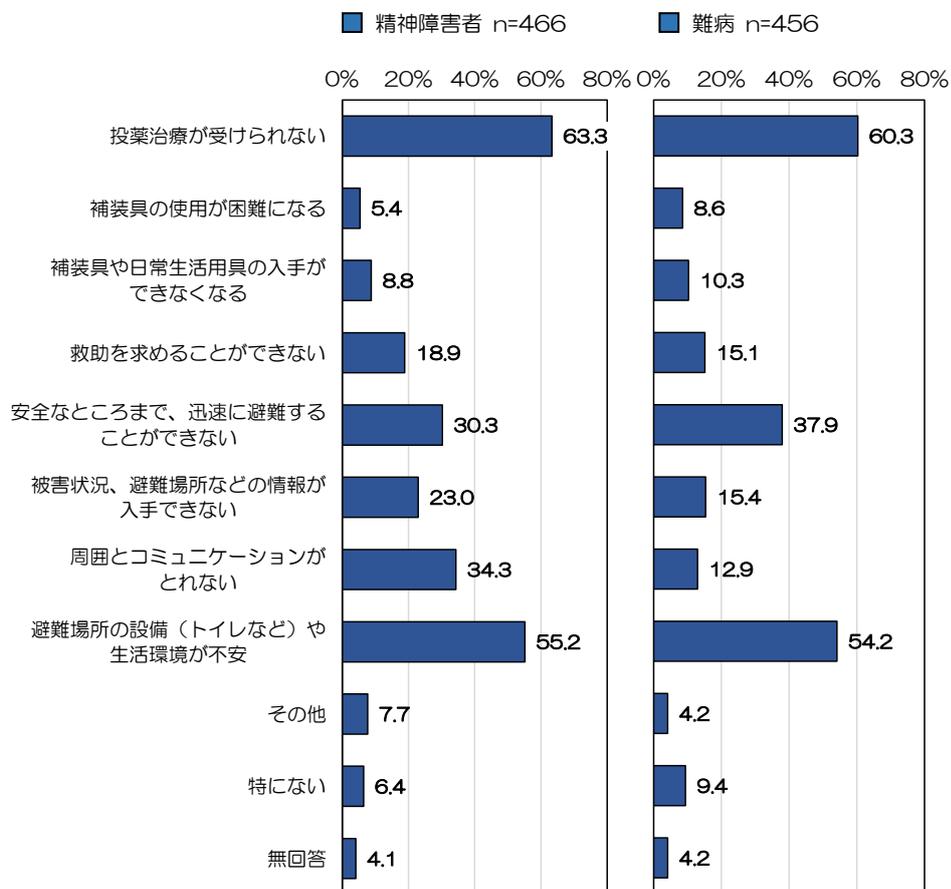
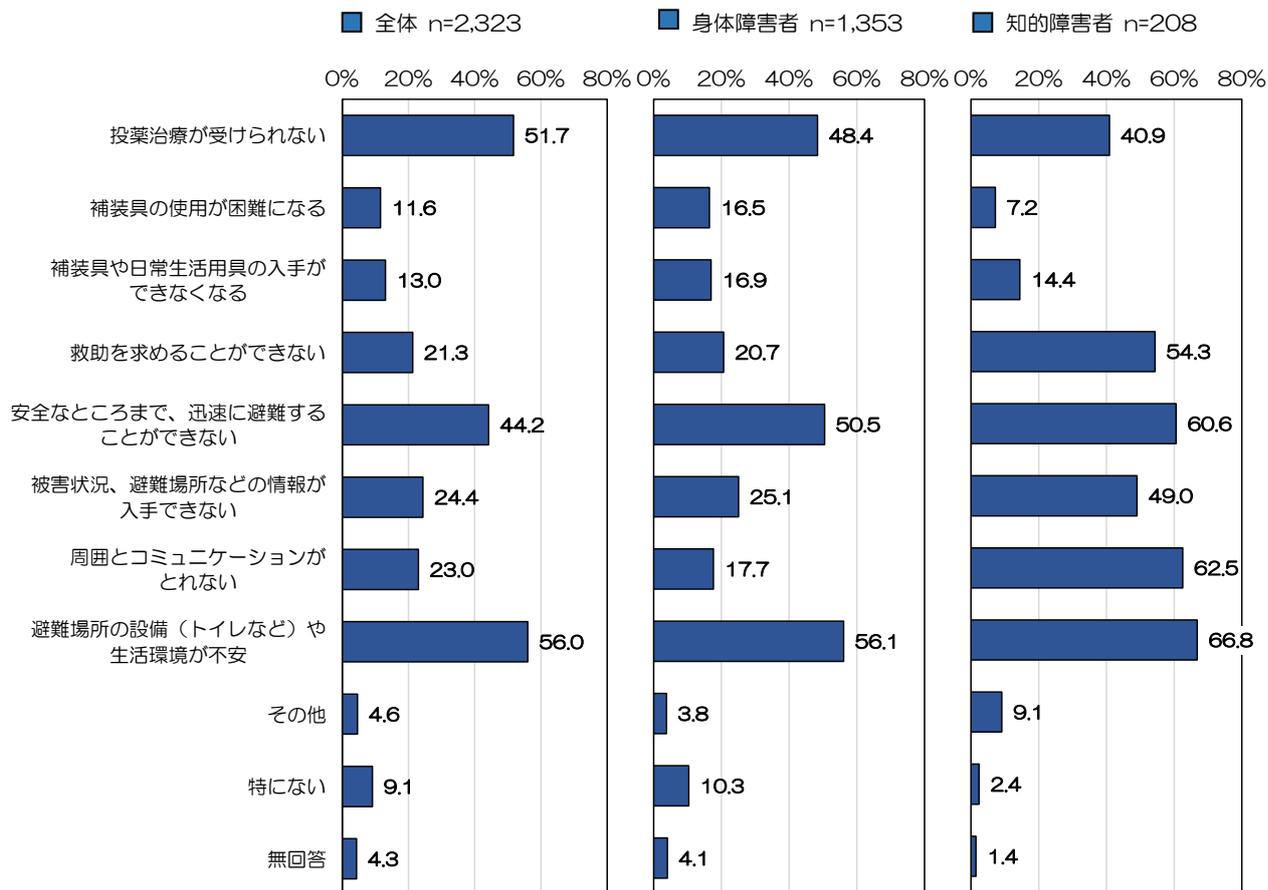
障害種別で「できない」の割合をみると、身体障害者では40.9%、知的障害者では63.0%、精神障害者では21.5%、難病では28.5%と、知的障害者が他の種別と比べて非常に高くなっています。



⑬ 地震や水害等の災害時に困ることについて

地震や水害等の災害時に困ることについては、全体では「避難場所の設備や生活環境が不安」が56.0%で最も高く、次いで「投薬治療が受けられない」が51.7%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が44.2%となっています。

障害種別でみると、身体障害者では「避難場所の設備や生活環境が不安」が56.1%で最も高く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」が50.5%となっています。知的障害者では「避難場所の設備や生活環境が不安」が66.8%で最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションがとれない」が62.5%となっています。また、知的障害者においては「救助を求めることができない」「安全なところまで、迅速に避難することができない」「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」の割合も高くなっています。精神障害者では「投薬治療が受けられない」が63.3%で最も高く、次いで「避難場所の設備や生活環境が不安」が55.2%となっています。難病では「投薬治療が受けられない」が60.3%で最も高く、次いで「避難場所の設備や生活環境が不安」が54.2%となっています。



⑭朝霞市のまちづくりについて

障害のある人の住みやすいまちづくりについて、不満を感じている項目や今後重要だと感じている項目は以下のとおりです。

◆不満を感じている項目

No.	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病
1	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (25.8)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (26.6)	【1位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (38.9)	【1位】 働く場の確保 (31.8)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (32.9)
2	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (19.8)	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (16.9)	【2位】 グループホームなど地域での生活の場の整備 (34.1)	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (28.8)	【2位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (18.9)
3	【3位】 働く場の確保 (18.7)	【3位】 災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施 (16.0)	【3位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (32.2)	【3位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (24.5)	【3位】 災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施 (17.3)
4	【4位】 災害時における避難誘導体制の確立と訓練の実施 (17.1)	【4位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (15.0)	【4位】 働く場の確保 (28.8)	【4位】 悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実 (22.3)	【4位】 働く場の確保 (16.2)
5	【5位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (16.5)	【5位】 働く場の確保 (13.8)	【5位】 参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備 (25.5)	【5位】 福祉分野の専門的な人材の確保・養成 (21.7)	【5位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (15.6)
6					【5位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実 (15.6)

※括弧内の数字は、構成比（％）

◆今後重要だと感じている項目

No.	全体	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病
1	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (65.2)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (65.5)	【1位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (71.2)	【1位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (66.3)	【1位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (71.5)
2	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実 (58.6)	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実 (58.4)	【2位】 働く場の確保 (68.3)	【2位】 働く場の確保 (63.5)	【2位】 福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実 (65.1)
3	【3位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (58.1)	【3位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (57.9)	【3位】 グループホームなど地域での生活の場の整備 (66.8)	【2位】 障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備 (63.5)	【3位】 重度の障害のある人のための入所施設の整備 (61.4)
4	【4位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実 (57.6)	【4位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実 (55.9)	【4位】 福祉分野の専門的な人材の確保・養成 (66.3)	【4位】 障害の種類・程度に応じた手段を選択できる環境 (63.3)	【4位】 障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実 (60.7)
5	【5位】 リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 (56.0)	【5位】 リハビリ・生活訓練・職業訓練などの通所施設の整備 (55.2)	【5位】 障害のある人のための住まいの確保・供給 (65.4)	【5位】 悪質商法などの消費者トラブルから障害のある人を守るための相談や支援の充実 (60.1)	【5位】 障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実 (60.1)

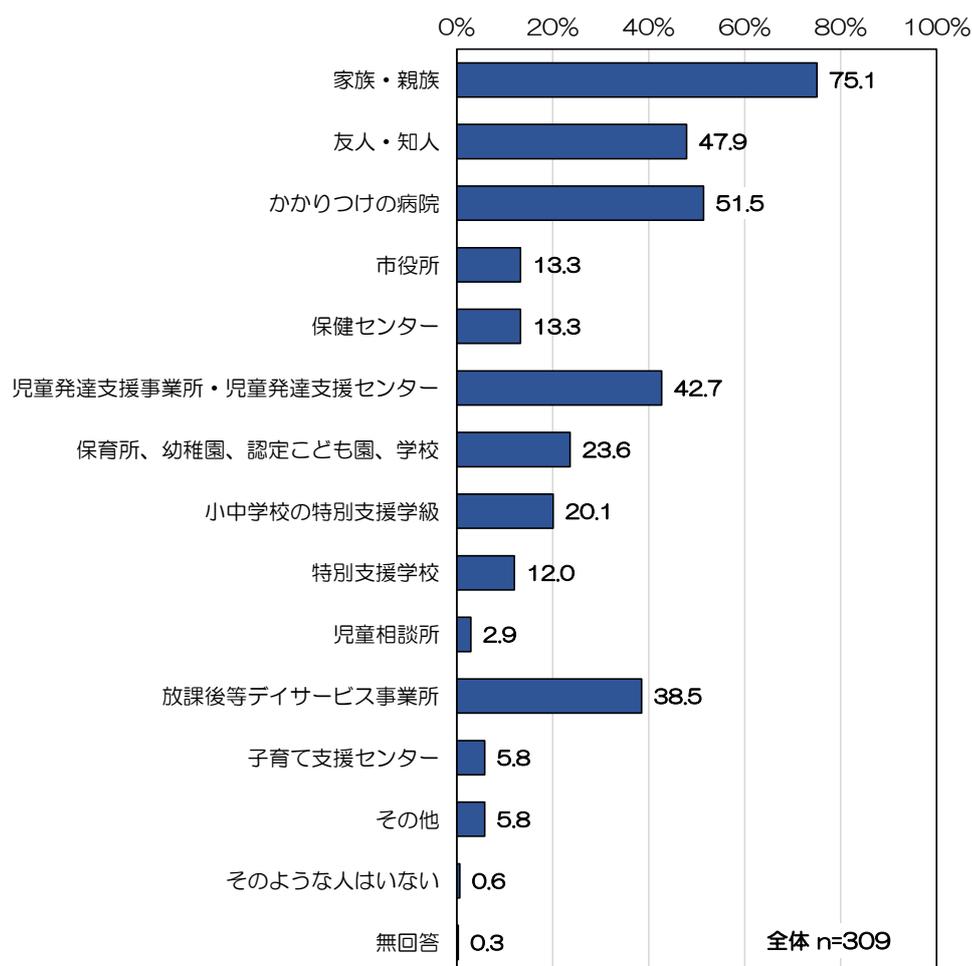
※括弧内の数字は、構成比（％）

(3) 障害のある児童・保護者の調査結果の概要(調査区分B)

『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋

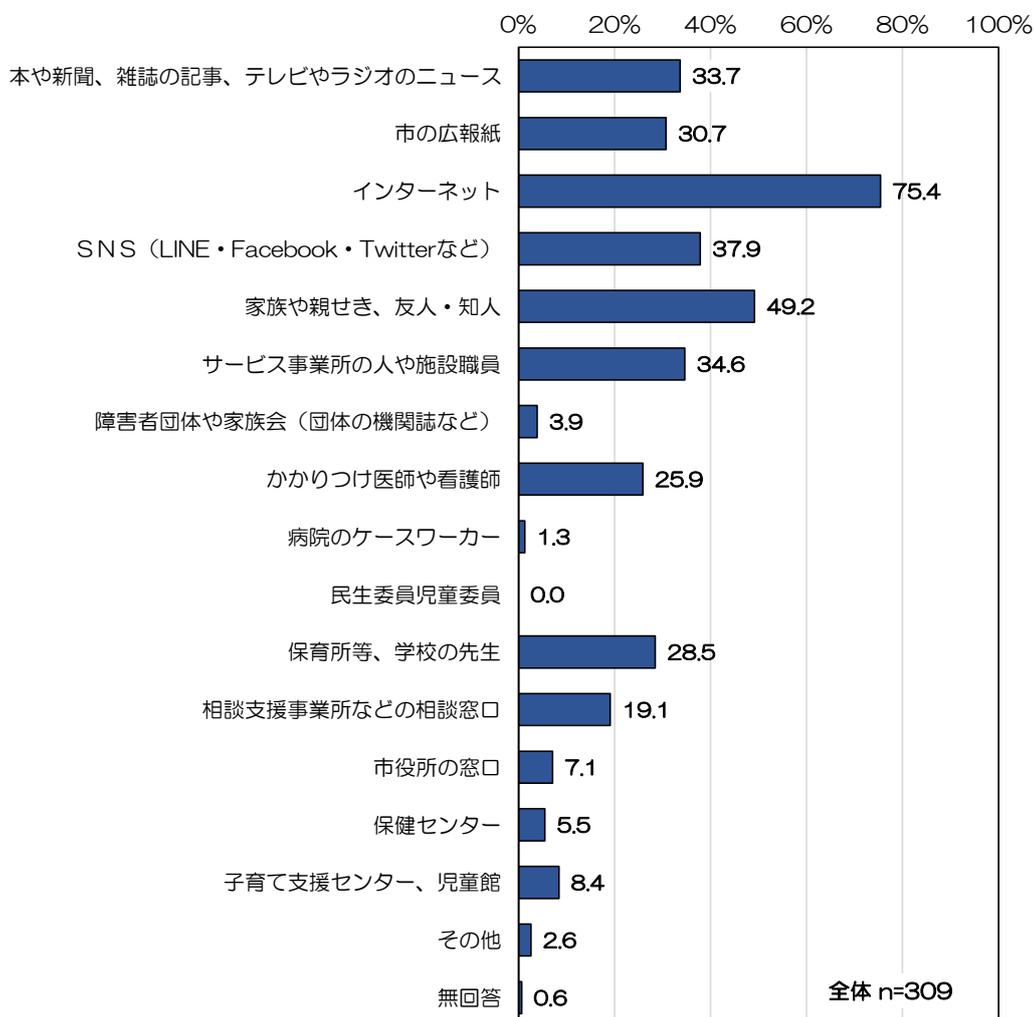
① 不安になったときの相談先について

お子さんの子育てをする上で、不安になったときの相談先については、「家族・親族」が75.1%で最も高く、次いで「かかりつけの病院」が51.5%、「友人・知人」が47.9%となっています。



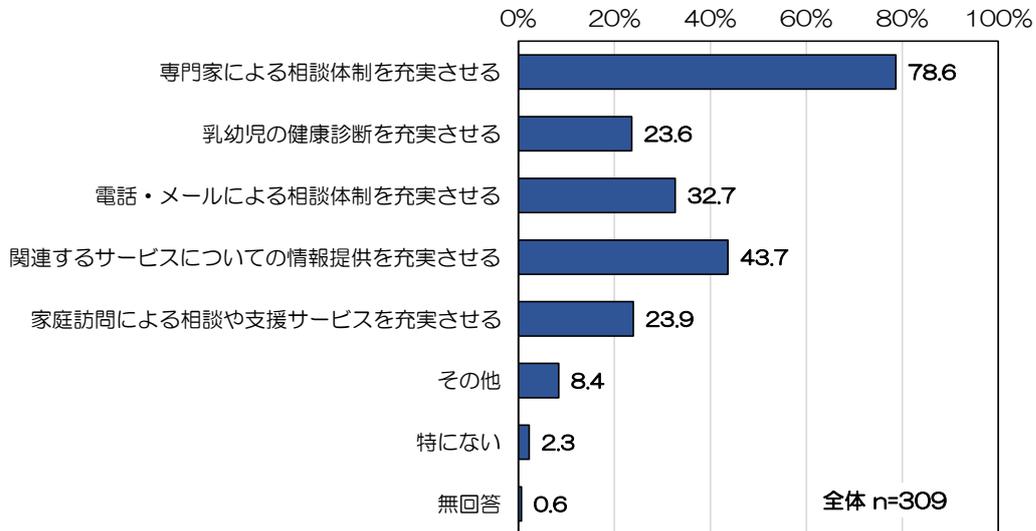
②子育てに関する情報の入手先について

子育て関連の情報の入手先については、「インターネット」が75.4%で最も高く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が49.2%、「SNS」が37.9%となっています。



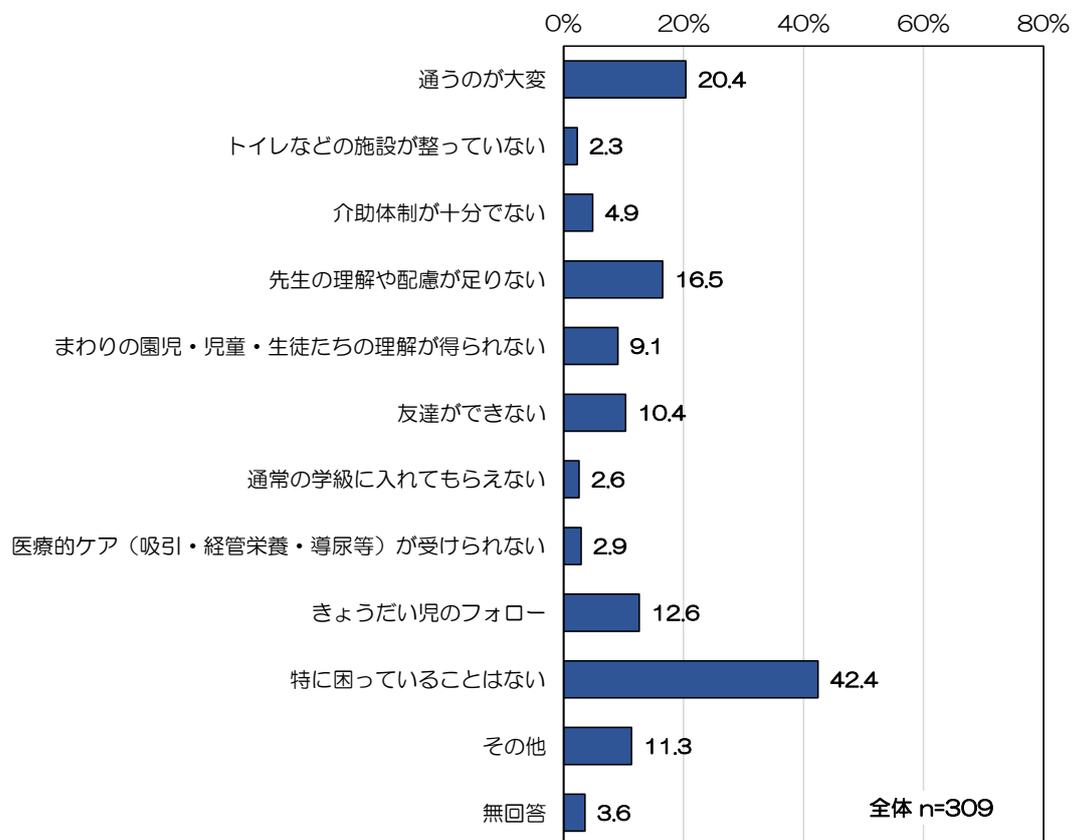
③早期に適切な支援を受けるために必要なことについて

子育てをする上で、不安になったとき、早期に適切な支援を受けるために必要なことについては、「専門家による相談体制を充実させる」が78.6%で最も高く、次いで「関連するサービスについての情報提供を充実させる」が43.7%、「電話・メールによる相談体制を充実させる」が32.7%となっています。



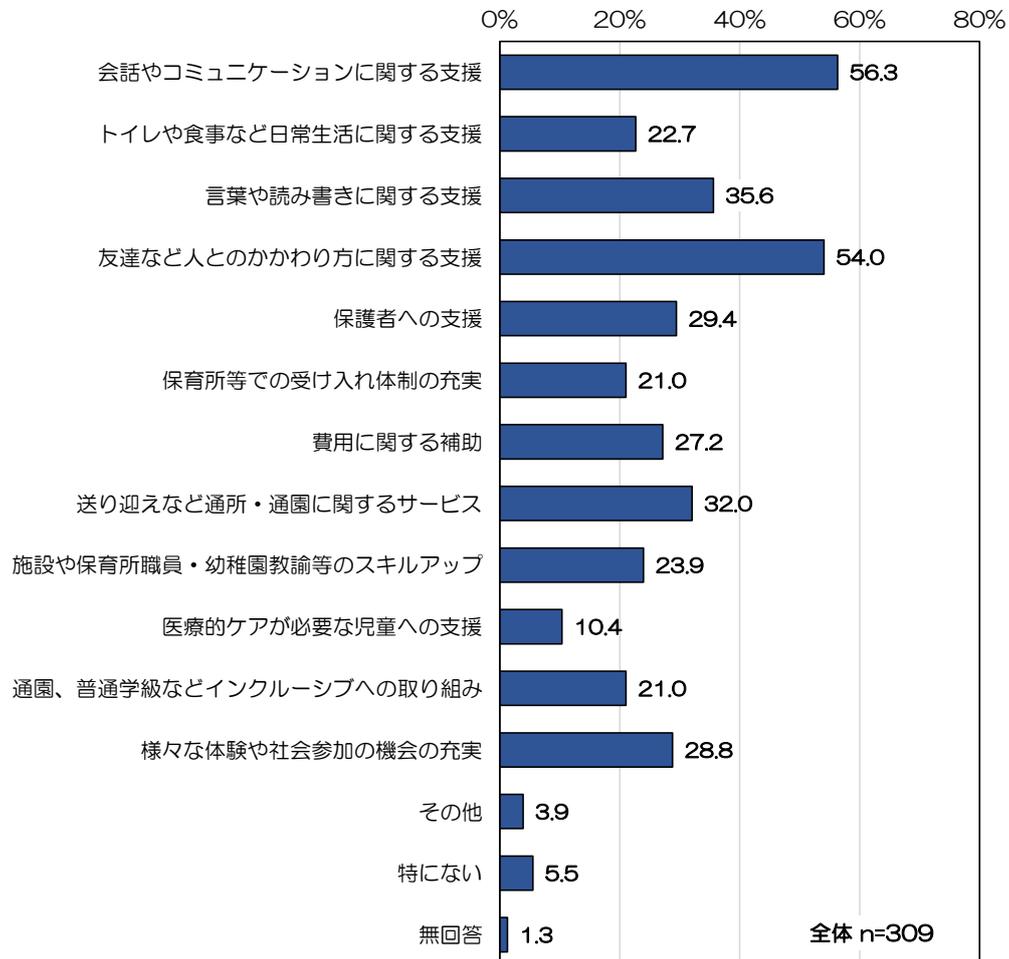
④ 保育所等や学校での困りごとについて

保育所等、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、学校などに通っていて困ることについては、「特に困っていることはない」が42.4%で最も高く、次いで「通うのが大変」が20.4%、「先生の理解や配慮が足りない」が16.5%となっています。



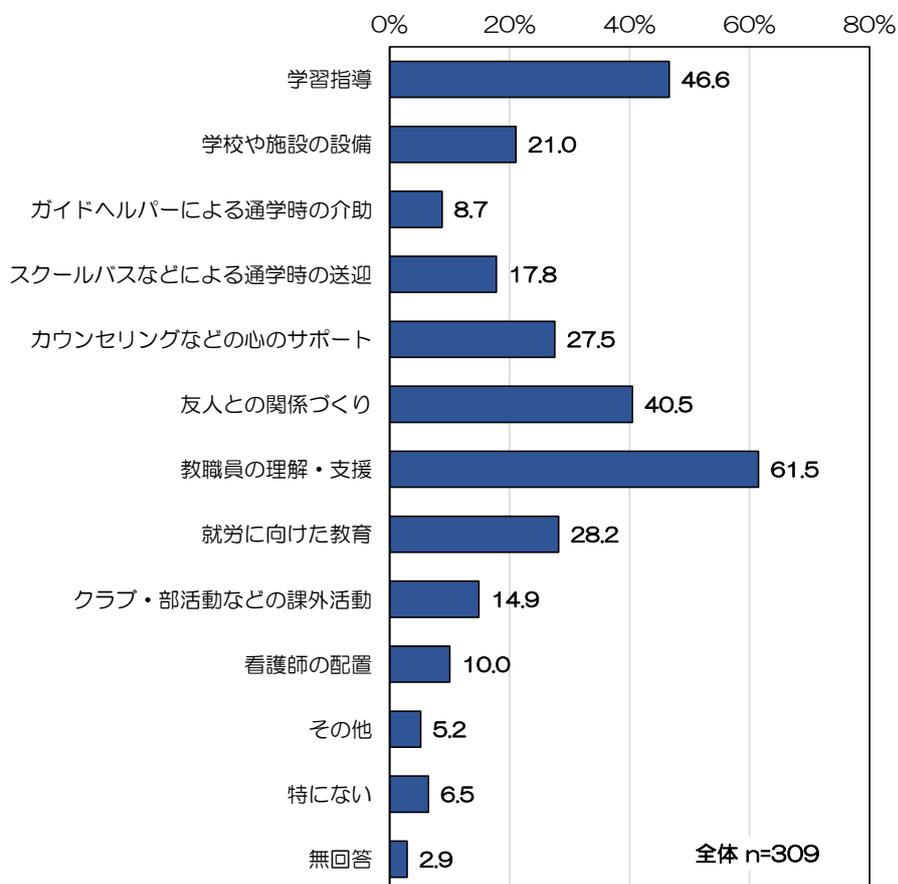
⑤ 充実させるべき支援等について

お子さんが受けている支援等について、充実させるべきと思う点については、「会話やコミュニケーションに関する支援」が56.3%で最も高く、次いで「友達など人とのかかわり方に関する支援」が54.0%、「言葉や読み書きに関する支援」が35.6%となっています。



⑥教育や学校生活において充実させるべきについて

お子さんが受けている教育や、学校生活について、充実させるべきと思う点については、「教職員の理解・支援」が61.5%で最も高く、次いで「学習指導」が46.6%、「友人との関係づくり」が40.5%となっています。



⑦障害（児）福祉サービス等について

障害（児）福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況と今後の利用意向については、以下のとおりです。

◆障害（児）福祉サービス・地域生活支援事業の現在の利用状況

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用しているが、今後は利用しない」割合）

障害（児）福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	障害児相談支援（計画相談支援）	44.0	1	相談支援事業（一般的な相談）	10.0
2	児童発達支援	42.7	2	日常生活用具給付事業	5.5
3	放課後等デイサービス	41.7	3	移動支援事業	2.5
4	保育所等訪問支援	15.6	4	日中一時支援事業	0.9
5	居宅介護（ホームヘルプ）	2.9	5	成年後見制度利用支援事業	0.6
			5	地域活動支援センター事業	0.6

※上位5項目を抜粋（以下、同様）

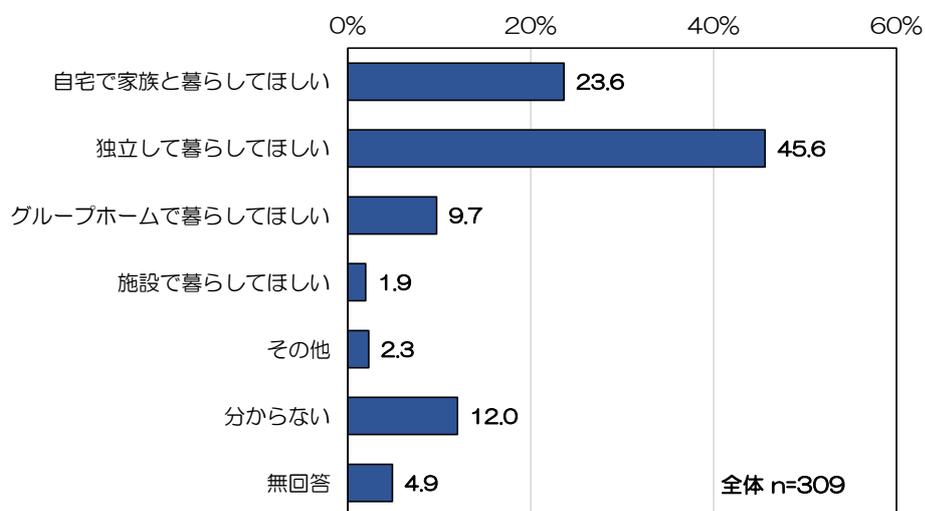
◆障害（児）福祉サービス・地域生活支援事業の今後の利用意向

（「現在利用しており、今後も利用したい」＋「現在利用していないが、3年以内には利用したい」割合）

障害（児）福祉サービスの利用状況			地域生活支援事業の利用状況		
No.	項目	%	No.	項目	%
1	放課後等デイサービス	65.4	1	相談支援事業（一般的な相談）	24.9
2	障害児相談支援（計画相談支援）	52.5	2	移動支援事業	12.6
3	児童発達支援	43.0	3	日中一時支援事業	11.9
4	保育所等訪問支援	23.7	4	日常生活用具給付事業	8.7
5	行動援護	10.3	4	地域活動支援センター事業	8.7

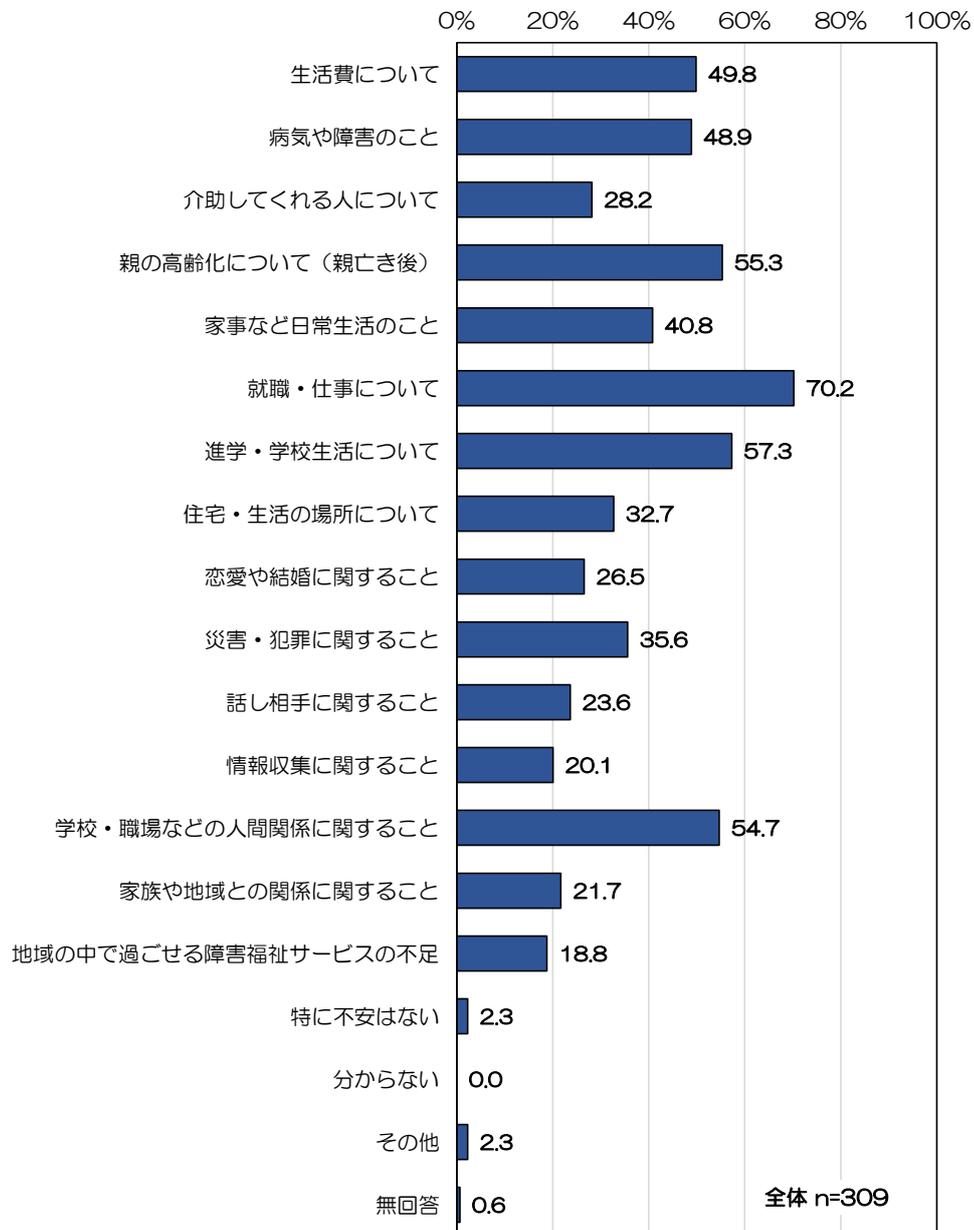
⑧お子さんの将来について

お子さんには将来どのように暮らして欲しいかについては、「独立して暮らしてほしい」が45.6%で最も高く、次いで「自宅で家族と暮らしてほしい」が23.6%、「分からない」が12.0%となっています。



⑨お子さんの将来を考えて不安に思うことについて

お子さんの将来を考えて不安に思うことについては、「就職・仕事について」が70.2%で最も高く、次いで「進学・学校生活について」が57.3%、「親の高齢化について（親亡き後）」が55.3%となっています。



⑩障害のある人・障害のある児童への支援について

障害のある人の住みやすいまちづくりについて、不満を感じている項目や今後重要だと感じている項目は以下のとおりです。

◆不満を感じている項目

No.	項目	%
1	障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	30.4
2	福祉分野の専門的な人材の確保・養成	30.1
3	福祉サービスの利用手続の電子化・スピード化	29.4
4	保育所等での障害児療育の推進	28.8
5	働く場の確保	27.2

◆今後重要だと感じている項目

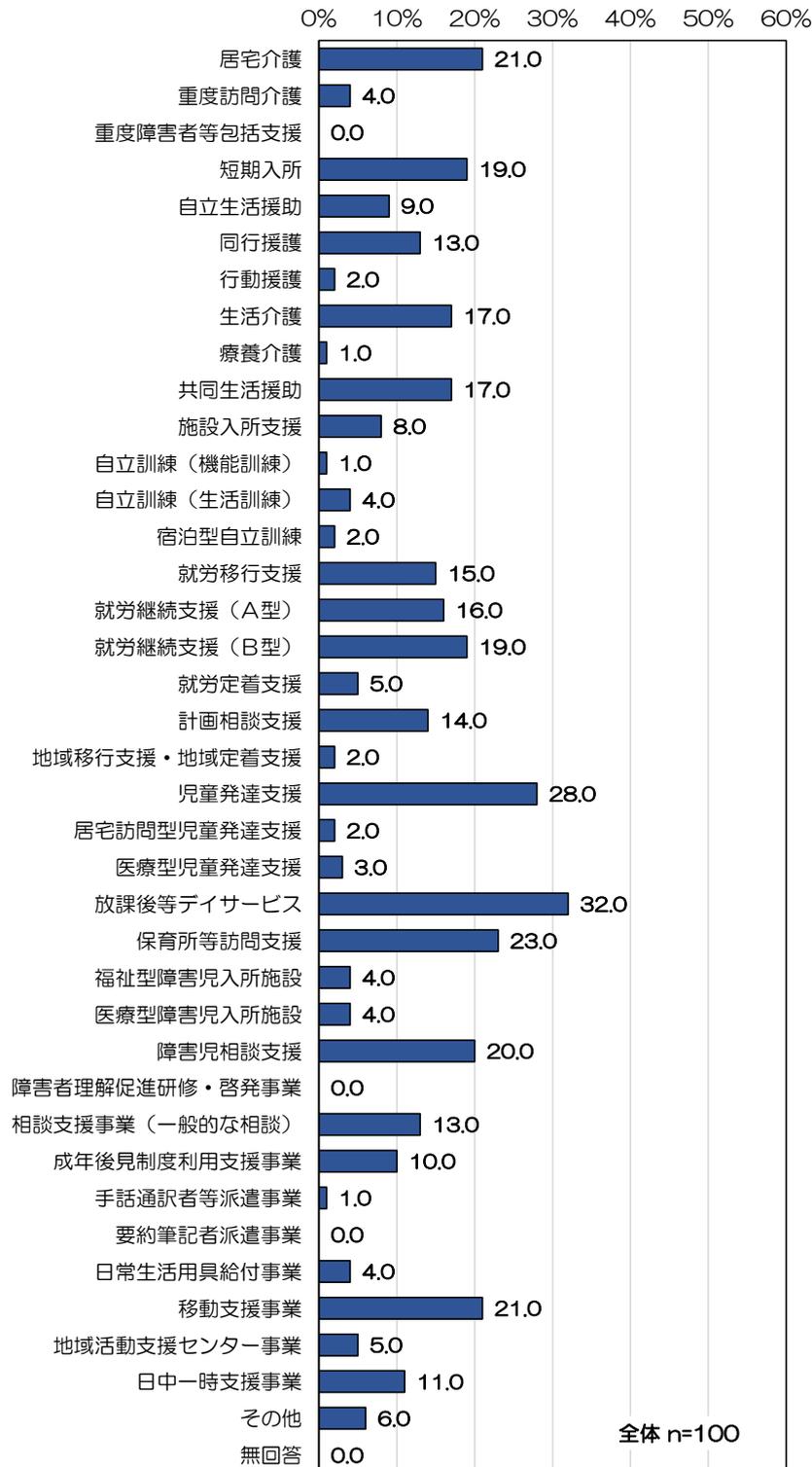
No.	項目	%
1	障害のある人のための教育の充実	75.1
1	働く場の確保	75.1
3	障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備	73.1
4	福祉分野の専門的な人材の確保・養成	71.2
5	保育所等での障害児療育の推進	70.2

(4) 障害福祉サービス事業所等の調査結果の概要(調査区分C)

『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋

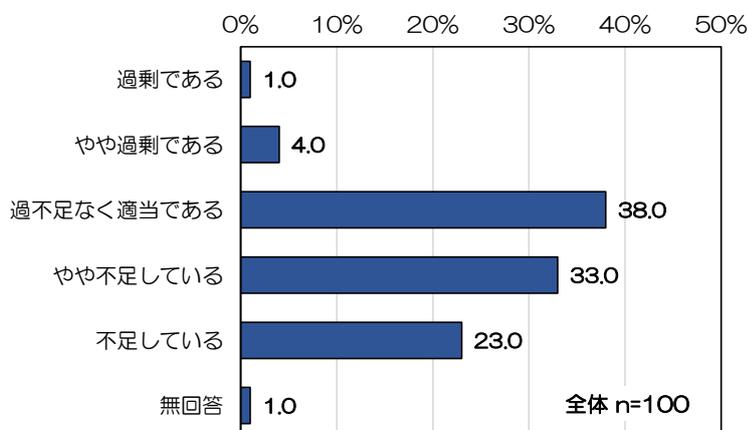
①利用者から望まれているサービスについて

利用者から望む声が多いサービスについては、「放課後等デイサービス」が32.0%で最も高く、次いで「児童発達支援」が28.0%、「保育所等訪問支援」が23.0%、「居宅介護」「移動支援事業」がともに21.0%、「障害児相談支援」が20.0%となっています。



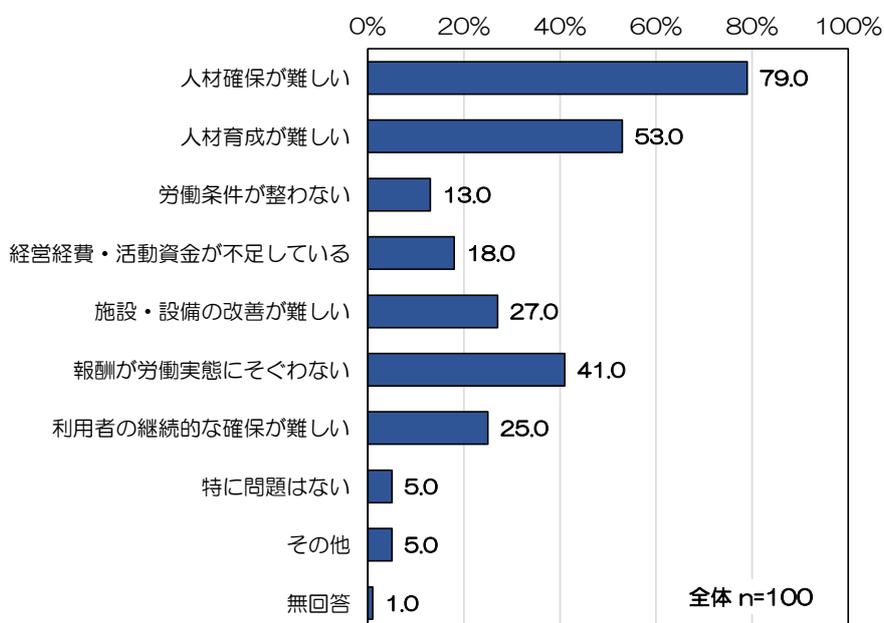
② 職員の配置状況について

職員の配置状況については、「過不足なく適当である」が38.0%で最も高く、次いで「やや不足している」が33.0%、「不足している」が23.0%となっています。



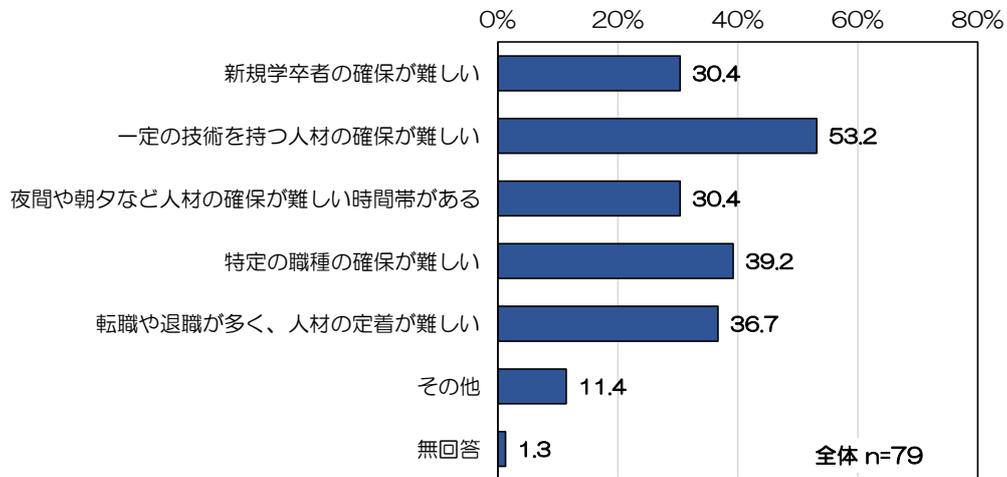
③ 運営に関する問題について

運営に関する問題については、「人材確保が難しい」が79.0%で最も高く、次いで「人材育成が難しい」が53.0%、「報酬が労働実態にそぐわない」が41.0%となっています。



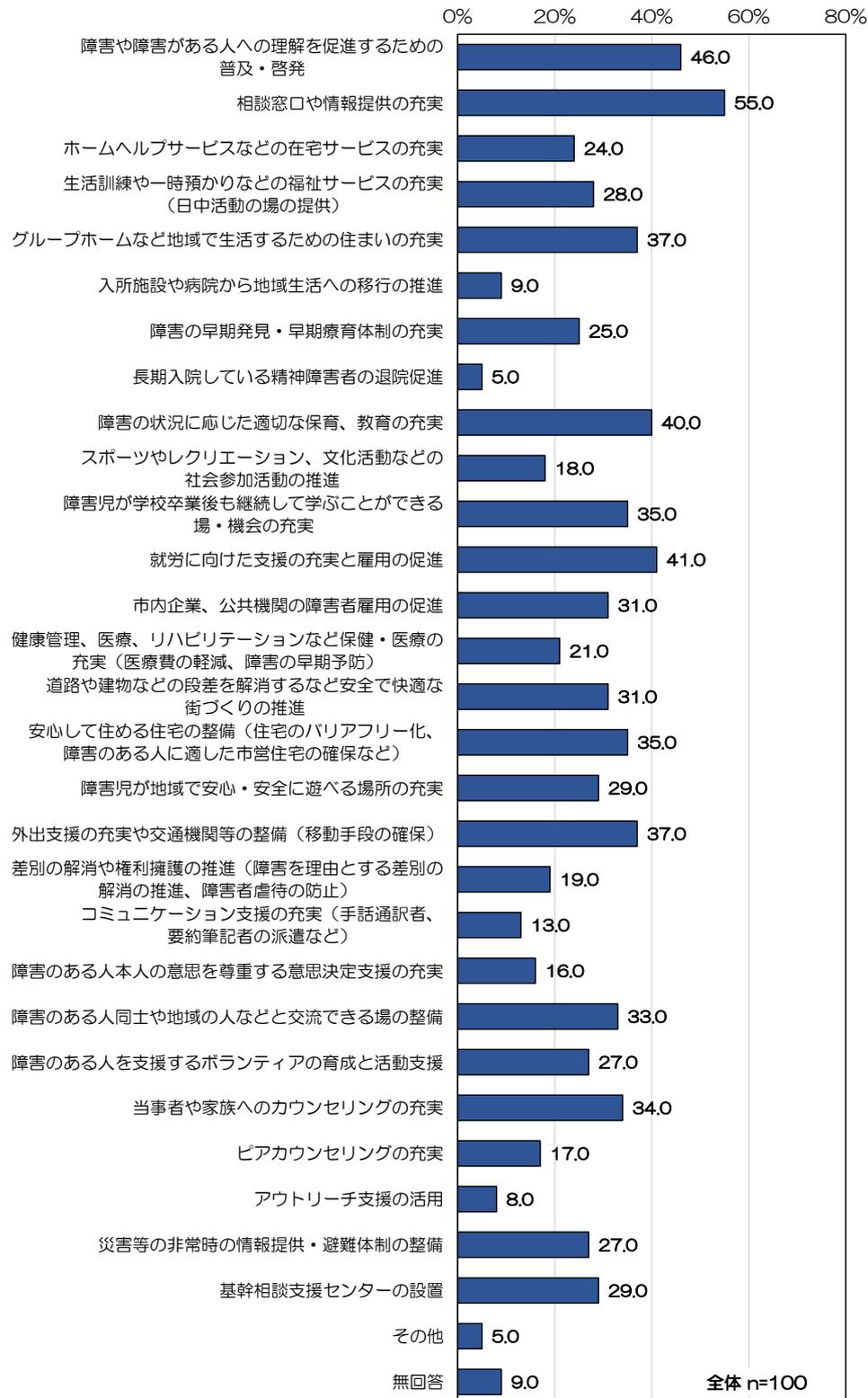
④人材確保に関する課題について

人材確保に関する課題については、「一定の技術を持つ人材の確保が難しい」が53.2%で最も高く、次いで「特定の職種の確保が難しい」が39.2%、「転職や退職が多く、人材の定着が難しい」が36.7%となっています。



⑤障害のある人・障害のある児童への支援について

今後、障害福祉を充実させるために、朝霞市が力を入れていく必要があると思うことについては、「相談窓口や情報提供の充実」が55.0%で最も高く、次いで「障害や障害がある人への理解を促進するための普及・啓発」が46.0%、「就労に向けた支援の充実と雇用の促進」が41.0%となっています。



(5) 障害者団体の調査結果の概要（調査区分D）

『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋

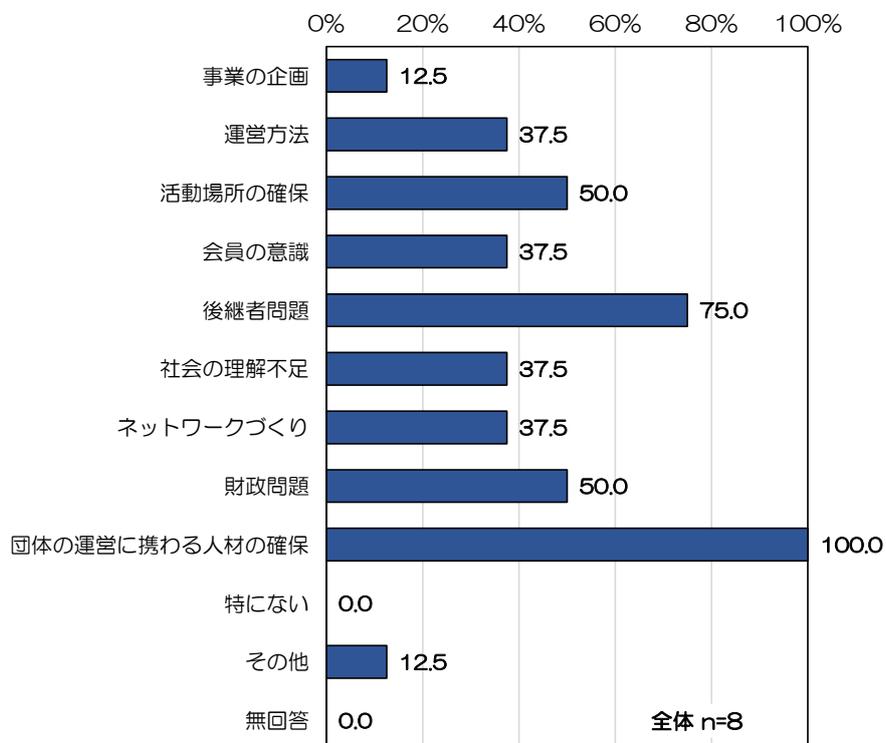
①利用者から望まれているサービスについて

会員から望む声が多いサービスについては、「短期入所」が62.5%で最も高く、次いで「共同生活援助」「施設入所支援」がともに50.0%、「生活介護」「就労継続支援（B型）」「障害者理解促進研修・啓発事業」「移動支援事業」がそれぞれ37.5%となっています。



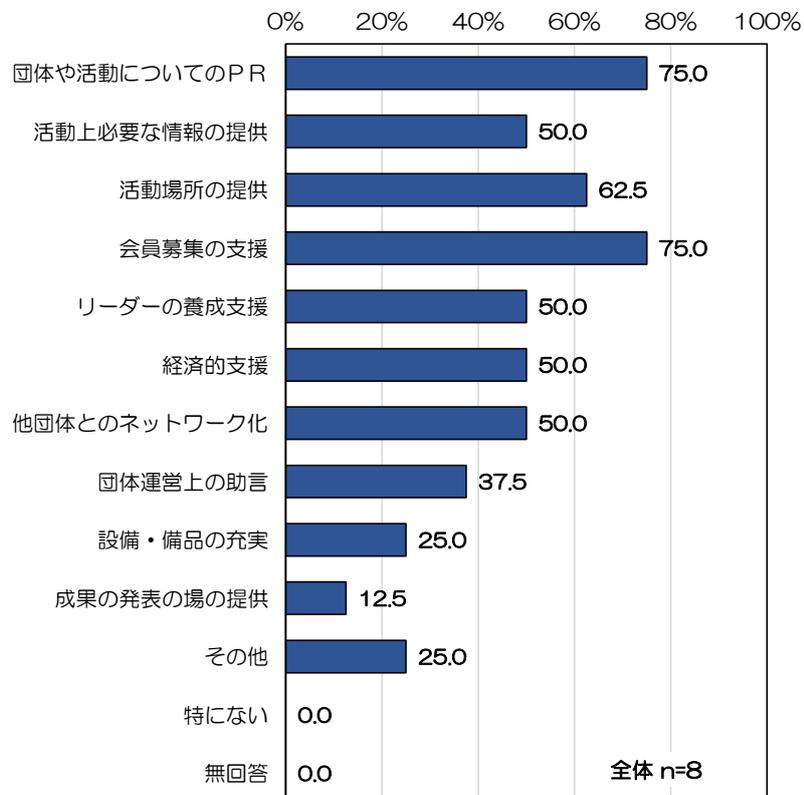
②活動する上で困っていることについて

団体が活動するうえで困っていることについては、「団体の運営に携わる人材の確保」が100.0%で最も高く、次いで「後継者問題」が75.0%、「活動場所の確保」「財政問題」がともに50.0%となっています。



③活動していくうえで市に望むことについて

貴団体が活動していくうえで市に望むことについては、「団体や活動についてのPR」「会員募集の支援」がともに75.0%で最も高く、次いで「活動場所の提供」が62.6%、「活動上必要な情報の提供」「リーダーの養成支援」「経済的支援」「他団体とのネットワーク化」がそれぞれ50.0%となっています。



③会員や参加者からの日常の困りごと、地域の問題の声について

【障害福祉サービス等について】

- ・ヘルパーの人材不足
- ・訪問介護人員不足
- ・通所の送迎
- ・リハビリ時間数の不足

【施設整備等について】

- ・介護施設のベッド数やスタッフの不足
- ・入院入所先の不足

【介護者や「親亡き後」のことについて】

- ・親が急に体調を崩した時に、子どもを見てもらえる環境、支えてくれる人
- ・介護者の負担
- ・親亡き後の当事者の生活について

【生活について】

- ・物価高で生活が苦しい
- ・高齢化してきていて、思うように行事に参加できない
- ・余暇の支援

【相談・交流について】

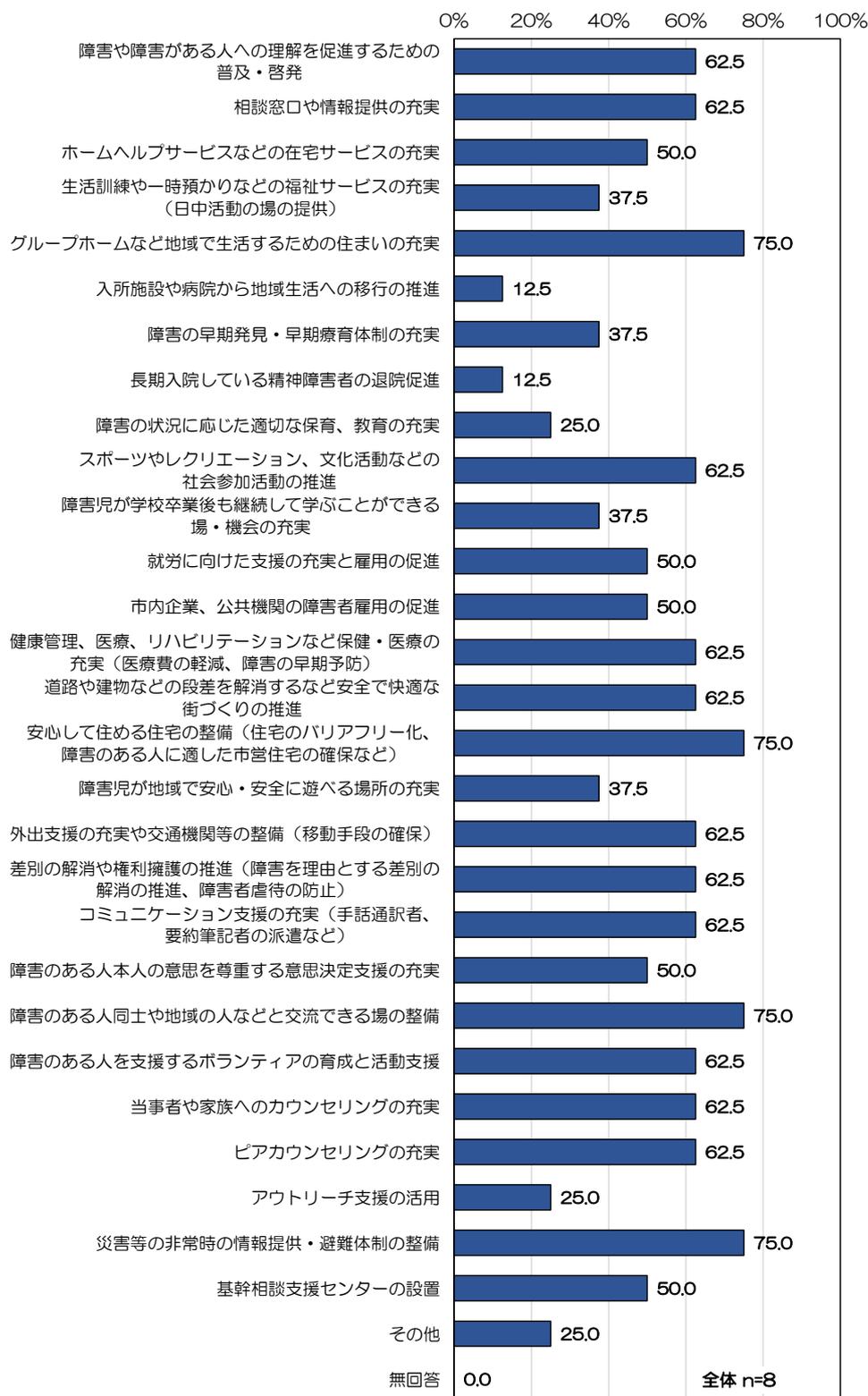
- ・相談ができる場、人
- ・手軽に集まる場所を確保したい

【障害への理解について】

- ・目に見えない障害のため、理解されない
- ・医療的ケア児支援法について知っている医師が少ない。そのため、主治医が小学校への看護師配置を必要とする診断書を書いても、学校医の理解が得られず配置が進まない。

④障害のある人・障害のある児童への支援について

今後、障害福祉を充実させるために、朝霞市が力を入れていく必要があると思うことについては、「グループホームなど地域で生活するための住まいの充実」「安心して住める住宅の整備（住宅のバリアフリー化、障害のある人に適した市営住宅の確保など）」「障害のある人同士や地域の人などと交流できる場の整備」「災害等の非常時の情報提供・避難体制の整備」がそれぞれ75.0%で最も高くなっています。



(6) 医療的ケアが必要な人等へのヒアリング調査結果の概要

『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋
医療的ケアが必要な人等を対象に行ったヒアリング調査結果は以下のとおりで
す。

■ 医療的ケアが必要な人の主な意見

- ・ 健常者、障害者がともに過ごせる交流イベントがあるといい
- ・ 学校、保育、障害児、医療的ケア児のことを一括で相談できる専門窓口があると嬉しい
- ・ 親亡き後の生活場所をどうすればよいかわからない
- ・ 預かり先が少ない
- ・ 一時預かりの場や長時間受け入れ可能な児童発達支援施設がない
- ・ 朝霞周辺に医療的ケアも行える施設が少ない
- ・ 家族の体力のあるうちは家族と暮らしたい
- ・ 彩夏祭会場に障害者がクールダウンできる区画があれば参加しやすい
- ・ 本人のレベルに合った療育サービスがない
- ・ 医療的ケア児対応の居宅型保育園がない
- ・ 車いす移動を考慮したバリアフリー
- ・ 災害時、最重度の人のことを考えた避難計画を立ててほしい
- ・ 介護者が自分の時間を持てるような支援

■ 重症心身障害がある人の主な意見

- ・ 楽しめるイベントがあるといい
- ・ 介護に関する勉強会、研修会など、市行政などで取り組んでもらいたい
- ・ 通所施設、入所施設、短期入所施設が少ない
- ・ 身体が大きくなったので入浴が大変
- ・ 障害児の時から使っていたサービスも引き続き使わせてもらいたい
- ・ 受け入れてくれる短期入所施設もないため、現時点では家族とできるだけ最後まで一緒に暮らしたい
- ・ 介護者が高齢になった場合、施設で暮らすことになる
- ・ 外に出て行くには大変なことが多すぎる
- ・ 朝霞台駅にエレベーターの設置がない
- ・ 整備されていない箇所や危険な箇所が多く、外出を諦めることが多い
- ・ ペースメーカーを入れているため、薬が多く、服薬の管理をしてほしい
- ・ 避難行動要支援者台帳について地域住民も知っていれば、もっと活用できる
- ・ 受給者証などの更新の時の書類の記入する枚数が多くて大変
- ・ 近所付き合いがうまくできるような仕組みがあると、困ったときに助け合える町になると思う

■ 高次脳機能障害がある人の主な意見

- 見た目では障害があるように見えないため理解されない
- どういう症状なのか、どういう手助けが必要なのか、広報にコラムを定期的に掲載、もっと認知してもらいたい
- ヘルプマークはまだまだ知られていない
- 障害福祉サービスを利用できる事業所が、他市と比べて少ない
- 市内に就労継続支援 A 型事業所がなくて困った
- 道路の整備
- 回復期の病院を退院した後リハビリできる施設が少ない
- 市の書類は簡条書きにしてほしい
- 障害者手帳、自立支援医療の更新案内がほしい

■ 強度行動障害がある人の主な意見

- 理解者を増やすための広報があるといい
- 学校でも知的障害等の目に見えない障害を理解する機会がほしい
- 誰でも集えるようなコミュニティがほしい
- 販売会のような、普段関わる機会が少ない市民と交流できる機会があるといい
- 障害者の人だけではなく、その家族のハンデも解消されるような社会になってほしい
- 相談ができたり、サービスのことを教えてくれるところがあるといい
- 生活サポートサービスの利用時間が少ない
- 送迎サービスのみ利用場所がないこと
- 所得制限があるため、受けられないサービスがある事に疑問がある
- 重度障害者や行動障害がある障害者が入所できる施設が少ない
- 親亡き後への不安
- 施設への入所について、目が届かないところへ預けることや、昨今のニュースを見て安全面が不安
- 将来一人暮らしはできるのか不安なので、グループホームが妥当かもしれない
- 外出に際して付き添いが必須
- 生活介護や就労継続支援 B 型事業所を増やしてほしい
- 労働賃金をもう少し上げてもらいたい
- 道路、公園にあるトイレ等、多くの人を使いやすい環境を整えてほしい
- 病院からは断られてしまうことが多いため、かかりつけの病院を作るのが困難
- 障害者も災害避難訓練に参加しやすい体制
- 受給者証の更新などで申請する書類の内容が分かりづらい

■ 遷延性意識障害がある人の主な意見

- ・ 遷延性意識障害と診断されていない人でも困っている人の把握と支援を願う
- ・ 若いヘルパーがおらず身体介護に対応できない
- ・ 介護者が体調を崩したり、亡くなったりしたらどうすれば良いかわからない
- ・ バリアフリーが行き届いていない場所がある
- ・ 病院に受け入れ・枠を確保した災害時避難計画を検討してほしい

(7) 専門職に対する調査結果の概要

『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋

育み支援バーチャルセンター事業に関わる専門職（医師、公認心理師、臨床心理士、作業療法士等）の人に行った聞き取りの結果は以下のとおりです。

なお、育み支援バーチャルセンター事業とは、発達障害を含む、発達につまずきのある子どもたちの早期発見、早期支援ととぎれの無い総合的な支援を図ることを目的として平成21年4月より実施している事業です。

専門スタッフ（小児神経科医師、臨床心理士、作業療法士等）と地域スタッフ（各部署の保育士、保健師、教師等）とで、保育園、幼稚園、小中学校を巡回し、支援者（保育士、教師等）からの相談に応じる巡回相談や保護者等からの個別相談に応じる発達相談などを行っています。保健センター（健康づくり課）が事務局となり、障害福祉課・保育課・こども未来課・教育委員会と連携して取り組んでいます。

■ 障害福祉施策の課題に関する主な意見

- ・ 市内児童館・子育て支援センターでの相談事業の拡大、気軽に相談できる仕組みを作ること
- ・ 継続的に相談できる場があるとよい
- ・ これまでの事業を維持しつつ、近隣の機関（特に児童発達支援事業所や相談事業所）と連携をとりながら、役割分担をしていくことが望ましい
- ・ 発達の評価、見立て、支援を総合的に行える施設が少ない
- ・ 広報紙などだけでなく、他のWebサービスとの連携ができることよい
- ・ 子どもの成長の情報を把握している市が先頭に立って、障害児者支援への連携をとっていくことは非常に重要

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

基本理念

誰もがお互いに尊重し合い

地域で共に生きる社会の実現

第6次朝霞市障害者プランでは、基本理念に基づき、障害の有無や世代の違いなどにかかわらず、**誰もがお互いを尊重し合いながら、地域で共に生きる社会の実現**を目指します。

また、あらゆるライフステージにおいて、自分らしく、自分の意思で自立し、社会参加ができるよう、障害者総合支援法や児童福祉法の基本理念を踏まえ、障害福祉サービス等の実施など、さまざまな施策を推進します。

2 基本目標

〈朝霞市障害者プラン 基本目標〉

基本目標1

共生社会の実現を目指す

あらゆる機会や情報発信を通じて、障害に対する誤解や偏見等の社会的障壁を取り除く啓発活動を推進し、障害に対する理解を深め、障害のある人とない人が共に生きる共生社会を実現します。

基本目標2

地域生活を充実し、社会参加を支援する

住み慣れた地域での生活を充実させるため、日常生活や社会生活を支援するための各種サービス等の充実に努めるとともに、スポーツ、芸術・文化活動等へ参加できる機会の拡充と情報提供に努め、社会参加を促進します。

基本目標3

就労を支援する

障害のある人の雇用を促進するため、民間事業者に対し広く障害のある人の雇用を働きかけ、就労の場の確保に努めるとともに、就労移行支援事業等を活用し、一般雇用や福祉的就労を含めた安定した雇用の促進に努めます。

基本目標4

共に育ち、共に学ぶ療育・教育を推進する

障害の特性に応じた療育・教育を提供するとともに、障害のある児童とない児童が共に学び、交流する機会を通じて、障害のある人の精神的及び身体的な能力等を最大限に伸ばす療育・教育を推進します。

また、市民へのノーマライゼーション理念の普及を図り、障害及び障害のある人についての市民の理解を深めていきます。

基本目標5

安心・安全な暮らしをつくる

安心・安全な暮らしを実現するため、生活環境のバリアフリー化及びユニバーサルデザインを推進します。

保健・医療では、健診等により障害の早期発見体制の強化を図るとともに、障害の特性に応じた適切な医療サービスを提供できるよう医療機関との連携を強化します。

また、障害のある人を災害や犯罪、事故から守るため、地域の防災・防犯対策の強化を図るとともに、災害や犯罪を予防する基盤づくりを推進します。

<朝霞市障害福祉計画・朝霞市障害児福祉計画 基本目標>

基本目標 1

福祉施設入所者の地域生活への移行

福祉施設から地域生活への移行を支援するため、希望する福祉施設入所者に対し、地域生活のためのサービスを提供します。

基本目標 2

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて、保健・医療・福祉関係者が連携して取り組むとともに、精神保健医療福祉体制の基盤整備等を推進します。

基本目標 3

地域生活支援の充実

障害者の地域生活への移行の支援及び地域生活支援を充実させるため、地域生活支援拠点等を整備するとともに、その機能の充実を図ります。

基本目標 4

福祉施設から一般就労への移行等

福祉施設から一般就労への移行等を促進するため、就労の場の掘り起こしや関係機関のネットワークを強化充実し、就労移行支援等を推進し、障害のある人の福祉施設から一般就労への移行を促進します。

基本目標 5

障害児支援の提供体制の整備等

障害のある児童等のライフステージに沿って地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目の無い一貫した支援を提供する体制を整備します。

基本目標 6

発達障害者等に対する支援

発達障害者等の早期発見・早期支援には、発達障害者等及びその家族等への支援が重要であることから、保護者等が子どもの発達障害の特性を理解し、必要な知識や方法を身につけ、適切な対応ができるよう支援体制を確保します。

基本目標 7

相談支援体制の充実・強化のための取組

相談支援体制の充実・強化の取組の中核となる基幹相談支援センターの設置が進む中、地域の相談支援体制の強化を図る体制を確保します。

基本目標 8

障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築

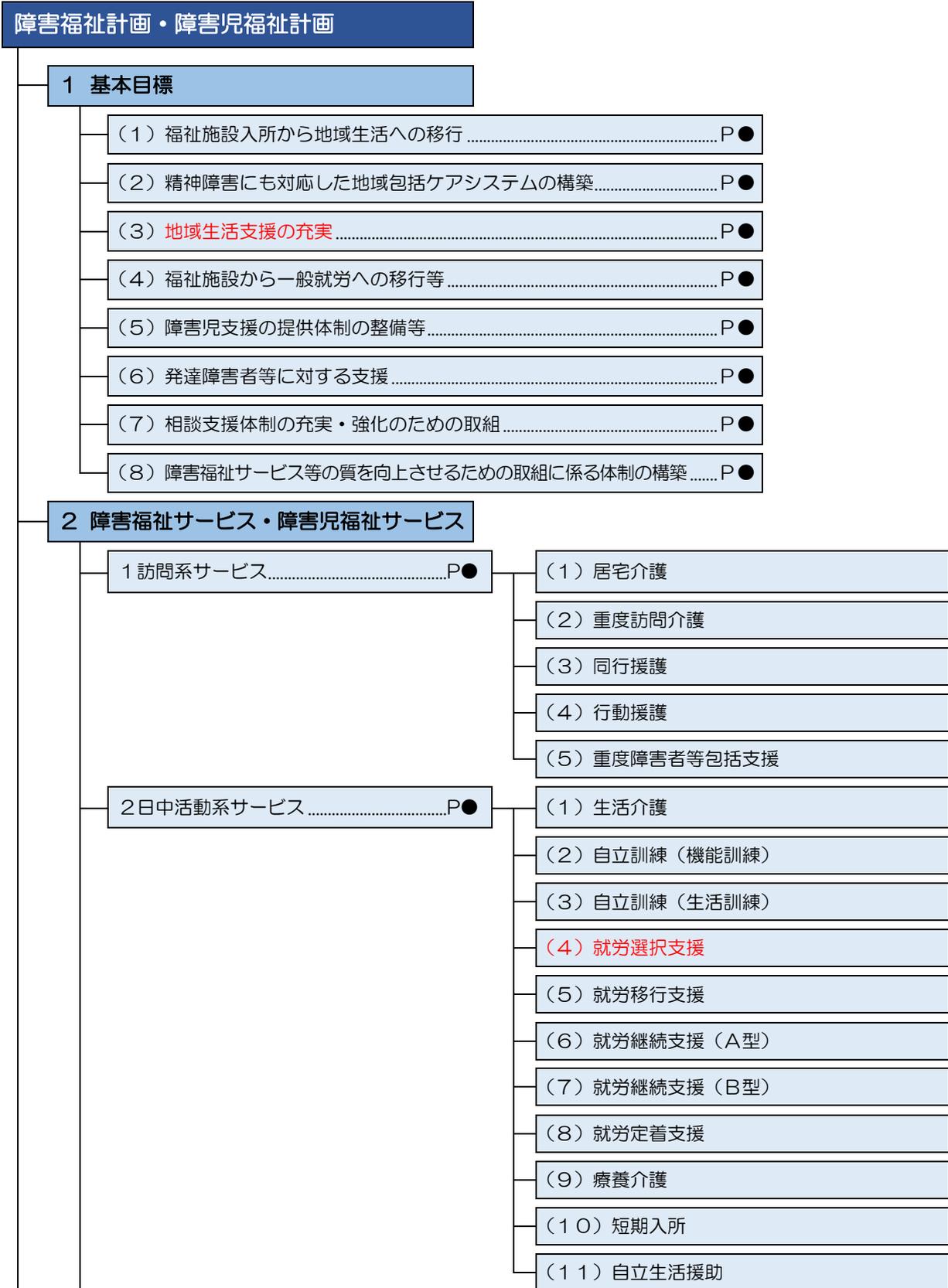
障害福祉サービス等が多様化するとともに、多くの事業者が参入している中、利用者が真に必要とする障害福祉サービス等が提供できるよう、障害福祉サービス等の質を向上させるための取組を実施する体制を構築します。

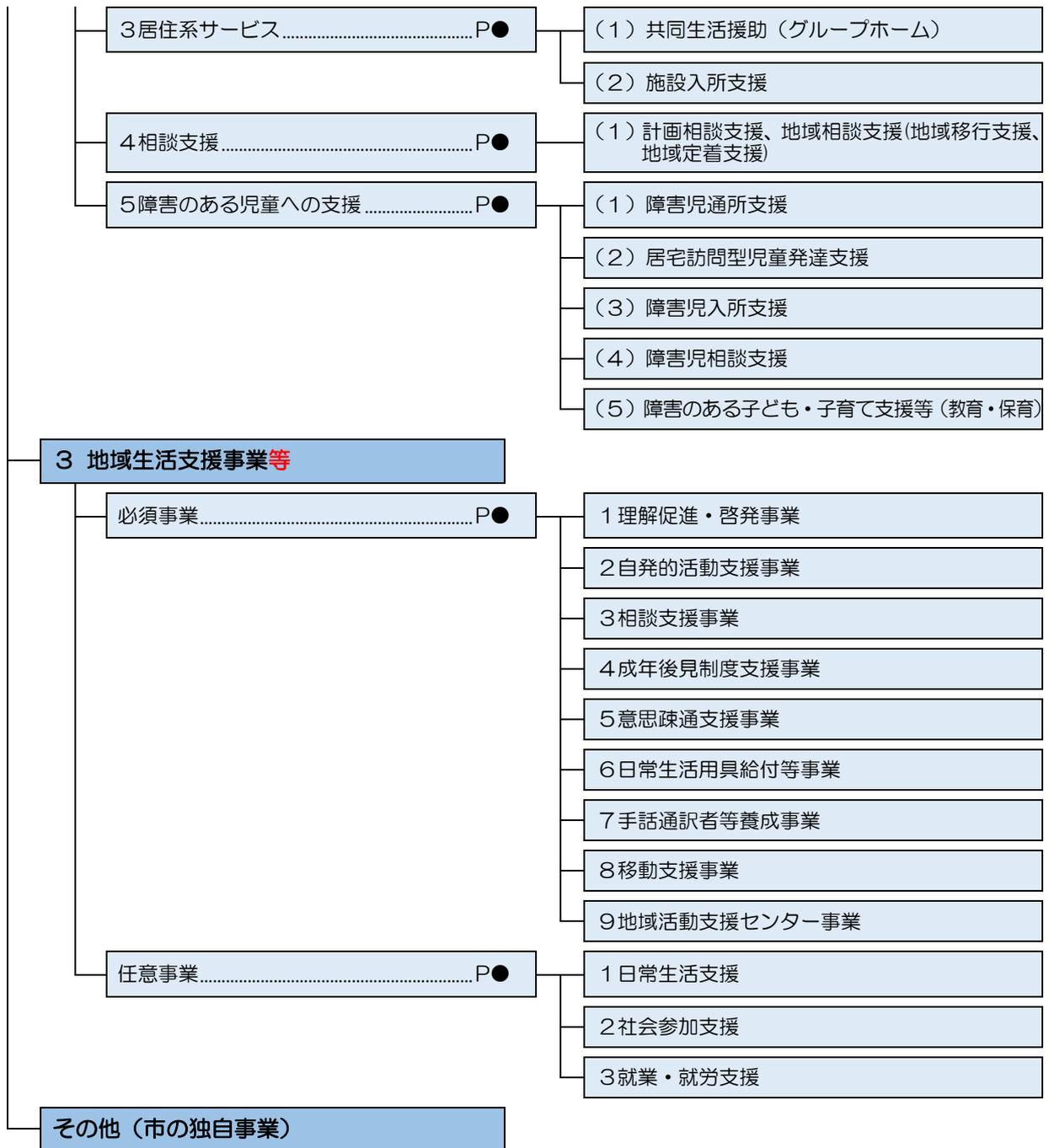
3 施策体系

<障害者プランの施策体系>

※施策整理後に作成予定

<障害福祉計画・障害児福祉計画の施策体系>





第4章 計画の推進体制

1 計画の推進体制

(1) 計画の周知

本計画の周知については、障害に関する正しい知識や理解を広める必要があることから、関係機関や障害者支援にかかわる人々と連携し、誰もがお互いを尊重し合いながら、地域で共に生きる社会の実現のために、広報紙やホームページへの掲載を行います。

また、理解促進研修の講演会等やスポーツ・レクリエーション等の各種イベントの際に計画の概要版を配布する等により、情報発信や周知を図ります。

(2) 推進体制の確立

障害者施策は、福祉や保健・医療などの分野だけでなく、住宅、交通、まちづくりといった生活環境全般の幅広い範囲に及ぶため、それぞれの障害のある人の障害や程度、ライフステージに応じたきめ細かな対応が必要となります。

このため、関係団体や市民が参加する推進組織である朝霞市障害者プラン推進委員会において計画の推進を図ります。

(3) 広域連携等

障害者施策は、対象者数や専門的な取組の必要性などから広域で行っている事業もあり、市民も他市に立地する施設を利用していることもあります。

このため、広域的な視点で取り組まなければならないことも多いことから、国や県、近隣市と連携していく必要があります。

都道府県が実施する障害福祉サービス等に係る研修や障害者自立支援審査支払等システム等を活用した事業所や関係自治体等との情報共有体制など、市単独では実施が困難な施策については、積極的に連携を図りつつ、サービスの充実に努めます。

(4) 市民等との協働

各障害施策を効果的に実施していく上で、市民の協力はもとより、市と関係機関（福祉施設、医療機関、教育機関、保健所、社会福祉協議会、ボランティア団体、障害者関係団体、事業者など）との協力体制は不可欠です。

ピアカウンセリングの支援や、スポーツ・レクリエーションに係るイベントの開催など、障害のある人の社会参加の充実を図り、地域社会と関係機関との連携を強化するとともに、障害者施策の推進に向けて障害のある人を含め、市民の主体的な参画を促進します。

(5) 計画の達成状況の点検と評価の実施方法

達成状況の点検については、サービスの見込量と実際の利用量を踏まえながら、朝霞市障害者プラン推進委員会において、課題・方向性及び方策など障害福祉施策も合わせて点検・評価を行うとともに、その進行管理と調整を行います。

また、朝霞市障害者自立支援協議会にも進行管理状況を報告し、その意見等を踏まえながら、適切な見直しを行い、PDCAサイクルにより、必要があると認めるときは、本計画の変更や見直しを行います。

第2部

第6次朝霞市障害者プラン

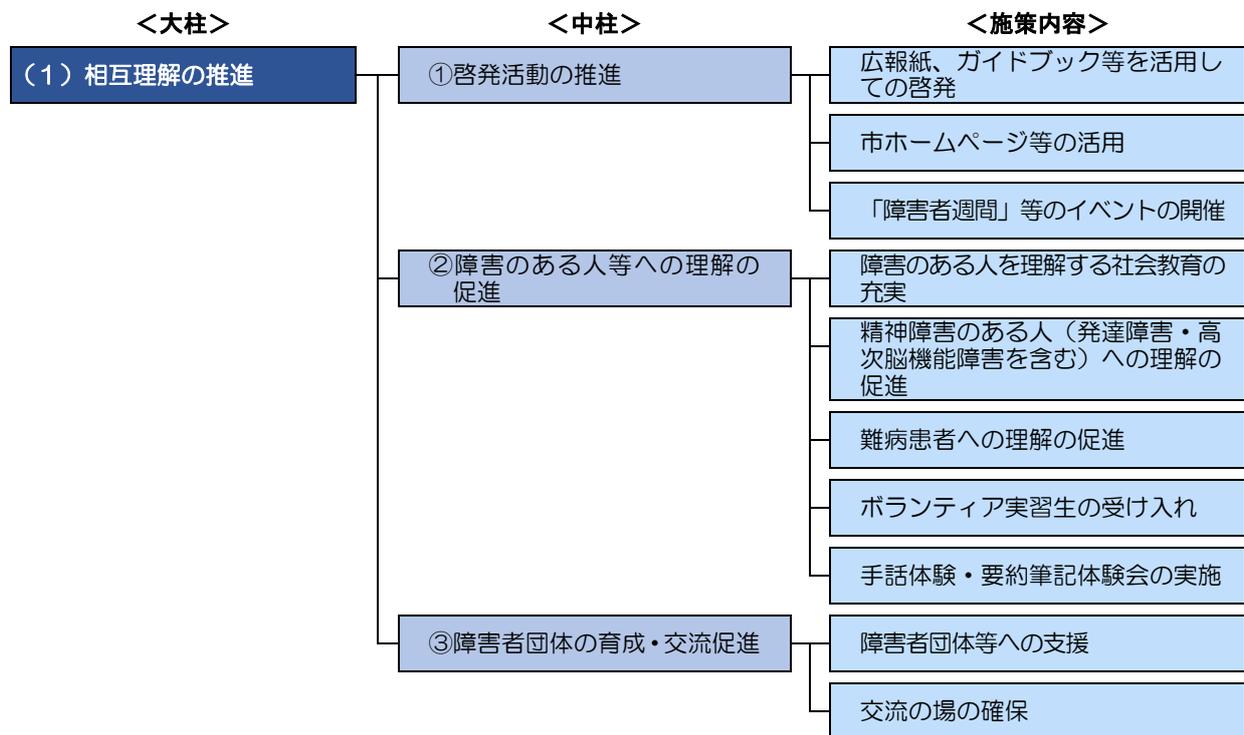
アンケート結果は、『第6次朝霞市障害者プラン等策定に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書』から抜粋

第1章 共生社会の実現を目指す

＜基本目標＞

あらゆる機会や情報発信を通じて、障害に対する誤解や偏見等の社会的障壁を取り除く啓発活動を推進し、障害に対する理解を深め、障害のある人とない人が共に生きる共生社会を実現します。

(1) 相互理解の推進



①啓発活動の推進

障害のある人もない人も共に生活し活動できる社会を目指す「共生社会の実現（ノーマライゼーション）」のためには、日常生活や社会生活を営む上で制約となっている障害のある人のおかれた環境を十分に理解し、差別や偏見といった「こころ」の中にある障壁（バリア）を取りはらう「こころのバリアフリー」を推進します。

共生社会の実現のため、障害のある人に対する心の障壁（バリア）を取り除くため、広報紙やガイドブックの作成、配布などを通じて啓発活動を行います。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人・児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「障害のある人への理解を進めるための教育や広報活動の充実」

…障害のある人：57.6% 障害のある児童：67.6%

約5割の方が啓発活動を重要な施策として捉えている傾向があります。

Q. 情報の入手先（障害のある人）

・市役所の広報紙…41.9%

Q. 情報の入手先（障害のある児童）

・インターネット…37.9%

情報の入手先として広報紙やインターネットの比率が高い傾向があります。

■広報紙、ガイドブック等を活用しての啓発

「広報あさか」などの広報紙の発行を通じて、最新の福祉情報をはじめとする各種情報の提供、障害のある人が地域で活動する記事の掲載などによる啓発・広報活動により、障害のある人への理解の促進を図ります。

■市ホームページ等の活用

インターネットは情報の入手手段のひとつとして重要な役割を担っていることから、情報提供手段として市ホームページやSNS、メール配信サービスの活用を図ります。また、視覚障害のある人への対応として、情報へのアクセシビリティの向上に努めます。

■「障害者週間」等のイベントの開催

障害のある人への理解を深めるため、障害者週間をはじめとして、市内で開催される各種イベントなどを通じて啓発事業を推進します。

その一環として、市役所や市関連施設において、障害のある人が作成した作品を展示販売する場の提供など、障害のある人の活動への積極的な支援を行います。

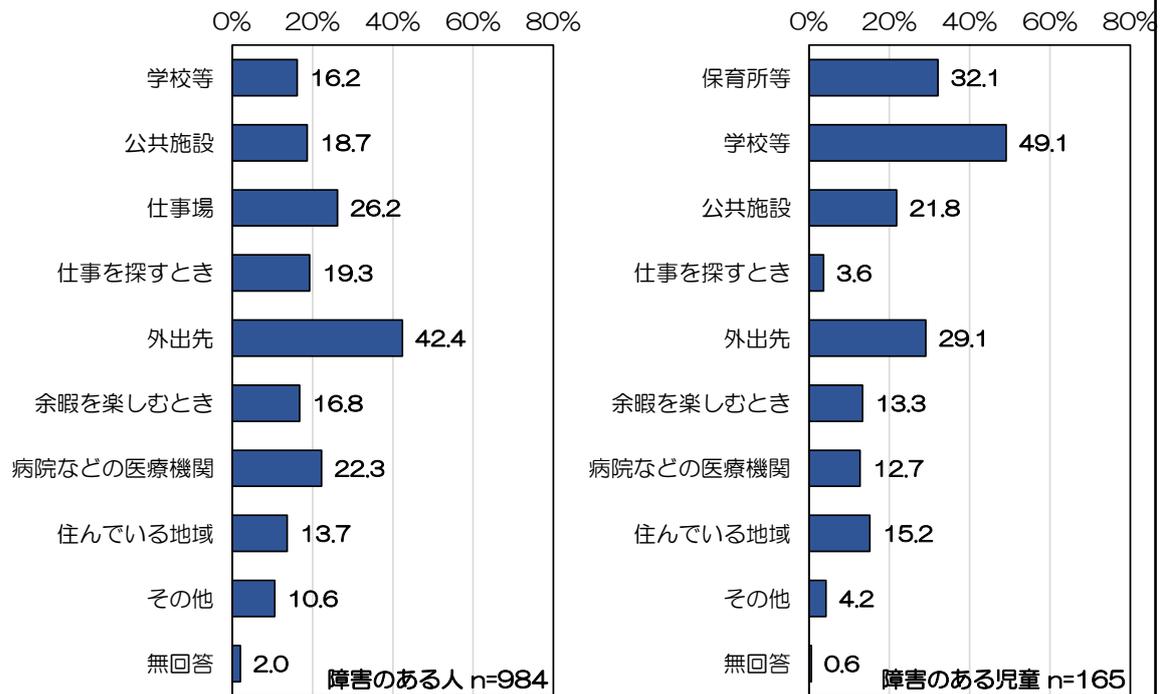
②障害のある人等への理解の促進

共生社会の実現のためには、それぞれの障害に対する正しい知識や理解を広め、誤解や偏見を取り除くことが重要です。

講演会の実施や、ボランティア活動等を通じて、障害のある人等への理解を促進します。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 差別や嫌な思いをした場所について（障害のある人・児童）



「外出先」の割合が最も高く、次いで「仕事場」となっています。障害のある児童では、「学校等」の割合が高くなっています。

■障害のある人を理解する社会教育の充実

障害や障害のある人に対する市民の理解を深めるために、障害福祉に関する講座や講演会の開催などを積極的に支援します。

■精神障害のある人(発達障害・高次脳機能障害を含む)への理解の促進

発達障害・高次脳機能障害を含む精神障害は、周りから見てもわかりにくいいため、十分な理解を得にくい現状があります。精神疾患は誰でも発症する可能性のある病気であり、病気の結果生じた社会生活や日常生活のしづらさ、生きづらさがあることを理解し対応できるよう、啓発を図ります。

■難病患者への理解の促進

難病患者の方については、外見からは症状がはっきりわからないケースもあり、病気に対する周囲の理解が得られないことも多くあります。
また、特有の症状があり、特別の生活用具を必要とする人もいます。このような難病患者の置かれた状況に対する市民の理解を広めるための周知に努めます。

■ボランティア・実習生の受け入れ ※

誰もが暮らしやすい地域づくりには、世代を問わず福祉への関心と参加が必要なことから、地域福祉の担い手の育成及び活動支援のため、ボランティアや実習生の受け入れを行います。また、児童館等においては子どもボランティア事業を実施し、福祉やボランティアに関わるきっかけ作りに取り組んでいきます。

■手話体験・要約筆記体験会の実施 ※

聴覚障害に対する理解を深め、手話や要約筆記の普及を図ることを目的に、初歩的な手話や要約筆記を学ぶ場としての体験会を実施します。

※朝霞市社会福祉協議会で推進する第4期朝霞市地域福祉活動計画から引用しております。評価は朝霞市地域福祉計画推進委員会で行います。

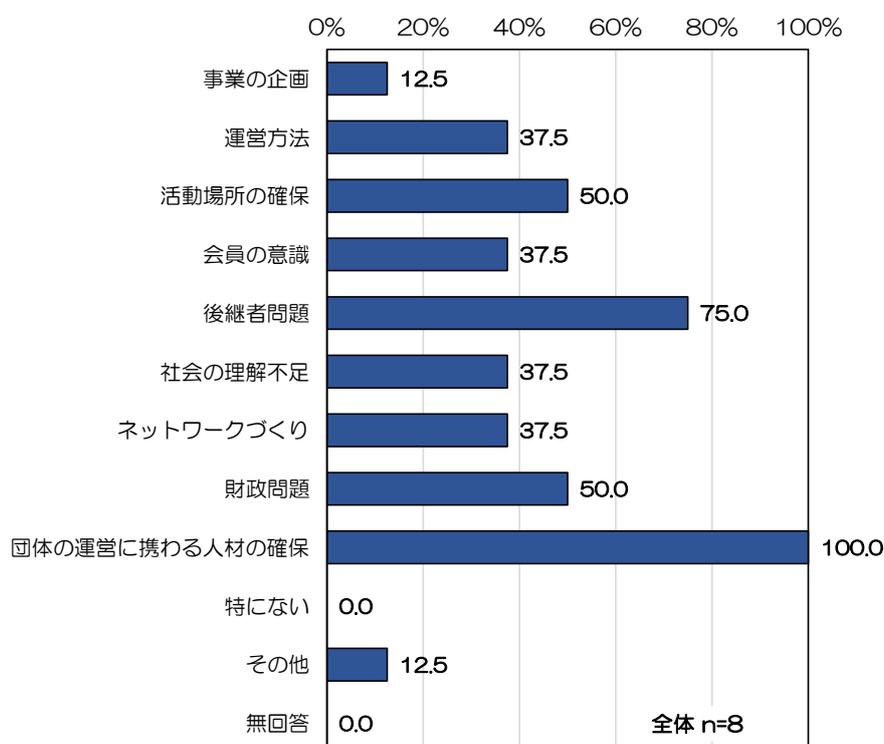
③ 障害者団体の育成・交流促進

障害のある人やその家族に対する一般市民の理解はまだ十分なものではなく、日常生活や社会参加をする上で、大きなハンディキャップが存在しており、お互いの理解を深めるためには、障害者団体の活動を通じて、障害のある人とない人の相互交流が求められています。

このため、障害のある人やその家族、障害者団体の活動に対する支援を充実するとともに、団体の組織化や団体間の交流活動を促進します。また、障害者団体の育成やネットワークづくりを通じて、障害のある人や家族が外出しやすい環境づくりを進めます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 活動する上で困っていること（団体）



全ての団体が「人材の確保」の課題を抱えていると回答しています。

■障害者団体等への支援

障害のある人の社会参加を促進するため、団体の育成や障害福祉の向上を目指した活動や地域福祉活動等の事業に対して補助金を交付し、障害者団体に対する支援を行います。

また、障害者団体による活動への支援や助言を行うとともに、団体間の連携強化、ネットワークづくりを促進します。

■交流の場の確保

障害のある人となない人との相互の交流を促進するため、総合福祉センターの交流スペース、その他公共施設の利用を促進します。

また、市や関係機関が開催する各種イベントへの障害者団体の参加促進などにより、障害のある人となない人が広く交流できる場の確保に努めます。

(2) 差別解消の推進

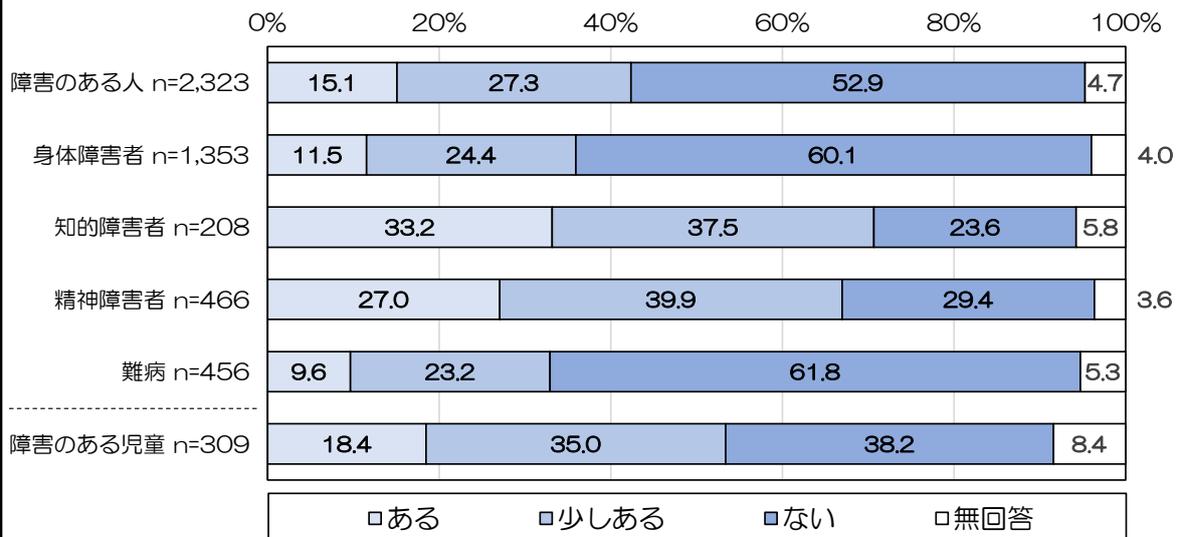


① 差別解消の推進

令和6年(2024)年4月に施行された改正障害者差別解消法に基づき、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、行政サービス等における合理的配慮に努め、障害を理由とする差別の解消の推進に取り組みます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 障害があることで差別や嫌な思いをする(した)ことの有無(障害ある人・児童)



知的障害のある人、精神障害のある人、障害のある児童において、「ある」「少しある」の割合が他の障害種別と比べて高い傾向がみられます。

■ 人権問題講演会等の実施

差別のない明るい社会の実現を目指し、人権問題についての理解を広めるため、市民を対象とした講演会や講座を開催します。

■差別解消に関する研修の実施

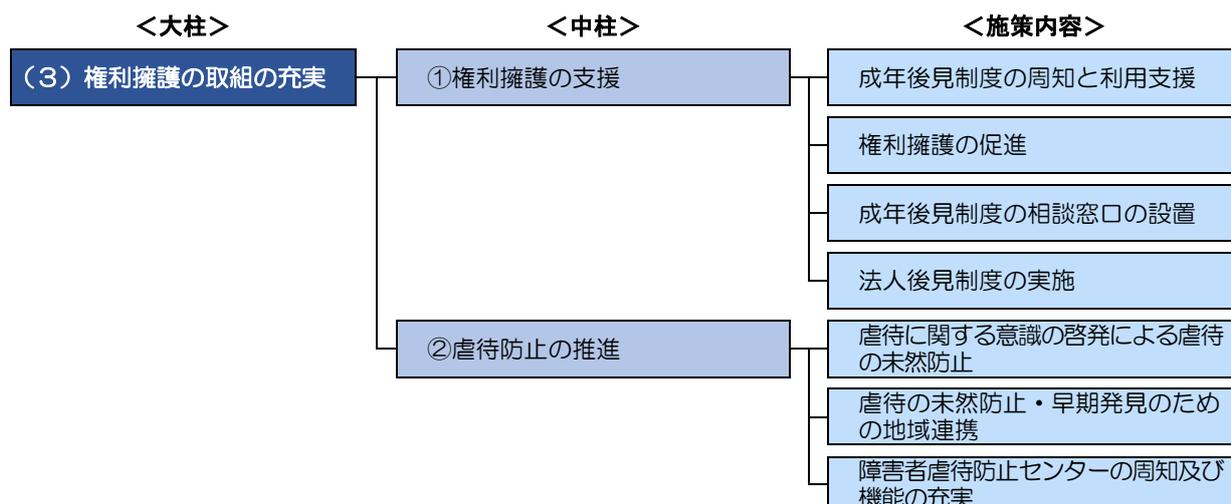
障害者差別解消法に基づき、障害を理由とした差別の解消を推進することを目的として、不当な差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供のため、市職員等に対し研修を実施します。

また、県や近隣市と連携して事業者に向けた研修を実施し、障害者差別解消法の啓発に努めます。

■相談、通報体制の充実【新規】

相談窓口の周知を行うとともに、障害者の立場に寄り添った相談支援を行います。

(3) 権利擁護の取組の充実



①権利擁護の支援

自分自身で選択や責任ある決定をすることが困難な人のために、本人の人権や利益などを擁護する役割を担う家族や支援者などが、本人の意思を理解した上で代弁、代行できる体制を整備するとともに、安心して地域で生活できるように権利擁護や、成年後見制度等の活用を支援します。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 成年後見制度の認知度（障害ある人・児童）

「名前も内容も知っている」と回答した割合

- ・身体障害のある人…38.7%
- ・知的障害のある人…39.4%
- ・精神障害のある人…29.4%
- ・難病患者…46.3%
- ・障害のある児童…23.3%

Q. 成年後見制度の利用状況（障害ある人・児童） その①

「利用している」と回答した割合

- ・身体障害のある人…1.6%
- ・知的障害のある人…11.1%
- ・精神障害のある人…2.8%
- ・難病患者…0.0%
- ・障害のある児童…0.3%

Q. 成年後見制度の利用状況（障害ある人・児童） その②

「現在は利用していないが、今後利用したい」と回答した割合（全体結果：31.8%）

- ・身体障害のある人…20.8%
- ・知的障害のある人…51.9%
- ・精神障害のある人…33.0%
- ・難病患者…21.5%
- ・障害のある児童…39.2%

成年後見制度の認知度はある程度普及が進んでいる傾向がみられる一方、知らないも約6割残っている状況です。

実際に利用している方は少ない傾向がみられます。また、今後の利用意向では知的障害のある人、精神障害のある人及び障害のある児童において利用したい割合が高くなっています。

■成年後見制度の周知と利用支援

障害のある人の権利擁護や権利行使の援助などを支援するため、国や県と連携し、成年後見制度の普及と利用促進を図ります。

また、低所得者などを対象に成年後見人の報酬の一部を支援する成年後見制度利用支援事業の推進に努めます。

■権利擁護の促進

市においては、障害のある人の生活設計や生活上の諸問題についての相談などを充実し、親亡き後の不安解消や権利が守られるよう、弁護士など専門家との連携を図るとともに、社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会が設置している権利擁護センターの利用を促進します。

■成年後見制度の相談窓口の設置【新規】

成年後見制度に関する相談窓口として成年後見センターを設置します。

■法人後見制度の実施【新規】

朝霞市社会福祉協議会と連携し、法人後見制度の実施に向けて検討を進めます。

②虐待防止の推進

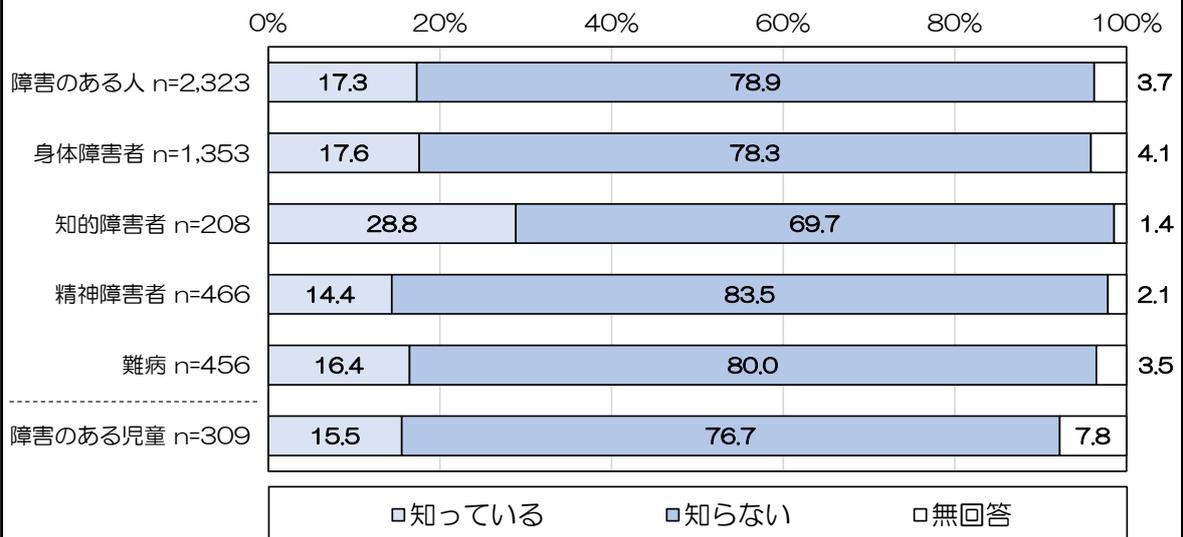
虐待を受けた障害のある人を守るため、平成24（2012）年10月に「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」が施行されました。

障害のある人に対しての虐待が社会的問題となっている中、虐待が起こる場所は、密室での閉鎖的な環境が多いため、発見することが難しいといわれています。

より一層、関係機関や地域住民のネットワーク体制の充実を図り、虐待に対する啓発や情報提供を行い、虐待の早期発見、相談、養護者に対する支援などに努めるとともに、虐待被害を受けた障害のある人等の保護やその後の心理的サポート、養護者へのサポートを行います。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 障害者虐待防止センターの認知度（障害ある人・児童）



障害者虐待防止センターの認知度は約2割程度と、約8割は知らないという結果でした。なお、知的障害のある人において、「知っている」の割合が他の障害種別と比べて高い傾向がみられます。

■虐待に関する意識の啓発による虐待の未然防止

家庭や教育機関、就業先での虐待防止のために、障害のある人への虐待に関する情報提供を通じた啓発により、虐待の未然防止に努めます。

■虐待の未然防止・早期発見のための地域連携

障害のある子どもを含め、障害のある人への虐待の未然防止に向けた相談体制の充実を図るとともに、早期発見に向けて地域関係者との連携づくりに努めます。

■障害者虐待防止センターの周知及び機能の充実

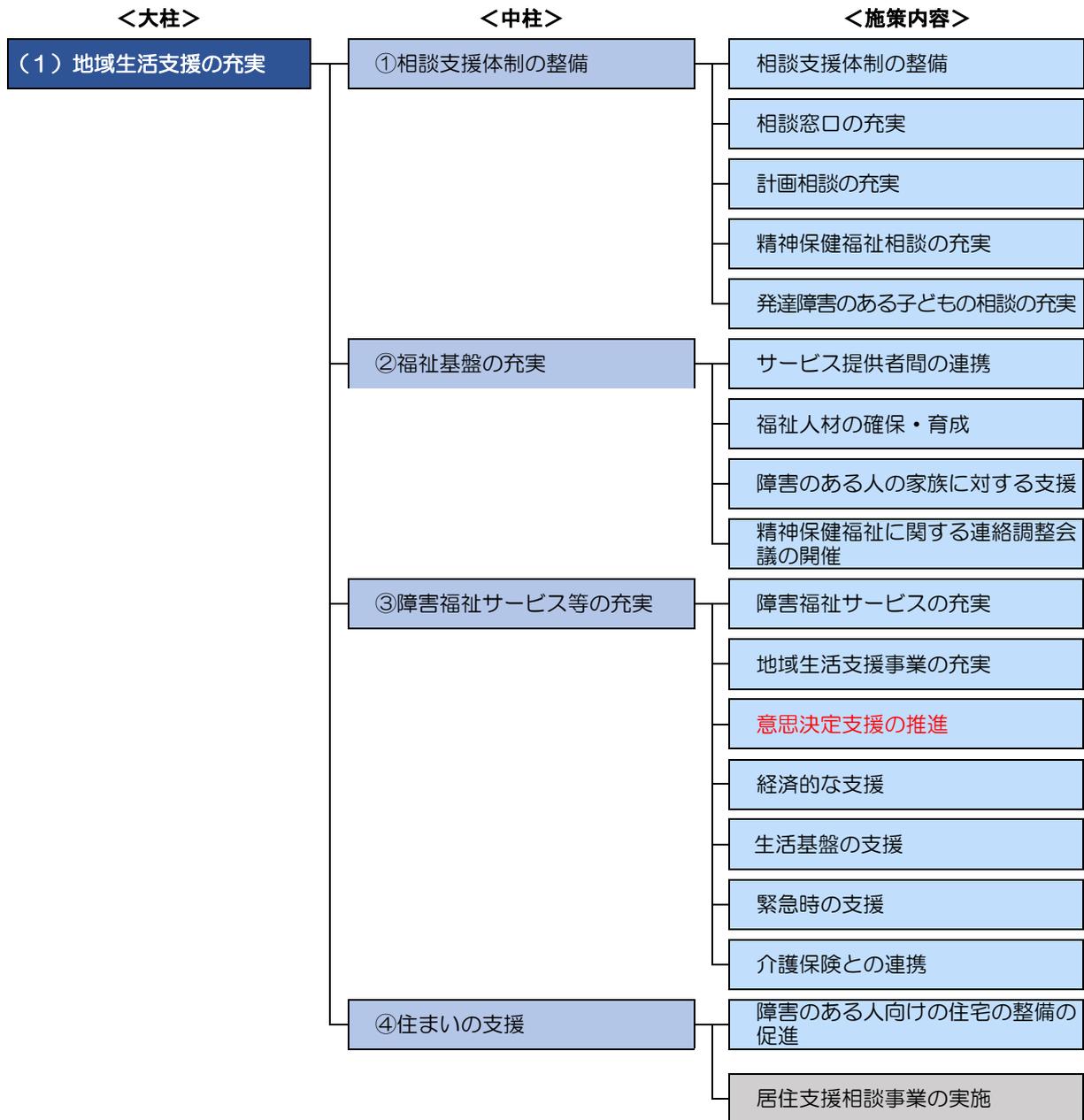
障害者虐待防止センターの認知度を高めるために市ホームページやSNS、チラシ作成など周知に力を入れるとともに、障害のある人への虐待を防止するため、家族、事業者、教育関係者などの抱える問題や課題の解決に向けた相談体制の構築に努め、虐待の防止及び対応に対する機能の充実を図ります。

第2章 地域生活を充実し、社会参加を支援する

<基本目標>

住み慣れた地域での生活を充実させるため、日常生活や社会生活を支援するための各種サービス等の充実に努めるとともに、スポーツ、芸術・文化活動等へ参加できる機会の拡充と情報提供に努め、社会参加を促進します。

(1) 地域生活支援の充実



①相談支援体制の整備

障害にかかわる相談は、児童から大人までと幅広く、それぞれが抱える悩みや戸惑いは多様化しており、ライフステージの節目においても異なるため、相談支援体制の整備及び充実を図るとともに、障害が生じたときの本人や家族の不安などの解消に向けて、総合的な相談体制の確立を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害ある人・児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「障害者福祉に関する相談窓口の一本化や相談機能の充実」

…障害のある人：55.8% 障害のある児童：65.7%

5割以上の方が相談機能の充実を重要な施策として捉えている傾向があります。

■相談支援体制の整備

相談支援員の増員を図るほか、基幹相談支援センターを設置し、相談支援事業者への専門的な指導、助言、人材育成の充実を図ります。

また、相談支援ネットワークの形成を図り、相談者一人一人の状況に応じた相談支援を行うようにします。

■相談窓口の充実

民生委員児童委員が行う相談活動をはじめとして、行政相談や法律相談、人権相談、DV相談、女性総合相談、消費生活相談など、身近な相談体制の充実を図ります。

また、相談内容の多様化に対応するため、重層的支援体制の整備を検討します。

■計画相談の充実

障害児・者及びその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言等を行い、障害児・者の自立した生活を支えます。また、課題の解決や適切なサービス利用に向けて、基幹相談支援センターの設置により、相談支援事業所のスキルアップを図ることで、きめ細かいサービス等利用計画の作成を促進します。

■精神保健福祉相談の充実

精神科医、精神保健福祉士などによる精神障害のある人の専門相談の充実を図るとともに、地域生活における医療・生活面に係る支援体制の整備に努めます。

■発達障害のある子どもの相談の充実

児童発達支援センターの機能強化により地域における障害児支援の質の向上、インクルージョンの推進を図ります。

また、育み支援バーチャルセンター事業として、小児神経科医、臨床心理士などの協力を得て、発達障害のある子どもの専門相談の充実を図るとともに、保育園、幼稚園、小・中学校等への巡回相談を実施するなど、関係機関との連携を強化して、支援を充実します。

さらに、子ども相談室において「発達に関する相談」を実施します。子どもの実態を踏まえながら必要に応じて発達検査も実施し、相談体制の充実を図ります。

②福祉基盤の充実

障害のある人が適切な福祉サービスが受けられるよう、サービス提供事業者間の連携を強化するとともに、福祉人材の確保に努め、サービス全体の質の向上を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 関係機関との連携状況（事業所）

十分に連携が取れているとまあま連携は取れているを合わせた割合

- ・障害福祉サービス事業所：63.0%
- ・相談支援事業所：87.0%

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人・児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「福祉分野の専門的な人材の確保・養成」

…障害のある人：54.9% 障害のある児童：71.2%

Q. 障害福祉施策の課題（専門職）

- ・近隣の機関（特に児童発達支援事業所や相談事業所）と連携をとりながら、役割分担をしていくことが望ましい
- ・発達の評価、見立て、支援を総合的に行える施設が少ない

事業所間においてある程度の連携は図れているものの、より一層の連携強化が求められております。

また、専門的な人材や総合的な支援ができる事業所の充実が求められております。

■ サービス提供者間の連携

適切なサービス提供ができるよう、サービス提供者間の連携を密にします。
また、自立支援協議会の活性化により、事業者間の交流を促し、連携強化を図りやすくなるようにします。

■ 福祉人材の確保・育成

障害福祉サービス充実のため、保健師や社会福祉士など専門知識や資格を有する人材の確保に努めるとともに、障害福祉サービス事業者などを通じて、人材の確保・育成を図ります。

また、障害や病気の経験があり、利用者と同じ目線に立って相談・助言等を行うピアサポーターの確保・育成も図ります。

■ 障害のある人の家族に対する支援

障害のある人のいる家庭では、介助者の高齢化や18歳未満の子どもが介護を担っているヤングケアラーの問題など、介護の状況が複合化・複雑化しています。

そこで、福祉サービスの提供に加えて、NPO法人やボランティアによる障害のある人を支える家族に対する支援の充実を図り、障害のある人に対する虐待の防止に努めるとともに、障害のある人の家庭の生活環境の向上を図ります。

また、障害のある人の家族会などの活動支援の充実や日常の子育ての困りごとを解消し、子どもの発達促進や行動改善を目的とした保護者向けの心理教育「ペアレントトレーニング」の普及を図ります。

■ 精神保健福祉に関する連絡調整会議の開催

精神障害のある人が地域の中で安心して暮らせる地域づくりを目指し、保健と福祉の連絡調整を図るため、会議を開催します。

③障害福祉サービス等の充実

障害のある人が住み慣れた地域で、安心してゆとりある生活を送るためには、一人一人のニーズにあったサービス提供が求められていることから、訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービス、障害のある児童に対するサービスの確保及び適切な提供を行うとともに、地域生活支援事業など各種サービスの充実に努めます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 障害福祉サービスの今後の利用意向（障害のある人）

「現在利用しており、今後も利用したい」と「現在利用していないが、3年以内には利用したい」を合わせた割合 上位6項目

- ・居宅介護（ホームヘルプ） 17.8%
- ・生活介護 15.2%
- ・計画相談支援 13.6%
- ・短期入所（ショートステイ） 13.5%
- ・施設入所支援 11.9%
- ・自立訓練（機能訓練） 11.9%

Q. 障害福祉サービスの今後の利用意向（障害のある児童）

「現在利用しており、今後も利用したい」と「現在利用していないが、3年以内には利用したい」を合わせた割合 上位5項目

- ・放課後等デイサービス 65.4%
- ・障害児相談支援（計画相談支援） 52.5%
- ・児童発達支援 43.0%
- ・保育所等訪問支援 23.7%
- ・行動援護 10.3%

障害のある人の全体での傾向と障害のある児童での傾向は異なり、障害のある児童では各種サービスに対する利用意向が高い傾向がみられます。

■障害福祉サービスの充実

障害者総合支援法等による総合的な自立支援システムづくりを推進し、各種障害福祉サービス等の充実を図ります。

また、事業者からの開設相談の機会をとらえ、市の課題や障害福祉計画に基づく助言を行います。

■地域生活支援事業の充実

障害者総合支援法では、市町村が地域で生活する障害のある人のニーズを踏まえ、地域の実情に応じて柔軟に実施する事業として、地域生活支援事業を位置付けています。「親亡き後」に備えるとともに、地域で生活する障害のある人の自立した日常生活や社会生活の充実を図ります。

■意思決定支援の推進【新規】

サービスの提供にあたっては、本人の意思が反映された生活を送ることができるよう、厚生労働省のガイドラインに基づき、意思決定支援の適切な実施を推進します。

■経済的な支援

障害のある人やその家族に対し、日常生活支援、社会参加支援サービスの提供のほか、各種手当などの支給により経済的な支援を行います。

■生活基盤の支援

地域での生活の基盤となる地域活動支援センターや生活ホームへの運営支援、グループホームの入所者に係る支援として、家賃の一部を補助する特定障害者特別給付費の支給を行います。

■緊急時の支援

災害などの緊急時に援護を必要とする人への迅速な支援を図るため、避難行動要支援者台帳への登録、普及促進に努めます。

また、アプリを使用した「ネット119」、や「FAX119」などの普及を図るとともに、手話通訳者の緊急時派遣の実施などにより、緊急時の支援体制の充実を図ります。

■介護保険との連携

脳梗塞などの後遺症である高次脳機能障害は精神障害ですが、認知度が低く、身体面を重要視し、介護保険サービスは利用するものの障害の認識がない例もあることなどから、若年性認知症などについても介護保険サービスと障害福祉サービスとの総合的な支援において、ケースワーカー、相談支援専門員やケアマネジャーなどとの連携によるマネジメントを図ります。

④住まいの支援

住宅は地域生活の基盤であり、障害のある人が住み慣れた住宅で快適に住み続けられるように、住まいの確保に対する支援を行うとともに、段差の解消や手すりの設置など、障害のある人が暮らしやすい住宅の整備、建設を促進するための相談窓口や融資・助成制度の充実など、住まいに係る支援を行います。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人・児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「障害のある人のための住まいの確保・供給」

…障害のある人：55.6% 障害のある児童：61.2%

5割以上の方が障害のある人のための住まいの確保・供給を重要な施策として捉えている傾向があります。

■障害のある人向けの住宅の整備の促進

障害のある人が共同して生活できる場や障害のある人が自立して生活できる場としての住宅の確保が求められています。

住宅の改修に対する理解の促進を図り、障害のある人に配慮した構造や仕様への改修を促進するとともに、ユニバーサルデザインの考えの普及を図ります。

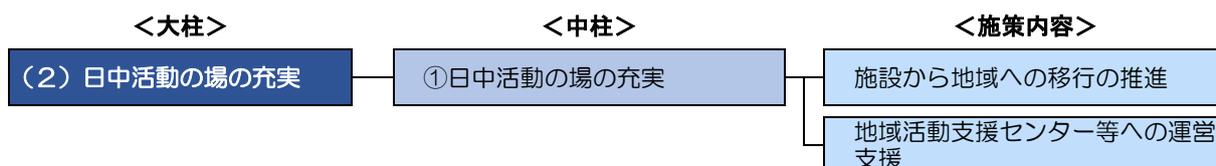
また、住宅改修を促進するため、重度障害者住宅改善費補助や個人住宅リフォーム資金補助金等の経済的支援の活用を促進します。

■居住支援相談事業の実施【新規】

住宅確保要配慮者（低額所得者・被災者・高齢者・障害者・子供を養育する者・その他住宅の確保に特に配慮を要する者）に対し、社会福祉士による居住支援相談を実施します。

相談内容に応じて、庁内の関係部署や不動産事業者関連団体等につなぎ、住まい探しや入居後の生活支援等を行います。

(2) 日中活動の場の充実



①日中活動の場の充実

障害のある人の活動を支援する日中活動系サービスや地域生活支援事業の充実を図り、地域生活への移行を推進し、日中活動の場の確保に努めます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 日中の過ごし方（障害のある人）

「自宅にすることが多い」 45.9%

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「働く場の確保」 54.0%

「参加しやすい余暇活動の援助や施設の整備」 45.4%

「障害のある人とない人が交流する場の充実」 40.8%

障害のある人の日中活動の場の充実は、就労、余暇活動、交流の場と幅広く求められています。

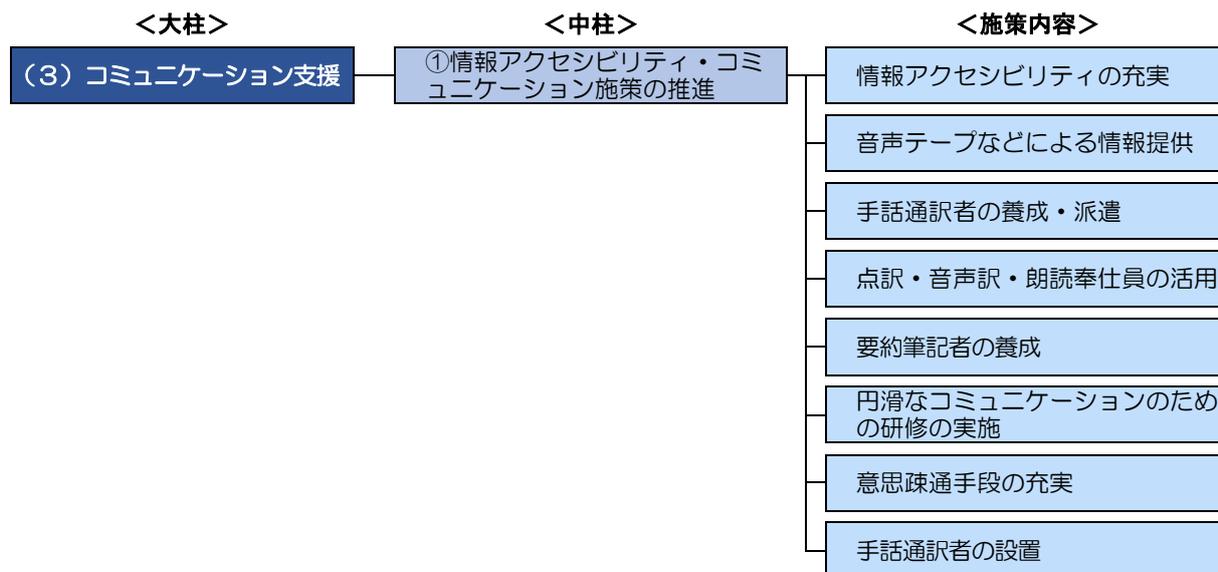
■施設から地域への移行の推進

地域生活支援拠点事業の充実により、障害のある人本人の意向を反映した地域生活への移行を支援します。

■地域活動支援センター等への運営支援

障害のある人の社会参加を促進するため、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等を図るとともに、就労機会の拡大に努める地域活動支援センターなどの運営を支援します。

(3) コミュニケーション支援



①情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策の推進

朝霞市では、平成28（2016）年4月に、朝霞市日本手話言語条例を制定し、障害のある人のコミュニケーションを手助けする手話通訳者や要約筆記者の養成、点訳・朗読奉仕員の活用、福祉機器の利用などによるコミュニケーション手段の確保に努めています。

令和4年5月に、障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律（障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法）が施行されました。

全ての障害者が、あらゆる分野の活動に参加するためには、情報の十分な取得利用・円滑な意思疎通が極めて重要であるため、法の趣旨を踏まえ各種施策の充実を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「生活している地域にかかわらず等しく情報を得ることができる」50.5%

「障害のあるなしにかかわらず、同じ情報を同じタイミングで取得できる」

.....49.4%

約5割の方が情報へのアクセシビリティについて重要な施策として捉えている傾向があります。

Q. 情報の入手先（障害のある人）上位3位

- ・市役所の広報紙
- ・本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース
- ・家族や親せき、友人・知人

Q. 情報の入手先（障害のある児童）上位3位

- ・家族や親せき、友人・知人
- ・インターネット
- ・サービス事業所の人や施設職員

Q. 障害福祉施策の課題（専門職）

- ・広報紙などだけでなく、他のWebサービスとの連携ができることよい

障害のある人と障害のある児童では、情報の入手先が異なる傾向がみられる部分もあるため、必要な人に必要な情報が届くよう、あらゆる情報発信媒体を活用した情報提供の充実が求められています。

■情報アクセシビリティの充実

利用者の立場に立ったわかりやすい「広報紙」や「障害福祉ガイドブック」、「ホームページ」などを充実し、相談窓口や障害福祉サービス等の幅広い福祉情報の提供に努め、利用促進を図ります。なお、利用する側に立った効果的な提供方法についても検討します。

また、災害時においても障害のある人に情報が伝達できるよう情報のバリアフリー化を進めます。

■音声テープなどによる情報提供

視覚障害のある人に対し情報提供方法の周知を図り、広報あさかの音声テープ、デイジー（デジタル録音図書）形式のCDなどによる情報提供を推進します。

■手話通訳者の養成・派遣

聴覚障害のある人のコミュニケーションを支援する人材育成のため手話講習会を開催するとともに、手話通訳者派遣制度の充実に努めます。

■点訳・音声訳・朗読奉仕員の活用

点訳・音声訳・朗読奉仕員を必要に応じて活用し、障害のある人に対して適切な情報提供に努めます。

■要約筆記者の養成

必用に応じて要約筆記に関する講習会を開催し、要約筆記者の養成を図ります。

■円滑なコミュニケーションのための研修の実施

市の職員研修の中に手話講習などを盛り込み、円滑なコミュニケーションを築けるよう職員の意識啓発を行います。

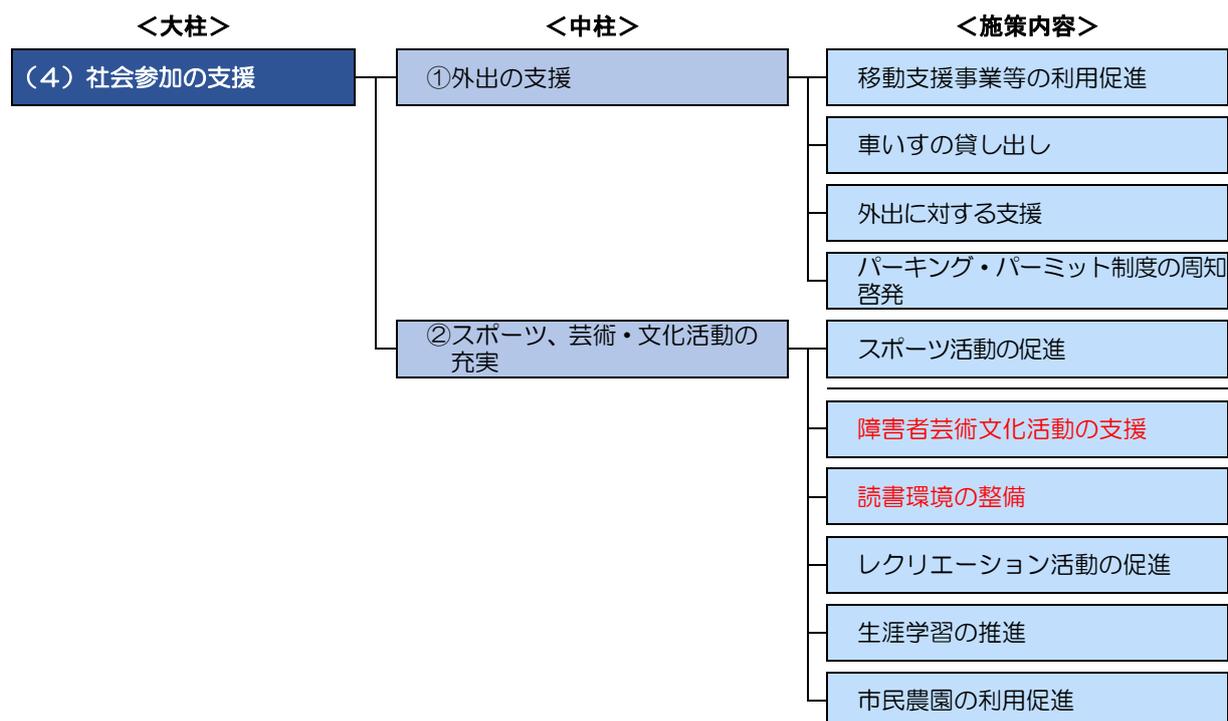
■意思疎通手段の充実

全ての市の窓口で筆談対応を行うとともにコミュニケーション支援ボードを設置、避難所にも筆談ボード及びコミュニケーション支援ボードを設置し、意思疎通手段の充実に努めます。

■手話通訳者の設置

障害福祉課に手話通訳者を設置、庁内各部署での手話通訳のニーズにスムーズに答える体制整備に努めます。

(4) 社会参加の支援



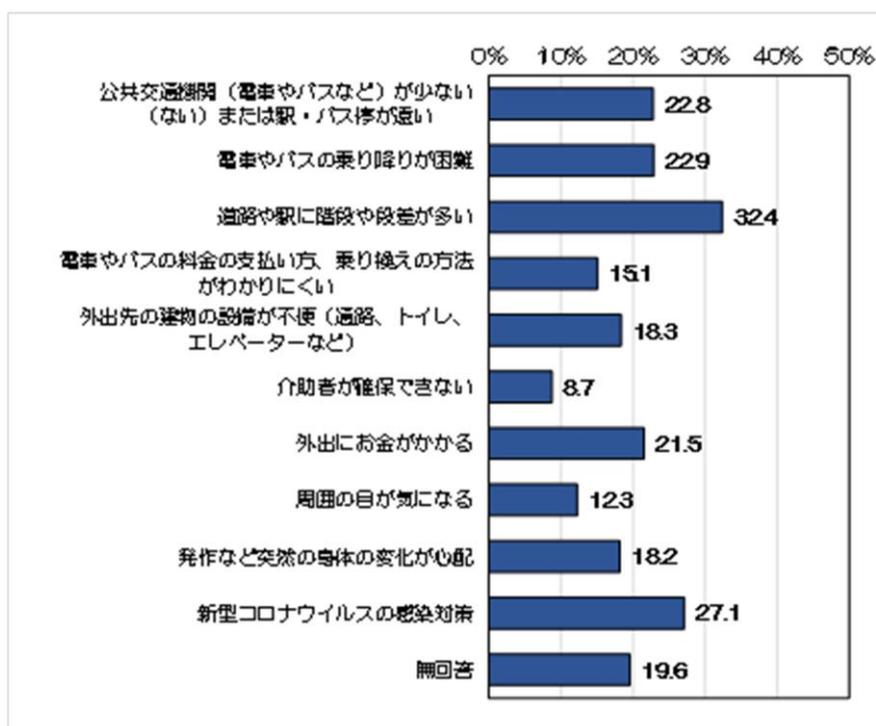
①外出の支援

障害のある人が生活活動範囲を拡大するためには、それぞれの障害に応じた移動手段の確保が必要となります。

障害のある人の移動や外出の利便性を高めるため、移動支援事業などにより、障害のある人の移動・外出手段の確保に努めます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 外出時の困りごと（障害のある人）



外出の支援においては、外出環境の整備が求められているとともに、外出の際の円滑な移動の確保が求められています。

■移動支援事業等の利用促進

障害等により外出等の移動が困難な方を対象に、適切な障害福祉サービスを案内するとともに、移動支援事業、生活サポート事業を行います。

■車いすの貸し出し

車いすの貸し出しを行います。

■外出に対する支援

障害のある人の移動・外出のため、自動車運転免許取得費の補助や自動車改造費の補助、自動車燃料費の補助、福祉タクシー利用料金の助成、バス・鉄道共通ICカード補助、駐輪場利用料金の減免、市内循環バス特別乗車証の交付など、経済的な支援を実施します。

■パーキング・パーミット制度の周知啓発【新規】

障害のある人などに向けた駐車区画の適正利用を図るため、埼玉県思いやり駐車場制度（パーキング・パーミット制度）の周知啓発を図ります。

②スポーツ、芸術・文化活動の充実

障害のある人の生活の質を高めるためには、スポーツや芸術・文化活動に参加し、楽しめる機会を増やすことが重要です。

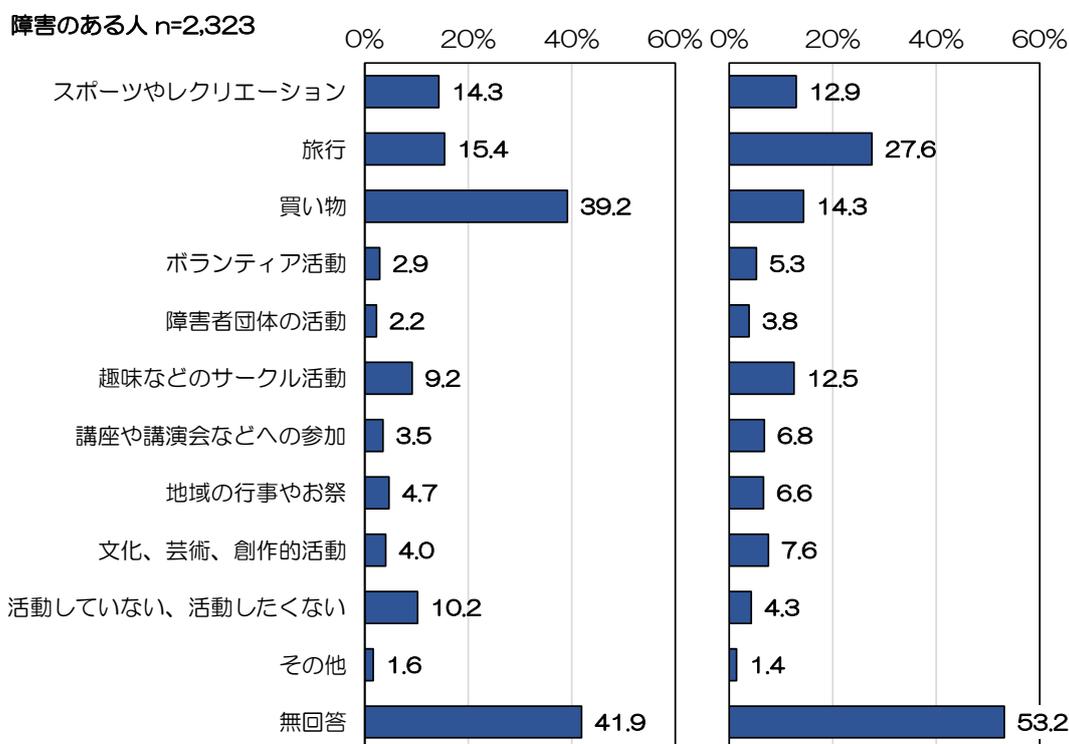
このため、市内で開催されるスポーツ活動への参加の促進によりスポーツに親しむ機会を提供します。

また、生涯学習の充実や自主学習グループへの参加の促進により、芸術・文化活動の充実を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 現在行っている活動、今後活動したいと思うこと（障害のある人）

現在行っている活動（左）、今後活動したいと思うこと（右）



現在行っている活動や今後活動したいと思うことは、買い物、旅行、スポーツやレクリエーション、趣味などのサークル活動が上位を占めています。

■スポーツ活動の促進

障害のある人と家族がスポーツに親しみ、スポーツを通じた交流を図るため、障害者スポーツ大会などを開催します。

また、県が主催する埼玉県障害者スポーツ大会などへの参加を促進し、支援します。

さらに、市内で開催される各種スポーツイベントについても、障害のある人の参加ができるように働きかけます。

■障害者芸術文化活動の支援【拡充】

『障害者による文化芸術活動の推進に関する法律』に基づき、障害の有無にかかわらず、芸術・文化に親しむ機会を増やすため、各種イベントなどを開催するとともに、**障害のある人による芸術作品の制作および作品の展示の機会確保を含めた生涯学習の充実を図ります。**

■読書環境の整備【拡充】

図書館では、障害のある人に対応したサービスを行っており、これらの充実と利用の促進を図ります。

また、**視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律（通称「読書バリアフリー法」）**に基づき、障害のある人の読書環境の整備に向けた、サービスの充実に努めます。

■レクリエーション活動の促進

各障害者団体では余暇活動を積極的に展開しています。団体に所属していない人も含め、障害のある人のレクリエーションに親しむ機会を増やすため、市内で開催されるレクリエーション活動に、障害のある人が参加できるよう支援します。

■生涯学習の推進

生涯学習を総合的、体系的に推進するため、生涯学習計画に基づいて生涯学習関連事業の充実に努めます。

■市民農園の利用促進

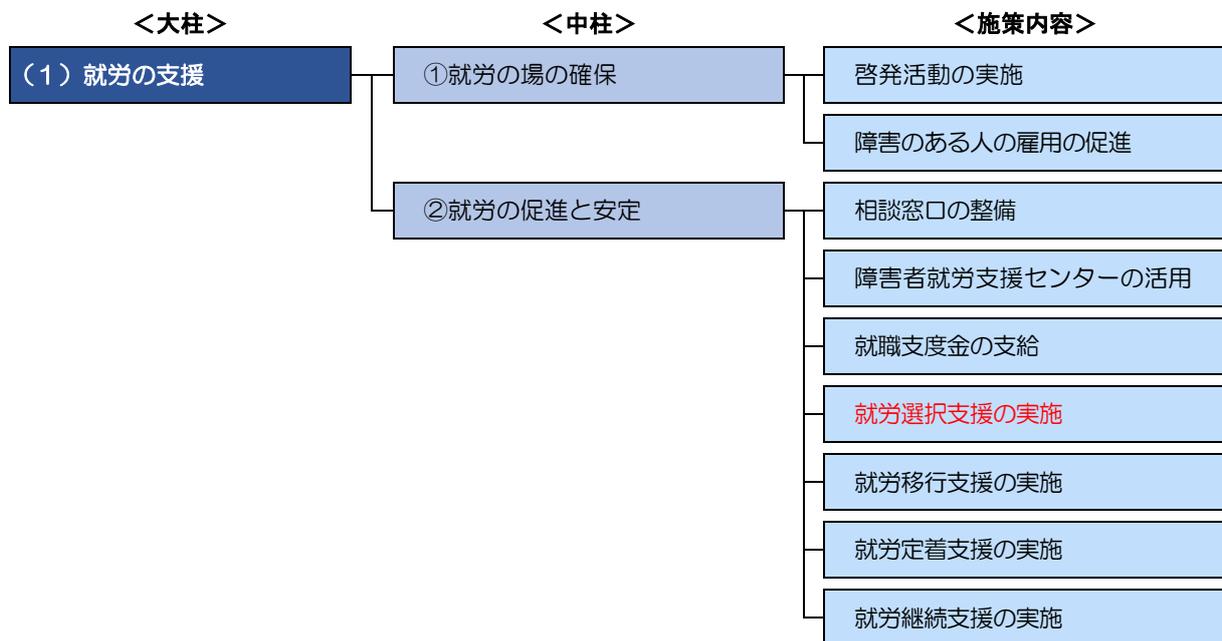
野菜を栽培することにより、身近な自然に触れ合う機会を増やすため、障害のある人の優先利用枠を設けるとともに、障害者手帳所持者の利用料の免除を行い、利用の促進を図ります。

第3章 就労を支援する

<基本目標>

障害のある人の雇用を促進するため、民間事業者に対し広く障害のある人の雇用を働きかけ、就労の場の確保に努めるとともに、就労移行支援事業等を活用し、一般雇用や福祉的就労を含めた安定した雇用の促進に努めます。

(1) 就労の支援



①就労の場の確保

令和6（2024）年4月から、「障害者の雇用の促進等に関する法律（障害者雇用促進法）」により段階的に法定雇用率が引き上げとなり、障害のある人の働く場が拡充されることになりました。

また、障害のある人の経済面での自立の促進に資するため「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律（障害者優先調達推進法）」では、国や地方公共団体などの公共機関は、物品やサービスを調達する際、障害者就労施設等から優先的・積極的に購入することとなっています。

障害のある人の自立と社会参加を進めるため、就労の場の確保に向けて、啓発活動の実施や、関係機関等との連携を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「働く場の確保」54.0%

5割以上の方が働く場の確保を重要な施策として捉えている傾向があります。

Q. お子さんの将来を考えて不安に思うこと（障害のある児童）

「就職・仕事について」70.2%

「就職・仕事について」の割合は高く、お子さんの将来の生活において、自立した生活を送るためには重要な部分と捉えられている結果が表れていると考えられます。

■啓発活動の実施

県やハローワークとの連携を図りつつ、事業所に対する障害のある人を対象とした雇用促進キャンペーンや広報紙などを通じた広報活動を行い、障害のある人の雇用の促進を図ります。

■障害のある人の雇用の促進

法定雇用率の達成に向けて県と連携し、企業などに対してさまざまな働きかけを行います。

就労移行支援、就労継続支援、訓練施設などを活用するとともに、関係機関との協力体制により障害のある人の就業促進を図ります。

②就労の促進と安定

障害のある人の誰もが、その適性と能力に応じた就労の場に就けるよう、公共職業安定所（ハローワーク）や、障害者就労支援センター等の関係機関との連携を図り、障害のある人の就労を促進します。

また、就労支援の充実を図るとともに、就労後の定着に向けて障害のある人と雇用者の相談等を強化します。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 仕事をする上での不安・不満について（障害のある人）

「収入が少ない」40.5%

約4割の方が収入に対する不安・不満を抱えている傾向がみられます。

Q. 就労支援として必要なこと（障害のある人）上位3位

- ・ 職場の上司や同僚などに障害への理解があること
- ・ 短時間勤務や勤務日数の配慮
- ・ 通勤手段の確保

安定した就労を継続するためには、職場の人たちの理解が求められています。

■相談窓口の整備

障害のある人の就労には、障害の状況に応じたきめ細かな配慮が必要なことから、ハローワーク、県、特別支援学校、市内の障害者団体などと連携を図りながら、障害のある人の状況を踏まえた就業情報の提供や就業における配慮事項などに関するアドバイスを含めたきめ細かな相談に努めます。

また、ハローワークや県などと連携を図りながら障害のある人の就業・起業等への支援、NPO法人化への支援など、相談体制の充実に努めます。

■障害者就労支援センターの活用

障害者就労支援センターにおいて、職業相談をはじめ、就職準備支援、職場定着支援、生活支援など各種支援により、障害のある人の雇用を進めます。職場定着支援については、埼玉障害者職業センターが行うジョブコーチ支援事業なども活用して、障害のある人の定着促進を図ります。

また、生活支援についても重要な支援ととらえ、きめ細かな対応に努めるとともに、余暇活動のニーズを踏まえつつ支援のあり方についても調査・研究を行います。

■就職支度金の支給

就労に係る施設の入所及び通所者が、就職などにより自立生活する際に、就職支度金を支給します。

■就労選択支援の実施【新規】

障害のある人本人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメントの手法を活用して、本人の希望、就労能力や適性等に合った選択を支援します。ハローワークはこの支援を受けた者に対して、アセスメント結果を参考に職業指導等を実施します。

※令和4年改正障害者総合支援法の公布後3年以内の政令で定める日から施行されることになっております。

■就労移行支援の実施

就労移行支援は、一般就労を希望し、知識・能力の向上、実習、職場探しなどを通じ、適性に合った職場への就労などが見込まれる人に対し、作業訓練や職場実習等を実施する事業で、就労が見込まれる人の積極的な利用を支援します。

この一環として、県や周辺自治体、特別支援学校、障害のある人を雇用している事業所などとの連携により、特別支援学校を卒業した人が就業に先立ち、職業訓練を受けることができる場について調査・研究を行います。

■就労定着支援の実施

就労移行支援等の利用を経て一般就労した障害のある人で、就労に伴う環境の変化により生活面の課題が生じている方を対象に、就労定着支援事業所が職場・家族・関係機関への連絡調整を行ったり、職場や自宅に訪問し、生活リズムや体調等の指導や助言等を行ったりすることで、安定した就労が継続できるよう支援します。

■就労継続支援の実施

就労継続支援事業では、雇用継続に必要な知識や能力の向上のための訓練の実施、一定の賃金水準のもとで継続した就労の機会を提供するなどのサービスを行っています。

また、市としても可能な業務については、就労継続支援事業所に対し、業務発注に努めるとともに、工賃向上のために適宜助言を行います。

利用にあたっては、本人の希望を尊重するとともに、一般就労に必要な知識・能力の高まった人については、一般就労に向けた支援を行います。

また、就労したものの職場や仕事に馴染めずに離職した人に対して、職業訓練施設などの利用により、就労復帰に導きます。

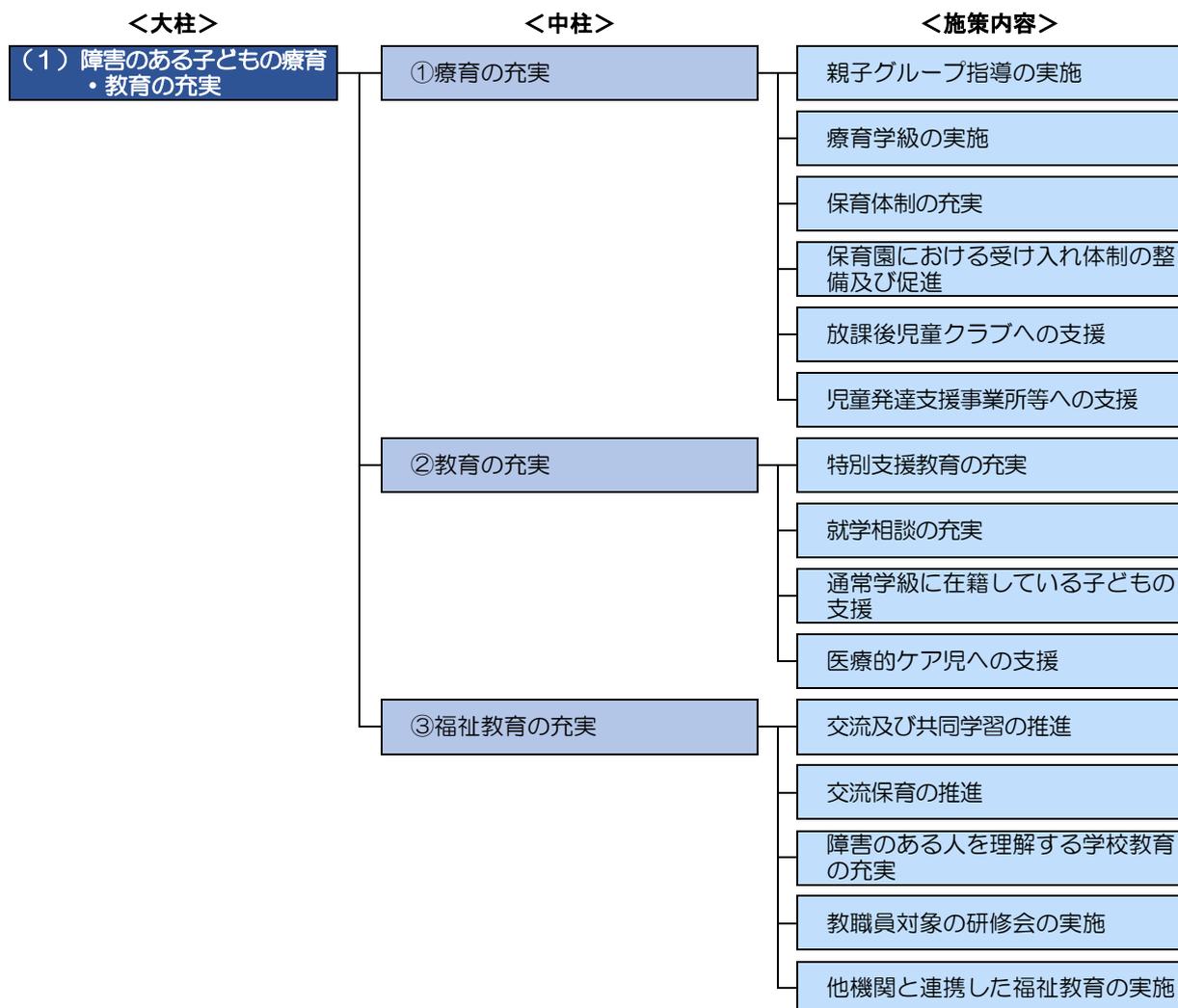
第4章 共に育ち、共に学ぶ療育・教育を推進する

＜基本目標＞

障害の特性に応じた療育・教育を提供するとともに、障害のある児童とない児童が共に学び、交流する機会を通じて、障害のある人の精神的及び身体的な能力等を最大限に伸ばす療育・教育を推進します。

また、市民へのノーマライゼーション理念の普及を図り、障害及び障害のある人についての市民の理解を深めていきます。

(1) 障害のある子どもの療育・教育の充実



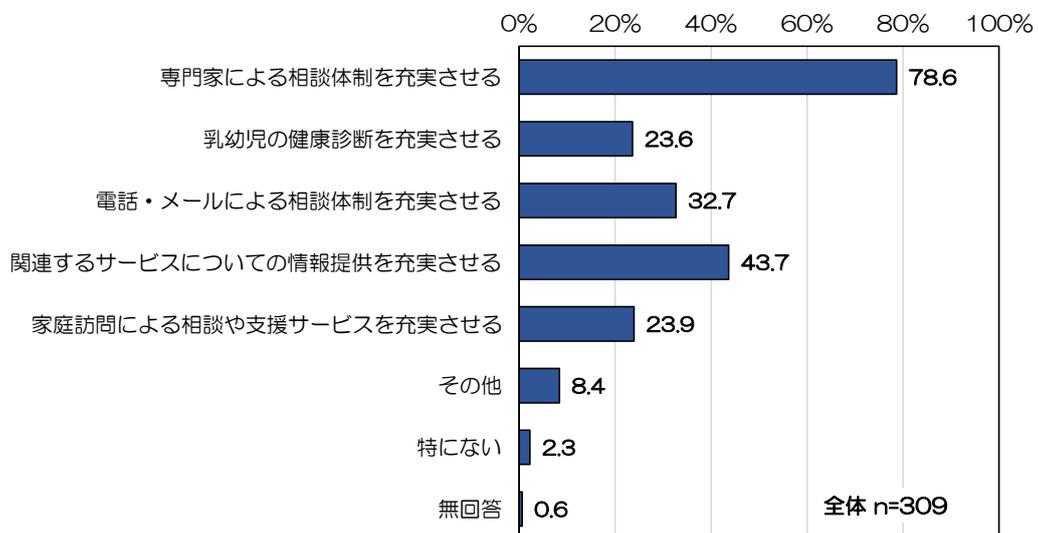
①療育の充実

乳幼児の障害に対しては、早期発見、早期治療・指導訓練を行うことで、障害の軽減や基本的な生活能力の向上を図り、将来の社会参加へとつなげていくことが重要視されています。

障害の疑いがある乳幼児の保護者に対して、早期療育を行うための支援方法の確認や関係機関同士での情報共有を行うとともに、障害のある乳幼児に対して必要な指導訓練等を行い、障害のある児童への支援の強化を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 早期に適切な支援をうけるために必要なこと（保護者）



専門家による相談体制の充実が求められているとともに、情報提供の充実が求められています。

■親子グループ指導の実施

ことばの遅れなどがある乳幼児や育児不安を持つ親に対し、グループでの活動を通して子どもの発達を促すとともに、適切な時期に親に対して適切なアドバイスや各種援助を行います。

■療育学級の実施

心身の発達に遅れのある乳幼児と保護者に対し、親子が触れ合いながらよりよい発育発達を促すため、リズム遊び（音楽療法）、体操などの遊びの指導を行います。

■保育体制の充実

保育園などにおける統合保育の充実を図るため、専門家による巡回指導や保育士の研修を実施します。

家庭教育や就学など、それぞれの幼児の障害に応じたさまざまな相談に対し、適切な助言、指導ができるよう指導力の向上など、保育体制の充実を図ります。

■保育園における受け入れ体制の整備及び促進

保育園において障害のある子どもを受け入れるため、保育士の加配や施設のバリアフリー化など障害児保育体制の整備に努め、育成保育事業をさらに進めていきます。

■放課後児童クラブへの支援

放課後児童クラブで統合保育を行うため、指導員の適正配置など保育の充実を図るとともに、障害のある子どもを受け入れ、担当する指導員を配置する市指定放課後児童クラブに助成を行います。

■児童発達支援事業所等への支援【新規】

療育支援事業を実施し、児童発達支援支援事業所や放課後等デイサービス事業所などに対し、助言、指導などの後方支援を行うことで質の向上に努めます。

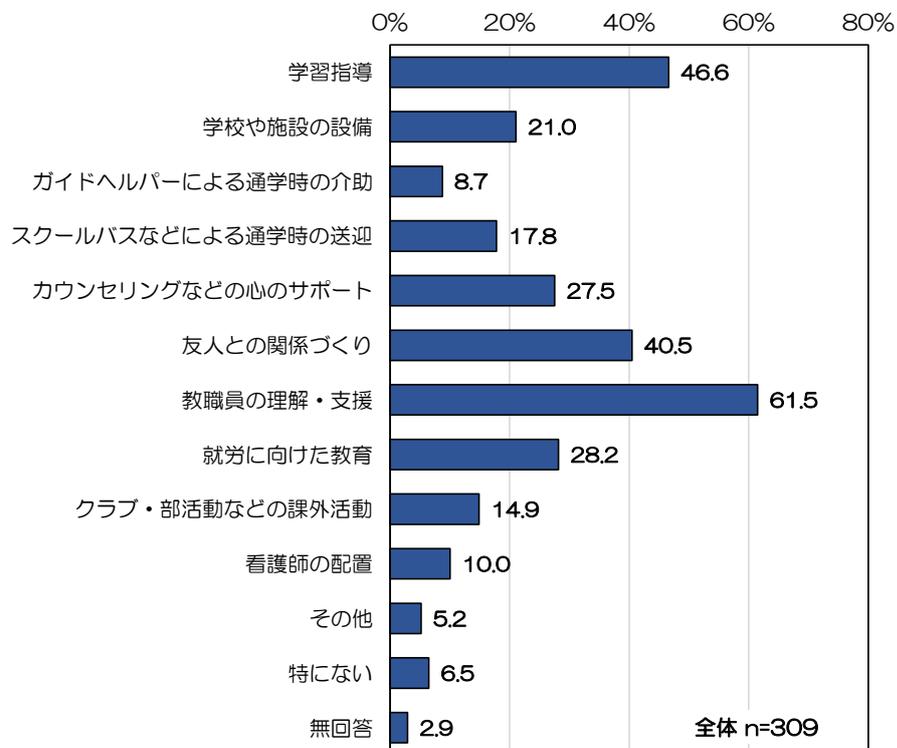
②教育の充実

障害のある児童生徒については、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うため、一人一人の障害の程度に応じ、きめ細かな教育を行うことが求められています。

障害の種別も多様化していることから、一人一人の教育的ニーズに応えるため、障害のある児童生徒のライフステージに合わせた支援体制の整備、指導方法の工夫等を行うとともに、保護者に対する相談支援体制を整え、乳幼児期から学校卒業後にわたり関係機関が一体となって、障害のある児童生徒へ一貫した支援が提供できるよう教育の充実を図ります。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 学校生活において、充実させるべきと思うこと（保護者）



障害のある児童生徒のライフステージに沿った教育を充実させるためには、教職員の理解・支援が最も重要と捉えられている傾向がみられます。

また、「Q. お子さんが受けている支援等について、充実させるべきと思うこと（保護者）」からは、会話やコミュニケーションに関する支援や友達とのかかわり方に関する支援の割合が高く、人とかかわる際に必要な支援が求められています。

■特別支援教育の充実

特別支援教育の充実を図るため、それぞれの障害や程度に応じた教育課程を編成するとともに、一人一人の教育的ニーズに応じた支援、施設整備の充実を図ります。

また、特別支援学級を設置する小・中学校への特別支援学級補助員の配置、通常学級に通う障害のある児童生徒への支援員の配置、補助員・支援員への研修などにより、障害のある児童生徒の就学支援及び学習支援に努めます。

■就学相談の充実

障害のある児童生徒が適切な教育が受けられる環境整備に努め、保育園、幼稚園、小・中学校との連携のもとに就学相談体制の充実を図ります。

■通常学級に在籍している子どもの支援

通常学級に在籍している発達障害などの子どもについては、それぞれの障害の特性を踏まえつつ、子どもの発達段階に応じた計画的、継続的な教育支援に努めます。

■医療的ケア児への支援【新規】

小中学校に通う医療的ケア児に対し、看護師配置を行い、学習参加への支援体制の充実を図ります。

③福祉教育の充実

日常生活において、障害のある人とない人が共に活動することは、児童生徒の豊かな人間性を育成する上で大きな意義があり、同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ重要な機会であり、福祉教育の充実や交流教育の推進が重要視されています。

児童生徒に対し福祉に対する関心を高める啓発や人権教育、福祉活動等を行うとともに、「インクルーシブ教育」の考え方にに基づき、合理的配慮をした上で障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学べる場を増やします。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「障害のある人とない人が交流する場の充実」46.9%

約5割の方が障害のある人とない人が交流する場の充実が重要な施策として捉えています。

■交流及び共同学習の推進

通常学級における福祉教育を推進するとともに、通常学級と特別支援学級の児童生徒が共に学ぶ機会の設定、特別支援学級の児童生徒による学習発表会、作品展の開催などの機会を増やして、障害のある児童生徒への理解を深め、相互の交流及び共同学習を推進します。

■交流保育の推進

児童発達支援センターみつばすみれ学園と公設公営保育園との交流会を開催し、触れ合いの場を創造します。

■障害のある人を理解する学校教育の充実

小・中学校において、児童生徒の発達段階に応じた計画的、継続的な福祉教育や障害のある人との交流教育、ボランティア教育の推進を図ります。

また、福祉への理解と関心を高めるために、地域や障害者団体・施設などと連携した福祉教育を促進します。

■教職員対象の研修会の実施 ※

福祉教育の推進には、教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携が必要不可欠です。そのために、小・中・高等学校の教職員や地域の福祉教育に携わる人を対象に、具体的な事例や福祉体験等を取り入れ、より充実した研修会を実施していきます。

■他機関と連携した福祉教育の実施 ※

毎年、小・中学校の総合的な学習の時間において、当事者の講演や体験等によるさまざまな福祉教育を実施してきました。今後は、社協で実施してきた福祉教育を、市内の施設等の協力を得ながら、子どもから大人までを対象とした、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育として実施していきます。

※朝霞市社会福祉協議会で推進する第4期朝霞市地域福祉活動計画から引用しております。評価は朝霞市地域福祉計画推進委員会で行います。

第5章 安心・安全な暮らしをつくる

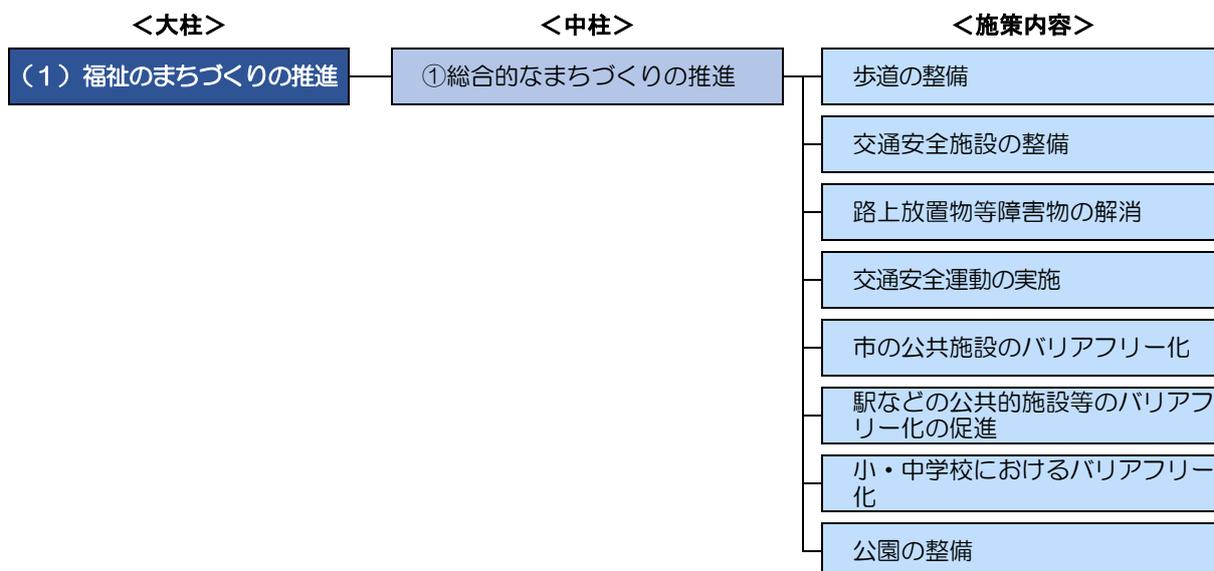
<基本目標>

安心・安全な暮らしを実現するため、生活環境のバリアフリー化及びユニバーサルデザインを推進します。

保健・医療では、健診等により障害の早期発見体制の強化を図るとともに、障害の特性に応じた適切な医療サービスを提供できるよう医療機関との連携を強化します。

また、障害のある人を災害や犯罪、事故から守るため、地域の防災・防犯対策の強化を図るとともに、災害や犯罪を予防する基盤づくりを推進します。

(1) 福祉のまちづくりの推進



①総合的なまちづくりの推進

障害のある人を含めすべての市民が、安心して暮らすため、道路、公園、建築物等生活関連施設のバリアフリー化を推進し、住みやすい地域社会づくりに努めます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人・児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合
「障害のある人に配慮した道路・建物・駅などの整備」
…障害のある人：65.2% 障害のある児童：73.1%

6割以上の方が生活環境の整備を重要な施策として捉えている傾向があります。

■歩道の整備

歩道と車道の分離、歩行空間の確保、道路拡幅、交差点における歩道と車道の段差解消など、バリアフリー化された歩行空間の整備を推進します。

また、新設道路については、歩道のフラット化（歩車道境界ブロックなどによる歩道と車道の分離）を進めます。

■交通安全施設の整備

点字誘導ブロックや音声誘導装置、反射鏡、道路照明灯などの設置を促進します。

また、交通量や横断者の多い道路については、障害のある人の安全性にも配慮しながら、信号機の設置などについても、働きかけを行います。

■路上放置物等障害物の解消

障害のある人が安心して街中を歩ける交通環境を整備するため、放置自転車や障害物の撤去を行うとともに、駅前での駐輪及び駐車について指導の充実に努めます。

■交通安全運動の実施

交通安全の普及・啓発活動として、交通安全運動（年4回）を実施し、交通事故による障害の発生を未然に防止します。

また、この交通安全運動と連動して、広報紙や学校などを通じて交通安全の啓発を行います。

■市の公共施設のバリアフリー化

障害のある人を含め多くの人々が利用する市の公共施設のバリアフリー化に努めます。また、新たに整備する施設については、ユニバーサルデザインの考え方に基づく整備を推進します。

■駅などの公共的施設等のバリアフリー化の促進

駅などの公共的施設や大規模店舗などの集客施設については、その事業者に対して障害のある人が利用しやすい施設となるように、バリアフリー化を要請します。

特に、多くの人々が利用する駅については、エレベーターや車いす対応のエスカレーターの設置などを促進します。

■小・中学校におけるバリアフリー化

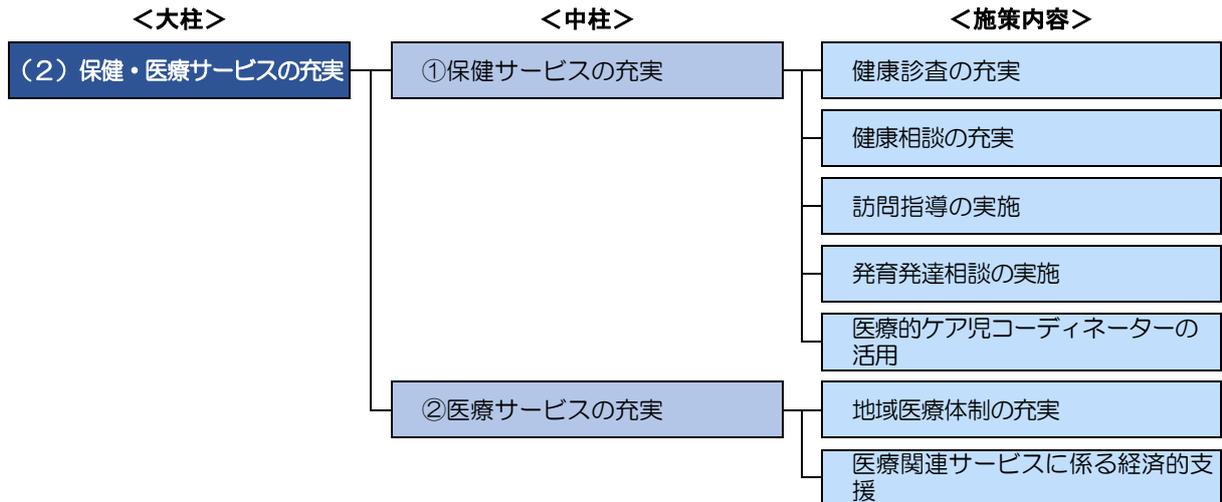
新しく整備する学校については、ユニバーサルデザインの考え方に基づく整備を推進します。また、既存の校舎や体育館については、大規模改修時にあわせてバリアフリー化に努めます。

■公園の整備

公園については、障害のある人用のトイレ（バリアフリートイレ）、スロープ、車止めなど、障害のある人に配慮した附帯施設の整備、改修を推進します。

また、住民に憩いと安らぎの場を提供する公園を整備します。

(2) 保健・医療サービスの充実



①保健サービスの充実

健康の増進と生活習慣病を予防するための保健指導の充実を図るとともに啓発活動を推進します。

疾病や障害の早期発見をし、早期療育・各種保健・福祉施策へと適切に導くためには、きめ細かな相談指導や個々の事例にあった支援体制を整備し、総合的な保健対策を推進します。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合

「福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実」

…障害のある人：58.6% 障害のある児童：59.2%

5割以上の方が福祉・保健・医療の連携による在宅サービスの充実を重要な施策として捉えている傾向があります。

■健康診査の充実

健康の保持と疾病予防や疾病（障害）の早期発見のため、妊婦・乳幼児健康診査、がん検診など各種健康診査の充実を図ります。

また、健診を通じた専門相談の充実を図ります。

■健康相談の充実

健康の保持増進を図るため、育児相談、健診後の健康相談及び栄養相談などの健康相談を充実します。

■訪問指導の実施

来所での相談が困難な方（母子、成人、高齢者、障害のある人など）に対して家庭訪問による保健指導を実施します。

■発育発達相談の実施

発育や発達障害の早期発見・早期支援のため、専門相談を実施することにより、子どもの早期療育を推進し、適切な支援につなげます。

■医療的ケア児コーディネーターの活用【新規】

医療的ケア児の把握に努め、必要なニーズに沿って適切な関係機関との調整を図っていきます。

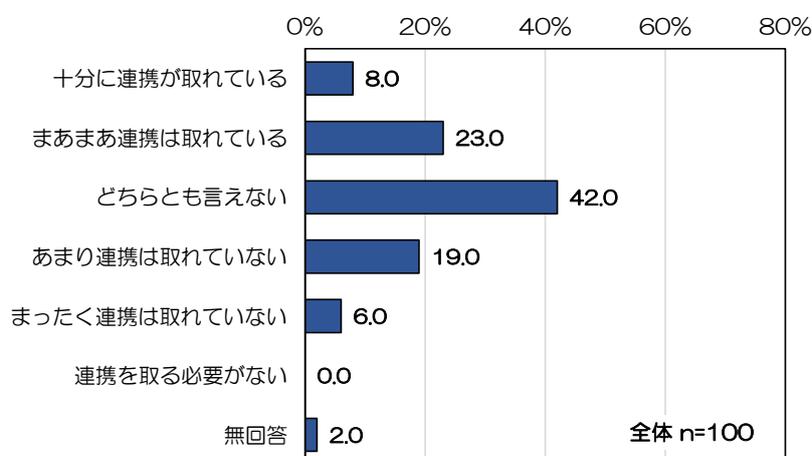
②医療サービスの充実

障害種別の多様化により、それぞれの障害のある人の特性に合った医療をいつでも、どこでも、受けられる環境の整備が求められています。

一人一人に応じた適切な医療サービスが受けられるよう、専門機関との連携を図り地域におけるネットワークを構築し、一貫したサービスを提供できる体制を整備するとともに、重度の障害のある人などについては、医療給付等により経済的な負担の軽減を行います。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 事業所と医療機関との連携状況について（事業所）



医療機関との連携は、連携が図れていると回答した事業所が約3割となっている一方で、連携が図れていないと回答した事業所も25.0%と、全体の4分の1の事業所で連携が図れていないという結果になっています。

■地域医療体制の充実

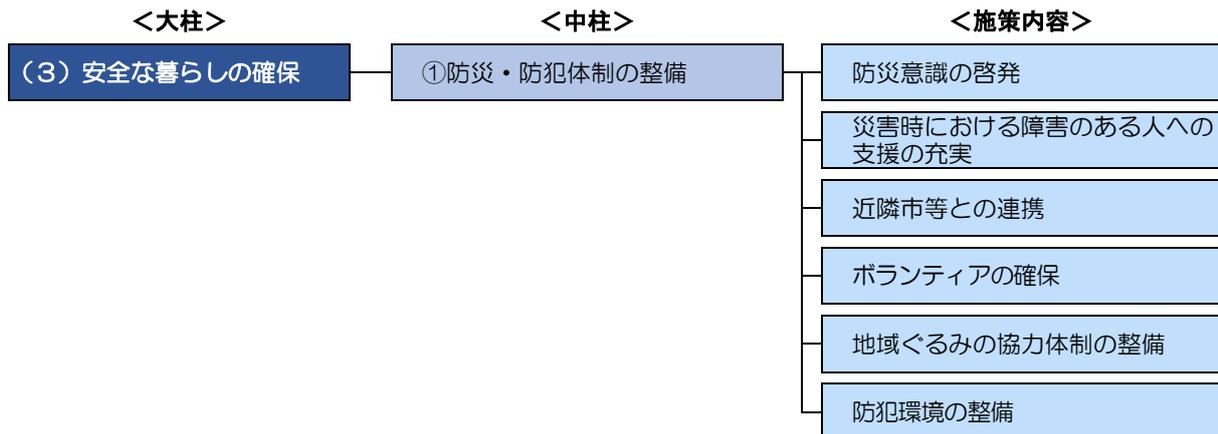
障害のある人が地域の中で必要な医療が受けられるように、医師会の協力を得ながら保健、福祉との連携を強化した地域の医療体制づくりを進めます。特に、重度障害や精神障害など、障害の状況に応じた適切な医療の確保に努めます。

また、関係機関との連携を図りつつ、在宅当番医制、休日夜間診療、病院群輪番制、小児救急医療や精神科救急医療など、緊急時の医療体制の充実を図ります。

■医療関連サービスに係る経済的支援

自立支援医療（更生医療・育成医療・精神通院医療）や療養介護、重度心身障害者医療費助成、指定難病医療給付（県事業）など、各種の医療給付の実施により、経済的支援を行います。

(3) 安全な暮らしの確保



①防災・防犯体制の整備

障害のある人が、地域の中で安心して生活を送るためには、火災や地震などの災害による被害を防ぐ防災対策、災害時に援護が必要な方を地域の人たちで支え合うしくみ、犯罪や事故に巻き込まれないよう防犯対策などが必要です。

防災・防犯などの安全対策や消費者被害防止対策の推進を図るとともに、災害が発生した際に障害のある人が安心して避難できるネットワーク体制の充実に努めます。

<アンケート調査等から見える傾向・課題>

Q. 朝霞市のまちづくりについて（障害のある人・児童）

今後の重要性に対して「重要」と回答した割合
「災害時における避難誘導體制の確立と訓練の実施」
…障害のある人：54.2% 障害のある児童：64.1%

約5割の方が災害時の避難を重要な施策として捉えている傾向があります。

■防災意識の啓発

広報紙、防災啓発冊子などにより、防災に関する広報・普及活動を行うとともに、講演会の実施や地域の防災訓練を支援し、障害のある人を含む市民の防災意識の高揚を図ります。

■災害時における障害のある人への支援の充実

災害時の緊急情報をメールや防災行政無線等により伝達するとともに、自力で避難できず、特別な支援が必要な人については、避難行動要支援者名簿及び避難行動要支援者台帳の活用や個別避難計画の見直しなど避難時等に十分配慮するよう努めます。

社会福祉施設などを障害のある人の福祉避難所として協定を締結し、活用するよう努めます。

また、福祉避難所の開設、移送、運営について訓練を行い改善を図っていきます。

■近隣市等との連携

災害発生時における近隣市や相互応援協定した自治体との連携の強化に努めるため、全庁的な取り組みを推進します。

■ボランティアの確保

災害時に福祉活動に携わるボランティアを確保するよう、各種機関・団体と連携を図ります。

■地域ぐるみの協力体制の整備

自治会や町内会単位の地域住民による自主防災組織づくりを進めるとともに、その活動への支援を行います。

また、避難生活が長期化した際の自主防災組織を中心とした避難場所の運営体制についても確立を図ります。

■防犯環境の整備

朝霞市防犯推進計画をもとに、障害のある人を含めすべての市民をひたたくりや路上強盗などの街頭犯罪や侵入盗などの犯罪から守るため、市、市民及び事業者の防犯意識の高揚を図るとともに、防犯灯等の整備を進めます。

また、障害のある人が犯罪に巻き込まれることのないよう、障害のある人や関係者、地域が一体となって防犯意識の向上に努めます。

第3部

**第7期朝霞市障害福祉計画・
第3期朝霞市障害児福祉計画**

第1章 基本的な考え方

第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画の策定にあたっては、国の「障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の円滑な実施を確保するための基本的な指針（平成18年厚生労働省告示第395号 最終改正：令和5年こども家庭庁・厚生労働省告示第1号）」における、以下の基本的な考え方を踏まえ策定しました。

（1）障害者等の自己決定の尊重と意思決定の支援

共生社会を実現するため、障害者等の自己決定を尊重し、その意思決定の支援に配慮するとともに、障害者等が必要とする障害福祉サービス等の支援を受けつつ、その自立と社会参加の実現を図っていくことを基本として、障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の提供体制の整備を進める。

（2）市町村を基本とした身近な実施主体と障害種別によらない一元的な障害福祉サービスの実施等

障害者等が地域で障害福祉サービスを受けることができるよう市町村を実施主体の基本とする。また、障害福祉サービスの充実を図り、県の適切な支援等を通じて障害福祉サービスの均てん化（誰もが等しく利益を享受できること）を図る。

各地方公共団体が策定する障害福祉計画等においても、難病患者等が障害者総合支援法に基づく給付の対象となっていることを踏まえ、難病患者等への支援を明確化し、計画を策定するに当たっては、難病患者や難病相談支援センター等の専門機関の意見を踏まえる。

(3) 入所等から地域生活への移行、地域生活の継続の支援、就労支援等の課題に対応したサービス提供体制の整備

障がい者等の自立支援の観点から、入所等から地域生活への移行、地域生活の継続の支援、就労支援といった課題に対応したサービス提供体制を整え、障がい者等の生活を地域全体で支えるシステムを実現するため、地域生活支援の拠点づくり、NPO等によるインフォーマルサービスの提供等、地域の社会資源を最大限に活用し、提供体制の整備を進める。

特に、入所等から地域生活への移行については、適切に意思決定支援を行いつつ地域生活を希望する者が地域での暮らしを継続することができるよう、地域生活への移行が可能となるようサービス提供体制を確保する。

また、市町村は、地域生活に対する安心感を担保し、自立した生活を希望する者に対する支援等を進めるために、**地域の体制づくりを有する**地域生活支援拠点等を整備するとともに、障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えて、これらの機能をさらに強化する必要がある。

こうした拠点等の整備にあわせて、相談支援を中心として、学校からの卒業、就職、親元からの自立等の生活環境が変化する節目を見据えて、中長期的視点に立った継続した支援を行う必要がある。なお、地域生活支援拠点等の整備・運営に当たっては、地域生活支援拠点等と基幹相談支援センターのそれぞれの役割を踏まえた効果的な連携を確保する必要がある。

さらに、精神障がい者の地域生活への移行を進めるにあたっては、自治体を中心とした地域精神保健医療福祉の一体的な取組の推進に加え、差別や偏見のない、あらゆる人が共生できる包摂的（インクルーシブ）な社会の実現に向けた取組の推進が必要である。これを踏まえ、精神障がい者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築を進める。

(4) 地域共生社会の実現に向けた取組

地域のあらゆる住民が、「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域共生社会の実現に向け、地域住民が主体的に地域づくりに取り組むための仕組みづくりや、制度の縦割りを超えた柔軟なサービスの確保に取り組むとともに、地域ごとの地理的条件や地域資源の実態等を踏まえながら、令和3年4月に施行された地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律による改正社会福祉法に基づく市町村の包括的な支援体制の構築の推進に取り組む。その際、市町村は同法に基づく地域福祉計画や重層的支援体制整備事業実施計画との連携を図りつつ、次に掲げる支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業の活用も含めて検討し、体制整備を進める。

- ▶ 属性にかかわらず、地域の様々な相談を受け止め、自ら対応又はつなぐ機能、多機関協働の中核の機能及び継続的につながり続ける伴走支援を中心的に担う機能を備えた相談支援
- ▶ 相談支援と一体的に行う、就労支援、居住支援など、多様な社会参加に向けた支援
- ▶ ケアし支え合う関係性を広げ、交流や参加の機会を生み出すコーディネート機能及び住民同士が出会い参加することのできる場や居場所の確保の機能を備えた支援

(5) 障害のある児童の健やかな育成のための発達支援

障害児支援を行うにあたっては、障害児本人の最善の利益を考慮しながら、障害児の健やかな育成を支援することが必要である。このため、障害児及びその家族に対し、障害の疑いがある段階から身近な地域で障害種別にかかわらず、質の高い専門的な発達支援を行う障害児通所支援等の充実を図るとともに、県の適切な支援を通じて、障害児支援の均てん化（誰もが等しく利益を享受できること）を図り、地域支援体制の構築を図る。

また、障害児のライフステージに沿って、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目の無い一貫した支援を提供する体制の構築を図る。

さらには、障害児が地域の保育や教育を受けることができるように支援することで、障害の有無にかかわらず、全ての児童が共に成長できるよう、地域社会への参加や包容（インクルージョン）を推進する。

加えて、人工呼吸器を装着している障害児、その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児（医療的ケア児）が支援を円滑に受けられるようにする等、専門的な支援を要する人に対して、各関連分野が共通の理解に基づき、協働する包括的な支援体制を構築する。

(6) 障害福祉人材の確保・定着

障害者の重度化・高齢化が進む中においても、将来にわたって安定的に障害福祉サービス等を提供し、様々な障害福祉に関する事業を実施していくためには、提供体制の確保と併せてそれを担う人材の確保・定着を図る必要がある。そのためには、専門性を高めるための研修の実施、多職種間の連携の推進、障害福祉の現場が働きがいのある魅力的な職場であることの積極的な周知・広報等を行うとともに、職員の処遇改善等による職場環境の整備や障害福祉現場におけるハラスメント対策、ICT・ロボットの導入による事務負担の軽減、業務の効率化に関係者が協力して取り組んでいくことが重要である。

(7) 障害者の社会参加を支える取組**定着**

障害者の地域における社会参加を促進するためには、障害者の多様なニーズを踏まえて支援すべきである。その際、文化・芸術活動や健康づくり、スポーツ等の分野を含め、地域でいきいきと安心して健康的に暮らすことができる社会を目指すことが重要である。

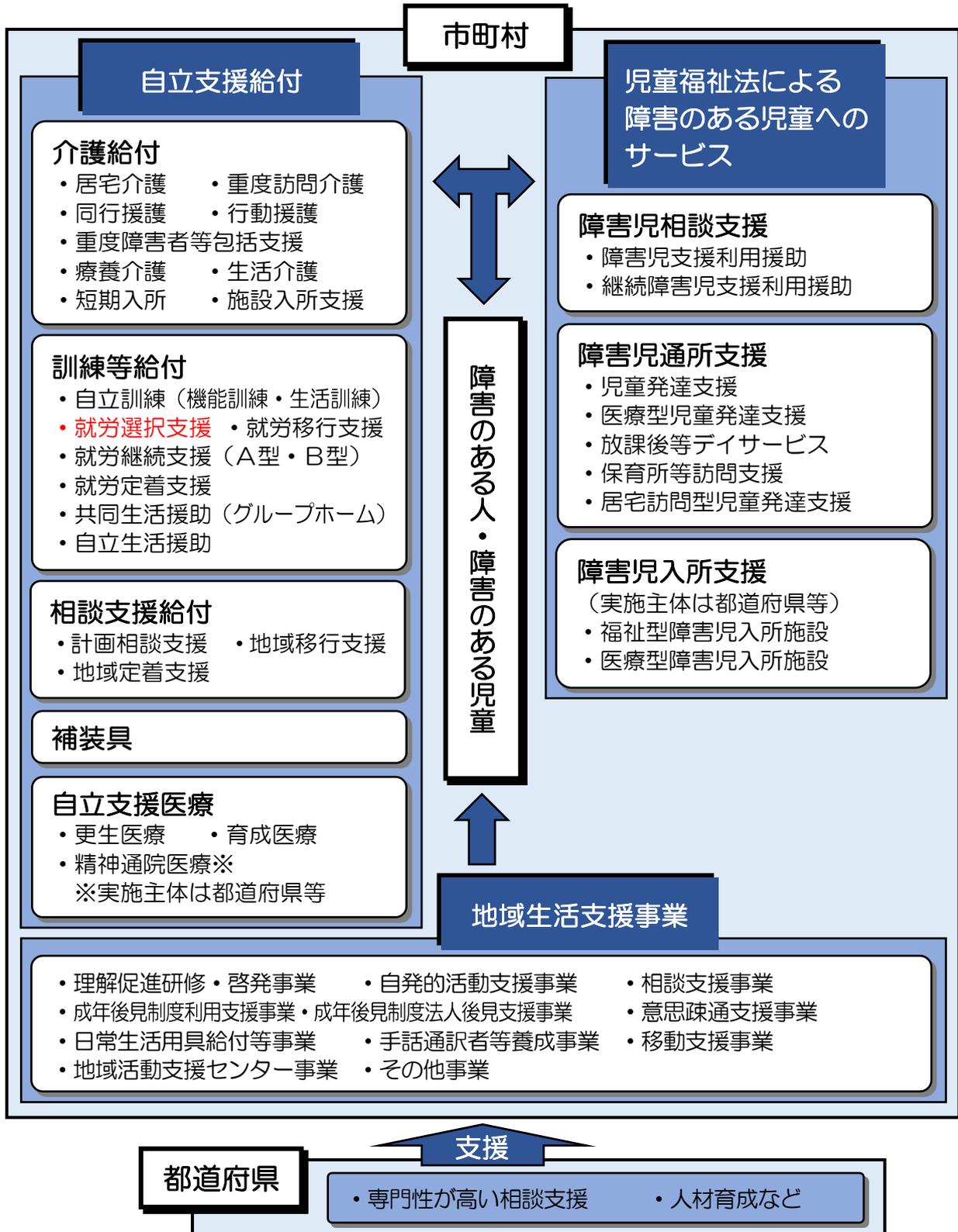
特に、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律を踏まえ、文化行政担当等の関係部局との連携を図りつつ、合理的配慮の提供とそのための環境整備に留意しながら、障害者が文化芸術を享受鑑賞し、又は創造や発表等の多様な活動に参加する機会の確保等を通じて、障害者の個性や能力の発揮及び社会参加の促進を図る。

また、読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現のため、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律を踏まえ、視覚障害者等の読書環境の整備を計画的に推進する。

さらに、障害者等による情報の取得利用・意思疎通を推進するため、障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律を踏まえ、デジタル担当や情報通信担当、産業政策担当等の関係部局との連携を図りつつ、障害特性に配慮した意思疎通支援や支援者の養成、障害当事者によるICT活用等の促進を図る。

第2章 障害福祉サービス等の体系

障害のある人・障害のある児童を対象とした障害者総合支援法、児童福祉法によるサービス体系は、以下のようになっています。



第3章 令和8（2026）年度の目標設定

1 基本目標

（1）福祉施設の入所者の地域生活への移行

国の基本指針によれば、地域生活への移行を進める観点から、福祉施設に入所している障害者（以下「施設入所者」という。）のうち、今後、自立訓練事業等を利用し、令和8（2026）年度末までに地域生活（グループホーム、一般住宅等）に移行する者の数値目標を設定することとされています。

①地域移行者数

<国の成果目標>

◇令和4（2022）年度末時点の施設入所者の6%以上が令和8（2026）年度末までに地域生活へ移行すること。

<本市の考え方>

◆本市では、令和4（2022）年度末時点の施設入所者 87 人のうち 5 人が、令和8（2026）年度末までに地域生活へ移行することを目標とします。

区 分	数 値
【実績値】令和4年度末時点の施設入所者数(A)	87 人
【目標値】地域生活移行者数(B)	5 人
移行率 (B/A) × 100	6%

②施設入所者数

<国の成果目標>

◇令和4（2022）年度末時点での施設入所者数を令和8（2026）年度末時点の施設入所者数から5%以上削減すること。

<本市の考え方>

◆埼玉県の入所待機者は年々増加しており、特に強度行動障害や重度の重複障害などよる地域生活が困難な者が多数入所待ちをしている状況であることから、県では数値目標を設定しないこととしており、本市でも同様とします。

(2) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

精神病床における長期入院患者の地域生活への移行を進めるにあたっては、精神科病院や地域の支援事業者による努力だけでは限界があり、自治体を中心とした地域精神保健医療福祉の一体的な取組の推進に加え、差別や偏見のない、あらゆる人が共生できる包括的な社会の実現に向けた取組の推進が必要となります。

国の基本指針に基づき、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進します。

<国の成果目標>

- ◇保健、医療及び福祉関係者による協議の場の開催回数を設定する。
- ◇保健、医療及び福祉関係者による協議の場への関係者の参加者数を見込むこと。
- ◇保健、医療及び福祉関係者による協議の場における目標設定及び評価の実施回数を設定する。
- ◇精神障害者の地域移行支援の利用者数を見込むこと。
- ◇精神障害者の地域定着支援の利用者数を見込むこと。
- ◇精神障害者の共同生活援助の利用者数を見込むこと。
- ◇精神障害者の自立生活援助の利用者数を見込むこと。
- ◇精神障害者の自立訓練（生活訓練）の利用者数を見込むこと。

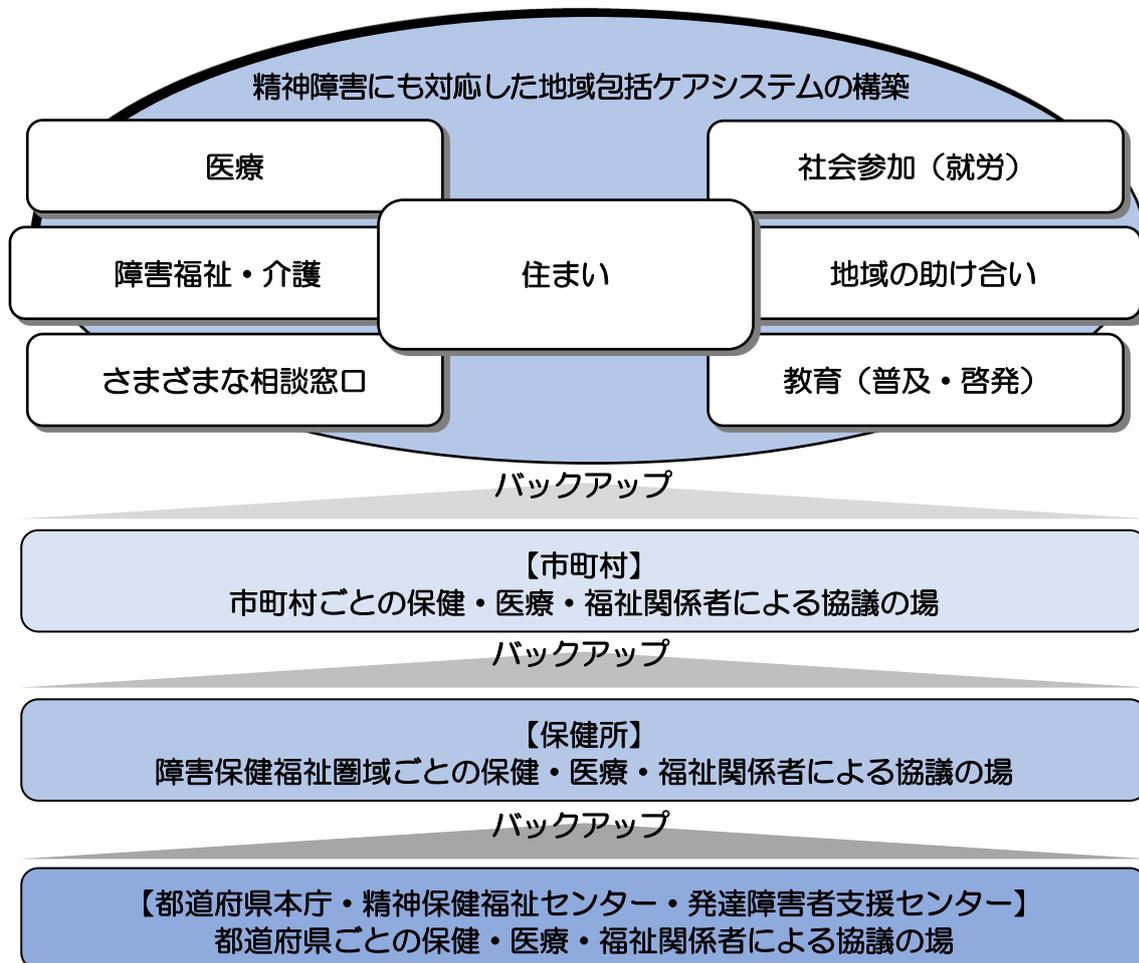
<本市の考え方>

- ◆本市では、国の成果目標に基づき、精神障害者が安心して自分らしく暮らすことができるよう、自立支援協議会と連携し、障害福祉、医療、介護、住まい等が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を図ります。

区 分	令和6年度	令和7年度	令和8年度
保健、医療及び福祉関係者による協議の場の開催回数	2回	2回	2回
保健、医療及び福祉関係者による協議の場への関係者の参加者数	16人	16人	16人
保健、医療及び福祉関係者による協議の場における目標設定及び評価の実施回数	2回	2回	2回
精神障害者の地域移行支援の利用者数	2人	2人	2人
精神障害者の地域定着支援の利用者数	10人	10人	10人
精神障害者の共同生活援助の利用者数	54人	54人	54人
精神障害者の自立生活援助の利用者数	4人	4人	4人
新規 精神障害者の自立訓練(生活訓練)の利用者数	40人	40人	40人

<精神障害にも対応した地域包括ケアシステム>

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムとは、精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、さまざまな相談窓口、社会参加（就労）、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保されたシステムのことをいいます。



出典：厚生労働省

(3) 地域生活支援の充実

福祉サービス提供体制整備の一環として、地域生活への移行、相談、グループホーム等の体験機会の提供、緊急時の受入対応体制、人材の確保・養成、その他地域の体制づくり等の機能を集約した地域生活支援拠点等を、市町村又は各都道府県が定める障害福祉圏域（以下「圏域」という。）において、少なくとも一つは整備を進めることが国の基本指針により求められています。この体制整備に関しては、地域の実情に応じ、複数の機関が分担して機能を担う体制も可能とされています。

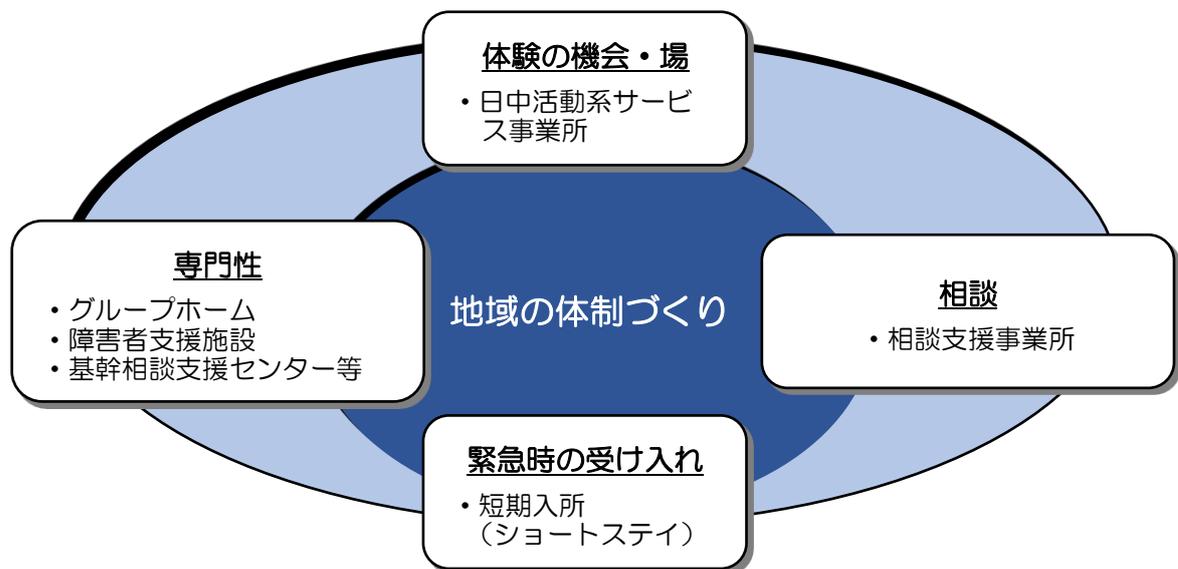
<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度末までに各市町村または各圏域に1つ以上の地域生活支援拠点等を確保し、機能の充実のため、コーディネーターの配置、地域生活支援拠点等の機能を担う障害福祉サービス事業所等の担当者の配置、支援ネットワーク等による効果的な支援体制及び緊急時の連絡体制の構築を進めるとともに、年1回以上、支援の実績等を踏まえ運用状況を検証及び検討すること。また、各市町村または各圏域において、強度行動障害を有する障害者に関して、その状況や支援ニーズを把握し、地域の関係機関が連携した支援体制の整備を進めること。

<本市の考え方>

◆地域生活支援拠点等の確保については、令和4年度から面的整備により、必要な5つの機能のうち、**相談、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり**の4つを整備しています。地域生活支援拠点等の機能の充実を図るため、コーディネーター及び地域生活支援拠点等の機能を担う障害福祉サービス等の担当者を配置するとともに、**運用状況**の検証及び検討を年1回実施します。また、強度行動障害を有する人への支援ニーズを把握し、支援体制の整備に向けた検討を進めていきます。**(新規)**

<地域生活支援拠点等の整備－面的整備型－>



出典：厚生労働省

(4) 福祉施設から一般就労への移行等

国の基本指針によれば、福祉施設から一般就労への移行等について、福祉施設の利用者のうち、就労移行支援事業及び就労定着支援事業等を通じて、令和8（2026）年度中に一般就労への移行及びその定着する人の数値目標を設定することとされています。

①福祉施設から一般就労への移行

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度中に一般就労に移行する者を令和3（2021）年度実績の1.28倍以上にする。

<本市の考え方>

◆令和3（2021）年度中に福祉施設から一般就労へ移行した人は15人でした。
令和8（2026）年度については、20人を見込みます。

区 分	数 値
【実績値】令和3(2021)年度中に福祉施設から一般就労に移行した者	15人
【目標値】令和8(2026)年度中に福祉施設から一般就労に移行する者	20人 (1.28倍)

②就労定着支援事業の利用者数

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度中に就労定着支援事業を利用する者が、令和3（2021）年度実績の1.41倍以上にする。

<本市の考え方>

◆令和3（2021）年度中に就労定着支援事業を利用した人は10人でした。
令和8（2026）年度については、15人を見込みます。

区 分	数 値
【見込値】令和3(2021)年度の就労定着支援事業の利用者数	10人
【目標値】令和8(2026)年度の就労定着支援事業の利用者数	15人 (1.41倍)

③就労移行支援事業利用者の一般就労への移行

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度中に就労移行支援事業を通じて一般就労に移行する者が、令和3（2021）年度実績の1.31倍になること。

<本市の考え方>

◆令和3（2021）年度中に就労移行支援事業を通じて一般就労に移行した人は12人でした。

令和8（2026）年度については、16人を見込みます。

区 分	数 値
【実績値】 令和3(2021)年度に就労移行支援事業を通じて一般就労に移行した者	12人
【目標値】 令和8(2026)年度中に就労移行支援事業を通じて一般就労に移行する者	16人 (1.31倍)

④就労継続支援A型事業利用者の一般就労への移行

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度中に就労継続支援A型事業を通じて一般就労に移行する者が、令和3（2021）年度実績の概ね1.29倍になること。

<本市の考え方>

◆令和3（2021）年度中に就労継続支援A型事業を通じて一般就労へ移行した人は3人でした。

令和8（2026）年度中については、4人を見込みます。

区 分	数 値
【実績値】 令和3(2021)年度に就労継続支援A型事業を通じて一般就労に移行した者	3人
【目標値】 令和8(2026)年度中に就労継続支援A型事業を通じて一般就労に移行する者	4人 (1.29倍)

⑤ 就労継続支援 B 型事業の一般就労への移行

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度中に就労継続支援 B 型事業を通じて一般就労に移行する者が、令和3（2021）年度実績の概ね 1.28 倍になること。

<本市の考え方>

◆令和3（2021）年度中に就労継続支援 B 型事業を通じて一般就労へ移行した人は 0 人でした。

令和8（2026）年度については、1 人を見込みます。

区 分	数 値
【実績値】 令和3(2021)年度に就労継続支援B型事業を通じて一般就労に移行した者	0 人
【目標値】 令和8(2026)年度中に就労継続支援B型事業を通じて一般就労に移行する者	1 人 (1.28 倍)

⑥ 就労定着支援事業所の就労定着率

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度において就労定着支援事業所のうち、就労定着率が7割以上の事業所を全体の2割5分以上とすること。

<本市の考え方>

◆就労定着支援事業所のうち、就労定着率が7割以上を達成する事業所の割合についての目標値は、令和5（2023）年度現在の既存の事業所 3 か所に対し、3 か所とも就労定着率 7割以上達成を目標とします。

区 分	数 値
【実績値】 令和5(2023)年度の就労定着支援事業所数	3 か所
【目標値】 令和8(2026)年度において就労定着率が7割以上の就労定着支援事業所数	3 か所

⑦就労移行支援事業所の実績の確保・向上【新規】

<国の成果目標>

◇就労移行支援事業所のうち、就労移行支援事業利用終了者に占める一般就労へ移行した者の割合が5割以上の事業所を全体の5割以上とすること。

<本市の考え方>

◆本市では、令和8（2026）年度において就労移行支援事業所のうち、就労移行支援事業利用終了者に占める一般就労へ移行した者の割合が5割以上の事業所数を 3 か所とすることを目標とします。

区 分	数 値
【実績値】 令和5(2023)年度の就労移行支援事業所数	5 か所
【目標値】 令和8(2026)年度において就労移行支援事業利用終了者に占める一般就労へ移行した者の割合が5割以上の事業所数	3 か所

(5) 障害児支援の提供体制の整備等

障害児のライフステージに沿って地域の保健、医療、福祉、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、切れ目の無い一貫した支援を提供する体制整備が重要となります。

① 児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の充実

<国の成果目標>

- ◇令和8（2026）年度末までに児童発達支援センターを各市町村に少なくとも1箇所以上設置すること。
- ◇令和8（2026）年度末までに全ての市町村において、保育所等訪問支援等を活用しながら、障害児の地域社会への参加・包容（インクルージョン）を推進するための体制を構築すること。

<本市の考え方>

- ◆本市では、児童発達支援センターを設置し、障害児支援の地域支援体制の充実を図っています。今後、保育所等訪問支援が利用できる体制を構築するとともに、**保育・教育と連携し**包容（インクルージョン）を推進する体制の構築を検討していきます。

区 分	令和6年度	令和7年度	令和8年度
児童発達支援センターの設置	設置	設置	設置
保育所等訪問支援の利用体制の構築	検討	検討	検討

②重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度末までに、重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所を、各市町村に少なくとも1箇所以上確保すること。

<本市の考え方>

◆本市では、障害児支援の地域支援体制の充実を図るため、児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所の確保に努めていきます。

区 分	令和6年度	令和7年度	令和8年度
児童発達支援事業所	1 箇所	1 箇所	1 箇所
放課後等デイサービス事業所	1 箇所	1 箇所	1 箇所

③ 医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置及びコーディネーターの配置

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度末までに、医療的ケア児が適切な支援が受けられるよう、各都道府県、各圏域、各市町村において、保健、医療、福祉、保育、教育等の関係機関等が連携を図るための協議の場を設けるとともに、医療的ケア児等に関するコーディネーターを配置すること。

<本市の考え方>

◆本市では、医療的ケア児の数が増加する中で、保健、医療、福祉、保育、教育等の各関係機関が連携を図るための協議の場を設けます。また、医療的ケア児に対する支援を総合調整できるコーディネーターの配置に努めます。

区 分	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医療的ケア児の関係機関等が連携を図るための協議の実施	2回	2回	2回
コーディネーターの配置人数	8人	8人	8人
医療的ケア児コーディネーターとの協議の実施	1回	1回	1回

(6) 発達障害者等に対する支援

発達障害者等の早期発見・早期支援には、発達障害者等及びその家族等への支援が重要であることから、保護者等が子どもの発達障害の特性を理解し、必要な知識や方法を身につけ、適切な対応ができるよう、ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等を活用し、発達障害者等及びその家族等に対する支援体制を確保することが重要となります。

また、発達障害の子を育ててきた同じ立場の親が、様々な疑問や不安を持つ親に対して、情報提供や助言等を行うペアレントメンター事業の実施や、情報や意見の交換を行う機会（ピアサポート活動）を設けることも重要となります。

<国の成果目標>

◇ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の支援プログラム等の受講者数（保護者）及び実施者数（支援者）を見込むこと。

◇ペアレントメンターの人数を見込むこと。

<本市の考え方>

◆本市では、発達障害者等に対する支援の充実を図るため、発達障害に関する様々な問題に関して、ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等を活用し、発達障害者等及びその家族等に必要な支援や助言を行います。

また、発達障害の子を育ててきた同じ立場の親が、様々な疑問や不安を持つ親に対して、情報提供や助言等を行うペアレントメンター事業の実施を支援します。

区 分	令和6年度	令和7年度	令和8年度
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の支援プログラム等の受講者数【保護者】	25人	25人	25人
ペアレントトレーニングやペアレントプログラム等の支援プログラム等の実施者数【支援者】	3人	3人	3人
ペアレントメンターの人数	4人	4人	4人

(7) 相談支援体制の充実・強化のための取組

相談支援体制の充実・強化の取組の中核となる基幹相談支援センターの設置が進む中、計画相談支援の対象者を、原則障害福祉サービスを対象とするすべての利用者へ拡大したことに伴い、事業所数及び従事者数は増加しているものの、事業所あたりの相談支援専門員の数が少ない等、運営体制が脆弱な事業所もあることから、これらの事業所を援助し相談支援体制のさらなる充実に向けた取組が求められています。

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度末までに、市町村又は圏域において、相談支援体制の充実・強化等に向けた取組の実施体制を確保すること。

<本市の考え方>

◆本市では、相談支援体制を充実・強化するため、基幹相談支援センターを設置し、障害の種別や各種のニーズに対応できる総合的・専門的な相談支援を行うとともに、地域の相談支援事業者に対する専門的な指導・助言ができる体制の整備や、研修等を実施することにより、人材育成を図ります。

また、地域の相談機関と連携を強化し、相談支援体制を充実するとともに、個別事例の検討を通じた地域サービス基盤の開発・改善等の検討を行います。

区 分		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
新規	基幹相談支援センターの設置	設置	設置	設置	
	相談支援事業者に対する訪問等による専門的な指導・助言件数	検討	検討	検討	
	相談支援事業者の人材育成の支援件数	6 件	6 件	6 件	
新規	相談機関との連携強化の取組の実施回数	6 回	6 回	6 回	
	事例検討の実施回数(頻度)	3 回	3 回	3 回	
	事例検討の参加事業者(機関)数	12 事業者	12 事業者	12 事業者	
	規	協議会の専門部会の設置数	4 か所	4 か所	4 か所
		専門部会の実施回数(頻度)	7 回	7 回	7 回

(8) 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築

障害福祉サービス等が多様化するとともに、多くの事業者が参入している中、改めて障害者総合支援法の基本理念を念頭に、その目的を果たすためには、利用者が真に必要とする障害福祉サービス等の提供を行うことが重要となります。

<国の成果目標>

◇令和8（2026）年度末までに、障害福祉サービス等の質を向上させるための取組を実施する体制を構築すること。

<本市の考え方>

◆本市では、多様化してきている障害福祉サービス等の利用状況を把握し、利用者が必要とする障害福祉サービス等の質を向上させるため体制の構築を図っていきます。

区 分	令和6年度	令和7年度	令和8年度
都道府県が実施する障害福祉サービス等に係る研修その他の研修への市職員の参加人数	4人	4人	4人
障害者自立支援審査支払等システム等を活用し、事業所や関係自治体等と共有する体制の有無及び実施回数	実施	実施	実施
国・県等からの研修などに関する情報を事業所に提供した件数	100件	100件	100件

2 数値目標を達成するための取組

数値目標を達成するため、本計画のほか、第6次朝霞市障害者プランに基づく、障害のある人の地域生活を支援するためのさまざまな施策を実施し、障害福祉サービスや地域生活支援事業などの充実を図ります。

地域生活への移行を進める施策をより効果的に推進するため、関係機関との連携を図るとともに、地域移行支援及び地域定着支援による支援、グループホームなどの住まいの場の提供、訪問系サービスや日中活動系サービスの提供などによる各種支援を行います。

障害福祉サービスや地域生活支援事業の利用に関しては、障害のある人の相談に迅速に対応し、適切な利用を促進していくため、障害福祉サービス事業所等との連携に努めます。

さらに障害者がそれぞれの意欲や能力に応じて働くことができるよう支援する体制づくりを整備する。このため、就労移行支援事業の推進により、障害者の福祉施設から一般就労への移行を進める。

また、新たに創設されたサービスである就労選択支援の提供体制を整備し、障害のある人が就労先・働き方についてより良い選択ができるよう支援をしていきます。

社会情勢の変化に応じ、障害のある人のニーズを踏まえたうえで、数値目標を達成するために、各事業を推進していきます。

第4章 サービス等の見込量とその確保の方策

※実績・計画のうち、令和5（2023）年度の実績は、令和6（2024）年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

1 訪問系サービス

（1）居宅介護

■ サービスの内容

居宅介護は、ホームヘルパーが障害のある人等の居宅を訪問して、入浴、排せつ及び食事などの介護、調理、洗濯及び掃除などの家事並びに生活などに関する相談及び助言その他の生活全般にわたるサービスを行うものです。

■ 対象者

障害支援区分が区分1以上（障害のある児童にあってはこれに相当する支援の度合）の人を対象とします。

ただし、通院等介助（身体介護を伴う場合）においては下記のいずれにも該当する人。

- ① 区分2以上に該当していること
 - ② 障害支援区分の認定調査項目のうち、それぞれ（ア）から（オ）までに掲げる状態のいずれか一つ以上に該当していること
- （ア）「歩行」「全面的な支援が必要」
（イ）「移乗」「見守り等の支援が必要」、「部分的な支援が必要」または「全面的な支援が必要」
（ウ）「移動」「見守り等の支援が必要」、「部分的な支援が必要」または「全面的な支援が必要」
（エ）「排尿」「部分的な支援が必要」または「全面的な支援が必要」
（オ）「排便」「部分的な支援が必要」または「全面的な支援が必要」

■課題・方向性及び方策等

アンケート結果において、「現在利用していないが、3年以内には利用したい」が252人と、利用意向が高いサービスであり、障害のある人の増加、高齢化に伴う介護保険制度の限度額を超えた利用者による利用の増加等により需要が高まっています。今後も、安定したサービス提供体制の確保が必要であり、サービスを提供できる事業所の確保に努めるとともに、より質の高いサービスを提供するよう事業所に要請していきます。

■サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果などより、令和6（2024）年度148人、令和7（2025）年度153人、令和8（2026）年度157人の月間実利用者数を見込みます。

■アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：185人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：252人

■実績・計画

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	140	140	144	148	153	157
月間延利用時間	2,980	2,586	2,861	2,940	3,040	3,119

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用時間数は、月間実利用者数に過去の平均利用時間をかけて算出しています。

(2) 重度訪問介護

■ サービスの内容

重度訪問介護は、重度の肢体不自由のある人で、常時介護を要する障害のある人または重度の知的・精神障害により行動上著しい困難がある人が、居宅において入浴、排せつ及び食事などの介護、調理、洗濯及び掃除などの家事並びに生活などに関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助や外出時における移動中の介護を総合的に受けられるサービスです。

■ 対象者

障害支援区分が区分4以上であって、次の1または2のいずれかに該当する人を対象とします。

- 1 次の①及び②のいずれにも該当していること
 - ① 二肢以上に麻痺等があること
 - ② 障害支援区分の認定調査項目のうち「歩行」「移乗」「排尿」「排便」のいずれも「支援が不要」以外と認定されていること
- 2 障害支援区分の認定調査項目のうち、行動関連項目等（12項目）の合計点数が10点以上の人

■ 課題・方向性及び方策等

利用対象者は比較的重度の障害のある人であり、対象者は少ないものの、サービス提供事業所の人材確保及びサービスの周知が必要となり、サービスを提供できる事業所の確保に努めるとともに、より質の高いサービスを提供するよう事業所に要請していきます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果などより、令和6（2024）年度3人、令和7（2025）年度3人、令和8（2026）年度3人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：30人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：130人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	3	3	3	3	3	3
月間延利用時間	859	808	833	833	833	833

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用時間数は、月間実利用者数に過去の平均利用時間をかけて算出しています。

(3) 同行援護

■ サービスの内容

視覚障害により、移動に著しい困難がある人に対し、外出の同行及び外出時に必要となる排せつ、食事等の援護、その他必要な支援（代筆・代読を含む。）を行います。

■ 対象者

同行援護アセスメント調査票による、調査項目中「視力障害」、「視野障害」及び「夜盲」のいずれかが1点以上であり、かつ、「移動障害」の点数が1点以上の人を対象とします。

■ 課題・方向性及び方策等

介護保険のサービスには相当するものがない障害福祉サービス固有のサービスであるため、今後、介護保険と併給で利用する65歳以上の視覚障害のある人の利用が増加することが予測されます。そのため、サービスに関する周知を行うとともに、障害の状態に適切に対応できるサービス提供事業所の確保に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果などより、令和6（2024）年度13人、令和7（2025）年度14人、令和8（2026）年度14人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：40人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：185人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	17	12	13	13	14	14
月間延利用時間	451	450	403	403	434	434

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用時間数は、月間実利用者数に過去の平均利用時間をかけて算出しています。

(4) 行動援護

■ サービスの内容

行動援護は、知的障害または精神障害により、行動上著しい困難を有する障害のある人や児童で常時介護を要する人が、行動するときの危険を回避するために必要な援護、外出時における移動中の介護、排せつ及び食事などの介護、その他行動する際に必要な援助が受けられるサービスです。

■ 対象者

知的障害または精神障害により、行動上著しい困難を有する障害のある人や障害のある児童で、常時介護を要する人のうち、以下のいずれにも該当する人を対象とします。

- ① 障害支援区分3以上の人
- ② 障害支援区分の認定調査項目のうち行動関連項目等（12項目）の合計点数が10点以上（障害のある児童はこれに相当する支援の度合）の人

■ 課題・方向性及び方策等

行動援護については、事業所が少ないことや、よりサービス内容が柔軟な移動支援事業を代替的に利用する利用者が多いと考えられることが、利用者が増えない理由と考えられます。

サービスの対象者に制度の周知を行いながら、移動支援事業等の他のサービスとの調整を図り、必要な支給決定を行うとともに、サービス提供事業所の確保の検討を進めていきます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果などより、令和6（2024）年度4人、令和7（2025）年度4人、令和8（2026）年度5人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：34人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：216人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	3	3	3	4	4	5
月間延利用時間	60	66	63	84	84	105

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用時間数は、月間実利用者数に過去の平均利用時間をかけて算出しています。

(5) 重度障害者等包括支援

■ サービスの内容

常時介護の必要性が著しく高い人が、居宅介護など複数のサービスを包括的に受けられるサービスです。

■ 対象者

障害支援区分が区分6（障害のある児童にあつては区分6に相当する支援の度合）に該当する人のうち、意思疎通に著しい困難を有する人であつて、以下のいずれかに該当する人を対象とします。

- ① 重度訪問介護の対象であつて、四肢すべてに麻痺があり、寝たきり状態にある障害のある人のうち、次のいずれかに該当する人
 - ・ 気管切開を伴う人工呼吸器による呼吸管理を行っている身体障害のある人
 - ・ 最重度の知的障害のある人
- ② 障害支援区分の認定調査項目のうち行動関連項目等（12項目）の合計点数が10点以上である人

■ 課題・方向性及び方策等

重度障害者等包括支援については、サービスを提供する事業所の確保が課題です。また、このサービスの利用が進まない要因を分析することや、このサービスの必要性などを検討していきます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果などより、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度まで1人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：36人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：160人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	0	0	0	1	1	1
月間延利用時間	0	0	0	-	-	-

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

2 日中活動系サービス

(1) 生活介護

■ サービスの内容

生活介護は、常に介護を必要とする人に、主に昼間に障害者支援施設等で入浴、排せつ及び食事などの介護を提供するとともに、創作的活動または生産活動の機会などを提供するサービスです。

■ 対象者

地域や入所施設において、安定した生活を営むため、常時介護などの支援が必要な障害のある人で次に掲げる人を対象とします。

- ① 障害支援区分3（障害者支援施設に入所する場合は区分4）以上の人
- ② 年齢が50歳以上の場合は、障害支援区分2（障害者支援施設に入所する場合は区分3）以上の人

■ 課題・方向性及び方策等

今後の特別支援学校の卒業生の利用を見込み、地域生活を支えるために、利用者が希望するサービスが安定して提供されるよう、サービス提供事業所の拡充に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績、アンケート結果、特別支援学校の卒業生の利用見込みなどより、令和6（2024）年度197人、令和7（2025）年度202人、令和8（2026）年度208人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：152人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：201人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	185	186	191	197	202	208
月間延利用日数	3,746	3,745	3,856	4,334	4,444	4,576

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(標準22日)をかけて算出しています。

(2) 自立訓練（機能訓練）

■ サービスの内容

自立訓練（機能訓練）は、自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、身体機能または生活能力の向上のために理学療法士や作業療法士からリハビリテーション、日常生活上の支援などが受けられるサービスです。

■ 対象者

地域生活を営む上で必要な身体機能や生活能力の維持・向上などのため、一定の支援が必要な身体障害のある人や高次脳機能障害のある人を対象とします。

具体的には次のような例が挙げられます。

- ① 入所施設・病院を退所・退院した人であって、地域生活への移行などを図る上で、身体的リハビリテーションの継続や身体機能の維持・回復などの支援が必要な人
- ② 特別支援学校を卒業した人であって、地域生活を営む上で、身体機能の維持・回復などの支援が必要な人

■ 課題・方向性及び方策等

身体的リハビリテーションや歩行訓練、コミュニケーション・家事などの訓練を実施することと合わせ、日常生活上の相談支援、関係サービス機関との連絡・調整を通じて、地域生活への移行を目指すものです。

サービス利用希望に適切に対応できるよう、サービス提供事業所の確保が課題であり、今後もサービス提供事業所の安定した確保に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績はほとんどないものの、今後は継続的な利用があるものと予測し、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度まで月間実利用者数を1人と見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：108人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：169人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	1	1	1	1	1	1
月間延利用日数	14	12	13	22	22	22

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(標準 22 日)をかけて算出しています。

(3) 自立訓練（生活訓練）

■ サービスの内容

自立訓練（生活訓練）は、自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、食事や家事などの日常生活能力の向上のための訓練、日常生活上の支援などが受けられるサービスです。

■ 対象者

地域生活を営む上で必要な生活能力の維持・向上などのため、以下に該当する一定の支援が必要な障害のある人を対象とします。

具体的には次のような例が挙げられます。

- ① 入所施設・病院を退所・退院した人であって、地域生活への移行を図る上で生活能力の維持・向上などの支援が必要な人
- ② 特別支援学校を卒業した人、継続した通院により症状が安定している人などであって、地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上などの支援が必要な人

■ 課題・方向性及び方策等

食事や家事などの日常生活能力向上のための支援を実施することと合わせ、日常生活上の相談支援、関係サービス機関との連絡・調整を通じて地域生活への移行を目指すものです。

サービスの利用希望が生じたときに適切に提供できるようサービス提供事業所の確保が課題であり、今後もサービス提供事業所の安定した確保に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、今後利用者が増加すると予測し、令和6（2024）年度 38 人、令和7（2025）年度 44 人、令和8（2026）年度 51 人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：61 人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：166 人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	29	29	33	38	44	51
月間延利用日数	405	392	453	836	968	1,122

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。

※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(標準 22 日)をかけて算出しています。

(4) 就労選択支援【新規】

■ サービスの内容

就労アセスメントの手法を活用して、本人の就労能力や適性、配慮事項などを整理し、本人の希望に応じて、能力などに合致した一般就労と福祉サービスの事業所の選択を可能にするサービスです。

■ 対象者

年齢や障害種別などに関係なく就労アセスメントによる支援を希望し、サービスの利用を申請した障害のある人を対象とします。また、既に就労系障害福祉サービスを利用している人も対象とします。

■ 課題・方向性及び方策等

検討中
※令和4年改正障害者総合支援法の公布後3年以内の政令で定める日から施行されることになっております。

■ サービスの見込量

検討中

■ 実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数				検討	検討	検討

(5) 就労移行支援

■ サービスの内容

就労移行支援は、一般企業への就労を希望する人が、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を受けることができるサービスです。

就労移行支援は、一般就労を希望している人の中で、適性にあった職場への就労などが見込まれる人に対して、知識・能力の向上、実習、職場探しなど、サービス提供事業所内における作業訓練や職場実習、就職後の職場定着支援などを実施する事業です。

■ 対象者

就労を希望する障害のある人で、単独で就労することが困難であるため、就労に必要な知識及び技術の習得もしくは就労先の紹介その他の支援が必要な65歳未満の人または65歳以上の人を対象とします。

ただし、65歳以上の方は、65歳に達する前5年間（入院その他やむを得ない事由により障害福祉サービスに係る支給決定を受けていなかった期間を除く。）引き続き障害福祉サービスに係る支給決定を受けていた人であって、65歳に達する前日において就労移行支援に係る支給決定を受けていた人に限る。

■ 課題・方向性及び方策等

朝霞市内にサービス利用者が増加しており、市内だけでなく近隣市や、県内、都内のサービス提供事業所に利用者が通所しています。

今後も特別支援学校の卒業生などの利用を見込んでおり、サービス提供事業所の確保が課題であり、今後もサービス提供事業所の安定確保に努めます。

■ サービスの見込量

アンケート結果において、働く場の確保について多数の意見があることから、今後は利用者が増加すると推定し、令和6(2024)年度73人、令和7(2025)年度80人、令和8(2026)年度88人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：35人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：123人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	60	60	66	73	80	88
月間延利用日数	1,088	1,094	1,199	1,606	1,760	1,936

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。

※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(標準 22 日)をかけて算出しています。

(6) 就労継続支援 (A型)

■ サービスの内容

就労継続支援 (A型) は、一般企業などでの就労が困難な人に、通所により雇用契約に基づく就労の機会を提供するとともに、一般就労に必要な知識及び能力が高まった人について、一般就労への移行に向けた支援を行うサービスです。

■ 対象者

企業などに就労することが困難な障害のある人で、雇用契約に基づき、継続的に就労することが可能な 65 歳未満の人または 65 歳以上の人を対象とします。

ただし、65 歳以上の方は、65 歳に達する前 5 年間 (入院その他やむを得ない事由に障害福祉サービスに係る支給決定を受けていなかった期間を除く。) 引き続き障害福祉サービスに係る支給決定を受けていたものであって、65 歳に達する前日において就労継続支援 A 型に係る支給決定を受けていた者に限る。

具体的には次のような例が挙げられます。

- ① 就労移行支援を利用したが、企業などの雇用に結びつかなかった人
- ② 特別支援学校を卒業して就職活動を行ったが、企業などの雇用に結びつかなかった人
- ③ 企業などを離職した人など就労経験のある人で、現に雇用関係がない人

■ 課題・方向性及び方策等

潜在的なニーズはあると推察されますが、B 型と比較してサービス提供事業所が少ないため、サービス提供体制の確保が課題となっています。

今後、サービス利用者の増加に対応するため、障害者就労支援センターなどを通じて、サービス提供事業所、関係機関との連携・調整を図ります。

■ サービスの見込量

アンケート結果において、働く場の確保について多数の意見があることから、今後は利用者が増加すると推定し、令和 6 (2024) 年度 13 人、令和 7 (2025) 年度 14 人、令和 8 (2026) 年度 15 人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果 (今後 3 年以内の利用意向)

現在利用しており、今後も利用したい：14 人

現在利用していないが、3 年以内には利用したい：94 人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	11	11	12	13	14	15
月間延利用日数	195	195	212	286	308	330

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。

※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(標準 22 日)をかけて算出しています。

(7) 就労継続支援（B型）

■ サービスの内容

就労継続支援（B型）は、一般企業などでの就労が困難な障害のある人に、通所により就労や生産活動の機会を提供するとともに、一般就労に必要な知識や能力が高まった人に対しては一般就労などへの移行に向けて支援を行うサービスです。

■ 対象者

就労移行支援事業等を利用したが一般企業等の雇用に結びつかない人や、一定年齢に達している人等であって、就労の機会などを通じ、生産活動に係る知識及び能力の向上や維持が期待される障害のある人を対象とします。

具体的には次のような例が挙げられます。

- ① 就労経験がある人で、年齢や体力面で一般企業に雇用されることが困難となった人
- ② 50歳に達している人または障害基礎年金1級の受給者
- ③ 上記①、②に該当しない人で、就労移行支援事業者等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている就労継続支援事業（B型）の利用を希望する人

■ 課題・方向性及び方策等

特別支援学校の卒業生等のサービスの利用が見込まれる人に対応するため、障害者就労支援センターなどにより、サービス提供事業所、関係機関との連携・調整を図ります。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、今後、利用者が増加すると予測し、令和6（2024）年度181人、令和7（2025）年度189人、令和8（2026）年度197人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：86人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：90人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	165	167	174	181	189	197
月間延利用日数	2,765	2,782	2,905	3,982	4,158	4,334

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。

※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(標準 22 日)をかけて算出しています。

(8) 就労定着支援

■ サービスの内容

就労定着支援は、就労移行支援等を利用し一般企業等に就労した人に、就労定着支援事業所の職員が職場・家族・関係機関への連絡調整を行ったり、職場や自宅に訪問し、生活リズムや体調等の指導や助言等を行ったりすることで、環境の変化に適應できるよう支援を行うサービスです。

■ 対象者

就労移行支援等を利用した後、通常の事業所に新たに雇用された障害のある人であって、就労を継続している期間が6月を経過した人（病気や障害により通常の事業所を休職し、就労移行支援等を利用した後、復職した人であって、就労を継続している期間が6月を経過した人も含む。）を対象とします。

■ 課題・方向性及び方策等

就労移行支援等を利用し、一般企業などで就労をする人は増加している一方、職場の定着率が課題であることから、就労移行支援事業所に本サービスの提供を促し、利用の促進に努めます。

■ サービスの見込量

これまでの利用実績及びアンケート結果から、今後利用者が増加すると推定し、令和6（2024）年度28人、令和7（2025）年度34人、令和8（2026）年度41人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：34人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：124人

■ 実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	18	20	24	28	34	41

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

(9) 療養介護

■ サービスの内容

療養介護は、医療と常時介護を必要とする人に、病院で機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び日常生活上の世話などを支援するサービスです。

■ 対象者

病院などへの長期の入院による医療的ケアに加え、常時の介護を必要とする障害のある人で、次に掲げる人を対象とします。

- ① 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者など気管切開を伴う人工呼吸器による呼吸管理を行っている人で、障害支援区分6の人
- ② 筋ジストロフィー患者または重症心身障害のある人で、障害支援区分5以上の人
- ③ 平成24（2012）年3月31日時点において重症心身障害児施設に入所していた人または改正前の児童福祉法に基づく指定医療機関に入院していた人であって、平成24（2012）年4月1日以降も指定療養介護事業所を利用する①及び②以外の人

■ 課題・方向性及び方策等

該当となる対象施設は重症心身障害児施設、指定医療機関等であり、医療及び介護が必要となった場合に、このサービスを利用することとなります。
市内及び近隣地域に事業所がないことが課題となっています。

■ サービスの見込量

利用実績がほぼ同数で推移しているものの、アンケート結果から、今後は利用者が微増すると推定し、令和6（2024）年度13人、令和7（2025）年度14人、令和8（2026）年度14人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：44人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：159人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	13	12	13	13	14	14

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

(10) 短期入所

■ サービスの内容

居宅において、介護する人が病気その他の理由により、介護を行えない場合などの際に短期間、夜間も含めて障害者支援施設等で入浴、排せつ及び食事の介護などが受けられるサービスです。

■ 対象者（福祉型）・・・障害者支援施設等において実施

障害支援区分1以上（障害のある児童は、これに相当する支援の度合）の人を対象とします。

■ 対象者（医療型）・・・病院・介護老人保健施設等において実施

以下に該当する人を対象とします。

- ① 療養介護の対象となる人
- ② 重症心身障害のある人等
- ③ 遷延性意識障害のある人等、筋萎縮性側索硬化症（ALS）等の運動ニューロン疾患の分類に属する疾患を有する人

■ 課題・方向性及び方策等

アンケート結果においては、利用希望者数が多くなっており、利用希望者本人及び家族の意向を考慮し、適切なサービスにつなげられるような相談体制を目指します。

市内には、福祉型の施設が4か所、医療型が1か所ありますが、短期入所施設について、関係機関などと検討しながら、本計画に則して、事業者等による開設を促進し、既存の事業者においては、緊急時の利用も含め、より柔軟な事業の実施を促していきます。

■ サービスの見込量

利用実績やアンケート結果から、福祉型を令和6（2024）年度20人、令和7（2025）年度20人、令和8（2026）年度21人、医療型を令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までを各1人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：97人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：247人

■実績・計画（福祉型）

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	18	18	19	20	20	21
月間延利用日数	172	168	179	188	188	198

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に過去の平均利用日数をかけて算出しています。

■実績・計画（医療型）

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	1	1	1	1	1	1
月間延利用日数	3	3	3	3	3	3

※令和5(2023)年度の数值は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数值です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に過去の平均利用日数をかけて算出しています。

(11) 自立生活援助

■ サービスの内容

自立生活援助は、居宅における自立した日常生活を営む上でのさまざまな問題について、定期的な巡回または随時通報を受けて行う訪問、相談対応等により、障害のある人の状況を把握し、必要な情報の提供及び助言並びに相談、関係機関との連絡調整等の援助を行うサービスです。

■ 対象者

障害者支援施設やグループホーム等を利用していた障害のある人等で、自立した日常生活を営む上でのさまざまな問題に対する支援が見込めない状況にある人を対象とします。

■ 課題・方向性及び方策等

一人暮らしの希望がある施設入所者等について、その自立を支援することにより、本人の希望に沿った地域での生活が可能となるとともに、真に入所が必要な人が入所の適用となることから、事業者の本サービスの提供を促し、利用の促進に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、令和6(2024)年度から令和8(2026)年度までを各2人と見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：80人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：187人

■ 実績・計画

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	0	2	2	2	2	2

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

3 居住系サービス

(1) 共同生活援助（グループホーム）

■ サービスの内容

夜間や休日、共同生活を行う住居で、入浴、排せつ及び食事などの介護や日常生活上の援助が受けられるサービスです。

■ 対象者

身体障害のある人（65歳未満の人または65歳に達する日の前日までに障害福祉サービスもしくはこれに準ずるものを利用したことがある人に限る。）、知的障害のある人及び精神障害のある人を対象とします。

■ 課題・方向性及び方策等

障害のある人の自立、地域移行を支えるために欠かすことのできない基盤となる施設です。

精神障害のある人などの退院促進を進めていくためにも、サービス提供事業所の増加が期待されます。地域生活への移行がスムーズに進められるよう、サービス提供事業所との連携に努めます。なお、障害者総合支援法等の改正により、グループホームの支援内容として、一人暮らし等を希望する利用者に対する支援や退居後の一人暮らし等の定着のための相談等の支援が含まれる点について、明確化されました。

また、低所得のグループホームの入居者に係る支援として、家賃の一部を補助する特定障害者特別給付費の支給を行います。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、今後も利用者が増加すると予測し、令和6（2024）年度 106 人、令和7（2025）年度 120 人、令和8（2026）年度 137 人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：68 人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：114 人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	79	82	93	106	120	137

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

(2) 施設入所支援

■ サービスの内容

施設に入所する障害のある人につき、主として夜間において、入浴、排せつ及び食事などの介護を行うサービスです。

■ 対象者

以下に該当する人を対象とします。

- ① 生活介護利用者であって、障害支援区分4（50歳以上の人の場合は、区分3）以上である人
- ② ①以外の人のうち、指定特定相談支援事業者によるサービス等利用計画案の作成の手続を経た上で、市が利用の組合せの必要性を認めた人
- ③ 自立訓練または就労移行支援の利用者で、入所させながら訓練等を実施することが必要かつ効果的であると認められる人、または地域の提供体制の状況などにより、通所によって訓練などを受けることが困難である人
- ④ 就労継続支援B型を受けている者のうち、指定特定相談支援事業者によるサービス等利用計画案の作成の手続を経た上で、市が利用の組合せの必要性を認めた人

■ 課題・方向性及び方策等

地域生活が困難である入所待機者が多い埼玉県の実情を勘案し、実績をもとに、今後の利用見込み者数を設定します。施設入所が必要な障害のある人のニーズを把握し、適切な施設との連携及び入所調整を進めるとともに、地域での生活が可能な人については、施設から地域への移行を支援します。

■ サービスの見込量

利用実績は横ばいで推移していますが、アンケート結果における利用意向を踏まえ、今後は利用者が増加すると予測し、令和6（2024）年度90人、令和7（2025）年度91人、令和8（2026）年度93人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：114人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：163人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	87	87	88	90	91	93

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

4 相談支援

(1) 計画相談支援、地域相談支援（地域移行支援、地域定着支援）

■ サービスの内容

計画相談支援は、指定特定相談支援事業者が、障害福祉サービスを利用する人について、心身の状態や置かれている環境、サービス利用に関する意向等を聞きながら、サービス等利用計画を作成するものです。

（※障害児相談支援については、「5 障害のある児童への支援（4）障害児相談支援」をご参照ください。）

サービス等利用計画に沿ったサービスを提供するため、障害福祉サービスの支給決定後、サービス事業者等との連絡調整をしたり、サービスが適切に提供されているか等を定期的に確認し、必要に応じて計画の見直し（モニタリング）を行います。

計画相談支援の利用料については、利用者の負担はありません。

地域移行支援は、障害者支援施設等に入所している人、精神科病院に入院している精神障害のある人、保護施設・矯正施設等に入所している障害のある人に対して、保健所・自治体・病院・障害福祉サービス提供事業所などの関係機関が協力して、地域での生活に移行するための活動に関する相談その他の必要な支援を行うサービスです。

地域定着支援は、居宅において単身等で生活する障害のある人等について、常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態などにおいて相談その他必要な支援を行うサービスです。

■ 対象者

計画相談支援については、障害福祉サービスまたは地域相談支援を利用するすべての障害のある人または障害のある児童を対象とします。

なお、介護保険サービスと障害福祉サービスの両方を利用する場合については、市が介護保険制度の居宅介護支援計画（ケアプラン）の作成で足りると判断する場合は、サービス等利用計画の作成を求めないこともできます。

地域相談支援の地域移行支援では、障害者支援施設などに入所している障害のある人または精神科病院に入院している精神障害のある人を対象とします。

また、地域定着支援では、居宅において単身で生活する人や同居している家族による支援を受けられない人を対象とします。

■課題・方向性及び方策等

障害福祉サービスの需要が高まる中で、必要なサービスを適切に利用できることが求められます。そのため、計画相談支援については、サービスの提供体制の充実を図り、きめ細やかなサービス等利用計画の立案により、障害福祉サービスが必要な人を支援していくとともに、計画案の質の確保を行います。

また、長期入院患者の退院支援や独居の人の支援として地域移行支援や地域定着支援の利用者も増えていくことが予測されるため、地域の連携体制が確立できるよう努めます。

■サービスの見込量

計画相談支援は、利用実績及びアンケート結果でのニーズが高いことから、今後、利用者が増加すると推定し、令和6（2024）年度242人、令和7（2025）年度256人、令和8（2026）年度271人の月間実利用者数を見込みます。

地域移行支援は、利用実績はありませんが、アンケート結果では利用意向もあることから、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度まで月間実利用者数を1人と見込みます。

地域定着支援は、年度により増減の変動がありますが、今後は利用者が微増すると予測し、令和6（2024）年度10人、令和7（2025）年度11人、令和8（2026）年度12人の月間実利用者数を見込みます。

■アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

【計画相談支援】

現在利用しており、今後も利用したい：162人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：153人

【地域移行支援・地域定着支援】

現在利用しており、今後も利用したい：21人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：103人

■実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
計画相談支援 月間実利用者数	210	216	229	242	256	271
地域移行支援 月間実利用者数	0	0	0	1	1	1
地域定着支援 月間実利用者数	9	9	10	10	11	12

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

5 障害のある児童への支援

(1) 障害児通所支援

① 児童発達支援

■ サービスの内容・対象者

集団療育及び個別療育を行う必要があると認められる未就学の障害のある児童について、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を行います。

■ 課題・方向性及び方策等

市内のサービス提供事業所は増加傾向にありますが、利用者の増加も著しいため、市内だけでなく近隣市や、県内、都内のサービス提供事業所に利用者が通所しています。関係機関との連携によって、引き続き、必要な療育を提供できるよう支援していきます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果のニーズの高さを踏まえ、令和6(2024)年度294人、令和7(2025)年度322人、令和8(2026)年度350人の月間実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：120人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：13人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	235	238	266	294	322	350
月間延利用日数	1,951	1,942	2,189	2,419	2,650	2,880

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に過去の平均利用日数をかけて算出しています。

②医療型児童発達支援

■サービスの内容・対象者

肢体不自由（上肢、下肢または体幹機能の障害）があり、理学療法等の機能訓練または医療的管理下での支援が必要と認められた障害のある児童について、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援と治療を行います。

■課題・方向性及び方策等

令和元（2019）年度までに利用者はいませんでしたが、関係機関と連携し、実態の把握に努めるとともに、利用希望があった場合は、適切なサービスを提供する医療機関の情報提供などを行い、医学的管理の下で必要な療育を受けられるよう支援していきます。

■サービスの見込量

これまでに利用者はいませんでしたが、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度まで、月間実利用者数を1人と見込みます。

■アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：5人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：21人

■実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	0	0	0	1	1	1
月間延利用日数	0	0	0	8	8	8

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

※令和6(2021)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に平均利用日数(実績なしのため児童発達支援を参照)をかけて算出しています。

③放課後等デイサービス

■サービスの内容・対象者

小・中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校に就学している障害のある児童について、学校の授業終了後や夏休みなどに、障害児通所支援施設に通わせ、生活能力向上のために必要な訓練や、社会との交流の促進などの支援を行うサービスです。

■課題・方向性及び方策等

市内に、新たな事業所が増加してきたことにより、潜在的なニーズが満たされてきていると推測されます。

このサービスには、障害のある児童を介護する親・家族などのレスパイトケア（家族等に代わり一時的にケアを代替することで、日々の疲れ等をリフレッシュしてもらう家族支援サービス）としての役割があります。

新規事業所の開設等について、事業者等から市に相談があった場合などは、本計画に基づき必要な支援をしていきます。

■サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果でのニーズの高さを踏まえ、令和6（2024）年度335人、令和7（2025）年度365人、令和8（2026）年度395人の月間実利用者数を見込みます。

■アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：127人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：75人

■実績・計画

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	268	275	305	335	365	395
月間延利用日数	3,159	3,191	3,565	3,916	4,266	4,617

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に過去の平均利用日数をかけて算出しています。

④保育所等訪問支援

■サービスの内容・対象者

保育所その他の児童が集団生活を営む施設として厚生労働省令で定めるものに通う障害のある児童について、療育の専門スタッフが保育所等を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援などを行うサービスです。

■課題・方向性及び方策等

利用者が徐々に増加しており、今後は、サービスを提供する事業者の確保や制度の周知が課題となります。利用希望があった場合は、保護者等の希望を踏まえ、サービスを提供する事業者が個別支援計画を作成し、障害のある児童が集団の中で、より過ごしやすいようになるための支援が行われるよう、訪問先施設との連携を図ります。

■サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、今後も利用者が増加すると予測し、令和6（2024）年度46人、令和7（2025）年度55人、令和8（2026）年度65人の月間実利用者数を見込みます。

■アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：41人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：32人

■実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	32	32	38	46	55	65
月間延利用日数	37	37	43	52	63	74

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に過去の平均利用日数をかけて算出しています。

(2) 居宅訪問型児童発達支援

■ サービスの内容・対象者

重度の障害等の状態にある児童を対象に、居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を行うサービスです。

■ 課題・方向性及び方策等

重度の障害等により外出が困難な状態にある児童に対し、必要な療育を行うため、事業者にサービスの提供を促し、利用の促進に努めます。

なお、居宅訪問型保育事業と対象者が重複することから、関係機関との連携に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、令和6(2024)年度から令和8(2026)年度までの月間実利用者数を1人と見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：4人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：10人

■ 実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
月間実利用者数	0	1	1	1	1	1
月間延利用日数	0	3	3	3	3	3

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

※令和6(2024)年度以降の月間延利用日数は、月間実利用者数に過去の平均利用日数をかけて算出しています。

(3) 障害児入所支援

①福祉型障害児入所施設

■サービスの内容・対象者

障害のある児童や児童相談所、保健センター、医師等により療育の必要性が認められた児童を対象に児童の保護、日常生活の指導及び生活に必要な知識技能の付与を行うサービスです。

②医療型障害児入所施設

■サービスの内容・対象者

知的障害のある児童、肢体不自由の児童、重症心身障害のある児童や、児童相談所、保健センター、医師等により療育の必要性が認められた児童を対象に、児童の保護、日常生活の指導及び生活に必要な知識技能の付与及び治療を行うサービスです。

■課題・方向性及び方策等

障害児入所施設の利用については、県の決定によるものであることから、サービスの見込量は定めませんが、利用の必要がある児童が認められた際は、迅速に対応できるよう、関係機関との連携に努めます。

(4) 障害児相談支援

①障害児相談支援

■サービスの内容・対象者

障害児相談支援は、指定障害児相談支援事業者が、障害児通所支援を利用する人について、心身の状態や置かれている環境、サービスの利用に関する意向等を聞きながら、障害児支援利用計画を作成するものです。

■課題・方向性及び方策等

障害児通所支援に関しては、児童発達支援及び放課後等デイサービスを利用する児童が年々増加しており、今後も利用者が増加していくことが予測されます。必要なサービスを適切に利用できるように努めます。

■サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果から、今後も利用が増加すると予測し、令和6(2024)年度229人、令和7(2025)年度269人、令和8(2026)年度315人の月間実利用者数を見込みます。

■アンケート調査結果(今後3年以内の利用意向)

現在利用しており、今後も利用したい：134人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：28人

■実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	163	167	196	229	269	315

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

② 医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置

■ サービスの内容・対象者

医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターは、医療的ケア児が必要とする多分野にまたがる支援の利用を調整し、総合的かつ包括的な支援の提供につなげるとともに、協議の場等に参画し、地域における課題の整理や地域資源の開発等を行い、医療的ケア児に対する支援のための地域づくりを推進する役割を担っています。

■ 課題・方向性及び方策等

医療的ケア児に対する関係分野の支援を調整するコーディネーターについては、埼玉県において開催される医療的ケア児等コーディネーター養成研修が行われる際に、市内の事業者にも所属の相談支援専門員や保健師等の対象となる者に周知し、研修受講者を募り増員を図ります。

また、先進自治体の取組等を調査研究し、医療的ケア児やその家族が地域で安心して暮らしていけるよう、コーディネーター配置済みの事業者や関係機関と連携するとともに、安定した相談支援体制の整備に向けて、障害者自立支援協議会専門部会（医療的ケア児部会）において、コーディネーターの活用方法等について検討していきます。

■ サービスの見込量

令和6（2024）年度から令和8（2026）年度まで、医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のうち、相談支援事業に従事する職員8人の配置を見込みます。

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
配置人数	4	6	8	8	8	8

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者のうち、相談支援事業所に所属し、市が把握している人数です。

(5) 障害のある児童への子ども・子育て支援等(教育・保育)

■ サービスの内容・対象者

子ども・子育て支援等の利用を希望する障害のある児童が希望に沿った利用ができるよう、保育所や認定こども園、放課後児童健全育成事業等における障害のある児童の受け入れ体制整備を行うものです。

■ 課題・方向性及び方策等

保育所については公設保育園において統合保育を目的として「育成保育事業」を実施しています。また、民間の保育所や放課後児童クラブにおいても、障害のある児童の受け入れの体制を整えています。さらに、学校卒業後の生活も視野に入れ、障害のある児童が健やかに成長することを目的に「障害児放課後児童クラブ事業」を実施しています。

課題としては医療的行為が必要な児童の受け入れが挙げられ、居宅訪問型保育など多角的な支援の検討が必要です。

■ サービスの見込量

令和6(2024)年度から令和8(2026)年度までは、増加傾向で推移すると見込みます。

■ 実績・計画

施設名	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	障害のある児童の利用希望人数 (実人数)	障害のある児童の受入人数 (実人数)	障害のある児童の利用希望人数 (実人数)	障害のある児童の受入人数 (実人数)	障害のある児童の利用希望人数 (実人数)	障害のある児童の受入人数 (実人数)
1 保育所	95	106	119	106	125	111
2 認定こども園	8	4	9	4	8	4
3 放課後児童健全育成事業 *1)	29	29	29	29	46	46
4 幼稚園 *2)	23	23	22	22		
5 特定地域型保育事業 *3)	8	27	8	28	10	26
6 認可外(地方単独事業) *4)	-	-	-	-	-	-

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

施設名	令和6年度		令和5年度		令和8年度	
	障害のある児童の利用希望人数 (実人数)	障害のある児童の受入可能人数 (実人数)	障害のある児童の利用希望人数 (実人数)	障害のある児童の受入可能人数 (実人数)	障害のある児童の利用希望人数 (実人数)	障害のある児童の受入可能人数 (実人数)
1 保育所	107	109	107	109	107	109
2 認定こども園	6	6	6	6	6	6
3 放課後児童健全育成事業 *1)	52	52	52	52	52	52
4 幼稚園 *2)	20	20	20	20	20	20
5 特定地域型保育事業 *3)	3	26	3	26	3	26
6 認可外(地方単独事業) *4)	-	-	-	-	-	-

*1) 子ども・子育て支援法第59条に定める当該事業の「実人数」を記載

*2) 私学助成の対象である幼稚園を含む

*3) 小規模保育、家庭的保育、事業所内保育、居宅訪問型保育

*4) 地方自治体が一定の基準に基づき運営費支援を行っている認可外保育施設

※年間実人数

第5章 地域生活支援事業等

※実績・計画のうち、令和5（2023）年度の実績は、令和6（2024）年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。また、見込量については、原則として新型コロナウイルス感染症の影響は勘案しておりません。

■ 地域生活支援事業とは

障害のある人等がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた事業を効率的・効果的に実施し、障害のある人の福祉の増進を図るとともに、障害の有無にかかわらず、すべての人がお互いに人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与することを目的とする事業です。

障害者総合支援法のもと、国が定める地域生活支援事業実施要綱に基づき、都道府県が実施主体となる都道府県地域生活支援事業と市町村が実施主体となる市町村地域生活支援事業があります。

都道府県または市町村が、法律上実施しなければならない具体的な事業（必須事業）を行うほか、都道府県または市町村の判断により、障害のある人等が自立した日常生活または社会生活を営むために必要な事業（任意事業）を実施することができます。

市では、市内外の社会資源を有効に活用し、効率的・効果的な事業の実施を図ります。

また、県が実施主体として実施する事業で、県と市が連携して実施する必要がある事業については、県や他の市町村の動向を勘案し、関係機関・関係部署などとの協議や、朝霞市障害者プラン推進委員会及び朝霞市障害者自立支援協議会での検討を行い、事業が適切に実施できるよう努めます。

必須事業

1 理解促進研修・啓発事業

■ サービスの内容・対象者

障害のある人等が日常生活及び社会生活を営む上で生じる「社会的障壁」をなくすため、障害のある人等の理解を深めるため研修・啓発を通じて地域住民への働きかけを強化することにより、共生社会の実現を図ります。

■ 課題・方向性及び方策等

障害や障害のある人に対する理解を深めるための普及啓発の講演会や事業等を、市内の障害者団体等と協力して、毎年実施していきます。

本市では、「朝霞市障害者理解に関する普及啓発事業補助金交付要綱」を定め、障害者団体等の実施する講演会等の事業に対して経費を補助しており、今後も障害者団体等への働きかけや情報の周知に努めます。

■ サービスの見込量

さまざまな障害者団体等に呼び掛け、それぞれのノウハウを活かし、障害や障害のある人等への理解を促進するための啓発事業を実施していきます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：8人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：138人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
理解促進研修・啓発事業 (実施の有無)	未実施	実施	実施	実施	実施	実施

2 自発的活動支援事業

■ サービスの内容・対象者

障害のある人等が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、障害のある人等やその家族、地域住民等による地域における自発的な取組を支援することにより、共生社会の実現を図ります。

■ 課題・方向性及び方策等

障害のある人やその家族が互いの悩みなどを共有し、交流を図ることを目的として、障害福祉の向上を目指して活動している障害者団体に対して、補助金を交付します。

本市では、「朝霞市福祉団体等の補助金交付要綱」を定め、福祉団体等の育成、福祉の増進を図るため、福祉団体等の事業補助金及び活動費補助金を交付しており、今後も福祉団体等への働きかけや情報の周知に努めます。

■ サービスの見込量

平成 25（2013）年度から地域生活支援事業の必須事業に位置付けられました。今後も事業の実施に努めます。

■ 実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
自発的活動支援事業 (実施の有無)	実施	実施	実施	実施	実施	実施

3 相談支援事業

■ サービスの内容・対象者

○障害者相談支援事業

障害のある人等の福祉に関する各種の問題について、障害のある人等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援など、必要な支援を行います。また、虐待の防止及びその早期発見のため、関係機関との連絡調整その他の障害のある人等の権利擁護のために必要な援助（相談支援事業）を行います。

事業内容は、①福祉サービスの利用援助（情報提供、相談など）、②社会資源を利用するための支援（各種支援施設に関する助言・指導など）、③社会生活力を高めるための支援、④ピアカウンセリング、⑤成年後見制度など権利擁護のための制度の利用に必要な援助、⑥専門機関の紹介などです。

相談支援事業の効果的な実施に向けて、地域において障害のある人等を支えるネットワークの構築を図るため、市町村は、協議会を設置し、中立・公平な相談支援事業の実施のほか、地域の関係機関の連携強化、社会資源の開発・改善等を推進します。

○基幹相談支援センター等機能強化事業

市町村における相談支援事業が適正かつ円滑に実施されるよう、一般的な相談支援事業に加え、特に必要と認められる能力を有する専門的職員を配置することにより、相談支援機能の強化を図ります。なお、専門的職員とは、社会福祉士、保健師、精神保健福祉士などの資格を有する職員です。

また、市（ケースワーカーや保健師等）、就労支援センター、障害福祉サービス事業所、教育・就労等に関する各種の相談機関など、地域の多数の関係機関との連携を強化し、相談者の継続した支援に当たります。

○基幹相談支援センター

地域生活支援事業実施要綱では、市町村単独または複数の市町村などにより、地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、地域の実情（人口規模、地域における相談支援の体制、人材確保の状況等）に応じて、次のような業務等を行う機関を設置することが**市町村の努力義務**とされています。

- 障害の種別やさまざまなニーズに対応できる総合的な相談への対応
- 地域の相談支援事業者に対する指導・助言、人材育成の支援など（研修会、日常的な事例検討会等）
- 障害者支援施設や精神科病院等への地域移行に向けた普及啓発など地域移行、地域定着の促進への取組
- 権利擁護（成年後見制度や虐待防止）の取組

○住宅入居等支援事業（居住サポート事業）

賃貸契約による一般住宅（公営住宅及び民間の賃貸住宅）への入居を希望していても、保証人がいないなどの理由により入居が困難な障害のある人に対し、入居に必要な調整などに係る支援を行うとともに、家主などへの相談・助言を通じて障害のある人の地域生活を支援するものです。

■課題・方向性及び方策等

本市では、平成20（2008）年から障害者自立支援協議会を設置し、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりなどを目的として、中核的な役割を果たす協議の場として開催しています。今後は、専門部会を活用していくことや、基幹相談支援センターを相談事業の中心的な役割として設置し、機能させていくことが課題となっています。障害のある人等の相談支援事業は、社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会に委託して実施しています。また、市では、障害福祉課内に障害者虐待防止センターを設置し、障害のある人等への虐待に関する相談や通報を受けたときは、関係機関との連携により円滑な解決に努めています。

■サービスの見込量

障害者相談支援事業は現在、はあとぴあ障害者相談支援センターで実施し、基幹相談支援センター等機能強化事業として専門職を配置しており、今後も継続していきます。

基幹相談支援センターの設置については、実施に向けて検討していきます。住宅入居等支援事業については、令和4年度より居住支援相談事業として、障害者を含む住宅確保要配慮者に対し、社会福祉士による相談や住まい探しなどの生活支援を実施しております。

■アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：107人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：288人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
障害者相談支援事業 (箇所数)	1	1	1	1	1	1
基幹相談支援センター 等機能強化事業 (実施の有無)	実施	実施	実施	実施	実施	実施
基幹相談支援センター (実施の有無)	未実施	未実施	未実施	実施	実施	実施
住宅入居等支援事業 (実施の有無)	未実施	実施	実施	実施	実施	実施

4 成年後見制度支援事業

(1) 成年後見制度利用支援事業

■ サービスの内容・対象者

障害福祉サービスの利用などの観点から、成年後見制度の利用が有効と認められる知的障害のある人、精神障害（高次脳機能障害等を含む。）、遷延性意識障害等のある人に対して、成年後見制度の利用に係る費用を支給することにより、障害のある人の権利擁護を図ります。成年後見制度の利用を希望するが、身寄りがない利用者の成年後見制度の申立て（市長申立て）に要する経費の負担及び成年後見人等の報酬について助成します。

■ 課題・方向性及び方策等

成年後見制度利用に関する支援について、必要な経費の負担に対する助成などにより、今後も支援を継続していきます。

■ サービスの見込量

令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までの年間利用件数を各年度3件と見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：19人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：149人

■ 実績・計画

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年間利用件数 (市長申立て)	2	3	3	3	3	3

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

(2) 成年後見制度法人後見支援事業

■ サービスの内容・対象者

成年後見制度における後見等の業務を適正に行うことができる法人を確保できる体制を整備するとともに、市民後見人の活用も含めた法人後見の活動を支援することで、障害のある人の権利擁護を図ることを目的とします。

■ 課題・方向性及び方策等

市と社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会において、既に本事業を実施している近隣市などの事例を調査・研究し、実施に向けて協議していきます。

■ サービスの見込量

関係機関と協議を進め、令和8（2026）年度まで引き続き実施を検討します。

■ 実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
実施の有無	未実施	未実施	未実施	検討	検討	検討

5 意思疎通支援事業

■ サービスの内容・対象者

意思疎通支援事業は、聴覚、言語機能、音声機能、視覚、失語、知的、発達、高次脳機能、重度の身体などの障害や難病のため、意思疎通を図ることに支障がある障害のある人に、手話通訳、要約筆記等の方法により、意思疎通を支援する手話通訳者、要約筆記者等の派遣などを行う事業です。

意思疎通支援事業は、入院中においても、入院先医療機関との調整の上で利用することができます。

○手話通訳者派遣事業

官公庁の手続や行事、医療機関の受診などで聴覚障害のある人が手話通訳を必要とする場合、手話通訳者を派遣します。

○手話通訳者設置事業

聴覚等に障害のある人が、手続や相談などの際に円滑な意思疎通が図れるよう、手話通訳者を市役所の窓口に配置する事業です。

○要約筆記者派遣事業

手話通訳者の派遣と同様に、聴覚障害のある人が要約筆記を必要とする場合、要約筆記者を派遣します。

■ 課題・方向性及び方策等

朝霞市日本手話言語条例の施行に伴い、各事業の充実を目指します。手話通訳者派遣事業においては、手話講習会を継続的に実施し、手話通訳者の養成・確保に努めます。また、手話通訳者設置事業については、市庁舎における手話通訳者の体制整備に努めます。さらに、要約筆記者派遣事業においては、今後も継続して実施するとともに事業の周知に努めます。

■ サービスの見込量

手話通訳者派遣事業は、社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会に委託して実施しており、利便性の向上とともに利用件数の増加が見込まれます。利用実績を勘案し、令和6（2024）年度534件、令和7（2025）年度539件、令和8（2026）年度543件の年間利用件数を見込みます。

手話通訳者設置事業は、手話通訳者の体制整備の推進及び事業の周知拡大に伴い、対応件数が増加しました。利用実績を勘案し、令和6（2024）年度860件、令和7（2025）年度882件、令和8（2026）年度905件の年間対応件数を見込みます。

要約筆記者派遣事業は、利用実績を勘案し、令和6（2024）年度10件、令和7（2025）年度13件、令和8（2026）年度17件の年間利用件数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

<p>【手話通訳者派遣事業】 現在利用しており、今後も利用したい：14人 現在利用していないが、3年以内には利用したい：27人</p> <p>【要約筆記者派遣事業】 現在利用しており、今後も利用したい：10人 現在利用していないが、3年以内には利用したい：44人</p>

■ 実績・計画（手話通訳者派遣事業）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年間利用件数	479	525	530	534	539	543
年間派遣人数	567	623	624	625	627	628

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

■ 実績・計画（手話通訳者設置事業）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年間対応件数	828	817	838	860	882	905

※設置手話通訳者の対応可能な範囲は、市庁舎及び保健センターとしているが、必要に応じてその近隣に同行し対応可能としている。

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

■ 実績・計画（要約筆記者派遣事業）

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年間利用件数	21	6	8	10	13	17
年間派遣人数	35	12	15	19	24	30

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

6 日常生活用具給付等事業

■ サービスの内容・対象者

在宅の障害のある人等の日常生活を容易にするため、障害に応じた用具（各種目の対象要件に該当する人を対象）として、①介護・訓練支援用具（特殊寝台、特殊マットなど）、②自立生活支援用具（入浴補助用具、聴覚障害者用屋内信号装置など）、③在宅療養等支援用具（電気式たん吸引器、盲人用体温計など）、④情報・意思疎通支援用具（点字器、人工喉頭など）、⑤排せつ管理支援用具（ストマ装具など）、⑥居宅生活動作補助用具（移動等を円滑にする用具で設置に小規模な住宅改修を伴うもの）の給付を行うものです。

■ 課題・方向性及び方策等

障害のある人が日常生活を円滑に営むことができるよう、利用者に応じた適切な日常生活用具の給付を行います。

■ サービスの見込量

日常生活用具には耐用年数があり、使用する人の状況によって給付申請の状況が異なるため、各年度で給付件数の増減の変動がありますが、利用実績を踏まえて数値を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：86人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：156人

■実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
①介護・訓練支援用具	10	5	5	6	6	7
②自立生活支援用具	11	14	15	17	18	20
③在宅療養等支援用具	9	9	10	11	12	13
④情報・意思疎通支援用具	28	24	26	29	32	35
⑤排せつ管理支援用具	1,904	2,146	2,186	2,227	2,269	2,311
⑥居宅生活動作補助用具	5	4	4	4	4	5

※年間件数

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

7 手話通訳者等養成事業

■ サービスの内容・対象者

平成28(2016)年4月1日施行の朝霞市日本手話言語条例の基本理念に基づき、日本手話を母語とするろう者が安心して生活できる社会を実現することを目的として、広く市民に対し、ろう者や日本手話に対する理解促進及び日本手話の普及に努めるとともに、手話通訳者を養成します。

■ 課題・方向性及び方策等

ろう者や日本手話への理解を深めるための取組を実施するとともに、ろう者の意思を尊重した通訳を行うことができる手話通訳者の養成を目的とし、手話講習会を実施します。

■ サービスの見込量

日本手話言語条例の周知を行うことにより、ろう者や日本手話に対する理解が広がり、日本手話を学ぶ市民等の増加が見込まれます。また、登録手話通訳者を増員するため、手話講習会を継続的、計画的に実施する必要があります。

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
手話講習会	実施	実施	実施	実施	実施	実施
登録手話通訳者数	10	10	9	10	11	12

※手話講習会は、昼・夜各1講座(入門→基礎→中級→養成→フォローアップ)の3年計画とし、朝霞市社会福祉協議会で実施しています。

※登録手話通訳者数は、年度末現在の人数です。

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

8 移動支援事業

■ サービスの内容・対象者

屋外での移動に著しい困難を伴う全身性障害のある人や知的障害のある人等または一人での外出が困難な精神障害のある人などが社会生活上、必要不可欠な外出及び余暇活動などの社会参加による外出の際の移動について支援が受けられます。

ただし、同様の支援が障害者総合支援法の障害福祉サービスにおいて利用できる場合または介護保険法による訪問介護において利用できる場合は、これらのサービスが優先されます。

■ 課題・方向性及び方策等

サービスを提供する事業者の確保や制度の周知に努め、移動の困難な人に対し、適切なサービスの提供を行います。

■ サービスの見込量

利用実績及びアンケート結果を踏まえ、月間実利用者数を令和6（2024）年度85人、令和7（2025）年度93人、令和8（2026）年度101人を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：82人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：196人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	73	72	78	85	93	101
年間延利用時間	15,177	15,467	16,483	17,963	19,653	21,344

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。
※令和6(2024)年度以降の年間延利用時間数は、月間実利用者数に過去の平均利用時間をかけて算出しています。

9 地域活動支援センター事業

■ サービスの内容・対象者

障害のある人等が通所し、創作的活動や生産活動の機会の提供等を通じて、自立と社会との交流促進を図るとともに、家庭における介護負担を軽減することを目的とする施設です。

基礎的事業として、利用者に対し創作的活動、生産活動、社会との交流促進などの事業を実施します。

機能強化事業として、専門職員（看護師、精神保健福祉士等）の配置による支援、障害特性に応じて実施する事業（機能訓練や作業療法士による作業療法、言語聴覚士による言語療法など）、ボランティアの育成などを実施します。

■ 課題・方向性及び方策等

アンケート調査などの結果からも、利用者の需要が高まっています。
利用者の実態に応じた地域活動支援センターの運営の支援に努めます。

■ サービスの見込量

利用実績より、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度まで、1日平均10人の実利用者数を見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：41人
現在利用していないが、3年以内には利用したい：126人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
1日平均実利用者数	15	14	13	10	10	10
事業所数	3	3	3	2	2	2

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

任意事業

1 日常生活支援

(1) 訪問入浴サービス

■ サービスの内容・対象者

家庭において、入浴することが困難な重度心身障害のある人等に対し、事業者へ委託し、入浴サービスなどを行うことにより、重度心身障害のある人等の心身の健康増進及び介護者の負担軽減を図るため実施するものです。

■ 課題・方向性及び方策等

今後もサービスを提供する事業者の確保や制度の周知に努め、適切なサービスの提供を行います。

■ サービスの見込量

利用実績より、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までの実利用者数を11人と見込みます。

■ 実績・計画

区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実利用者数	14	11	11	11	11	11

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

(2) 日中一時支援

■ サービスの内容・対象者

障害のある人等の家族の就労支援及び障害のある人等を日常的に介護している家族の一時的な休息を目的として、障害のある人等に活動の場を提供し、見守りや社会に適応するための日常的な訓練などの支援を行います。

■ 課題・方向性及び方策等

市内及び近隣市に利用のできる施設が少ないことが課題であり、アンケート結果からも潜在的ニーズは多いものと推測され、市内及び近隣市での利用ができるように施設の整備をする必要があります。

また、今後も利用の促進に努め、障害のある人等及びその家族などの負担の軽減を図ります。

■ サービスの見込量

利用実績より、令和6（2024）年度から令和8（2026）年度までの月間実利用者数を11人と見込みます。

■ アンケート調査結果（今後3年以内の利用意向）

現在利用しており、今後も利用したい：30人

現在利用していないが、3年以内には利用したい：158人

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
月間実利用者数	5	10	10	11	11	11

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

2 社会参加支援

(1) レクリエーション活動等支援

■ サービスの内容・対象者

生涯学習・スポーツプログラムの充実を図り、障害のある人のレクリエーションやスポーツ、芸術・文化などの余暇活動の促進を図ります。

■ 課題・方向性及び方策等

障害のある人の余暇活動については、各障害者団体などにおいて積極的な取組が行われており、市としても、ふれあいスポーツ大会の実施やレクリエーション事業補助金の交付によりレクリエーション活動の促進を図っております。

今後も、障害のある人だけでなく、障害のない人も参加対象とし、障害に対する理解を促進し、魅力あるイベントが実施されるよう、関係団体との協働のもと推進を図ります。

■ サービスの見込量

引き続き、広報紙やホームページ等での呼び掛けを実施し、参加者を募り、令和8（2026）年度のふれあいスポーツ大会の参加者数120人を見込みます。

■ 実績・計画

区 分	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
ふれあいスポーツ 大会参加者数	未実施	93	100	120	120	120

3 就業・就労支援

(1) 就労支援センター

■ サービスの内容・対象者

障害のある人やその家族からの就労に関する相談に応じ、職場定着支援など就労に関する各種支援を行うとともに、就労ネットワークを形成し、その活用等により連携の取れた効果的な就労支援体制を促進することを目的とします。市では、社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会を指定管理者として障害者就労支援センターの運営を行っています。

関係する事業所、公共職業安定所（ハローワーク）、教育機関、医療機関等との連携を密にし、障害のある人の自立と社会参加の促進に向けて、就労支援、生活支援を行っています。

■ 課題・方向性及び方策等

短期間での離職者も多く、また、就労移行支援などの事業所も増え、登録者の管理及び支援の方向性が多岐に渡ってきています。

今後は、職場や事業所と連携をより密にし、就労移行支援事業所等が行う就労定着支援との住み分けや、定着年数に応じて支援方法を変えるなど、支援の方向性を定めていく必要があります。

■ サービスの見込量

今後も事業の周知を図り、障害者就労支援センターの運営を行います。

■ 実績・計画

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
施設設置数	1	1	1	1	1	1

※令和5(2023)年度の数値は、令和6(2024)年1月確認時点の年度末の見込みの数値です。

その他（市の独自事業）

本市では、障害者総合支援法等に定めのない市の独自事業として、障害のある人への支援を実施しています。主な市の独自事業は次のとおりです。

（１）福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ＩＣカード、自動車燃料費の補助

【内 容】重度心身障害のある人の社会生活圏の拡大及び経済的負担軽減を目的とし、福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ＩＣカードまたは自動車燃料費のうち１つについて補助を行います。

【対象者】・身体障害者手帳１級、２級、下肢３級の所持者
・療育手帳Ⓐ、Ａ、Ｂの所持者
・精神障害者保健福祉手帳１級、２級の所持者

（２）紙おむつ等の支給

【内 容】常時紙おむつ等を使用する在宅の重度心身障害のある人に対し、介護者の日常の介護活動を援助し、在宅福祉の増進を図ることを目的として、市が指定する紙おむつ等を支給します。

【対象者】３歳以上で在宅の身体障害者手帳１級、２級または療育手帳Ⓐ、Ａの所持者（施設に入所または入院をしている人は対象外）

（３）配食サービス

【内 容】自ら食事の支度をすることが困難な障害のある人に対し、昼食を提供するとともに安否確認を行うことを目的として、弁当を自宅へ配達します。

【対象者】６５歳未満の障害者手帳の所持者のみで構成される世帯に属する人

（４）緊急通報システム

【内 容】家庭内での急病、事故等の緊急時に速やかに埼玉県南西部消防本部に通報することを目的として、通報機器を設置します。

【対象者】単身者等で身体障害者手帳１級、２級の所持者

（５）難病患者見舞金の支給

【内 容】難病をお持ちの人に対し、福祉の増進を図ることを目的として、見舞金を支給します。

【対象者】埼玉県より指定難病医療受給者証等の交付を受けている人

(6) 市内循環バス特別乗車証

【内 容】社会活動の助長・援助及び経済的負担軽減を目的として、市内循環バス乗車時の運賃が無料となる特別乗車証を発行します。

【対象者】障害者手帳所持者

(7) 自動車運転免許取得費・改造費の助成

【内 容】生活上の行動範囲の拡大と移動の利便性を高め、自立更生を促進することを目的に、自動車運転免許の取得及び自動車の改造に要する費用の一部を補助します。

【対象者】障害者手帳所持者

(8) 更生訓練費給付

【内 容】施設で更生訓練を受ける障害のある人に対して、更生訓練費の支給を行い、社会復帰の促進を図ります。

【対象者】就労移行支援事業または自立訓練事業を利用している人で、利用者負担額の生じない人等

(9) 身体障害者等診断書料補助金

【内 容】障害者手帳を申請するために必要な医師の診断書作成に要した費用に対し、補助金を交付することにより、福祉の増進を図ります。

【対象者】身体障害者手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を新規に受けた人

(10) 就職支度金の支給

【内 容】障害のある人の社会復帰の促進を図るため、就職等により自立をしようとする障害のある人に対し就職支度金を支給します。

【対象者】就労移行支援または就労継続支援を利用している人で就職または自営により施設を退所することになった人等

(11) 家具転倒防止器具等設置費の補助

【内 容】地震による家具の転倒等の被害から身体の安全を守るため、家具転倒防止器具等を取り付ける際の費用の一部を補助します。

【対象者】身体障害者手帳1～3級、4級1種、療育手帳Ⓐ、A、精神障害者保健福祉手帳1級、2級の所持者のみで構成される世帯等

(12) 障害者等見守りシール交付事業

【内 容】 在宅の障害者等が行方不明となった場合に、早期発見及び安全確保を図るために、登録番号を付したシールを交付します。

【対象者】 障害者手帳所持者、高次脳機能障害または統合失調症と診断された人等

(13) 巡回支援専門員整備（巡回相談支援）

【内 容】 保育所等、子どもが集まる施設や学校に巡回相談を実施し、障害が“気になる”段階から支援を行うための体制の整備を図り、発達障害児等の福祉の向上を図ることを目的とします。

【対象者】 障害のある児童または障害の疑いがある児童及びその保護者、保育所等において障害のある児童の支援を担当する者

(14) 児童発達支援センター機能強化事業

【内 容】 障害のある児童やその家族が地域で安心して暮らすことができるよう身近な地域で支援を行う児童発達支援センターに専門職員を配置し、地域における支援機能の充実と強化を図り、障害のある児童への支援の基盤整備を推進することを目的とします。

【対象者】 障害児通所施設等

資料編

1 策定体制

(1) 朝霞市障害者プラン推進委員会

○朝霞市障害者プラン推進委員会条例

(目的)

第1条 この条例は、朝霞市障害者プラン推進委員会の設置、組織及び運営に関する事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 障害者基本法（昭和45年法律第84号）に基づき、障害者に関する施策について必要な調査及び審議を行うため、朝霞市障害者プラン推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第3条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 障害者プラン及び障害福祉計画の策定及び変更に関すること。
- (2) 障害者に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関すること。
- (3) 障害者に関する施策の推進について必要な関係行政機関の相互の連絡調整に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認めること。

(組織)

第4条 委員会は、委員26人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、または任命する。

- (1) 障害者団体の代表者
- (2) 社会福祉関係団体の代表者
- (3) 知識経験を有する者
- (4) 公募による市民または公募委員候補者名簿に登載された市民
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(任期)

第6条 委員の任期は、5年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見若しくは説明を聴き、または必要な資料の提供を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、福祉部障害福祉課において処理する。

(雑則)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成26年条例第5号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

(2) 朝霞市障害者プラン推進委員会委員名簿

2 障害のある人が利用している主な施設

(1) 障害のある人が利用している主な施設（朝霞市内）

(2) 障害のある人が利用している主な施設（朝霞市外）

3 障害のある児童が利用している主な施設

(1) 障害のある児童が利用している主な施設（朝霞市内）

(2) 障害のある児童が利用している主な施設（朝霞市外）

4 用語解説

第6次朝霞市障害者プラン
第7期朝霞市障害福祉計画・第3期朝霞市障害児福祉計画
令和5（2023）年10月

発行 朝霞市

編集 福祉部障害福祉課

〒351-8501

埼玉県朝霞市本町1-1-1

電話：(048) 463-1111（代表）

FAX：(048) 463-1025

ホームページ <https://www.city.asaka.lg.jp/>

第5次朝霞市障害者プラン・総括評価シート【B票】（一部抜粋）

資料2

基本目標1 共生社会の実現を目指す【評価コメント】(令和4年度分)3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが2つ、Cが1つでした。(前年:3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが1つ、Cが2つでした。)

基本目標 1 共生社会の実現を目指す											施策・事業						
基本施策	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策(中柱)	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価		R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価
(1) 相互理解の促進	B 3.67	C 3.00	C 3.00	C 3.33	C 3.33	① 啓発活動の推進	B 4.33	C 3.00	C 3.00	B 4.00	B 4.0	① 広報紙、ガイドブック等を活用しての啓発	B	C	C	C	C
												② 市ホームページの活用	B	B	B	B	B
												③ 「障害者週間」等のイベントの開催	A	D	D	A	A
						② 障害のある人等への理解の促進	B 3.60	C 3.40	C 3.40	B 4.25	C 3.0	① 障害のある人を理解する社会教育の充実	C	C	C	C	D
												② 精神障害のある人(発達障害・高次脳機能障害を含む)への理解の促進	A	A	A	A	B
												③ 難病患者への理解の促進	B	C	C	C	C
												④ ボランティアの育成及び体験機会の提供	C	C	C	C	C
												⑤ ボランティア活動の促進	C	C	C	C	C
						③ 障害者団体の育成・交流促進	C 3.33	C 3.00	C 3.33	D 2.00	C 3.0	① 障害者団体への支援	C	A	A	E	C
② 交流の場の確保	C	E	E	D	C												
③ 障害のある人が行う活動の支援	B	C	B	C	C												
(2) 差別解消の推進	B 4.00	B 4.00	C 3.00	B 4.00	B 4.0	① 差別解消の推進	B 4.00	B 4.00	C 3.50	B 4.00	B 4.0	① 人権問題講演会等の実施	C	C	C	C	C
												② 差別解消に関する研修の実施	A	A	B	A	A
(3) 権利擁護の取組の充実	C 3.50	C 3.50	C 3.50	C 3.50	C 3.5	① 権利擁護の支援	C 3.50	C 3.50	C 3.00	C 3.00	C 3.0	① 成年後見制度の周知と利用支援	B	B	C	C	C
												② 権利擁護の促進	C	C	C	C	C
						② 虐待防止の推進	B 4.00	B 3.67	B 3.67	B 3.67	B 3.66	① 虐待に関する意識の啓発による虐待の未然防止	B	B	B	B	B
												② 虐待の未然防止・早期発見のための地域連携	B	C	C	C	C
③ 障害者虐待防止センターの周知及び機能の充実	B	B	B	B	B												

※指標の基準・評価点数（施策ごとに配点しなます）

A	5 (4.5超)	目標・計画を大幅に上回る成果があがっている。
B	4 (3.5超～4.5)	目標・計画を十分に上回る成果があがっている。
C	3 (2.5超～3.5)	目標・計画どおりに成果があがっている。
D	2 (1.5超～2.5)	目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった。
E	1 (1.5以下)	目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった。

基本目標1 共生社会の実現を目指す【評価コメント】(令和4年度分)

3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが2つ、Cが1つでした。
(前年:3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが1つ、Cが2つでした。)

委員会コメント

虐待への対策について、短期入所や一時保育等を利用できない子を持つ親の支援が必要である。そのため、来年度は評価をする担当部署に保育課を入れるよう検討してほしい。
交流の場については、はあとぴあに限定せず、巡回イベント等を居住地の近くで開催し、障害のある人が近くに住んでいることを知ってもらい共生社会につなげていきたい。また、その内容の充実をしていくとよい。
障害福祉とはどういうものなのか、障害者がどういう支援を必要としているのか、障害者や支援者に興味を持ってもらえるように情報発信していくのがよいと思う。また、SNSを使用していない方や情報をうまく理解できない方へも届くよう、分かりやすいものになるとよいと思う。

委員個別意見

- ・相互理解の促進がC→Bになったのはイベントの開催や交流の場の確保といった項目の評価が上がったためと思われる、今後はコロナの影響がさらに薄らいでいくと思われる、内容の充実が求められていくと思われる。
- ・虐待は「未然に防ぐ」ことが大切です。子どもを宿泊させて預けること(緊急短期入所事業)は重要な事業ですが子どもを宿泊させて預けるということがハードルが高いと感じる方も多いです。また、お子さんに障害がある場合預かり先も限られてしまうのではないのでしょうか。そういった場合に障害があるお子さん発達に課題があるお子さんに対する一時保育、ファミリーサポートの利用で乗り切れる方もたくさんいると思いますが、なかなかマッチングが難しいと聞きます。こういった親のための支援が結果として家庭での養育力を引き上げることができると思います。この事業の担当課に保育課が入っていないので、来期のプランは保育課が入ることへの検討をお願いします。
- ・広報あさかで、市民に普段あまり馴染みのない障害福祉のお仕事紹介し、障害者とその支援者に興味を持ってもらえるよう啓発する。
例えば、「ガイドヘルパーの紹介」仕事内容だけでなく、どういった障害のある人が、こういうことができなくて、こういう支援を必要としていることがわかるように。また、ガイドヘルパーになるためにはどうするか？も、載せることにより、障害福祉の仕事に興味を持ってもらい、少しでも福祉人材不足の解消につながればよいと思う。広報あさかの紙面だけで、紹介しきれない内容は、QRコードを掲載し、YouTubeやホームページで詳しく紹介する。実際に、障害者をガイドヘルプしている様子を動画で紹介すると、よりわかりやすく伝わりやすい。YouTubeは朝霞市と社会福祉協議会がコラボするとよいものができると思う。
- ・障害のある人となない人の交流の場大切です。場所を、はあとぴあに限定せず、公民館など市内の身近な施設を利用し、障害のある人となない人の居住地に近いところで交流を行い、地域の人たちに障害のある人が、近所に住んでいることを知ってもらえると、共生社会につながっていくと思います。各公民館に、いろいろなイベントを主催してもらってもいいし、はあとぴあふれあい祭りのようなイベントが、公民館や市民センターなどを巡回していくのもいいかと思います。あさかプレパークが、プレパークキャラバンとして、市内のいろいろな公園を巡回しているのが、気軽に近所で参加できるところで、とてもよいと思い、ヒントになりました。
- ・SNSを活用した広報誌、ガイドブック等の啓発について、年配の方はSNSを使用しない方が多く情報として掲載されていることも理解できない又は見落としている方もいるので、もっと分かりやすいものになるとよいと思う。

基本目標 2 地域生活を充実し、社会参加を支援する【評価コメント】(令和4年度分)4つの大柱(基本施策)の評価は、Bが1つ、Cが3つでした。(前年:4つの大柱(基本施策)の評価は、すべてCでした。)																		
基本施策	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策(中柱)	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策・事業	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	
(1)地域生活支援の充実	B 3.75	C 3.25	C 3.50	B 3.75	C 3.25	①相談支援体制の整備	B 4.20	B 4.00	B 3.80	B 4.00	B 4.0	B 4.0	①相談支援体制の整備	B	C	C	B	C
													②相談窓口体制の充実	B	B	B	B	B
													③計画相談の充実	B	B	B	B	B
													④精神保健福祉相談の充実	B	B	B	B	B
													⑤発達障害のある子どもの相談の充実	A	A	B	B	A
						②福祉基盤の充実	B 4.00	C 3.50	C 2.83	B 3.67	C 3.5	C 3.5	①情報提供の充実	C	C	C	C	C
													②音声テープなどによる情報提供	C	C	C	C	C
													③サービス提供者間の連携	A	A	D	A	B
													④福祉人材の確保・育成	B	B	B	B	B
													⑤障害のある人の家族に対する支援	B	D	C	B	B
													⑥精神保健福祉に関する連絡調整会議の開催	A	B	D	C	C
						③障害福祉サービス等の充実	B 3.83	B 3.83	B 3.83	B 3.83	B 4.0	B 4.0	①障害福祉サービスの充実	A	A	A	A	A
													②地域生活支援事業の充実	D	D	D	D	C
													③経済的な支援	B	B	B	B	B
													④生活基盤の支援	A	A	A	A	A
⑤緊急時の支援	C	C	C	C	C													
⑥介護保険との連携	B	B	B	B	B													
(2)日中活動の場の充実	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.0	C 3.0	①日中活動の場の充実	C 3.50	C 3.50	C 3.50	C 3.50	C 3.5	①施設から地域への移行の推進	D	D	D	D	D
													②地域活動支援センター等への運営支援	A	A	A	A	A
(3)コミュニケーション支援	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.0	C 3.0	①コミュニケーション手段の充実	C 3.20	C 3.00	C 2.80	C 3.20	C 3.4	①手話通訳者の養成・派遣	C	C	C	C	C
													②点訳・音声訳・朗読奉仕員の活用	C	D	D	C	C
													③要約筆記者の養成	D	D	D	D	D
													④円滑なコミュニケーションのための研修の実施	B	B	C	B	B
													⑤障害のある児童への支援	B	B	B	B	B
(4)社会参加の支援	C 3.50	C 3.00	C 3.00	C 3.50	C 3.5	①外出の支援	B 4.00	B 4.00	B 3.67	B 3.67	B 3.66	B 3.66	①福祉有償運送等の移動支援の利用促進	B	B	B	C	C
													②リフト付き車両、福祉機器の貸し出し	B	B	C	B	B
													③外出に対する支援	B	B	B	B	B
						②スポーツ・芸術・文化活動の充実	C 3.25	D 2.40	D 2.20	C 3.00	C 3.0	C 3.0	①スポーツ活動の促進	C	D	E	C	B
													②芸術・文化活動の支援	C	C	C	C	C
													③レクリエーション活動の促進	終了	E	E	C	D
													④生涯学習の促進	C	D	D	D	D
⑤市民農園の利用促進	B	B	B	B	B													

※指標の基準・評価点数(施策ごとに配点しなす)

A	5(4.5超)	目標・計画を大幅に上回る成果があがっている。
B	4(3.5超~4.5)	目標・計画を十分に上回る成果があがっている。
C	3(2.5超~3.5)	目標・計画どおりに成果があがっている。
D	2(1.5超~2.5)	目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった。
E	1(1.5以下)	目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった。

基本目標 2 地域生活を充実し、社会参加を支援する【評価コメント】(令和4年度分)1/2

4つの大柱(基本施策)の評価は、Bが1つ、Cが3つでした。
(前年:4つの大柱(基本施策)の評価は、すべてCでした。)

委員会コメント

学校ではスクールカウンセラーを常勤にして必要な時に届けられるようにしてほしい。
ヘルパーなどの福祉人材不足対策として、養成研修の無料実施や働きやすい環境確保、待遇改善を望む。家族支援の評価が上がっているのので、引き続きニーズ把握に努め適切な支援に繋げてほしい。
相談支援員を増員するとともに家族を含む支援者同士が連携して家族支援を行って欲しい。
障害者が住宅を確保・居住できるような体制づくりを行うべき。
成人した重度障害者の余暇対策として「障害者青年学級」を開設してはどうか。

委員個別意見

- ・障害のある家族に対し、高齢化も進み表に出てこない問題も多く手続等で来た際、窓口でも困っていることがないか簡単な聞き取りをしてもらえるとありがたい。
- ・外出に対する支援について、補助などの支援はあるが、バスの本数が減ってしまい不便に感じる。通所でなくても真夏の時期だけ本数を増やすなどしてもらえると良い。
- ・地域の中での事業者によるネットワークづくりを推進し、連携を強化していくことで、職員の質も向上し、地域での支援が充実してくると思います。法人や事業所等の垣根を越えて、繋がりを持つ機会(交流会・勉強会・研修会・見学会など)を設けていくことも、今後は必要だと感じています。
- ・相談支援体制の整備のポイントが上がったことは評価ができると思います。基幹相談支援センターの設立に向け動いていただきたいと思います。障害のある人の家族への支援の評価が上がっていますが、引き続きニーズの把握に努め適切な支援に繋げて頂きたいと思います。
- ・児童発達支援事業所、放課後デイサービスに通う児童が増え続けている。計画相談の事業所が抱える件数もかなり多く、1件1件に丁寧に関わるのが難しく、結果利用者が不信感を抱いたり、お子さん一人一人の見立てができず、保護者の言われるがまま複数の事業所と契約しているケースも多いです。他の自治体に比べて保育型の児童発達支援事業所が多いのは、集団生活を送れる場が少ないからだと感じます。「地域生活を充実し、社会参加支援する」という目標ならば、お子さんやご家庭の普段の様子を地域の児童館や子育て支援センターが把握し、助言、情報の共有ができるようにしていく必要があるのではないかと思います。育みバーチャルを中心に市の支援や社会資源などを図式化してほしいです。
- ・相談員をもっと増員し、よりきめ細かなサービスが行えると家族支援につながると思う。もっと気軽に個別支援会議やケース会議を開き、当事者の家族を含む支援者同士が福祉と教育の垣根を超えて連携して行ってほしい。家族だけで障害児を抱えるのではなく、すべての支援者は、『障害児者の自立・自律』という同じ目標を目指しているので、お互いに情報共有してチームとなってもらえると心強いです。
- ・学校に在籍する子どもの数に対してスクールカウンセラーが少なすぎて、相談が必要な時に必要な人に届いてないと感じます。保健室に行くように、いつでも気軽に相談できることが大事です。近年、過酷な労働環境により、休職・退職する教員が増えています。常勤にすることにより、子どもと保護者に対してだけでなく、教員のカウンセリングも行うことが望ましく、結果として教員不足の対策になると考えます。子どもの支援者である、教員の支援を行うことで、教育の質が上がり、子どもたちに還元されると思います。常勤にする際は、教職員と同じ立場で対等に発言できる配慮も必要です。
- ・2025年超高齢化社会を迎えるにあたり、働き手不足、特に福祉分野の人材不足は深刻です。現在でも、生活介護事業所等で働くスタッフの離職率は高く、慢性的に不足しています。
ヘルパーさんがいないことで、送迎支援が受けられず、仕事を休まなければならなかったり、仕事につけない保護者もいます。
新たな福祉人材確保のために、障害者介護者養成事業として、研修を無料で受けられる自治体もあります。朝霞市でもご検討ください。
市役所はもちろん、各事業所や学校、幼稚園、保育園とも連携して、障害児者の支援者となる人材の確保と育成に力を入れてほしい。支援者を支援することも、よりよい障害福祉の実現に繋がります。いい人材が長く働き続けられるような環境の確保や待遇改善も望みます。

4つの大柱(基本施策)の評価は、Bが1つ、Cが3つでした。
(前年:4つの大柱(基本施策)の評価は、すべてCでした。)

委員会コメント

委員個別意見

・ペアレントプログラム・ペアレントトレーニングも、家族が障害児の問題行動で迷った時の指針となり家族支援になると思う。また、重い病気や障害のある兄弟姉妹を持つ、きょうだい児は、幼少期からいつも我慢をしていますし、ヤングケアラーになっている可能性も高いため、きょうだい児の支援も考えてほしい。また、超高齢化社会を迎えるにあたり、8050問題(80代の親が自立できない事情を抱える50代の子どもの面倒をみる)も切実になっています。健康づくり課と障害福祉課だけでなく、高齢者を担当する課が連携して情報共有して支援につなげていただきたいと思います。

・障害者が、地域への生活移行を進めるにあたり、住居の確保が非常に重要と感じています。これは、障害福祉課の方たちだけが頑張ることではなく、市、県の住宅分野の課や不動産会社、居住支援法人等と連携し、障害のある人が、現実的に住宅セーフティーネット制度を活用して住宅を確保・居住できるような体制づくりをお願いしたいのですが、具体的にそういった仕組みを作ることは考えていますか？

・交流を希望する児童生徒が、支援員不足で、交流できないという不平等がないよう、児童の人数と障害の実態に合わせて、支援員の人数を決定し配置していただきますようお願いいたします。
支援籍学習は、素晴らしい制度だと思いますが、特別支援学校に通う児童との交流が非常に少ない。特に、小学1年生から特別支援学校に通う児童の場合、したいけれど、子どもの特性を考えると不安になり、諦めてしまう保護者もいる。また、準備が教員の負担になってる場合もあるので、なるべく日常の学校生活に、特別支援学校の児童が混ざって交流し、交流給食をすべての学校で行うなどお互いの違いを受け入れることが重要だと考えます。
保育所等訪問支援で事業所職員から受けるアドバイスを、療育と教育は別だからと聞き入れてもらえないことがあります。関係課が部署という垣根を超えてしっかり連携してほしいです。

・生活サポート事業を利用したい時に、空きがなく断られてしまうことが多い。事業所、ヘルパー、車両の充実をお願いします。どれだけ利用を断わっているか統計をとってもらい実際のニーズを把握して、予算を追加する、ヘルパーのなり手不足を解消できるようヘルパー養成事業を行うなどの対策を実施して欲しい。

・市内の小中学校や、町内会にチラシを配布するなど、もっと宣伝していいと思います。そして、健常児者にもボランティアとして参加してもらい交流できると、市民への障害理解につながると思います。
生涯学習スポーツ課の実施するポッチャ教室は、小学校で出前講座してもらい、児童の交流できるといいと思います。

・成人した重い障害のある人が、18歳以降の長い人生で、どのような余暇を過ごすかということが障害者の生涯において、非常に重要となります。障害のある人が学校を卒業すると、生活がマンネリ化しやすくなります。そのため身近な施設で定期的に社会参加でき、生きがいとなる「障害者青年学級」を朝霞市でも開設して欲しいです。障害者が地域で生活するためには、地域の人たちとの交流やつながりと居場所は大事です。関係各課で連携して検討をお願いします。

基本目標 3 就労を支援する【評価コメント】(令和4年度分)大柱(基本施策)の評価は、Cでした。(前年:大柱(基本施策)の評価は、Cでした。)																						
基本施策	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策(中柱)	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策・事業	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価					
(1)就労の支援	C 3.50	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.5	①就労の場の確保	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.0	①啓発活動の実施	C	C	C	C	C					
																	①相談窓口の整備	B	D	D	B	B
																	②障害者就労支援センターの活用	A	B	B	B	B
																	③就職支度金の支給	C	C	C	C	A
																	④就労移行支援の実施	C	C	D	D	D
																	⑤就労定着支援の実施	A	A	A	A	A
																	⑥就労継続支援の実施	B	C	C	D	C
						②就労の促進と安定	B 4.00	C 3.33	C 3.17	C 3.67	B 3.83											

※指標の基準・評価点数(施策ごとに配点しなす)

A	5(4.5超)	目標・計画を大幅に上回る成果があがっている。
B	4(3.5超～4.5)	目標・計画を十分に上回る成果があがっている。
C	3(2.5超～3.5)	目標・計画どおりに成果があがっている。
D	2(1.5超～2.5)	目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった。
E	1(1.5以下)	目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった。

基本目標 3 就労を支援する【評価コメント】(令和4年度分)

大柱(基本施策)の評価は、Cでした。
(前年:大柱(基本施策)の評価は、Cでした。)

委員会コメント

まずは市役所で知的障害を持っている人の採用を検討してほしい。
雇用でなくとも、市役所の中でごみの分別、チラシ配り、各課へ郵便物を届けたり簡単お手伝いをしてもらい、身近に障害のある人がいる環境づくりを進めるよう検討してほしい。また、それにより新しい発見を見つけていくことができる。

委員個別意見

・市の職員(市役所内に関わらず)に知的障害者の雇用を。三障害の区分無く採用試験を設けている、とのことでしたが、まず知的障害を1名でも採用するために知的障害の人のための試験を検討しませんか。名古屋市で行っています。筆記試験は小学校卒業程度、実技に重きを置く試験です。

・市役所入口での障害者施設がいろいろなものを販売するのは、たまたま市役所を訪れた人や、普段障害者と接することがない市民が、障害者と接することができ、市民理解のきっかけになること、また、障害者が市役所という多くの人が集まる公共の場で社会参加できるという双方に良いことだと思います。現在市役所内で、知的障害者の雇用は無いとのことですが、雇用じゃなくても、障害のある人が市役所の中で、ゴミを拾って分別したり、販売するもののチラシを配ってみたり、郵便物を各課に届けに行ったりと、ちょっとしたことで、市役所の中で、職員を中心にいろいろな人とかかわりを持つボランティアというには大袈裟なのですが、お手伝い的なことをしてみるというのはどうでしょうか？市役所での障害者施設の販売のついでに、商品を売り歩くでもいいかもしれません。まず朝霞市役所の中で、身近に障害のある人がいるという環境を作ってみると、何かしら感じることや発見があるかもしれません。お隣の新座市では、1995年に似たようなことをしています。

基本目標 4 共に育ち、共に学ぶ療育・教育を推進する【評価コメント】(令和4年度分)大柱(基本施策)の評価は、Bでした。(前年:大柱(基本施策)の評価は、Bでした。)																	
基本施策	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策(中柱)	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策・事業	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価
(1)障害のある子どもの療育・教育の充実	B 4.00	B 4.00	B 3.67	B 4.33	B 4.33	①療育の充実	B 3.83	B 3.83	B 4.00	B 4.00	B 4.16	①親子グループ指導の実施	A	A	A	A	A
												②療育学級の実施	A	A	A	A	A
												③保育体制の充実	D	D	A	A	A
												④保育園における受け入れ体制の整備及び促進	B	B	D	D	D
												⑤障害児放課後児童保育への支援	C	C	C	C	C
												⑥障害のある子どもへの支援	B	B	B	B	A
						②教育の充実	A 5.00	A 5.00	B 4.33	A 5.00	A 5.0	①特別支援教育の充実	A	A	B	A	A
												②就学相談の実施	A	A	A	A	A
												③通常学級に在籍している子どもの支援	A	A	B	A	A
						③福祉教育の充実	C 3.40	C 3.00	C 3.00	B 3.60	B 3.6	①交流及び共同学習の推進	A	A	A	A	A
												②交流保育の推進	D	D	D	C	C
												③障害のある児童生徒の交流会の実施	C	E	C	C	C
												④小学生の親子・中学生施設体験の実施	C	C	E	C	C
												⑤障害のある人を理解する学校教育の充実	B	B	B	B	B

※指標の基準・評価点数(施策ごとに配点しなす)

A	5(4.5超)	目標・計画を大幅に上回る成果があがっている。
B	4(3.5超~4.5)	目標・計画を十分に上回る成果があがっている。
C	3(2.5超~3.5)	目標・計画どおりに成果があがっている。
D	2(1.5超~2.5)	目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった。
E	1(1.5以下)	目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった。

基本目標 4 共に育ち、共に学ぶ療育・教育を推進する【評価コメント】(令和4年度分)

大柱(基本施策)の評価は、Bでした。
(前年:大柱(基本施策)の評価は、Bでした。)

委員会コメント

療育について、年々児発の利用を通園先から勧められ、療育を受けていることが増えている。親子で試行錯誤できる場が少ないため、子育て拠点でサポートできる体制作り、居場所づくり、学びのスペースを作るよう検討してほしい。小中学校について、授業で障害について学ぶのは良いことだが、それだけでなく交流給食など交流する場をすべての学校に設けてほしい。また、環境については特別支援学級で個別学習ができる通級制度を設けるなど合理的配慮が受けられる学習環境や生活支援員の増員やスクールカウンセラーの常駐、保育所等訪問支援で訪れる事業所の活用を行うように整備を進めてほしい。

委員個別意見

・評価が横ばいの状況が続いており、点数の上がった項目も1つにとどまっています。特に保育体制の充実についてがDのままなのは実地研修が実施されなかったことが影響していると思います。研修手段を一つに限定せず、学べる機会を複数作っていくことが重要と思います。

・昨年よりさらに、特性のあるお子さんは児発の利用をするように通園先から促されています。そのため就園を目的とした未満児の療育利用数が非常に多いように思います。親子で試行錯誤ができる場が少なく、親子で出向く先でうまくいかない＝療育に行く、という図式が出来上がっています。いろいろなお子さんがいることを親も子も学ぶ場が限られてきていて、果たして「多様性の社会」はできるのでしょうか。地域の子育て支援の場(センター、児童館など)がさらに障害のある親子さんを追いつめていることはないでしょうか。きょうだい児も含めて地域の子育て拠点でサポートできる体制作りを望みます。障害のある子がすべて放課後デイサービスが居心地が良いわけではない。その子のペースで過ごす居場所作り、学びのスペースを市内にいくつか作ってほしい。

・特別支援学級は全校にできていますが通級指導教室は小学校二校、中学校一校にとどまっています。通級指導教室も各学校にでき移動に負担がかからないようにする、もしくは特別支援学級で個別学習ができる通級制度を設けるなど、子どもにとっても保護者にとっても負担が少なく、合理的配慮が受けられる学習環境を望みます。

・小中学校は、講師や再雇用の先生でカバーしても、欠員がでている状況。特別支援教育の未経験者が特別支援学級の担任になることも多く、障害児への理解が得られないことも多い。それでも現場の先生たちは、頑張っているのでも、現状の生活支援員だけでなく、特別支援教育のできる支援員採用や生活支援員の増員、スクールカウンセラーの各学校への常駐、保育所等訪問支援で訪れる事業所を活用するなど、外部資源も活用し、教育と福祉が垣根なく連携して、先生をフォローし子どもたちにしわ寄せがいかないように取り計らってほしい。特別支援学校の特別支援コーディネーターや、カウンセラー等が巡回はしているが、巡回だと、困った時にすぐに対応するのが難しい。先生たちの意識も、自分だけで頑張りすぎず、外部資源を頼ってもよいのだということを市教委からトップダウンで伝えてほしい。そして、そもそもの教員のなり手不足という人材不足は、日本の将来にもかかわる全国的な問題なので市から国へも改善を求めてほしい。

・「障害のある児童生徒と地域住民との交流促進」が目的ならば、朝霞市内の障害者施設や町内会など、朝霞市の障害児者が実際に居住する地域で、交流できることを行ってほしい。居住する地域の人たちに、自分の住む地域にこういった障害児者がいるということを知ってもらえると、障害のある人が住みやすい町になり、市民の障害理解にもつながる。地域共生というのは、こういったことから始まるのです。

・「総合」の時間に授業として、様々な障害について学ぶのはよいと思う。市内の小中学校すべてに特別支援学級が設置されているので、校内の特別支援学級の身近なお友だちのことについて、知ってもらおうと、交流する時の気づきにもつながります。例えば、交流給食は、食事を通じて障害のある人ができることやできないことがわかる身近なきっかけとなるので、すべての小中学校で行ってほしいです。障害のある人が、特別なのではなく、普通の人とちょっとだけ違うんだという認識を持って、障害者と健常者ではなく、1人の「人」対「人」のつきあいなのだと実感してもらい、ボランティアもやってあげるのではなく、自分の意志として、手伝っているということが自然と学べるような環境を作ってほしいです。

基本目標 5 安心・安全な暮らしをつくる 【評価コメント】(令和4年度分)3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが2つ、Cが1つでした。(前年:3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが2つ、Cが1つでした。)																	
基本施策	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策(中柱)	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価	施策・事業	R4評価	R3評価	R2評価	R1評価	H30評価
(1)福祉のまちづくりの推進	B 4.00	B 4.00	B 4.00	B 4.00	B 4.00	①総合的なまちづくりの推進	B 4.00	B 3.63	B 3.88	B 3.88	B 4.12	①歩道の整備	C	C	C	A	A
												②交通安全施設の整備	B	B	B	C	B
												③路上放置物等障害物の解消	A	A	A	B	B
												④交通安全運動の実施	C	C	C	C	C
												⑤市の公共施設のバリアフリー化	A	A	A	A	A
												⑥駅などの公共的施設等のバリアフリー化の促進	B	C	C	A	A
												⑦小・中学校におけるバリアフリー化	A	C	A	C	A
												⑧公園の整備	C	C	C	C	D
(2)保健・医療サービスの充実	B 4.50	B 4.50	B 4.00	B 4.00	B 4.5	①保健サービスの充実	A 4.75	A 4.75	B 4.50	B 4.25	A 5.0	①健康診査の充実	A	A	B	B	A
												②健康相談の充実	A	A	A	B	A
												③訪問指導の充実	B	B	B	B	A
												④発育発達相談の充実	A	A	A	A	A
												①地域医療体制の充実	A	A	A	A	A
												②医療関連サービスに係る経済的支援	C	C	C	B	B
(3)安心なく暮らしの確保	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.00	C 3.0	①防災・防犯体制の整備	C 3.33	C 2.83	C 2.67	C 2.83	C 3.0	①防災意識の啓発	B	C	D	C	C
												②災害時における障害のある人への支援の充実	B	B	B	C	C
												③近隣市等との連携	C	D	D	C	C
												④ボランティアの確保	C	D	D	D	C
												⑤地域ぐるみの協力体制の整備	C	C	C	C	C
												⑥防犯環境の整備	C	C	C	C	C

※指標の基準・評価点数(施策ごとに配点しなす)

A	5(4.5超)	目標・計画を大幅に上回る成果があがっている。
B	4(3.5超~4.5)	目標・計画を十分に上回る成果があがっている。
C	3(2.5超~3.5)	目標・計画どおりに成果があがっている。
D	2(1.5超~2.5)	目標・計画を下回り、十分な成果があらなかった。
E	1(1.5以下)	目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があらなかった。

基本目標 5 安心・安全な暮らしをつくる 【評価コメント】(令和4年度分)

3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが2つ、Cが1つでした。
(前年:3つの大柱(基本施策)の評価は、Bが2つ、Cが1つでした。)

委員会コメント

まちづくりについては、朝霞台駅的环境改善に向けて動き始めたのは良かった。障害のある子が時間を気にせず遊べることや、小さい頃からいろいろな子供がいることを知ることでできるメリットがある「インクルーシブ公園」が市内にできるよう検討してほしい。

保健サービスについては保健師の増員もしくはそれに準ずる何らかの手立てを改めて検討してほしい。

防災については、福祉避難所の認識が各課で異なっているため情報の統一化をしてほしい。また、避難所については地域に避難できるようにし、サポートをしてもらえる人材をそちらへ派遣できるよう検討してほしい。

今後、宿泊訓練の開催や支援バンダナを聴覚だけでなく様々な障害を抱える人へ向けたものに変更することも重要と考える。

委員個別意見

・朝霞台駅の不便さが解消に向けて動き始めた点は評価できると思います。地区に2人以上の保健師の配置は難しいとの回答がありましたが、保健師は相談窓口の一つでもあり相談支援体制の充実という点からも何らかの手立ての検討を続けて頂けないでしょうか。

・障害のある子もない子も一緒にあそべる「インクルーシブ公園」が朝霞市内にもあると、小さい頃から、居住する地域にいろいろな子どもがいることを知ることができ、交流のきっかけになると思います。障害のある子やその親は、公園など子どもが集まるところで、周囲からの疎外感を感じることもあり、人のいない時間に遊ばせたりすることもあるので、そのようなことが、少しでも解消できるよう願っています。ユニバーサルデザインの遊具を置くだけでなく、利用する人たちに障害がある人のことを理解できるよう、周知することも非常に重要だと考えます。県内だと、三郷市、秩父市に、インクルーシブ公園あるので、ぜひ参考にしてください。

・聴覚障害者向け用の災害時支援用バンダナから、様々な障害や支援が必要な人も使用できるバンダナへ変更の検討をお願いします。

・危機管理室と障害福祉課で福祉避難所についての認識が異なっているため情報の共有及び統一化をお願いします。更に、福祉避難所が場所だけの避難場所であるならば、小学校の体育館以外の広めの教室を福祉避難所として、家族と一緒に自分の住む地域に避難できるようにしていただきたいです。可能な範囲でヘルパーや支援員、ボランティアの方を小学校の福祉避難所に派遣してもらった方が、障害者も、その家族も負担が少ないと思います。新座市で開催された「新座市ふれあい防災キャンプ」に参加した際、体育館の避難場所と、同じ学校の家庭科室に福祉避難所を設置していました。障害のある人、高齢者など配慮の必要な人が、家族と一緒に自分の住む地域で避難できることは、環境の変化が苦手な障害者にとって、緊急時であっても安心できることだと思います。また、体育館に実際に宿泊訓練もできるので、環境の変化が苦手な障害者にとって、事前に体験しておくことは、パニックを減らすために非常に有益です。ぜひ朝霞市でも取り入れてほしいです。こういった防災訓練によって、自分たちの住む地域にどういった障害を持つ人が居住しているかを、台帳だけでなく直接顔をあわせて知るチャンスでもあるので、町内会などを通じて、健常者と障害者の両方に、防災訓練への参加を呼びかけてほしい。

第6期障害福祉計画【評価コメント】(令和4年度分)

委員会コメント

市職員の研修だけでなく、市内の事業所も参加できる研修、場所の提供、労働環境の改善を行い支援者を支援する体制ができるよう努めてほしい。また、ペアレントプログラム等は仲間づくりのきっかけ作りや家族支援としても有効のため複数回受講できるよう検討してもらいたい。

児童発達支援センターと保健センターのすみ分けを明確にしてほしい。

ピアサポート活動の把握、重度訪問介護で一人暮らしをしている人の統計、地域移行コーディネーターの創設、住宅セーフティネット制度の活用をうまく利用し、障害福祉だけでなく関係各所と連携して障害者が地域生活に移行できるよう検討してほしい。

委員個別意見

・地域生活支援拠点の機能と充実について、色々と不十分だと感じる。増やすにも事業所として不十分で登録できないと思うのでGHは部屋の空きがないと受け入れることが出来ないため場所の提供、当番制などの体制など検討してもらいたい。

・市の職員の研修だけでなく、市内の事業所も参加ができる研修もしてもらいたい。

・地域生活支援拠点登録事業所が増えない理由は何か。登録事業所を増やして市として拠点を中心に社会資源の見える化をしてほしい。

・児童発達支援センターと保健センターとのすみ分けについて明確にしてほしい。

・ピアサポートの活動について市はどのくらい把握しているのか。親の会がなくなっていく今、どこが中心となっていくのか。不安の多い乳幼児期の子育てにおいては特に必要な活動であると思います。

・障害のある人が、自分の住みたいところに住む選択肢を増やして欲しい。入所施設、グループホーム、重度訪問介護を使って一人暮らしする等々。

2022年9月に、障害者権利条約に基づく国連の対日審査で、日本は改善勧告を受けています。県と足並みを揃えず、まずは朝霞市からできることを考えていくためにも、1-①障害の種別や1-②入所施設の入所者数も設定し、重度訪問介護で一人暮らししている方の統計もとった方が、より目標を達成するために、必要なことが具体的になるのではないのでしょうか？今すぐには難しくても、目標として掲げないことには何も始まらないので。

地域生活への移行をするには、まず住居の確保が非常に重要です。これは、障害福祉課の方たちだけで頑張ることではなく、市、県の住宅分野の課や不動産会社、居住支援法人等に働きかけて連携し、障害のある人が、現実的に住宅セーフティネット制度を活用して住宅を確保・居住できるような体制づくりをお願いしたいです。また、地域移行コーディネーターを創設することも重要です。

そして、障害者が地域生活に移行するということは、市役所内すべての課で、市民の中に当たり前障害者が含まれ、市内に居住しているということを実感していただくこと、市民にも地域に障害者が住んでいて、お互いの違いを認め合えるよう理解してもらえつつながりを持つことが大切だと思います。インクルーシブ教育は、子どもの時からいろいろな人がいるんだということを実体験として経験し、共生社会の礎となるので、地域共生と同時に推進し、ちがいを認めあう学校・地位社会を形成してほしいです。

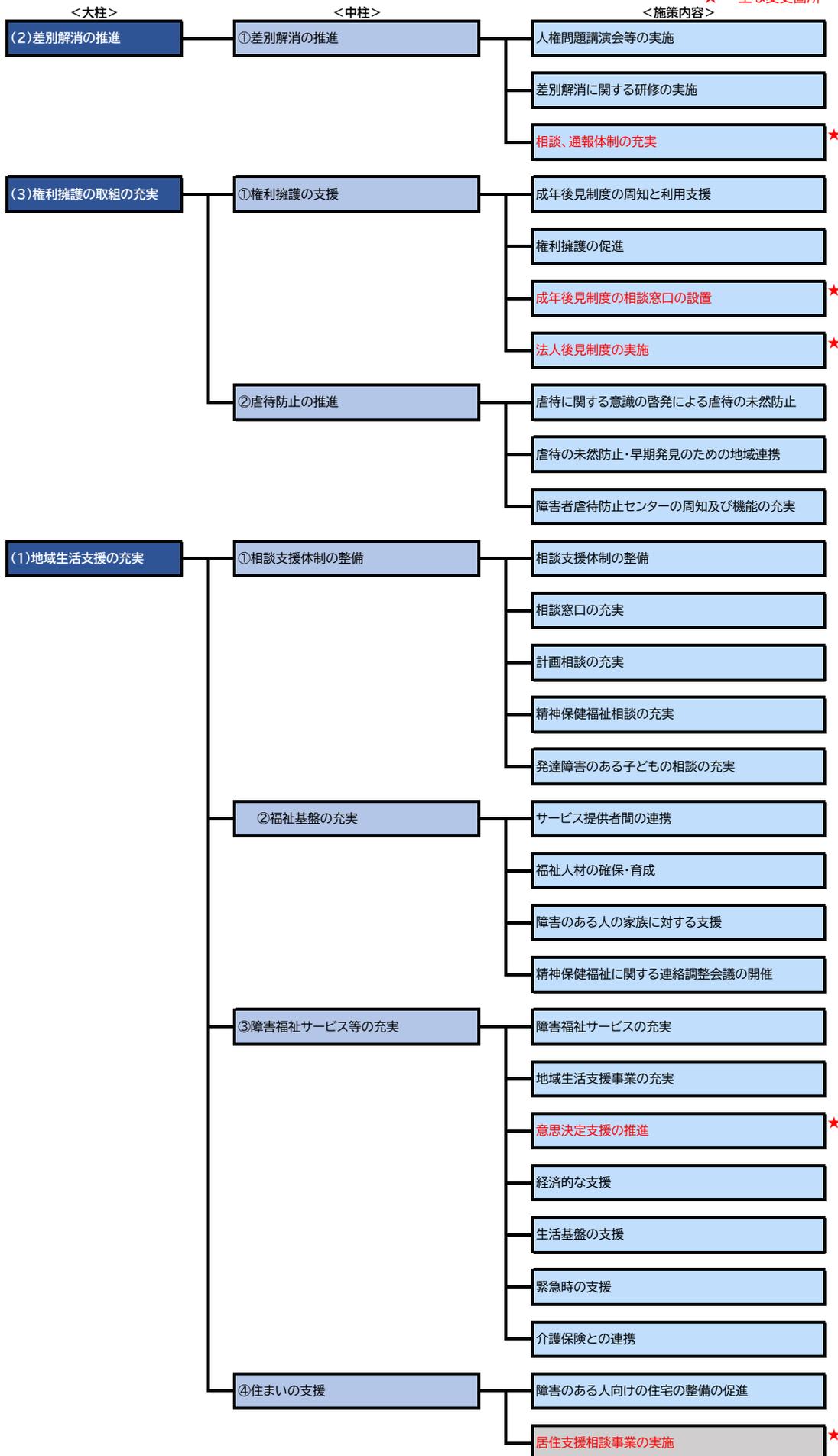
・ペアレントプログラムとペアレントトレーニングは、障害児が問題行動をした時に、保護者がどのような対応をするか、考える指針となるので、家族支援としても、福祉事業所の職員や学校、幼稚園、保育園等子どもを支援する人たちにとっても有効だと思います。また、複数回受講して、グループワークをするなかで、同じ悩みを持つ仲間づくりのきっかけになると思います。

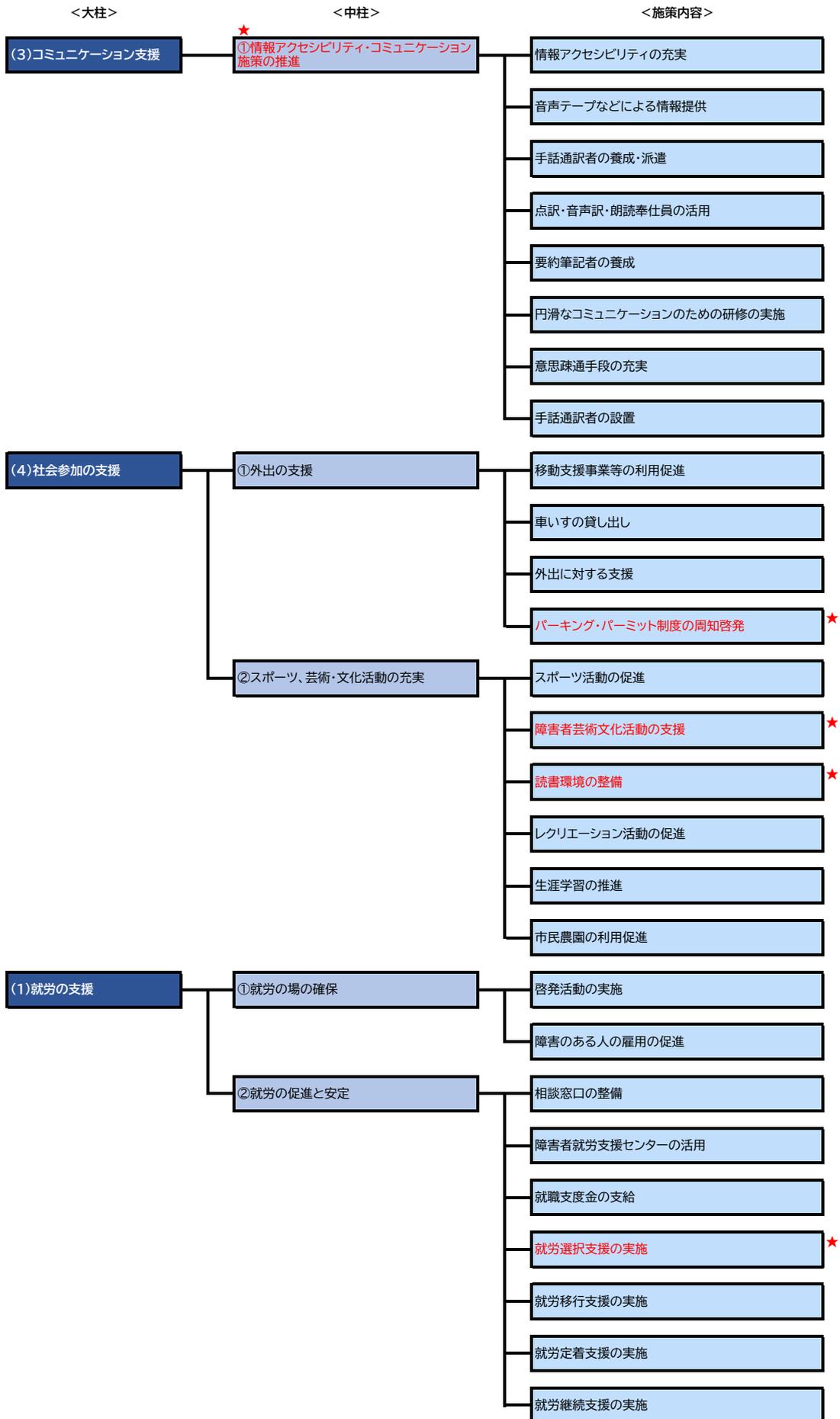
・市職員が研修を受けることも大事ですが、障害児者に直接かかわる支援者(放課後等デイサービスや生活介護事業所などの福祉施設スタッフや支援員、ヘルパー、学校、幼稚園、保育園の職員等)の質が上がることで、障害福祉サービスの向上につながります。支援者の労働環境や待遇を改善して、離職者を減らし、長く働き続ける障害福祉人材を確保し育てること、支援者を支援する「支援者支援」ができる体制を作っていただきたいです。

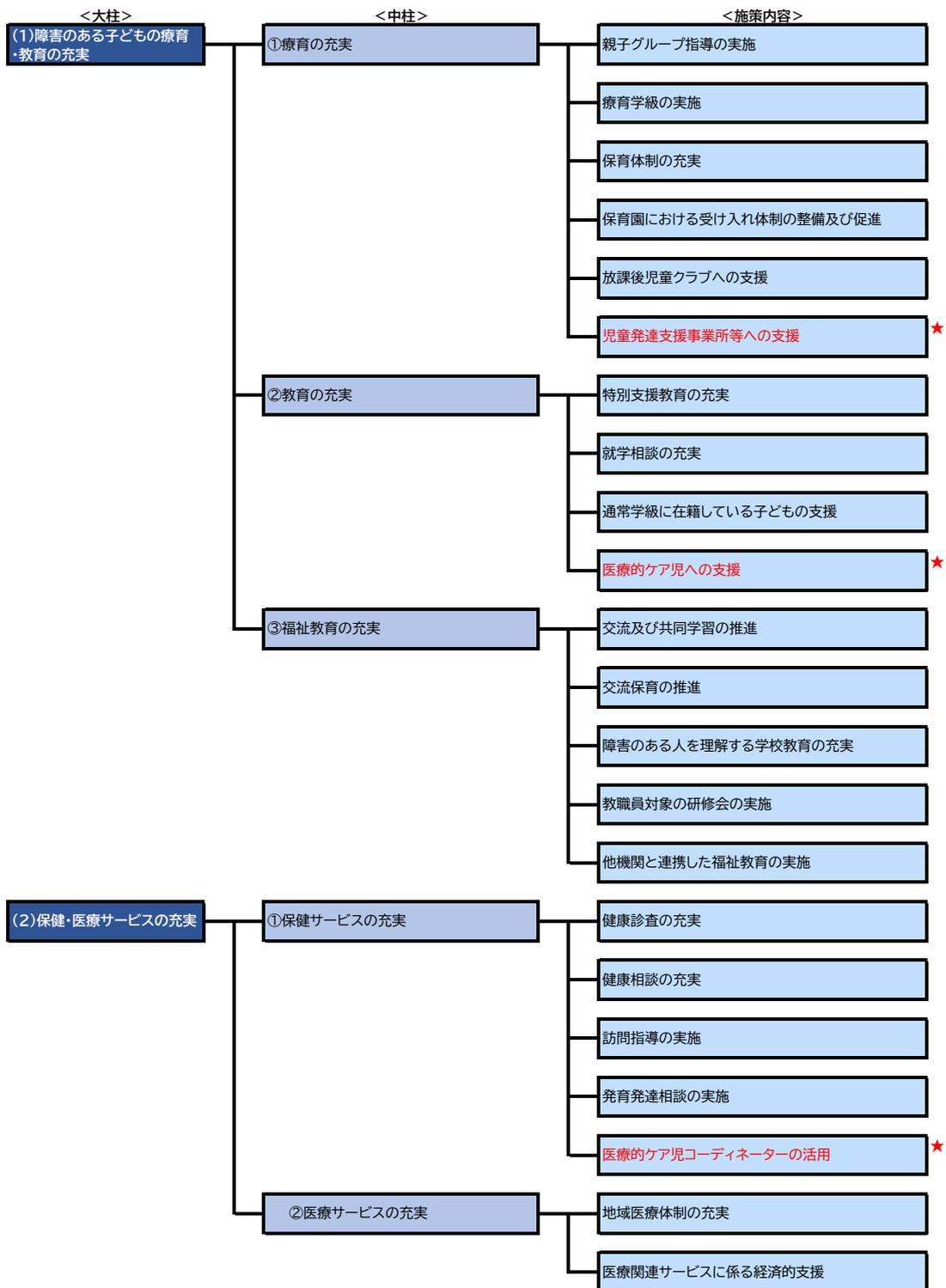
第6次朝霞市障害者プラン 主な変更箇所(抜粋)

追加資料1

★…主な変更箇所

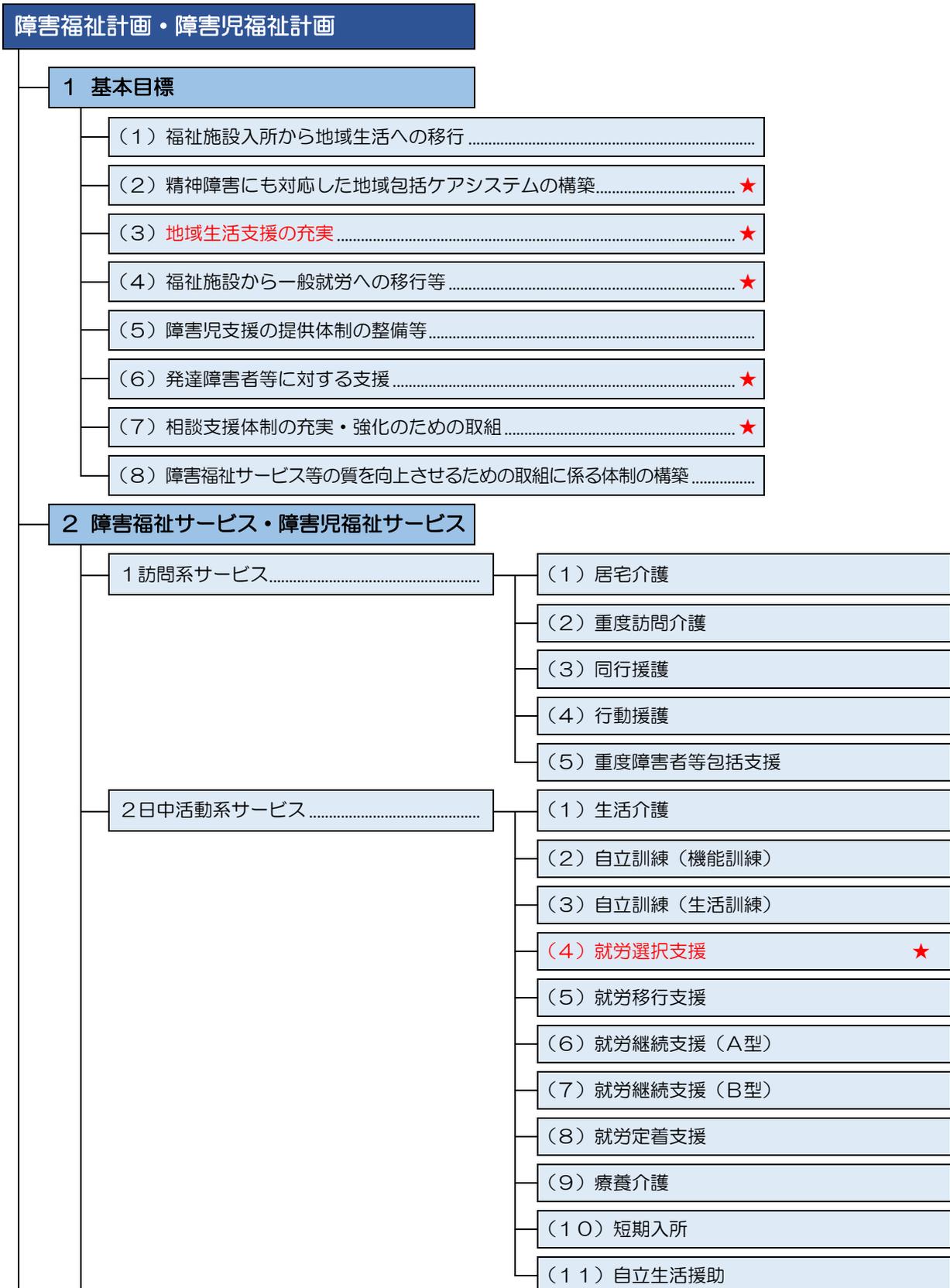


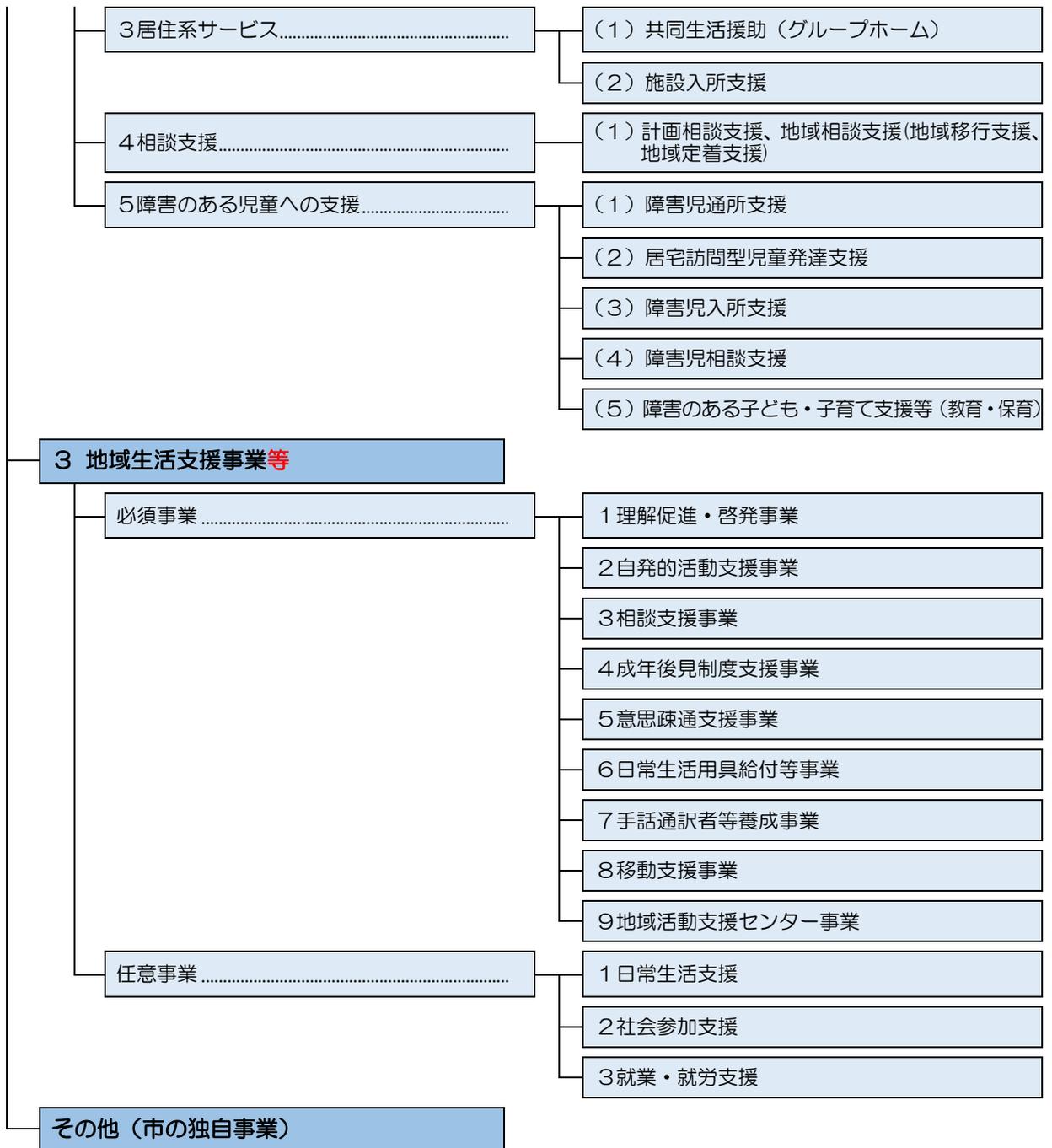




<障害福祉計画・障害児福祉計画の施策体系>

★…主な変更箇所





3 居住系サービス.....

(1) 共同生活援助（グループホーム）

(2) 施設入所支援

4 相談支援.....

(1) 計画相談支援、地域相談支援(地域移行支援、地域定着支援)

5 障害のある児童への支援.....

(1) 障害児通所支援

(2) 居宅訪問型児童発達支援

(3) 障害児入所支援

(4) 障害児相談支援

(5) 障害のある子ども・子育て支援等（教育・保育）

3 地域生活支援事業等

必須事業.....

1 理解促進・啓発事業

2 自発的活動支援事業

3 相談支援事業

4 成年後見制度支援事業

5 意思疎通支援事業

6 日常生活用具給付等事業

7 手話通訳者等養成事業

8 移動支援事業

9 地域活動支援センター事業

任意事業.....

1 日常生活支援

2 社会参加支援

3 就業・就労支援

その他（市の独自事業）

○第5次朝霞市障害者プラン

基本目標	委員会コメント	担当課	担当課からの回答
1	虐待への対策について、家庭でのリスク軽減のため、緊急預かり枠などを検討してもらいたい。また、こども関係の部署とも協力・連携して虐待に関する施策を推進してほしい。	障害福祉課 保育課	障害のある方が緊急時に短期入所できるよう、緊急時短期入所事業を実施しています。(障害福祉課) 保育園等について、現状では、待機児童が解消していない中、緊急預かり枠の実施は難しいものと考えております。(保育課) 児童虐待の対応では、要保護児童対策地域協議会を所管することも未来課と連携を図り、要保護児童対策地域協議会のネットワークを活用して、保育所等との情報共有や対応の協議を行うなどの取り組みをしております。引き続き関係機関と協力し、連携した対応を心がけてまいります。
1	障害に対する理解・啓発などについては、障害者差別解消法も含め、広報あさかななどを活用し、広く周知・啓発に取り組んでもらいたい。あわせて、障害のある人となない人が地域で交流するイベント等を開催することによって、互いを尊重し地域で共に生きる共生社会の実現に繋がっていくと思う。	障害福祉課	障害者差別解消法については、毎年職員研修を実施しております。広報あさかには毎月「わたしたちができること」として記事を掲載し、理解・啓発に努めております。イベントについては、ふれあいスポーツ大会を実施するとともに、レクリエーション補助金を実施することで、イベント開催を支援いたします。
2	障害児に関する福祉サービスの利用は急増しており、計画相談のニーズも高まってきている。将来を見据えた適切な助言ができる相談員の育成と質の向上を望む。さらに、相談員を増員するなど、よりきめ細やかなサービスを行うことによる家族支援にも期待したい。	障害福祉課	相談支援体制の拡充は必要だととらえており、基幹相談支援センターの設置に向けて取り組みを推進していきます。
2	高次脳機能障害児の相談件数が少ないなど、相談に繋がっていない埋もれている方に関する調査とその支援を促進する施策をお願いしたい。	障害福祉課	精神障害者手帳申請時の医師意見書の内容等から対象者の把握に努めていきます。自主グループとして活躍されている家族会の周知及び案内を行っています。また、市民に対しても普及啓発を行っています。
2	各学校に発達障害などに関する専門スタッフを常駐させるなど、子どもや家族などから常時相談できる体制づくりを望む。教員の負担軽減にも繋がると考える。。	教育指導課	心理士資格を持つスクールカウンセラーを各校に配置し、カウンセリングを実施。令和5年4月より子ども相談室で「発達に関する相談」を実施しています。
2	福祉人材の確保について、複数の担当課で目標としていることは評価できる。長く働き続けられるような環境の確保や待遇の改善も望みたい。	職員課	時間外勤務の縮減や休暇取得の促進などワーク・ライフ・バランス推進のための取組を継続することで、職員の職場定着を図るとともに、給与等の待遇に関しては、国家公務員等の動向を注視し、検討を続けてまいります。

基本目標	委員会コメント	担当課	担当課からの回答
2	支援籍学習は素晴らしい制度だと思う。障害のある児童とない児童が交流する機会は非常に貴重だと考えるため、特別支援学校の児童との交流については推進してもらいたい	教育指導課	県立特別支援学校の児童・保護者の意向を踏まえ、連携を図りながら、今後も積極的に実施いたします。
2	障害者に対する手当の減額などについては、事前周知が不十分であると、不安になり、他のサービスも削られてしまうのではないかと危惧してしまう。検討の際は丁寧に対応してほしい。	障害福祉課	制度が変更になる場合は事前周知を徹底し、対象になる方が不安になることのないよう、丁寧に対応いたします。
2	障害のある人の家族の支援等については、介助者の高齢化の支援と同時に、ヤングケアラーなどの若い世代にも焦点を当て、世代を問わず介護孤立させない取組みが必要である。	障害福祉課	ヤングケアラーに関しては、支援者向け研修の参加・周知、市民に対して普及啓発を行っています。福祉サービスの提案など、ケアラー問題に関して、関係各課と連携し、より一層の情報発信や相談対応を行っていきます。
2	相談支援全般の中心となる基幹相談支援センターの設置については、医療機関などの関係機関との連携にも着目して推進してほしい。	障害福祉課	基幹相談支援センターについては医療機関等の他機関等との連携も必要不可欠なものとしてとらえております。
3	市役所における知的障害者の雇用について、他自治体の事例を調査・研究してもらいたい。	職員課	障害者雇用に関しては、障害者の雇用の促進等に関する法律を踏まえ、職員採用試験において身体・知的・精神の区分無く障害者採用枠を設けています。現在、知的障害者の雇用実績はありませんが、他市等の状況について、調査・研究してまいります。
3	市役所入口で行われている障害福祉施設自主製作品展示販売会はとてもよいことだと思う。市役所の中でも身近に障害のある人がいるという環境づくりは大切だと考える。	障害福祉課	自主製作品販売会は障害のある人と社会との交流機会の提供を行う機会、また障害のある方の賃金向上を目的として実施し、好評を得ております。今後も継続して実施いたします。

基本目標	委員会コメント	担当課	担当課からの回答
3	障害者団体の支援については、補助金交付も大切だが、団体同士の連携強化やネットワーク作りの促進が必要であると考えており、また、各団体も必要と感じていると思うので、顔の見える関係づくりの構築を検討してほしい。	障害福祉課	事業所間の連携や情報共有のきっかけになることを期待して、令和5年6月1日に「障害福祉関係者みんなで考える交流会」を実施したところ、多くの事業所等にご参加いただきました。
3	評価の方法について、経年での違いをわかりやすくするとともに、前年から続く新型コロナウイルス感染症の影響や障害者就労支援の現場の声も評価の際に入れてほしい。	障害福祉課	新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえて評価をいたします。数字だけでなく、現場の意見も踏まえた評価となるよう善処いたします。
4	巡回相談、保育所訪問の利用など、専門家による助言の機会をより充実させ、保育園幼稚園のスタッフの力量を底上げし、児発以外の場所での受け入れ体制ができるような支援体制を望む。あわせて、一時保育の条件の見直しや、子育て支援拠点などの取り組みを整備し、障害のある子もない子も安心して過ごせる場所、社会体験ができる場所が充実することを望む。	保育課	現在、希望する保育園を対象に、専門スタッフによる巡回相談を年2回実施し、助言を受けることで保育士などの知識やスキルアップを図っており、引き続き、取り組みを継続してまいります。また、誰でも安心して過ごせる場所につきましては、それぞれのニーズを踏まえながら、検討してまいります。
4	小学校において、保育所等訪問支援で訪れる事業所を活用するなど、外部資源も活用し、教育と福祉が垣根なく連携して、教員をフォローし子どもたちにしわ寄せがいかないように取り計らってほしい。	教育指導課	これまでも支援等を必要とする子どもについて情報共有をしていたが、今後さらに連携を深め、子どもたちの就学がより円滑に進むよう努めてまいります。
4	障害のある児童、ない児童、地域住民の交流や理解促進は重要なことと考える。学校の授業において、教員も含めて障害の体験をすることや、自治会・町内会などで障害についての理解を深める取り組みを実施してもらいたい。	教育指導課 地域づくり支援課	人権教育を通じて障害者福祉について学び(人権作文)、「総合的な学習の時間」の授業等でも「障害:福祉」について学習しています。障害理解等に関する学習をさらに促進するため、地域やPTA、学校運営協議会との連携等について各校へ指示してまいります。(教育指導課) 現状は、自治会・町内会の加入率やその運営に係る取組を主として実施しています。 ご指摘の点については、重要なことですので、機会を捉えて取組を実施したいと考えております。(地域づくり支援課)

基本目標	委員会コメント	担当課	担当課からの回答
5	朝霞台駅の不便さをあげる声が多く、早急にエレベーター、ホームドアの設置を望む。	まちづくり推進課	朝霞台駅南口広場及び北朝霞駅東口広場内へ改札外エレベーターを設置することについて令和5年2月28日に東武鉄道と協議が整い、バリアフリー化に向けて前進したところです。朝霞台駅のホームドア設置等のバリアフリー化、北朝霞駅へのホームドア設置について、鉄道事業者に引き続き要望を行ってまいります。
5	保健・医療について、養育者が障害を持っている場合、それぞれ別の保健師などが対応できるような人員体制の確保を望む。	健康づくり課	保健師の担当については、地区担当制となっており、1地区に2人以上の保健師を配置することは、現状の人員配置においては難しい状況です。
5	手当同様、障害者に対する医療費の所得制限など、事前周知が不十分であると、不安になり、他のサービスも削られてしまうのではないかと危惧してしまう。検討の際は丁寧に対応してほしい。	障害福祉課	制度が変更になる場合は事前周知を徹底し、対象になる方が不安になることのないよう、丁寧に対応いたします。
5	防災関係について、災害時支援用バンダナは、現在聴覚障害に特化しているが、他の障害にも対応できないか検討してみてもどうか。また、防災意識の啓発などもわかりやすく検討してもらいたい。あわせて、市内の福祉避難所の増設にも努力してもらいたい。	障害福祉課 危機管理室	災害時支援用バンダナについては、聴覚障害の方が外見からは障害がわからず、特に災害時は音声情報が多く、情報が届かない可能性があることから導入したものです。他の障害への対応については今後調査研究いたします。福祉避難所については令和4年度に新たに3施設と協定を結びました。今後も引き続き協力いただけるよう推進していきます。(障害福祉課) 防災意識の啓発については、彩夏祭の防災展や朝霞市防災フェア等でこどもから大人までを対象とし実施しているところであり、継続していきたい。また、おとどけ講座等において要望のあった福祉施設に防災に係る啓発を実施していきます。(危機管理室)

令和3年度委員会コメントに対する取組み等

○第6期朝霞市障害福祉計画、第2期朝霞市障害児福祉計画

委員会コメント	担当課	担当課からの回答
<p>障害福祉サービスが整えられてきているが、それに伴い担当職員の現場感覚が薄らいでいくことに懸念がある。行政と現場のつながりを密にし、適切な支援を行うことが望まれる。また、ケースワーカーなどの資質向上のために、待遇面の向上も国や県に意見要望を行ってほしい。</p>	<p>障害福祉課</p>	<p>時代の変化に伴い、より専門性の高い支援が求められてきております。困難事例に対し、ケースカンファレンスを実施するなど適切な支援に努めております。また、自立支援協議会や相談支援事業所連絡会などを通して、横のつながりの強化や、情報共有に取り組んでいきます。</p>
<p>障害のある人が地域で安心して暮らすために、地域の人たちとのつながりが大切だと思われるので、住みたいところに住めるような具体的な選択肢を増やして欲しい。</p>	<p>障害福祉課</p>	<p>居住系サービスのニーズは継続的にあると考えられるため、設立希望の団体等からの相談には丁寧に対応し、計画との整合性を図りながら、地域における生活の支援を図ります。</p>
<p>ペアレントプログラム等については、家族や事業所職員など様々な関係者に有効な手段であると思う。このほか、研修等も含め、支援者を支援する体制を整え、障害福祉サービスの向上に努めてもらいたい。</p>	<p>障害福祉課</p>	<p>民間事業者の取組を見学する等、情報収集に努めます。今後、県の動向等を注視しつつ、関係各課や民間事業者と協力し、実施方法等を検討します。</p>
<p>各種障害福祉サービスの利用量の増減などについて分析が必要ではないか。また、住み慣れた地域で暮らすことができるよう各方面に働きかけを行うことや、事業所と連携した感染対策を行い、安心して生活できる体制を整えてほしい。</p>	<p>障害福祉課</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の動向により、感染対策などを講じつつ、適正なサービスを確保していくため、各事業所と連携し、よりよい支援体制について検討します。</p>